

377.9  
M753A



\*0052471001\*

0052471-001

377.9-M753s

左傾学生生徒の手記

文部省思想局・編

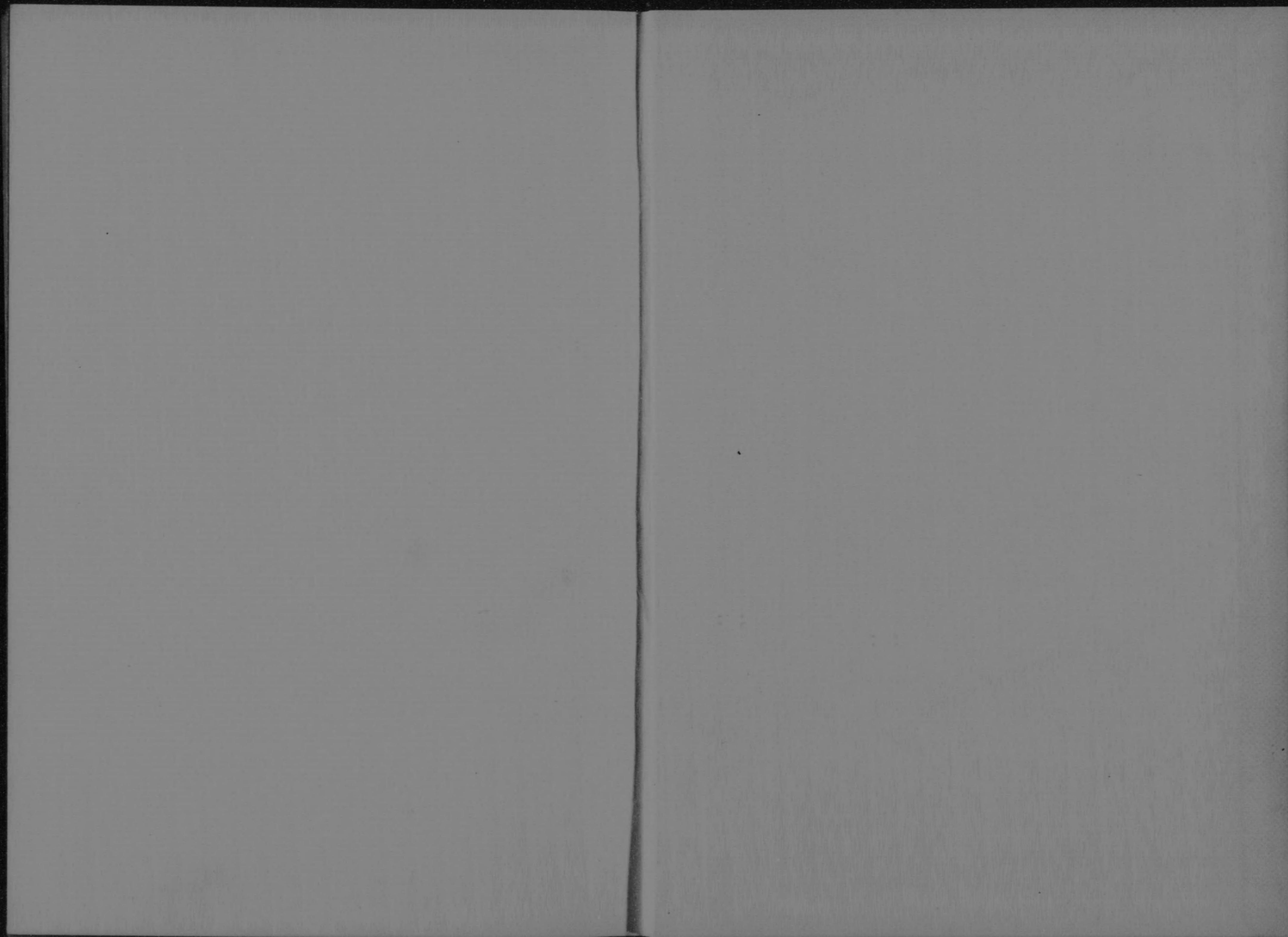
文部省

第1-3輯

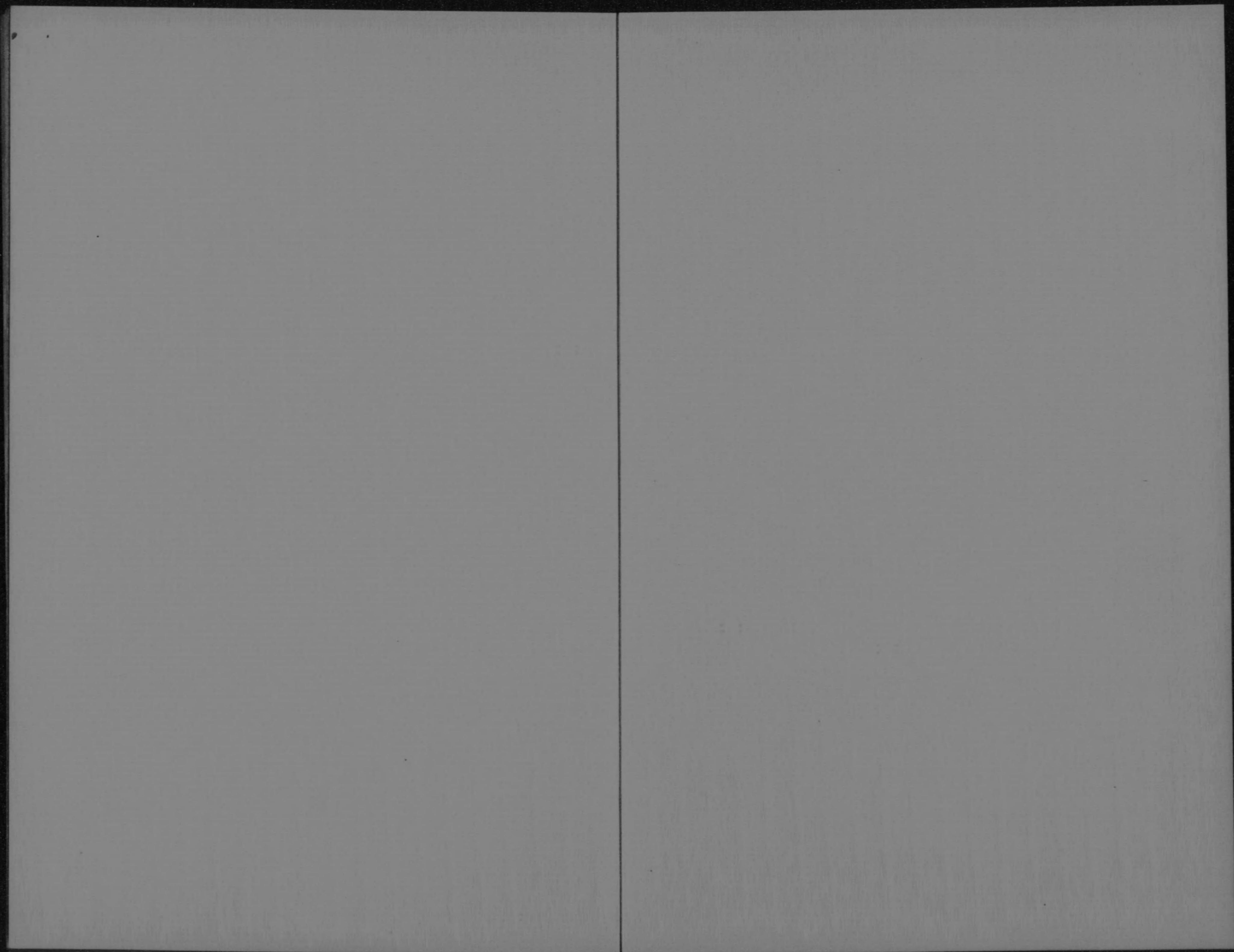
1934-1935

AHN











401

888

秘

昭和九年一月

左傾學生生徒の手記

第一輯

文  
部  
省  
學  
生  
部



本輯は思想問題に關し學生生徒の  
指導監督の任にある者其の他教育  
關係者の執務上の參考に資する目  
的を以て編纂したるものなり



左傾學生生徒の手記

第一輯

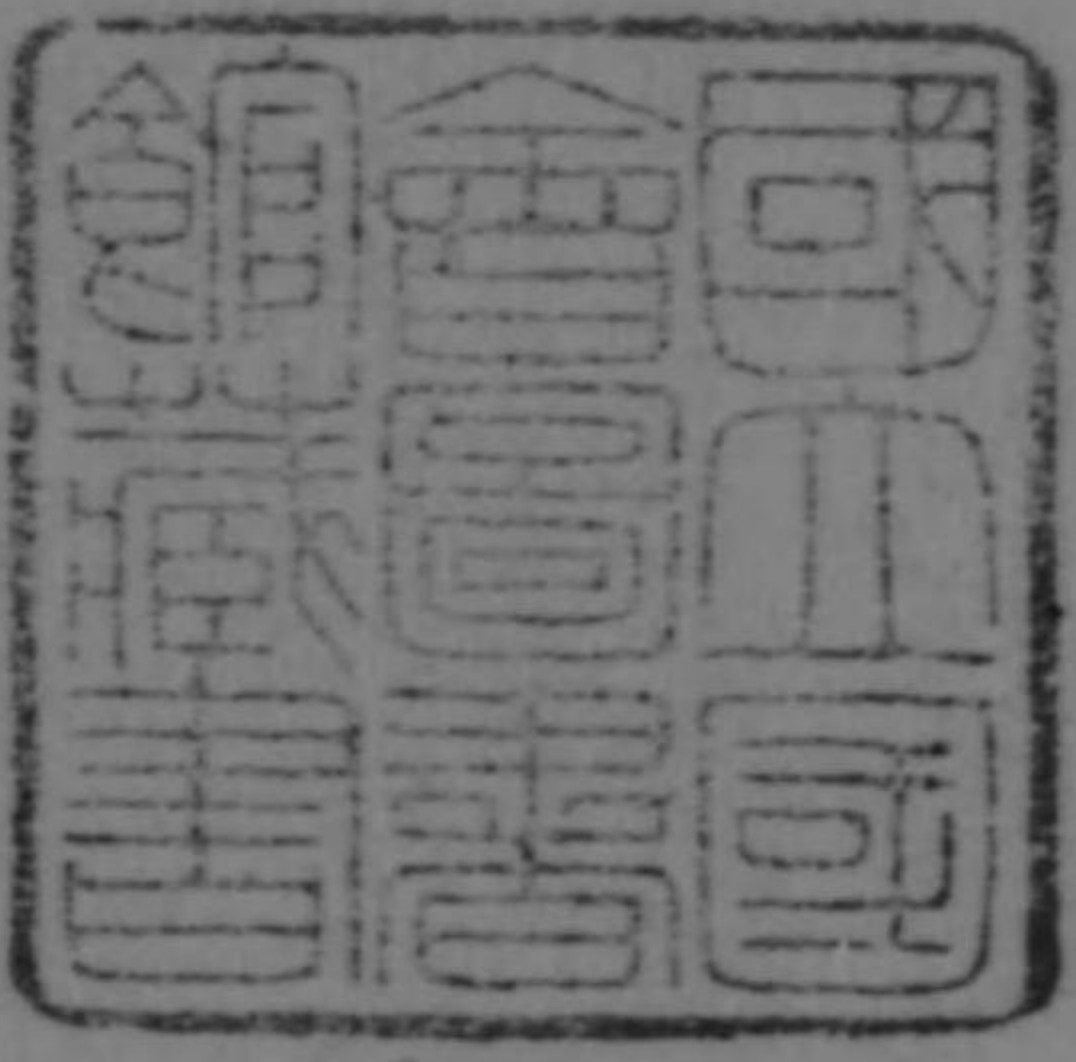


377.911753A

- 一、本輯は治安維持法違反事件及び學校内左傾思想事件に關係したる學生生徒及び少數の卒業生、退學生等の手記を輯録せるものなり。
- 二、手記者の數は百二十人にしてその手記は昭和四年より昭和六年の間に執筆せられたるものなり。多くは原文の儘採録せるも都合により抄録せるものあり。又家庭の狀況、學資、健康狀態等の事項に關しては出来る限り學校當局につきて調査し附記したり。
- 三、各手記は大學、高等學校、專門學校に大別し事件別に「其の一」「其の二」等に纏め之を年月順に配列し全體を通じて番號を附したり。
- 四、手記中一、四、五、六、七及び七三は嘗て思想調査資料に掲載したるものなり。

凡例

377.9  
M753A



295816



## 目次

### 一、大學學生の手記

其の一 (二—三) .....	一
其の二 (四—五) .....	二三
其の三 (六) .....	三四
其の四 (七) .....	六四
其の五 (八—四五) .....	八四
其の六 (四六—四九) .....	二〇九

### 二、高等學校生徒の手記

其の一 (五〇—七〇) .....	三二
其の二 (七一) .....	二九九
其の三 (七二) .....	三〇一
其の四 (七三) .....	三〇四

### 三、専門學校生徒の手記

其の五 (七四—七五) .....	三〇九
其の一 (七六—八八) .....	三一九
其の二 (八九—九三) .....	三五四
其の三 (九四) .....	三六四
其の四 (九五—一二六) .....	三六九
其の五 (一二七—二二〇) .....	四五二



## 大學學生の手記

### 其の一 (二—三)



左に掲ぐる三篇は昭和四年、共產黨關係の事件にて起訴收監された被告三名が夫々現代の教育に關して述べたる手記なり。

某帝大法學部卒

〇某(當二十四年)

父兄の職業……農 業

一、現代日本に於ける教育の意義目的の不明瞭と劃一的詰込的教育制度一般に何の爲めの教育かと言ふ事が當局者にも一般社會にも理解されて居ないかの如くである。現在、一般社會を支配せる、此ことに關する觀念は、只個々人の出世とか成功とか乃至は形式だけの社會國家の爲とか言ふに過ぎぬ。従つて只學校を卒業するとか、試験にパスするとか言ふ事丈が、教育を受ける者は勿論、一般社會の主要關心事となる。教育の當局者も只教育制度の改善と云ふことよりも、より多く、只、舊乃至現制度に従つて、一切を繰り返してゐるに過ぎない。斯かる教育の必然

的結果は詰込主義教育に終らざるを得ない。誠に現在日本の教育は全然詰込主義である。従つて、斯かる教育は社會の變動なり、進歩なりに、なめらかに適應して行く柔軟性を持たない。此處に一切の禍根がある。其事は文部省の社會科學研究に對する方針の歴史的批判に依りて立證せられる。

私が高等學校一年當時の當局の社會科學に對する方針は如何であつたか。其は全くの無關心、無干渉、全然たる放任主義であつた。私の學んだ高等學校の如きに於てもかつては現在の當局者と同一の當局者が、社會科學の研究を放任し、哲學や、歴史や又時は自然科學の教授達は、自ら進み、或は依頼を喜んで引き受けて、自らカールものを學校で批判的に研究したからとて少しも危険ではない。教科書として用ひても問題は、如何にして如何なる所、時に於ても正しい「批判精神」を學生に與へ



るかにかゝる。

「共產黨宣言」などの講讀などを行つたものである。當局は研究會の爲に立派な教室を貸與するに吝でなかつた。然るに一度社會問題が一般的に大きく問題となるや當局の方針は掌を反す如く、放任から徹底的なる彈壓へと變つたのである。當局は研究會に解散を命じ、教室も貸與せず、甚しきに至つては、社會科學に關する書籍を沒收焼却したとさへ聞いてゐる。何處かの高校では尺八會と云つた様な會台すら、兎に角學生の自治的な會合にすら壓迫を加へたと云ふ。社會科學への壓迫から一般學生の自由への壓迫への當局の政策の推移は、單に、政策的に丈見ても危険なるものである。社會科學への彈壓は他方に於て酒を呑み講談を讀んで無爲なる生活を學生に奨勵すると言ふ一面的な惡結果を當局者の側に於いて惹起した。一切が機械的な轉換である。其處に納得させ、了解させる事に依つて學生を適當なる研究の範圍に止め、研究の方向を緩和なる方向に導く、いさゝかの努力も見出されなかつた。これは恐らく當局に其丈の用意と自信とが無かつたのであらう。詰込主義の教育に専心して足れりとする者に、その用意のあらう筈はない。その證據には、社會科學研究が一般に問題となつて以來一つでも眞摯なるそれに對する教育的論文でも現れたであらうか。少しでも適切なる政策が取られたであらうか。大學に於ける講座(思想善導のための)の設置を見るものは、其處に只機械的な對立と反撥とを見るに過ぎないではないか。此れが當局

二

者の側に於いて機械的な、詰込的な、劃一的な教育制度が齎した必然的歸結である。然らば現在日本の詰込的、機械的教育の學生の側に於ける必然的結果は如何。詰込主義教育に於いて學生の關心事は只試験にパスして行く事丈である。

其結果第一學生をして、只學校の與ふるものを其儘習得的に記憶する少數學生、第二に酒を呑む事遊ぶ事を以て萬事終れりとなす一般學生、乃至は自己の小ジジマリとした生活に十全なる満足を見出して、政治も社會も國家も全く關心しない一般學生、最後に第三に、社會的影響を受け詰込主義教育にあきたらず寧ろ其に反撥して行く一部の社會科學研究の學生である。此處には最後の者が主要問題である。此の最後の者が常に眞摯であり、あく迄も眞面目であることは私が確信して疑はぬ處である。彼等は學校當局の注意周到なる、用意のある指導さへあれば、適當なる範圍に自己の研究を止め得る可能性を十分に有し、現在の如き當局者との機械的な敵對關係には陥ち入らなかつたであらうと自分は確信する。然し乍ら機械的な彈壓の在る處、只學生としては又機械的な反撥しか無いであらう。而して此の事は大學に於てよりも寧ろ、高等學校に於て重要な問題である。何となれば現在の大學では餘りに範圍が大き過ぎて、學校と學生との間に何等の連絡も、意志の交換も満足には果されぬ。よつて小範圍なる高等學校に於ける適切な指導こそ最も肝要であらう。(勿論大學に於いて全くこの事が果されないのでなく、從

來大學は何にも事實爲してゐないのである)只機械的に二、三の講座(東洋史とか何とかの)を設けるが如きは理論的にも、又實際的にも愚中の愚である。

二、現代の學校に於ける「社會教育」「政治教育」の缺如の缺陷。

社會教育乃至政治教育の缺如又は不十分は現代教育に於ける根本的缺陷である。教育の當局者は、學生を彼等が必然其と交渉しなければならぬ社會なり政治なりに關する適當なる教育によりて、社會や政治と親しませる代りに、社會、政治から機械的に分離せんと努力する。此處では社會就中政治とか言ふ言葉すらも使用することが寧ろ變であるかに思はれる。この事が日本人一般をして社會や政治に對して有機的乃至は調和ある態度を取らせる代りに、無關心な、又機械的な態度をとらせる。

右は一般的なる缺陷である。

次には日本國體に對する明確なる教育の缺如乃至は日本歴史の教授に於ける哲學的社會學の見方乃至教授仕方の缺如又は不十分である。此處に於ける主要問題は日本國體に關する不明確な教育の缺陷であらう。國體に關する教育としては、我々は只小學乃至中學に於いて聞くのみ。而も其等は舊套陳腐なる説明の繰り返し、乃至は事實の羅列であらう。小學教育等にては或は其にて十分であらう。原則的に間違つて居り不十分であるが)國體に關しては眞摯なる問題として、高校、大學に於いても一般的に教育されねばならぬ。其處に於いては事實問題を第一義とする

よりは、權利問題即ち價值問題としての取扱ひを第一とし、それに政體との關係、日本社會發展の特殊性を附加し、かくして價值問題として歴史の意義を明確にする。歴史の考察はかゝる視角に爲さるべきであらう。然るに教育の當局者は寧ろ國體の問題などには、それが明確なる觀念を一般人民にも、學生にも、與へんとするよりは、寧ろ避けてゐるかの觀がある。分り切つた事と思つて居るかも知れぬが、それは間違である。

三、學校制度の根本的缺陷(所謂大學ばかり多くて實業的教育が不足してゐる)

大學に於ける目的は研究である。従つて社會全體として見る時、大學入學者は少數にて事足りる。社會に於て實際的な仕事に従事するために、現在日本の大學と言つた様な大學を出す必要は殆んどないと言つてよいであらう。然るに此の點に於ける制度の缺陷は日本社會に夥多なる、學識はあるが實際の仕事に向かない多くの高等遊民を作りつゝあるのではないかと思はれる。

右は極めて一般的な事であるが、特殊に見る時、哲學、支那哲學の概論、支那哲學史は必要である。問題は全ての人に劃一的に必要か否かである。漢文等の教育は不必要である。其等は學生の方に於て必要とする者のみが自發的に、私教授を雇へばよいであらう。要するに、私の教育制度に對する考を總括して述べれば、小學教育の程度を現状よりも、少し程度を高め、せめて中學一、二年程度にする(勿論哲學、漢文學等

三



は不必要で此處に於いても主要點は農村と都市との差異によりて按配を異にせねばならぬ事。次に適切なる社會教育、政治教育は勿論必要である。それ以上の教育は凡て専門的なる學校に限る事。中學程度の専門學校は高等程度の専門學校へ直接連絡する。一般的實業教育は高等専門學校程度で終了する。大學の數を制限し綜合大學に限る事。其處へは一般から研究に堪へうる能力ある人のみを中心として集める。大學の目的を専ら研究に置く。以上の制度と並行して教育の當局者は一般的な社會教育、政治教育を一般に接近し易い形で、即ち安價なる文書の普及と講習會等によりて、大に普及する事に努力する(文部省に、特別の有能なる、献身的に活動し得る委員の設置は此の目的のために必要である)。總して劃一的教育の不必要を主張するものである。

#### 四、批判の自由と批判の機會均等。

最後に行動に對しては適當なる制限を納得のゆく仕方にてなすけれども、それと共に大なる批判討論の自由を與へる必要があるかに思はれる。日本人はよく英國の社會的發展が漸進的であること、滑かであることを讚嘆し、それが實に此の英國特有の大いなる批判の自由と、英國人の社會なり、國家なり、政治なり、教育なり、司法なりに對する寛容なる態度とに負ふものなるを忘れる。十八世紀の後半から十九世紀にかけての英國思想史を繕くものは誰しも如何に多くの苦心と努力とが今日の英國であらしめたかを知るであらう。何等かの批判に對する制裁は輿論

を以てこれに答へしめよ。國家が法律によりて言論を制限することは出来る丈償まねばならぬ事と思はれる。英國を讚美する代りに我々は批判の自由の下に、如何に英國の多くの識見ある人々が靜かに政治、法律、司法、教育等の改善進歩のために努力したか、その苦心を學ばねばならぬと思ふ。とに角、十八、九世紀の英國の政治状態と思想史とは現代の政治者の大に學んで然るべき事かと思ふ。而して自ら先頭に立つて社會を指導する識見と能力とを實際に於て示すことである。政府の下に何らかの機關紙があるとすれば、政府は共產主義者からも、所謂反動主義者からも、機會均等にその意見をきくべきである。あらゆる問題に於いて、政府は政治と社會の進展との調和を圓滑ならしめ、社會的發展をして、漸進的ならしめんとすれば、其丈の態度を持つべきである。又持ち得るであらう。

#### 五、試験制度に就いて。

小さい問題ではあるが、當面の入學難と關聯して一言すれば、中學や高等學校の入學試験を全廢して、入學せんとするものを凡て收容し、その代り教育の仕方を現在の大學の如く、自由選擇聽講として、其の限りに於いて、試験する事が適當と思ふ。

## 二

某帝大經濟學部中途退學 K某(當二十六年)

親子關係……………實 父 母  
父兄の職業……………某專門學校教授(父)  
貧富の程度……………普通  
健康狀態……………中等  
性 質……………頭 敏

一、現代日本の教育に對する所見をこゝに記す前に筆者の學歴を一應申述べて置くのも無駄ではあるまい。明治四十四年××高師附屬小學に入學し大正元年××市××小學校に轉校、卒業後××〇立一中に入學、大正十一年同校卒業後、××〇高に入學、同十四年××帝大經濟學部入學、十五年學生治安維持法違反事件により無期停學になり現在に及ぶ。

二、次に此等の諸學校で筆者が経験した二、三の忘れ難き印象を書き留めることも後述の諸點に對して何等かのヒントを與へることと思はれる。小學二年生の時(高師附屬時代)筆者の家庭がクリスチャンの故を以て修身の時間に(祖先を敬へ)の所(級友一同の前で小供心には、耐へ難い殘酷な辱しめを受けたことがある。家に神棚又は佛壇のあるものは手を上げると云ふのに對して筆者の家庭にそれなき故(故郷にかへればあるも)手を上げざりしに對し甚だしく幼き生徒たりし筆者を罵り、ヤツを攻撃したるなり。

一體にその學校は(と云ふよりもこれが當時の日本全般の學校に漲つて居た空氣であらう)反クリス教的な、日本魂の強さのみ誇ることを

知つて、ユマニテの精神の尊ぶべきことは無頓着であつた。

××に來た後、級友中××村から通つて居る者に對して、先生から率先して、迫害をして居たのを思ひ出すのみならず、名望家の子弟に對して、先生が際立つてエホヒキをしてゐたことは、子供心に悲しむべき憎むべき印象を刻み附けられた。

小學校六年生の時、クリスチャンの傳來を歴史で學んだ時、先生は口を極めてクリスチャン宗門を罵倒し、その擧句は現今の基督教に對しても懸河の辯をふるつて攻撃し、遂に級友中のクリスチャンに對してさへ耐へ難い當て付けをあげかけた。

この様な宗教的迫害は中學二年に至るまでも教室の空氣を暗くし、筆者の心持を重苦しくしめつけた。

總じて小學校の歴史の時間は以上に述べた様なショウウイニズムの非文化的な鼓吹を却ければ、後には始んど何も残らない様な授業であつた。小學校の修身についてはもつと言ひたいことがあるけれどもこれ以上は讀者の賢察に任すことにする。

中學時代は大體筆者にとつて良教師の生々とした指導振りと親友の間に結ばれた友情の故に今も尙懐しく思ひ出される時代である。が國漢文の先生達が一般に、解らずやが多かつたのには面白くなかつた。と言ふのは徒然草や十八史略だけが文學だと思つてゐる先生達にどうして、中學三四年のあの若々しさと漲り来る智識慾にあふれた人々の氣持が解し



得られ様か？級友が獨學でフランス語を勉強したり、二年生の時すでにユニオンの第四リイダアを讀破したり、田邊元氏の「科學概論」の中に深く没頭したり、トルストイやドストイエフスキイの長篇に魂を打ち振はせつゝ徹夜する時、「ウエルテル」の中にもふれて居るあの「嵐と迫り」の精神に打たれて、未だ見ぬ新たな世界が眼の前にひらける時、先生達はたゞこれを冷視し、危視し、徒然草の拔萃の様な作文を書く連中には満點を附し、糊とはさみの使ひ方を知らない生徒の作文には「要再考」と書いたりする先生方には全く困つたことがある。そんな先生に限つて不親切で冷淡でいぢけて居た。そしてそんな先生に限つて、さる方面の受けがよいとは川が一方大學院學生の人等や大學關係の先生達が教師として我々を教へて呉れたことは今に至るも感謝を以て憶ひ起す。その先生達は英語の時間などに強ひて指定の教科書を使ふとはせず自分で苦心してプリントにした、佛教經典の英譯やカントの至上命法やロマン・ローランの藝術家の傳記等を我々に分けて呉れたりした。ただの語學だけの勉強以上の勉強が出来、却つてその爲に語學に對する勵みが付きソーザットだけにこだはる魂の抜けた學習(?)に勝つて語學力もついた。法制經濟の時間も普通の中學校とは違つて面白いものだった。強ひて「危険」なものをかくしたり、「外來思想」をひとりよがりにも罵倒したりする様な先生はなくてどんく廣く、そして可成りな點まで深く話してくれた。例へばその先生はロンブローゾの犯罪學說、レオンデュギー

の權利否定論、種々の國家起源に關する學說、議會主義一院制と二院制との比較、當時は危険なりとされた普通選舉の話等々その他我等生徒はその先生の教へ方の親切と學者的態度に敬服したものである。然しその先生と雖も、當局の連中には「危険な」社會主義者なりと惡評あるやに聞く。因みに、同先生は、日本支那學ではその人ありとされた支那學者で、現に、ある官立大學の教授である)

進歩的な、社會主義者でないまでもそれに深い同情を持つて居たこれらの諸先生は、我々個人々々の勉強方針や將來の方針について誠に温い助言を與へられた。それに反して保守的な先生は、そんなことには殆んどおまひなしで生徒に對して頭から獄吏的態度に出られたことは單に私だけの経験ではあるまいと思はれる。生徒と同苦同歎を共にしないでどこに教育があらう。作文で少しばかり「危険」誰にとつて危険なのかも考へて見ることもなしに「なことを書いたと言つて、教師と教場で議論したからと言つて、軍事教育反對の演說會を開いたからと言つて、マルクスの書物を読んで居るからと言つて、無産政黨や労働組合、農民組合の事務所に入出したからと言つて、研究會を開いたからと言つて、罷責、停學、退校をさせる様な教育、學生の心を野蠻に、法王的に、踏みこむ教育——これが一體教育なのだらうか？この「教育される者」の前にたゞ次のことを自ら餘りにも暴露するのみであらう——これこそ偏した「教育」であること、これこそ社會の一部分の階級に奉仕する所の

教育であること、先づ眞理そのものよりも、その階級の利益の前に、自手段となる所の下劣な教育であることを教育者が教育される時、その時はじめて教育が存在する。獄吏的根性では——教育出来ないと思ふ。高等學校生活は中學校程明るくなかつた。そして別にこれと言ふ印象もない位である。生氣がなかつた。

論理の時間は學生にとつて快い一眠りの時間であつた(尤も筆者は眞面目に講義をきいて居た一人であるが、何となれば、校長の訓話には常に「大學の道」であつてそれを如何に今の我等の生活の中に生かすかと言ふ最も重要な問題に至つては遂に一言も言はれなかつたし假令へ言ひ及ばれることがあるとしても、餘りに曲學阿世の立論であつたから、然も講義者は生徒が質問するのを嫌惡して居られた爲めに、生徒の内心の問題も遂に「大學の道」に依つては何等のヒントを受けなかつた様に思はれる。西洋史の時間は教授の信仰告白の時間の觀があつた。何となれば彼は狂熱的眞宗信者で西洋史の講義よりも眞宗の説教を教場で行ふのを法悦と感じて居るらしかつた。従つて學友は獨乙語の練習と居眠りにこの時間を利用して居た。筆者が高等學校入學前後の二三年は日本全般の各學校に於て社會科學々生運動が發展し始めた年であるが筆者の在學した高等學校の諸教授は最初はそれに對して超越的無頓着とも云ふべき態度をとつて居られた様であるが、文部省からの指令一下し、高等學校内の社會科學研究會が彈壓されるやうになるとマルクス主義、否一般にあらゆる

民主主義的傾向に對して「智識階級の人士」とも思へないやうな無理解振りを發揮せられて、民主主義、マルクス主義に對して古めかしい昔ながらの御託宜よろしくの攻撃をされた。これはしかしながら反つて生徒一般の物笑ひの種となり、教授的はづれの對マルクス主義、民主主義攻撃に反つて反感を起して、社會主義的傾向をとる學友が少からずあつたのは遺憾ながら事實である。

三、總じて高等學校の教授と言ふものは、一かどの學者になりまして、さびのかゝつた種子島を持ち出して、言はゞ機關銃を以て武装する生徒の進歩的思想を打ち落した積りで居られるのが多くはないだらうか？特に地方の高等専門學校には、そんな様子が甚しいと思ふ。多くの大學教授も亦之と大同小異であらう。こゝで筆者が今更申し述べる迄もなく、人間二十五歳の(外國で云へばギムナージウム、ハイスクール、日本では、中學、高等、専門學校等)身心共に盛んな發育をとり、高が青二才とか、中學生小僧とか、馬鹿にするのは途方もないことで、何か本當に立派な仕事をやる程の人は、大概二十代で既に將來の強固な基礎を築いてゐる。こゝにわざ／＼人を教へる迄もあるまい。筆者の友人の中でも既に高等學校時代にカントの「批判」にちりつき大學の一年で既に「純粹理性批判」を一應讀破した者がある。難解だと云はれてゐる西田幾多郎氏の諸著書は高等學校時代に一應讀んでゐる友が少からずある。或は又高等學校時代に、R・ルクセンブルクの「資本蓄積論」を讀破し、こ



のテーマに就て纏つた見地を得てゐた者もある。中學時代に既にフランス語を讀みこなして居た(獨學で!)友人がある。西歐やロシアの名のある文人の作物などは中學時代(三年)からどしどし讀んでゐた學友は少くない。所で中學生や高等學校の生徒を教へる方の先生方は實際の處、こんな生徒をコナシテ行く丈の頭(智識と心(心情))があるだらうか?明治時代に人と成つた教師達、明治二十年前後迄の、あのめまぐるしい歐化主義から一轉して陰氣な反動的、國粹主義に奔り、似而非立憲政治の裡に、手も足も引込めて、早くも無氣力の状態に陥ち入らうとした、明治時代に人と成つた先生達、西歐文物を輸入しながらラテン・ギリシヤの壯大な文化を輸入し忘れ(一體ラテン・ギリシヤの言葉を學ぶ人が多くなつたのも、やつと最近のことではないか)クリスト教の思潮に對しても徳川時代から傳承した封建的宗派心と、シヨウウヰニズムを武器として、笑ふべき迫害をし、只ひたすらビスマルク・ユンケル・ドイッの社會民主主義綱領法を猿真似して保安隊や治安警察法をつくり上げた明治時代に人と成つた人々——その人達には世界大戦、日本ブルジョワジイの勢力の増大、労働者、農民の解放運動の發展、等々深刻な社會的總實踐を経て、今、再び吾等を生んだ國の委を眺める時の若い人々の心持が分るだらうか?優れた素質を持つた若い世代の人達の苦惱が解るだらうか?親にきいても、教師にきいても、解答に對するヒントが與へられない時、親や師が、的はずれの、冷淡な、敵意をさへ帯びた説諭を若い

人達に投げる時、彼等が失望し、自らの力を以て、問題の解決に進むのは、自ら明らかなことではなからうか?そこで、子供は子供なりに、生徒は生徒なりに、出来るだけ力を盡して、カントの批判哲學に赴き、偉大なロシア人達に聴き、マルクスの名を冠せられたる理論の峻険によち上るのである。この際、何人が眞に教師たり得るか。たゞ、子と生徒と苦惱を共にする人世の伴侶たらんと覺悟する人々のみ。

四、三に於て筆者が經て來た學生生活、學友と教師の交渉に就て簡単に書き留めたが、更にこれを今少し書き續けよう。

率直に言ふならば、中學校、高等學校、專門學校、大學の教諭、教授等は勉強が足りない。勉強は學生時代だけのものと御考へになつてゐる先生達があるとすれば、(その様な先生方に、不幸にして、少なからず今迄お目にかゝつたが)それは恐ろしい事だ。だから大學でさへ、十年一日の如く、變はることなく、あまり強固でもなく、理論的でもない、自分よがりの講義を事毎にくりかへし、試験には、ノート通りの答案を書かなければ「優」が貰へないと言つた様な、目もあてられぬ、慘憺たる茶番が年毎にくりかへされるのだ。こんな例は、こゝに事々しく擧げる迄もなく、少しでも、學生生活をやつた者なら周知の事實である。生徒と一緒に學ぶ人こそ、初めて教師たり得るのではないだらうか。少くとも、かうした心構へだけでも、今の日本の教授達が持つてゐてくれたら!「若い者には經驗がない」と云ふことを老人振つた親や、教師から散々

きかされて來た。今に年をとつたら分る。餘計なことを考へたり、云つたりするな」と云ふことも。だが、之は老衰して行く、身の程知らずの人達の云ふことだ。長い、固陋な、感じの鈍つた、考へることをしなくなつた人達が、若々しい、エネルギーに満ちた人達が外界に起りつゝある社會的過程を感じ、考へる様に、明瞭に、偏見なしに、生き／＼と感じ、考へることが出来るかどうか。親や教師の尊ぶその人達自身の經驗も、若い世代の人達こそ、客觀的に味ひ、眺めることが出来るのだ。若い世代の人々は、年長者が考へる程、無下には、前代の人々の感じ、考へ、生活したところを見くびり、輕蔑してはゐないのだ。だからこそ、カントも讀み、ヘーゲルも讀み、マルクスもレーニンも讀むのだ。前代を輕蔑する人が、どうして前代の人々の書物を讀む氣にならう。

大正八年の米騒動に對して、當時中學生であつた筆者の學友達が、いかばかり驚き、眼をみはり、その空氣を身に感じ、更に、社會的現象として考へ始めたことか。更に大正十年——十一年の労働者のストライキを。特に十一年の神戸の川崎造船所のストライキを。之等の社會現象の「倫理的」判斷は、先づそれらの現象の科學的分析と體系化を待つて始めて、下さるべきに不拘、教師に偏見に満ちた、途方もない「倫理的」判斷を下すことに急がれる。彼等の生徒達が、教師のコケ威しの倫理的判斷の立場さへ、科學的分析の對象となさんとする時に!

(生物進化論は、個體發生が系統發生を要約的にくりかへす、と主張

してゐる。後生者は、その祖父の辿り來れる過程をくり返す上に、更に、それ以上に發展するのである。それ故、教師や年長者が振りまわしたがる經驗的智識は、彼等が、想像する以上に、生徒や子弟によつて、人知れずくりかへさるゝものである。)

筆者はさきに教師の勉強の足りないことを指摘したが、それは必ずしも百卷、千卷の書物を讀んで百科全書的物知りになれと云ふ意味ではなく、斷へざる反省と、後より來る者へのおそれを以て、後より來る者の努力を同苦的に眺めることの必要を意味する。生徒は先生の「頭の上」にひきつさられるよりも、寧ろ「頭が悪くても、常に生徒の努力、勉強の伴侶なる心構へを持つ教師に、ひきつけられるのだ。「赤色教授」河上氏、大山氏が學生をひきつけたのは、實に之があるためであつた。當局の御役人の鼻息をうかゞひ、尻馬に乗る外には能がないのではないかとさへ思はれる教授諸氏は、河上豊氏が張本人だと考へてゐるが、張本人は寧ろ學生であつた。そして學生は、面白半分マルクス主義を研究して物知りになる積りでないことは、既にくりかへし述べた所によつて明らかであらう。

要するに、生徒の苦惱、生徒の課題に對する解決の努力は、教師が一般に想像してゐる以上に眞剣なものである。この際教師側からの、押しつけがましい命令や(例へばノート通りの答案を書かせて獨りよがりを決める教授)その場限りの胡麻化しては、斷じて生徒達は承知しない。



況んや、マルクス主義的傾向を有する生徒が、歴史や倫理の時間に、質問するのを抑へたり、研究会を開いたとて、警察の臨監よろしくの干渉をしたりするのは心あるものゝ嘲笑を買ふにすぎない。生徒には誤りもあらう。だが人間誰か誤りなからん。若い学生の行動が、假令腑に落ちない所があるにせよ、だからと言って、直に譴責、停學、除名を以て對するのには、教師みづから——吾々はブルジョアジイの忠犬だと怒號するにも似てゐる。

教師の不勉強——即ち教師が生徒と共に學ばんとする心構へのないこと——これこそ、今の學校の致命的缺陷であると筆者は確信する。遠く、廣く、長く眺める心持になれないものか？ ユマニテの深い流れに身を委ね、之を愛することなくしては、如何にして教師たり得よう。

三

某私大政経科卒

S某(當二十六年)

健康状態………普通  
性質………寡黙、表面温和

學校教育に對する感想と云ふ様なものは更めて纏めて見たことはありませんでした。僕は他の學生出の諸君と違つて學生運動に餘り經驗を持つてゐませんから、如何なる點が現在の學校教育の缺點で、そこさへ突けば學生運動の大衆化が可能だといふ様な事は殆んど知りません。他方

僕は學生として既に中學の頃から懶惰な不良少年的な學生で學校教育に全幅的な興味を持つた事はついぞありません。これは同時に社會科學々生としても懶惰であつた事で、現在僕が他の學生出の同志に比べて頗る無理論である原因です。懶惰者の感想と云ふ様なものを断片的に申上げます。

一、懶け者からも社會主義者が出來ると云ふことは、僕がその證據で、學校當局が猛烈に詰め込み教育と出席點檢、試験等を嚴重にやる學校では社會主義者は少いやうです。私立大學でも××大學、○○大學等はこの事情があり、齒科醫專、高工等は學校の授業が勢一杯で他を顧る餘地がないと云ふ事情があると思ひます。

然しながら、これは出席點檢、試験等のルーズな學校は社會主義の培養地だと云ふことでは決してありません。

二、文科、商科、工科、醫科、理科等に比べて政治科、經濟科の學生の方が社會主義者になり易いといふのは事實です。云ふ迄もなく政治學の經濟學といふのは社會組織の基礎に關する學であり、社會統制に關する學だから社會主義と接觸面を持つからです。これも政治科、經濟科の學生の大部分が社會主義者になると云ふのでない事は餘りにも分り切つた事で、反對に政治科、經濟科の學生の大部分は極端な反動家(若しも反動と云ふ語が低級に響くならば最も進歩的な國家主義者)になる様です。三、僕の關係してゐた×××の社會科學研究會の事情を見ると大抵の學

生は、卒業間際になると方向轉換をして丁ふ。これは一口に云つて了へば階級對立の激化によるのですが、「就職」と云ふのが餘程原因する様です。おとなしくしないと學校が就職の世話をして呉れないとか、ともかく學位だけは取らないと世間が相手にして呉れないと云ふ様な考へに影響されるのです。××や××大などから社會主義者の少いのは學校當局が頗る有力で、學生に殆んど不満なく就職口を與へる實力があることも一原因だと思ひます。

四、進歩的な教授の存在が社會主義學生を作ると云ふことは、數年前はともかく、日本共產黨の公然の闘争が現れてからは問題にはならないと思ひます。

進歩的教授の存在は進歩的學生にあるヒントを與へて社會主義への糸口を作る可能はあつても、彼等をそれ以上に發展させる要素ではありません。又進歩的教授の存在でヒントを與へられると云ふ様な學生は微少なもので、彼等は恐らくそんな進歩的教授がなくても社會主義に進むものです。何故なら現在では、日本共產黨の宣傳と煽動があるから。

五、就職のために學生が——中にも社會主義化した學生が目立つて——おとなしくなると云ふ事は前に申上げた通りですが、この事は教授の人氣、不人氣にも影響する様です。即ち就職、試験と直接關係のある學科又は就職後關係の深かき學科の教授は、その所論が少し位陳腐でも出席學生が多い様です。

所が原論、通論、總論的な學科の教授はその論する所が古くて面白くなければ殆んど學生は近寄らない。但し試験成績のためを慮はかつて出席する事情は前の通りです。

六、僕たちから見て最悪の敵と云ふのはマルクス主義に通じた教授です。階級對立の激化した今日、マルクス主義に何らかの意味で注意を持つてゐない學生は殆んどない。その意味で彼は注目の焦點にある。群としての學生はその階級層の本質のために反マルクス主義たることは勿論でこの教授は群としての學生からは力強い支柱となる。

もつと重要な事は折角社會主義化した學生の大部分がこの教授のために逆轉させられて了ふ。

學生が社會主義化すれば家から苦情が出来る。警察からはにらまれる。その他の事情(根本的には學生といふ小ブル的本質の故)によつてその學生は幾度も氣を弱くさせられるのです。然し運動から身を引けば同志から裏切者卑怯者と罵られるのがつらい。そしてこの罵られることは社會主義學生には一番辛いことです。何故なら學生が社會主義化するのには勞働者が生活事情からそうなることは違つて全く良心的に社會主義化するのだから、裏切りだの、卑怯者だのと云ふ言葉程自尊心を傷けるものはありません。こゝへかのマルクス主義に通じた教授が現れると、彼はこゝに理論的支柱を見出すのです。

その學生は自分の裏切臆病の合理化のために「左翼はあの點が間違つ



てゐるから俺は反對」と積極的に言ひ出す。こうして社會主義學生の没落者は一番良くて社會民主主義者になつて了ひ、彼等の中からは日本共產黨の同情者などは始んど出ないと考へられます。同情者は社會主義化し始めたものが何かの事情でそれ以上に明確な見解を持ち得ない者のこととす。

七、以上申し上げた様に、僕には學校教育に對する特別な感想はありません。學校教育に身を入れた事がなく特別に或科目に長したと云ふ様な事もなかつたからです。この點については僕の様なのは特別の一人、他の學生出の同志諸君は何れも秀才揃ひだから色々の感想を持つてゐると思ひます。

八、最後に學生運動に對する僕の感想を簡単に申し上げます。學生運動を日本に於ける共產主義運動の主要なもの一つに數へるのは矢張り福本主義の名残りです。福本主義の全盛時代には學生運動を政治的自由獲得闘争の主要な闘争に數へて「現在の學校は支配階級の廣大な支配機構の一網である——（これは正しい）——だから學生は研究の自由を持つてゐない、自治がない、政黨加入の自由、政治運動の自由がない。強制的な軍事教育がある。だからこの學生の不平不満を煽動して學校當局、進んでは國家權力に對する闘争を起し、この闘争をプロレタリアートの政治的自由獲得闘争の主流に合流せしめねばならぬ」と云ふ様なことが説かれた。×大に於ける大小事件を端緒として×高、○大、△高、等學生の大家

運動は續々と燃え上つてこの福本主義の正しさを證明したかの様な觀を呈しました。學生大衆が研究の自由を望み自治に憧れ政治運動の自由政黨加入の自由を求め又強制的な軍事教育を厭つてゐるのは事實で、これらの事實から大衆運動を起すことも出来るであらうが、この種の大衆運動は何ら永續的なものではなく、プロレタリアートの主流に對する力強い傍系だとは考へられません。學生殊にこゝで問題にしてゐる様な高等専門學校以上の學生は若干の例外はあらうが、その生活状態は小ブル以上であつて、何らプロレタリアートに酷似した性質を帯んだものではありません。福本主義の全盛時代に起つた×大、×高事件等は最初の動機になつた問題から更に、プロレタリアートのスローガンを採用させ様と云ふ段階に入ると必らず互解してゐます。これは單に戦術上の誤りではなくて、本質上の問題だと思ひます。學生が學生であるのは單なる數ヶ年で、研究の自由も自治も政黨加入の自由も、やがて與へられるものであり、強制的な軍事教育も却つて恩典になるものです。もつと云ふならばブルジョアジーの子弟ならば、以上の様な制限は如何にあつても生活を享樂する自由は百方に開かれてゐるのです。彼等にはこんな不自由は決して本質的な不自由ではありません。こゝから生死を賭するプロレタリアートの闘争に合流すべき闘争は起り得る筈はありません。二十世紀初頭のロシアに於ける學生運動、近くは中國の國民革命運動に於ける學生運動を引っぱり出して、日本に於ける學生運動の重要性を説くならば、

それは早計だと思ひます。ロシア、支那に於て學生運動の盛んであつたのは共產黨の公然な闘争の現はれる前の事であり、現在支那で下火にはなつたがまだ續いてゐるのは國民革命が達成されてゐないから、即ちまだ支那の土着ブルジョアジー地主と帝國主義諸外國との對立があるからです。然し前に引いた大山事件、×高事件は支那、ロシアにあつた様な嚴密な意味での社會主義運動ではなく、飽くまでも或る場合には「政黨加入の自由」を求め、或る場合には「強制的試験制度」に反對した闘争にすぎない。

結局日本共產黨の公然な闘争、共產主義の主流が確立した今日では、思想運動としての學生運動は大衆化しないだらうと思ひます。そして獨乙の學生運動のやうにプロレタリアートの闘争をたゞき壞す團體擁護運動が學生大衆運動の本流になると考へられます。ではあるがこの學生の中から少數の傑れた共產主義者が今後輩出することは定ま

其の二 (四—五)

左に掲ぐる二篇は昭和五年、共產黨關係の事件にて起訴收監されたる被告人が學生の思想運動に關して述べたる手記なり。

四

りきつた事で、これは如何なる壓迫にも拘らず變らぬ事情です。只壓迫の強弱、形式等によつてその數の大小が決定されると考へます。だから學生大衆と云ふものは、マルクス主義克服論を吹き込み職業教育に興味を引かせスポーツファンにしてへば次第に穩健に反動化して了ふものだと思ふ。事實最近はこの傾向が急速に進んでゐます。教授の不品行や陳腐學生監獄低級な叱言からは學生運動は起るものはありません。

この様に學生運動と言ふのはプロレタリアートの重要な闘争ではない。けれども、微弱乍らも又本質的ではないが、學生には前述の様な政治的自由に對する憧憬がある。もつと重要な事は學生からは少數の傑れた共產主義者が得られる。この事情は日本共產黨が今後學生に對して共產主義の宣傳を放棄しない事情であり、共產青年同盟の學校班の形成される理由だと考へます。

某帝大文學部卒  
親子關係……………  
父



父兄の職業……………辯護士(養父)  
學 資……………養父より

- 第一、學生左傾運動の社會的意義
- 第二、學生運動の外部社會に及ぼした影響
- 第三、學生運動の利害
- 第四、學生左傾運動の將來
- 第五、學生運動の教育的對策

#### 第一 學生左傾運動の社會的意義

學生運動が現代に於ける社會的產物であつて、常に我國社會の影響の下に動いてゐるものである事は明かである。これは我國社會運動の歴史と學生社會科學運動の變遷が密接な關係を以て動いてゐるのを見ても解る。

デモクラシーの思想運動に端緒を發した新人會の小さなグループが、社會運動の進化増大と共に發展して、いまは共產主義的影響を濃厚に持つ所の全國的學生社會科學運動に成長したのである。

學生運動の起る社會的根據の重要なものを左に列挙して見よう。

- 1 無産階級運動の影響。
- 2 學生生活の困難——中産階級の生活難の結果、學生生活は極度に窮乏しつゝある。
- 3 就職の困難。

したり。當局に御厄介を懸けるだけの熱意と勇敢さを持つ者がその中の一部分である事を忘れてはいけない。だから五人や十人退學させれば残りの健全な部分と傳染させずに済む——と禍根を根絶した積りでゐるのは教育者の一時の責任逃れと無智とおめでたさを表示してゐるに過ぎないのである。

要するに學生社會主義運動にはそのよつて来るべき深い社會的根據がある。かゝる運動の起るのは學生の罪でもなければ教育者の罪でもなく、社會制度そのものの中に存する疾患なのである。故に社會制度に内在する缺陷を治癒する事なしに、學生社會主義運動だけを取締つた所で燒石に水にもならない。同じ原因から生じてゐる無産階級運動や労働組合運動が日に日に隆盛に赴いてゐる今日、その枝葉である學生社會主義運動を根絶しようとするのは學生運動の社會的意義に盲目なる者である。若し政府當局が無産階級運動を自身で解決する能力が無いにせよ、教育者に向つて學生運動の根絶を要求してゐるのだとすれば、随分滑稽な手前勝手であり、教育者こそ氣の毒な役目を背負込んだものである。

次の項目で論ずる積りであるが無産階級運動の發生期には學生の所謂新人が社會運動の發展の推進力となり大きな役割を果したものであるが、現在では無産階級の立場から見れば學生の仕事などは問題とするに足りない程で、學生の仕事が無産階級運動に影響するなど云ふ事は殆どあり得ない。學生運動と無産階級運動と何れが根であり、何れが枝葉

- 4 學校教育の無感激に對する不滿。
- 5 政治的、經濟的、思想的社會不安の影響。

現代社會が到る所に於いてその社會的矛盾缺陷を暴露して居り、學生自身が生活難や就職難で痛切にかゝる矛盾缺陷を味つてゐる以上、社會制度そのものに對して懷疑と批判との眼を向ける事は當然である。學校教育はかゝる懷疑や批判に對して何等の解答も指導も與へて居らない。學生は自分でその解決の方法を求めなければならない。無産階級運動の發展と社會主義的思想とはかゝる學生にとつて最大の刺戟であり牽引力となる。何故なら無産階級運動と社會主義思想はブルジョア社會制度の矛盾と缺陷との產物であり、これに對する批判及解決方法として成長してゐるものだからである。現代學生の殆ど大半は多少ともあれ社會主義思想を理解し承認してゐる。この點では關東震災前頃の學生とその後學生とは驚くべき相違を示してゐる。(僕は正十二年に高等學校を卒業したのであるが、其頃まで高等學校で社會主義を口にする者は殆ど居なかつた。大學の三年の時高等學校に演説をやりに行つて二三年の間に彼等の思想と生活態度の變つた事に驚いて仕舞つた事がある。僕たちより四五年前に大學を出た先輩には最早現在の學生の氣持は解らないであらう。況んや十年一日の如き教育家に於いてをや。)

私は現代學生の大半が社會主義的思想を理解し承認してゐると書いたがこれは決して誇張ではない。たゞ研究会を組織したり實際運動に關係

であるかを教育者はよく見究めてかゝらねばならない。學生運動と呼ばれてゐるものの中、次の様な種類がある。

- 1 社會主義研究運動
  - A 純粹に研究的立場を持つもの。
  - B 無産階級運動と關係し、卒業後實際運動にはいるもの。
- 2 學生の利益擁護運動
  - A 政治的色彩を持つもの。  
學生軍事教育反對、學生の政治結社加入要求、校長或ひは學生監排斥運動、學友會自治化運動、兵役短縮、等等。
  - B 經濟的意味を持つもの。  
學生寄宿舎設置運動、學友會費或は對校試合費用輕減、授業料値下げ、等等。

(1)と(2)とは運動の性質方向としては全然別種のものである。前者は思想的色彩を帯び後者は實際生活上の直接的な現實要求である。而してこの二つは別々のものではない。何れも前述した學生の生活と思想の不安——社會的矛盾缺陷に根ざした深い原因から起つたものである。一つの大きな原因から起つて來た所の二つの方向なのである。だから一は思想的色彩を持ち一は現實的な日常要求であるとは云へ、この二つは交錯した密接な關係を持つてゐる。即ち學生は自分達の生活の範圍内にある目先の問題——授業料輕減とか、寄宿舎設置とかを先づ解決しようと努



力してゐると共に、一方社會的矛盾缺陷の批判や解決——社會主義研究、無産階級運動への参加——に向つて動いてゐる譯である。學生生活に對する經濟的壓迫と社會的不安が存在する限り、如何なる名教育家が出た所で以上の學生運動を鎮壓する事は不可能であらう。如何にこれを誘導するか？の問題が残されてゐるだけである。

一般的には、社會主義的傾向を持つた學生、即ち研究會員が學生を煽動して(2)の様な諸種の大衆運動を起してゐると見られてゐる。無論半面に於いてはそうに違ひない。研究會員がかゝる大衆的學生運動の先頭に立ち、巧にこれを指導してゐるのは事實である。然しかゝる表面上の現象で事件の本質を見失つてはならない。研究會員さへ處分すればかゝる運動は起らないと考へる事は、現象に迷はされて本質を見失つてゐるものである。如何に偉大な指導者でも一般の不平不安の無い所に火をつける事はできない。現在一般の學生生活の中に如何なる氣運が醗酵してゐるか？と云ふ事が問題の核心であり解決のための鍵なのである。學生が昔の様に弊衣破帽で何の屈托もなく酒を飲み「天下國家」を論ずる餘裕がなくなり、授業料の値下げや對抗試合の應援費節約の要求のために大衆的にさわざ出さねばならなくなつたと云ふ點に、所謂左傾學生が生じ、學校騒動が絶え間なく起る原因があるのだ。現在の學生にとつては「天下國家」よりも彼等自身の今日の生活と明日の生活が解決を迫られてゐる問題であり、其處から民衆を如何にして窮乏から救ひ出すかと云ふ

ので何等の方向を持つてゐなかつた。これ等の勞働者農民に結び付いて理論的指導の役割を果たしたのは學生である。當時の學生運動は極めて少數のグループに過ぎず、その思想も明確な意味の社會主義ではなくデモクラシー的色彩を持つてゐたのであるが、それでも我國に於いては殆ど處女地の状態にあつた社會運動の分野に歐洲の勞働組合理論や社會主義的思想を輸入する事に大きな役割を果たした。或ひは勞働組合の創立者となり或ひはストライキの指導者となり、或ひは運動の理論的指導者としての役目をつとめてゐた。即ち、學生運動の中に日本に於ける社會主義理論と無産階級運動が育てられてゐたとも云ふべきであらう。

學生運動が社會運動の先驅をなした時代である。

第二期 知識階級の役割の縮小  
震災後あたりから勞働組合運動も確立され勞働者も成長したので學生の指導的立場は全く失はれてしまつた。むしろ勞働者の方で知識階級の技術を出来るだけ利用しようとする様になつて來た。即ち勞働者の教育運動、組合事務所の書記としての事務整理等の仕事である。最早や理論的指導とかストライキの指導と云ふ様な事は勞働者の優れた分子によつて立派に行はれ、この方面に於けるインテリゲンチヤの役割はなくなつた。否むしろかゝる指導をインテリゲンチヤに委ねるのは百害あつて一利なきものとして排斥せられて來た。故に學生が實際運動と關係してゐたとは云ふものゝ、實は極めて部分的な事務的な仕事に過ぎず、その範

問題が切實性を持つて來るのである。この意味で現代の學生は實質であり眞面目である。所謂左傾學生なる者はその中で最も眞面目であると云へるかも知れぬ。

少し餘計な事を書き過ぎた様だが、現在教育家にとつて大切な事は社會主義學生や學校騒動の頻出する原因をもつと本氣で研究される事である。今の學生の氣持と十年前の學生の氣持が全く異つてゐる事、今の學校騒動が十年前の學校騒動と本質的に異つてゐる事等をつきとめて見る事が肝要である。

それを究める事なしに勝手な獨斷や推量で對策が立つものでもあるまいし、たとへそんな對策がデッチ上げられたとしても解決策としては三文の値打ちもなく事態を悪化せしむるがせきの山であらう。

餘計な言辭を弄したのもその點の注目を要請するために他ならない。

第二 學生運動の外部社會に及ぼした影響  
學生運動が外部社會へ及ぼした影響は時代に依つてその強度も異り、性質も違つてゐる。大略その時期を分けて見ると次の通りである。

第一期 學生が社會運動の指導的地位を占めてゐた時代  
歐洲戰爭中日本の勞働者農民は異常な成熟を遂げ始めた。勞働爭議と小作爭議は非常な勢ひで擴がり勞働組合及農民組合の組織が各地に發展した。併し、當時の運動は社會主義的理論によつて指導され、發生したものでなくして勞働者や農民の日常要求の結果自然發生的に起つたも

爾も甚だ狹隘である。

茲で勞働者側から見た學生の性質に就いて一言を費して置きたいと思ふ。勞働者にとつて學生は畢竟するに彼等と階級を全く異にした小ブルジョアに過ぎない。勞働者は眞正面から資本家に對立し、自らのパンの爲めに戦ふ事なしに生活し得ざるものである。彼等は生きるためには最後まで資本家と戦はねばならず、又戦ふために組合の組織を持つてゐるものである。小ブルジョアはこれと全く異なる。小ブルジョアは資本主義の壓迫のために生活難に墮はれるとは云ふものゝ、その逃げ口を何處かに持つて居るし、又逃げ口を失つた所で資本家に對して勇敢に戦ひこれに打撃を與へ得るものではない。彼等は個人主義的で團結力を持たず、優柔不斷で勞働者の如く斷乎たる決意を持たない。故に勞働者は學生の一部が勞働運動に参加して來ても彼等の指導に委ねてはならぬ事を知つてゐるのである。かゝる勞働者の考へは勞働者が社會運動の經驗を得る事が多ければ多い程明確になつてゆく。勞働運動が幼稚な時代には學生や知識階級出身の指導者が多く、彼等が大きな役割をつとめてゐるに反し、運動が發展するに従つて役割が小さくなつてゆくのはこの階級的特質によるのである。尤も知識階級の中から僅かの秀れた指導者を出す事はあるが、これは極めて僅少であつて、かゝる特殊な指導者の發生を以て學生と勞働運動の關係を律する事は出来ない。

こんな事情で第二期に到つては社會運動に於ける學生の仕事は組合費



記や研究會の講師位のもので大勢に對しては殆ど影響する所がない様になつて來た。この傾向は益々強く現はれつゝある。その代り學生社會科學運動自身は素晴らしい成長を遂げてその方面で社會的影響を與へてゐる。即ち軍事教育反對運動や學友會自治化運動等である。これに就いては別に述べる必要もあるまい。

學生社會科學運動の發展は社會運動の地方的勃興に刺戟を與へた。即ち東京大阪其の他労働者の密集してゐる大都市に於いては既に社會運動に於ける學生の役割は殆どなくなつて學生自身の運動として發展し始めたのであるが地方の小都市及農村に於いては尙ほ學生が先驅者としての仕事をなし得る餘地が多分に残されてゐた。労働組合、農民組合、無産政黨等の地方支部組織運動、それ等を中心として労働者農民の啓蒙的運動等に對する社會主義的學生の仕事は相當に功を奏したものと見る事が出来る。併しこの方面の仕事も社會運動の發展と共に學生を煩はす範圍は益々縮小されて居る。

### 第三期 現在

現在は第二期の傾向がそのまま繼續せられて學生の外部に對する影響がいよゝゝ制限せられてゐる時期である。組合の書記や研究會の講師なども現在では驅け出しの學生を相手にしてはゐない。労働者の中から書記でも研究會の講師でも立派に作り出されてゐる。學生の方から組合で使つて呉れと頼んでも採用される事は減少しない有様である。學生の方

員が増加すると云ふ事は無かつたであらう。不幸にして檢舉事件が相次いで起り、破壊された部署を補ふに労働者ばかりでは不十分だつたので、手近にゐる學生を多く黨員に採用する事になつたのであらう。併しかゝる場合でも無經驗な學生を黨員に採用したりする事は共產黨としても誤つた方針であるから、正しい指導者がゐればかゝる現象は早晩無くなるものと考えられる。

かくて、現在に於いては一般社會運動に於いて學生の直接参加を歓迎せず相手にしない程であり、學生運動に對しても以前程の關心をもつて重要視してはゐないのであるから、外部社會に對する影響は論ずるに足らないと云へるであらう。

### 第三 學生運動の利害

學生運動の利害と云ふ様な事は見る人の立場によつて全く異り得るのであるから一般的に答へる譯にはゆかない。それよりも我々はかゝる運動が現代社會制度の一產物であり、偶然的出來事ではなくして不可避的事實であると云ふ現實を直視する事が大切であらう。利益があれば歓迎し、弊害があれば撲滅する——と云ふ様な主觀的立場から始末できない問題である。好いにしろ、悪いにしろ、避け難い社會現象の一つとして最も合理的に誘導する事こそ必要な事なのである。それとも、黙認するも撲滅するも當局の出やう一つで自由自在に處理し得る自信を持つて居られるのだつたら、何も大騒ぎして研究などなされる必要はないであ

でも昔の様に優遇され尊敬される事はないので、餘程の決意と忍耐力を持つた者でない限り、組合運動へ身を沈めて献身しようとする者は無い。地方的な仕事にしろこの傾向は濃厚になつてゆきつゝあると見て差支へがないであらう。その代りこのエネルギーは學生自身の諸運動の中に移されてゐる。殊に學生生活の不安と困窮が年毎に目に見えて甚だしくなつてゆきつゝある今日、この方面に於ける適當なる救済策が講ぜられぬ限り、學生運動は鎮靜する時はないであらう。

三・一五事件以後の状態に就いては推測する由もないが、ひそかに想像する所によれば、恐らく學生の役割は又増加してゐるのではないかと思はれる。三・一五事件によつて全國的に有力な指導者が殆ど檢舉せられ、社會運動に於ける各種の活動が不振状態に陥つてゐるのでそれを回復するために今まで大して相手にしなかつた學生を利用してゐるのでなからうか。而しこれは社會運動としては一時的變態現象であり、決して好い傾向ではないのであるから運動の回復と共に消滅するであらう。共產黨の運動に於いても同様である。三・一五事件以前にはインテリゲンチヤ、特に實際運動に經驗の無い學生を黨員にする事は嚴重に制限せられてゐた。三・一五事件で檢舉された中のインテリは主として福本主義時代——インテリゲンチヤを過重に評價してゐた誤つた方針の下に黨員として推薦されたもので、新方針以來インテリ黨員の整理が問題となつてゐる程である。故にあの事情のまゝで進んで行つたなら學生の黨

らう。又とつづくに撲滅されてしまつてゐる筈に相異なる。世界一の警察制度を以つてしても一共產黨を如何ともする事が出來ず、檢舉する後から雨後のだけのこの如く、新黨員が出來て來るのを見ながら、學生の社會科學研究や學生運動を教育者の頭で撲滅する事が出來ると思ふのは餘りに好い氣なものである。

強ひてとあればこの問題に就いて二三氣のついた事を述べても好い。弊害に就いては、我々が喋々するまでもなく教育家諸公が骨身に徹して感ぜられてゐる筈だから多言を要しない。社會主義の立場から見れば學生運動全體が一つの利用の機會であつて弊害と認むべきものは何もないのである。只時々生半可な學生がマルクスやレーンを丸呑みにして來て運動の實狀を顧みないで勝手な議論をするので迷惑を蒙る位のものである。

こんな本質的な問題には觸れないでたゞ教育者に對して注意を乞ひたい點を述べやう。若し學生運動の撲滅が不可能だとしたら、せめてその好い處だけでも成長させる様に誘導するのが残された仕事になるであらうから——。

第一に社會科學を研究する學生の持つ眞摯なる學究的態度である。教室でだらけ切つた學生を見るに馴れてゐる教育家が一度研究會の中に足を踏み込んだら、その統一され緊張した空氣に驚きの眼を見張る事だらう。彼等は燃える様な熱意と知識慾とを以つて社會科學を研究してゐ



る。彼等の社會に對する不安や懷疑に對して曾て學校教師が與へて呉れなかつた新しい世界がそこに漲げられて來るからである。彼等の研究的熱情は他では一寸見る事が出來ない。彼等は原書を読むために熱心に語學を勉強する。彼等は自分の得た知識から今まで無批判に受け入れてゐた學問に對して眞面目な批判的研究の態度をとる。この事は十年一日の如き昔の講義を繰り返へしてゐる先生には大きな脅威であらうが、學生にとつては非常な進歩と云はなければならぬ。又教師の講義を無批判に受け入れ、丸暗記をして首席を争つてゐる學生に比べたら遙かに研究的態度である。先生の講義を批判するなどけしからぬ、これは邪道であると考へる人があれば、その人は科學の進歩も眞理の高揚も認めない現狀維持の反動思想家である。他の一般學生に見る事の出來ないこの科學に對する熱情と眞摯なる學究的態度の上にこそ新日本が建設されてゆく原動力があるのではなからうか。

こうして培はれた眞面目な態度は其後立派に開花しつゝある。僕が研究を共にした多くの友人は官廳や會社にはいつてゐる（實際運動に参加した者はその中の眞の一部分に過ぎない）。彼等は鋭い社會批判力と研究心によつて囑望されてゐる様である。却つて在學時代試験勉強で好成績を得てゐた秀才諸君は就職と同時に研究を放棄して平凡なる動人になり成績の悪かつた仲間が蕭々と専門の仕事の上で勉強してゐると云ふ事は皮肉なる事實である。

第二に社會科學を研究する學生は一般學生に比すると生活態度が嚴肅である點である。カフェーに行つたり料理屋に行つたり、其の他廢煩的傾向が濃厚な現代學生の間にあつて、彼等はその點の少ない事は一般に認められてゐる様である。だが現代學生の廢煩は教育者が考へてゐるより遙かに濃厚であり、研究會員の眞面目は一般が考へてゐるより遙かに眞面目であるかも知れない。これは研究會員間の團體精神が相互に生活を規律し合つてゐるのであり、新時代の建設者たらんとする英雄的誇りがブルジョアの享樂を斥けてゐるのである。

教育者はかゝる美徳を持つた學生が社會主義などにカブレてゐるのでなかつたらなあと恐らく嘆ずるであらう。

こんな話がある——ある高等學校の研究會員が破産した爲に退學しなければならなくなつた者が居た。すると十數名の研究會員が彼等のコーヒー代や煙草代を節約して一年近くの間友人の學費を維持して卒業するまで續けてゐた。大學にはいつてからは自活の道を探して今は或る學校の先生をしてゐる筈であるが、かゝる友情——我々は同志意識と呼んでゐるが——や團結力は普通の學生の間には見出す事は困難であらう。野球選手とかボート選手などの團體競技を共にするグループには他の學生に見ない友情や團結力があるものであるが、社會科學の學徒の間には遙かに美しく且つ強固な友愛感念が流れてゐる。だから青年の意氣とか「人生意氣に感ず」と云ふ様な感念に燃えてゐる學生はこの強いアト

モスフェニアから出るのを欲しない。飽くまで行動を共にしやうと盟つてゐる。研究會が秘密に存在し學校當局や官憲からの壓迫がある場合にはこの傾向を殊に強くさせ感激を深からしめるものである。

かゝる傾向は確かに美點である。たゞ指導を誤れば觀念的な小兒病へ、即ち上滑りな革命的氣持を持たせて仕舞ふことは學生にとつても不幸な事だし、社會にとつても悪い結果しか及ぼさない。

#### 第四 學生左傾運動の將來

日本の社會狀態が一朝一夕にして改善せられる見込のない限り、學生の社會主義化する傾向は之を止める事は出來ないであらう。否むしろ今後益々深刻になつてゆくものと考へねばならない。所謂「思想善導」などと云つた所で學生の方では大して相手にはしないであらう。思想善導を以て學生の物質的生活條件が良くなるとすれば話は別である。

#### A 社會科學研究運動

一般學生の生活條件が悪化して來る限り學生が社會主義に對して關心を持つ程度は益々増加して來る。社會科學研究の趨勢は従つて今後益々擴大して來るであらう。最近の社會主義理論、社會主義的文藝等に関する出版物が急激に増加してゐるのは好い標準と見られる。勞働者かゝる文獻を読む者は極めて少ない。殆ど知識階級、特に學生がその相手である事は明かである。社會科學の研究會を禁止したら秘密の研究團體が出来るにきまつてゐる。研究會さへ禁止すれば社會主義の研究などや

らなくなるなどと思つたら大變な間違である。良い物を蓋するに他ならない。却つて監督の行き届かない所に手放す様なものであらう。それに個人的研究者の存在が甚だ多い事を忘れてはならない。研究會には直接はいらぬが研究はすると云ふ學生は研究會員より遙かに多いのである。これら全體から見た社會科學の研究者は今後益々増加する。共産黨檢舉や研究會彈壓などと云ふ出來事は社會主義の存在を廣告宣傳して呉れる様なものであつて、却つて一般學生の關心を強める役に立つのである。學生の社會主義化と社會科學研究者の増加は當分上向線を辿つてゆくものと見るべきである。

#### B 實際運動に参加する者

これは現在がせいぜい限度であつて今後決して増加しはしない。むしろ減少すると見る事が出来る。第二の「外部社會に及ぼした影響」の項を見ればこの傾向は明白である。社會主義の本を多少讀んで「そんなら俺も實際運動をやつて見やう」と云つた調子で飛び出して來ても、今では使つて呉れる所は無いのである。それに飯が喰へないので直ちに參つて仕舞ふであらう。四五年前までは組合などで二三十圓給料を呉れた所もあつたし、翻譯などで何とかやつてゆける見込はあつたが、今はそんな餘裕は残されてゐない。組合などでも勞働者出身の書記にさへ給料を充分に拂ひ切れぬ様になつて來てゐる。學生などが割込む餘地は殆ど残されてゐない。中には學生中は親から學費がもらへるので無給でも快く



組合の仕事をし、共産黨にはいる事を光榮として何の金の苦勞もしないで働いてゐる者もある。學生のかゝる經濟的特權を利用してレポーターなどに使用する傾もない譯ではない。而しこんなのは大して心配するに當らない。學校を卒業して自活の道を求めねばならなくなると、大半はかゝる仕事を放棄せざるを得なくなるものである。在學中はなかなか熱心な闘士であつた者が卒業間際になつて實際運動から離れてゆく例は甚だ多い。更に今後經驗ある指導者はかゝる點から學生を利用する事はやめるであらう。こんな學生は一時の間に合せにはなるが、結局役に立つものでなく、却つて運動に悪い結果を残す事が多いからである。だから在學中少し位實際運動に關係したからと云つて、退學の處分をしたりする事はやめなければならぬ。かゝる學生を卒業前に退學するのは實際運動の中へ無理に追ひ込む様なものである。インテリゲンチヤは學校を卒業した限り、何とか職を見付けて生活の方法を求め様とする氣持を棄てるものではなく、就職難の場合でもかゝる希望を全く失ふ事はない。故に餘程の決意をしなければ安全な生活の道を捨て、社會運動に投ずる事はないのである。所が途中で退學されると生活の方面に對する希望が甚だしくなり、社會主義者としての折紙が付けられて嫌でも實際運動にゆかぬ限り落ち付く所がなくなつて仕舞ふ。學校の處分が彼等に最後の決意を強要するのである。京都學生事件の被告が保釋出獄中殆ど共産黨に加盟する様になつたのはかゝる事件が與つて力があつた。あの中約半數は

學生事件などなかつたら實際運動にはいるに到らなかつたと思はれる人々である。この點教育者及司法當局は深い注意を拂ふべきではなからうか。

若し夫れ無産階級運動を飽くまでやらうと決意してゐる學生に到つては、これは壓迫や退學や投獄や説諭などでは如何ともなし難いので、これに對しては策の施し様もない譯である。然しかゝる學生は極めて少數で一つの學校に二人か三人か或ひはもつと少數であらう。かゝる少數に脅へて多數の學生を犠牲にし、遂に彼等をも實際運動に驅り立てゝゐるのは教育家の不明のいたす所である。我々社會主義者の側に立つて見てもこんな學生がたくさん運動にはいつて來ても大して有難いとは思つてゐない。

三・一五事件の直前頃には僕たちの間でも實際運動には入りたがつてゐる學生を如何に處分するかが眞面目に考へられてゐた。特に將來指導者たり得る様な有望者を除いては、なるべく普通の職業に就かせて彼等のやれる範圍内で運動を援助させる方が好いと考へられる様になつてゐたと思ふ。財政的な援助とか調査、研究と云つた様なインテリゲンチヤ特有の才能を生かした方がお互ひのためになるからであり、その方が却つて長續きするからである。少しばかりマルクス主義をかちつた連中が血氣に委せて三四年飛び廻つた所で、間もなく飯が食へなくなり運動の中でも大して重要視されず中途半端になる事は眼に見えてゐる。今度の

あるが、然しこの方面に社會主義者や共産黨が積極的に行動すると思つて脅へる必要はない。學校のストライキなどは現在誰も問題にしてはゐない。だが誰も手をつけずに自發的に續々爆發する可能性がある事を忘れてはいけない。左傾學生の動きだけでわけなく學校騒動は起るのである。

事件でやられてゐる連中の大半はそんな所に落ちてゆくであらう。インテリが他人の前で強い事を云つて威張つてゐた所で先は知れてゐるのである。だから始めから彼等の決意と能力に應じて利用する事が我々にも考へられて來るのである。矢鱈に實際運動の中にはいらせないと云ふ方針が正しいであらう。そして今後その方面に向つて學生などを利用する事になるであらう。

以上種々の點から考へて、今後實際運動に参加する學生は決して増大する事はないと結論を下し得る。役に立たない學生上りの自稱革命家がウロ／＼してゐるとすれば、これは文部、司法當局が製造した温室出來の南瓜であるに過ぎない。かゝる裏なり式の革命家は我々としても迷惑である。

### C 學校騒動

學校騒動は特に増加する事もなからうが、それかと云つて決して減少すると思はれない。現在の様な官僚的教育制度が存続して學生の意志と學校當局の方針とが融和し得る機會がなく、學生の日常生活が困難を呈してゐる限り、學校騒動は終熄する見込みはない。學生生活の中には不平不満が鬱積してゐて爆發の點火材料は到る所に存在してゐる。何か好い機會を見付けて火をつけさへすれば、何處の學校でも忽ち騒動を起す事は可能である。僕自身の経験から云へば工場のストライキよりも火をつける事だけはすつと簡單である。(尤も其後の解決は工場より厄介で

あるが)然しこの方面に社會主義者や共産黨が積極的に行動すると思つて脅へる必要はない。學校のストライキなどは現在誰も問題にしてはゐない。だが誰も手をつけずに自發的に續々爆發する可能性がある事を忘れてはいけない。左傾學生の動きだけでわけなく學校騒動は起るのである。

學校騒動の性質が非常に變化してゐる事は注意すべきである。昔の様に單なる校長排斥とか教授排斥とか云ふ争議は殆どない様である。學生は如何なる校長が來ても如何なる教授に代つても結局同じ事で大した違ひのない事をよく知つてゐる。却つて昔の卒業生とか先輩が飛び出して來て、學校の傳統に合はぬとか學問が異ふからと云ふ様な理由をつけて校長排斥などをやらせるので、學生はそんな抽象的な要求だけで動くものではない。

現在の學生を動かすものは直接生活上の利害關係である。前に書いた様に經濟上の利害問題と學生自治の政治的要求とである。この二つは學生の胸に強く波打つてゐて大きな原動力となる力を持つてゐる。對校試合費用の軽減、授業料値下げなども氣の毒な程痛切な問題であり、寄宿舎や學友會の自治なども最近の若い學生にとつてはやみがたき要求である。そして何れも當然の要求であつて學校としても無暗に反對できぬ性質のものであらう。これらが拒否された時に始めて形式として校長排斥と云ふ様な形をとつて來るのである。だから校長を更迭した所で根本原



因となつてゐる禍根を除かぬ限り問題が解決した譯ではない。かゝる性質を持つた學校騒動に對しては特に解決に注意する必要がある。

三・一五事件以前學生聯合會は學生大衆の日常利害の擁護を中心として寄宿舎、學友會其他の學校機關の自治化の要求に勢力を集中して居た様である。彼等の目的はこれに止らず校内の自主權獲得から出發して、全國的に學生の政治結社加入の自由、兵役短縮等々の政治的要求に發展せしめ様としてゐた。これによつて無産政黨の「政治的自由獲得運動」の一戰線を形成しやうとするにあつた。授業料値下運動や學生軍事教育などでは立派に全國的組織を作つた經驗を持つてゐるのである。今後もかゝる方向に向つて運動が進展する事は明白である。學生の利益擁護や學内自主權の運動は近い將來に益々發展し相當にその成績を擧げてゆくだらうが、全國的政治要求に到つてはそう簡單に成功する事はあるまいと思はれる。現在の一般學生はかゝる政治的要求に關しては未だ甚だ冷淡である。

#### 第五 學生運動の教育的對策

學生社會主義化の状態は以上の如くである。而も彼等の思想的變化は急テンポを以て進行してゐると云はねばならぬ。これに對する對策は何れも一時を彌縫せんとする氣息めなものに過ぎない。尤も現代日本の社會状態がかゝる限り如何に教育者に名案があつた所で根本的治療策にならぬ事は明かであるが、それにしても、もう少し學生の氣持や生活を

理解し暖い氣持で臨んだなら、何とか氣のきいた方法もあらうかと考へられる。現在の様な方針で押してゆけば學生の思想を惡化せしめ事態を險惡ならしめるのみである。全國の學生五六百人を共產黨員として投獄させたらもう少し眼が醒めるかも知れない。我々にとつては學生が社會主義者になつて呉れた所で大して有難い事ではないのだから、此點は眞面目に教育者に向つて忠告したいと思ふ。

先づ對策の根本見地であるが、學生の左傾化は現在の社會状態を以つてしては不可避的で、小手先の對策では到底防止し得るものでない事を率直に認める事が必要である。學生の左傾化は決して共產黨の煽動や學生聯合會の宣傳や二三在學生の活動から起つてゐるものではない。かゝる一切の條件から隔離したとしても、現代の日本の社會状態から分離させない限り、これを防止する事は出来ない。如何に深窓に育て、も年頃になれば男を欲しがらぬ娘さんと同じである。(二十萬の共產黨員と五百萬の勞働組合員を有するドイツの學生は社會主義反對の示威運動をやつた時代があつた。日本の經濟状態がもつと豊かで中産階級の生活に餘裕があつたら學生は頼んでも社會主義者にはならないであらう)

今までの教育者の對策は研究會彈壓や思想善導でこの大勢を挽回し得ると云ふ方針の下に立てられてゐる。その結果研究會の解散、退學處分、官憲と協力して外部運動の遮斷と云ふ様な高壓手段に出て事態を險惡ならしめてゐる。

これがそも／＼失敗の原因である。學生をして益々秘密運動に深入りさせ、革命的氣持に昂奮させ、外部との秘密連絡を覺えさせる。この秘密運動や秘密の連絡線こそ共產黨が學生と結び付く唯一の線であり、學生を信用して黨員たらしめる目じるしである。

故に先づ教育者は今までの偏見を捨てねばならない。左傾思想位は取締りによつて納減できると云ふお芽出度い自信を綺麗に捨てる事が第一である。そして學生左傾は不可避的な社會的産物で小手先の政策では防止し得ぬ事を大膽に承認する所から出發せねばならない。

さうすれば對策の原則が自ら生ずる。「如何に學生を指導し、如何に生活せしむるか」である。彈壓ではなく誘導である。思想的對抗ではなく、彼等を自由に活かす事である。これより他に恐らく對策はあるまい。

#### A 思想善導

三四年前に某博士が全國を行脚して高等專門學校に反マルクス主義の講演をやつて歩いた事があつた。無論校長先生は鄭重に博士を迎へて講堂に全校の學生を集めて高説を拜聴せしめたものである。講演が済むと學生が立ち上つて博士に質問を呈出する。博士が答へると次から次に學生が質問して、博士は壇上に立往生し、行詰り、ボロを出して仕舞ふ。或る學校では生徒が演壇を占領して堂々たる反對演説をやつた所さへあつた。某博士の反マルクス主義なるものは「共產主義と云ふが一體俺の

フンドシはさうして呉れるか」とか、「生産機關の公有と云ふが鍋や釜は食事の生産機關であると共に消費物だが社會主義者は如何に處分する積りか」と云つた様なものなので、少しでもマルクスの本を讀んでゐる學生が承知する譯はないのである。當時學生聯合會を指導してゐた筆者の所へ來た報告によれば、全國で博士に對して質問し反對演説をやらぬ學校は殆どない位であつた。そしてかゝる事件の後で研究會への新入者が増加した事が報告されてゐる。某博士はマルクス主義宣傳のための機會を提供したやうなものである。

當局のやつてゐる學生の思想善導なるものは略これに類したものではなからうか。

ある高等學校の先生が「共產黨宣言」の攻撃をしたので學生が共產黨宣言とはどんな本だと質問すると、現在出版されてゐるのには大、中、小、と三種類あるが僕の讀んだのは中の方だ」と答へたと云ふウソの様な事實がある。共產黨宣言が輸入禁止だから學生など知るまいと考へたら大變な誤りである。原書所か秘密出版の翻譯が全國に流布してゐるのだ。こんな先生がやる正々堂々たるマルクス攻撃や思想善導を學生が黙つて聞く譯はない。教育家の威信が日に日に失墜するだけである。現在高等專門學校程度の先生や學生主事なる諸君でバハリンの「共產主義のABC」をさへ讀んだ事の無い人が少くないであらう。學生には高等學校在學中に資本論を讀破する者すら珍らしくはない。カウツキーの資本



論略程度なら研究会員ならずとも読んでゐる。経済學の時間に先生がヤツケられるのは無理はないのである。現在日本のブルジョア學者でマルクスをほんとに読んで理解して批判してゐる學者は指を屈する程しか居ないであらう。

要するに大臣にしろ、一般教育者にしろ、「マルクス主義の論破」などと云ふカラ威張りは一刻も早くやめた方が好いだらう事を忠告したい。眞面目にマルクスを研究し論破するのなら僕も賛成である。僕自身眞剣でマルクスを批判せんとする意圖を持つて居り勉強してゐるのだが、研究すればする程矢鱈な事は言へなくなるものである。大膽を擧げてマルクスを攻撃してゐる徒輩に限つて自己の不明と無智を暴露してゐる。かかる徒輩を煽動して出駄羅目の議論をやらせればやらせる程、學校や先生は學生の信望を失墜し、マルクス主義の堅固さを逆に立證するに過ぎない。

思想善導のため古事記や日本書紀を流布せしめる計畫などに至つては發案者の精神状態を疑ひたくなる。これに比すれば浪花節の思想善導の方が面白いだけにお客は餘計にあるだらう。思想に對抗するに思想をもつてする方針にした所で、そんなカビの生えた考古學的遺物を持つて來ないで、革命主義に對する議會萬能主義とか國際聯盟的の平和思想をもつて來たらそんなものであらう。これとて大した効果は期待できないだらうが、精神状態を疑はれる事だけは免れ得るであらう。

維持と強固な規律を前提として作られてゐる組織が、容易に普通の學生を黨員に採用する譯はない。當人に對する信頼と嚴重なテストが先づ必要である。「アイツはシツカリしてゐる」と云ふ評判だけでは手が出せるものではない。

この際にその學生が學校と官憲の鋭い監視の中で秘密研究会を組織し維持してゐると云ふ事は何よりも好い信頼の標準になるのである。スパイの疑は無論無い。秘密を守り非合法活動をやる點では自分達で多少とも既に經驗を持つてゐる。これは黨員としてもつて來いの條件ではないか。公開せられてゐる研究会に對してはこれに反して一寸手が出せないのである。公然たる研究会の指導者と秘密研究会の指導者とはその範疇が異つてゐるからである。前者にあつてはマルクス主義理論を勉強した學者肌の學生が多く指導的地位に就いてゐる。實際運動に對する決意や革命的意志や秘密活動への規律などは大して重要ではない。(さう云ふ性質を持つたものもその特質を發揮する機會は少い)。かゝる種類の學生は大抵大學を卒業すると研究室に残つてプロフェッサーを志願する。かくて公認せられた研究会で多數が難然とやつてゐる學生に對しては黨員として採用する標準がなか／＼發見せられず、テストをする機會も少ない。

これに反して秘密研究会には手懸りが簡單につきし、擴大も早い。壓迫が甚だしく、ために小さく固つてゐる強固な研究会があつては、その

とも角何等の内容も魅力もない思想善導などをかつき廻るのは坊主と神主に委せておいてもよくはないであらうか。少くも新時代の文藝を司る人々や教育家にはもう少し氣のきいた方策があらうではあるまいか。

#### B 社會科學聯合會の彈壓

當局が學生社會科學聯合會を解散し各學校の研究会を解散したのは策を得たものと考へられない。何故なら表面上禁止した所で實質は決して消滅しないからである。彼等は直ちに秘密研究会を組織し連絡を回復する。恐らく禁止された翌日から彼等の新しい活動は始まるのである。秘密聯合會を發見して處分した所で根絶したと思ふのは餘りに好い氣に過ぎる。後から後から新しい者が出て來るのだ。この事はこの二三年の間に教育者諸公が自ら經驗した所であらう。それにも拘はらず彈壓策を續けてゆくは愚の骨頂ではないか。

若し彈壓を以つて根絶し得ぬとしたら、公認して自己の監督の下に置くか、禁止して秘密組織を繼續せしむべきかの利害得失を考へて見なければならぬ。

前にも述べた様に秘密組織と秘密連絡こそは學生を革命的氣持に驅り立て、共產黨の如き秘密團體と結合せしむる最も有力な動機となるものである。秘密行動が學生に如何なる心理作用を及ぼすかは前に觸れたから、茲では共產黨の立場からこれを眺めて見よう。共產黨の如き機密の製造される譯である。

以上は秘密組織の持つ危険性であるが、學校當局として見た所で、自分の眼の届かない所でコソ／＼やられてゐるのは氣に懸る話ではないか。若しそれ警察と通謀して學生の跡を嗅ぎ廻つたりするに於いては教育者の見識など丸潰れと云ふべきである。

要するに教授の監督の下に公然たる研究会を許可するに如かない。その上でテキストなり研究方法なりに勝手な干渉を加へれば好いだらう。これが最も安全な道である。その中から一人や二人實際運動に飛び出す者が出て恐れるに及ばない。さうする事が最小の犠牲で済んでゐる事と知るべきである。

#### C 退學處分

今までやつて來た様な退學及停學處分は絶対に中止せねばならない。前の方でも書いたが、かゝる處分は學生の他の方向への退れ道を閉塞し



て社會主義運動へ驅り入れる様なものである。

何人が果して革命家の群に投ずるかなどは學生時代になか／＼分るものではない。我々でも一寸その本質を見分ける事は困難である。況んや學校の先生などに分りつこはない。結局眼障りになる學生で研究会で先に立つてゐる者を處分してしまふ事になる。教育家が自ら學生の前途を破壊する結果に終るのみである。又高等學校の學生などで血氣にはやつて農民運動や組合運動に關係する者も大して心配するにあたらぬ。大學を卒業する頃には就職口を探して歩く様になるものである。僕が嘗て指導したある高等學校の研究会員三十名ばかりの中、卒業後運動へ参加した者は二三名に過ぎなかつた。他の連中は如何に激勵し勧誘しても皆逃げ出してしまつた。而も實際運動に参加した二三人は學生時代には研究会員としては優れた點の少なかつた者である。

これに反して中途退學を受けた學生は他にゆくべき處がないので實度胸を握めて運動の中に轉り込んで来る。組合運動に關係したと云ふので退學したらきつとその組合に腰を据えて仕舞ふにきまつてゐるのである。學校ではその結果を見て「あんな奴だから」と云ふであらうが、いづくも知らん大學卒業までほつて置けば立派な會社員になるにちがひないのである。

四五日前見知らぬ青年が面會に來た。名前を聞くと僕が卒業した高等學校を最近退學されて仕事を求めて上京したのだと云ふ。今何をしてゐ

を投げ出してゐる様なものである。それで得々として自分の家が清潔だと稱してゐるのだからあきれて仕舞ふより他にない。僕がまだ高等學校に居た時、五六人の友人と家を一軒借りて住んでゐた。大掃除の時に頭の好い奴がゐて、俺んとは大掃除はする必要はないよと云ふ。調査が調べに來たらどうすると聞くと何大丈夫だと答へる。

やがて隣近所で掃き出した芥をたくさんもらつて來て門前の道路に山の様に積みあげ、調査にはその芥を見せて追ひ返へして仕舞つた。現代の教育家諸君よ!! 諸君はその横着さに於いてこれに劣らざるものがある。

話が横道にはいつたが、要は退學處分は斷然廢止すべしと云ふ事である。この點はくれぐれも反省を乞ひたい。文部省は全國の退學處分者の行末を調査して見る必要がある。そして悪いから退學されたのか、退學されてから悪くなったのかを慎重に考慮して見る必要がある。

#### D 學校爭議對策

學校爭議の原因となつてゐるのは上述の如く政治的思想的要求と經濟的日常生活上の要求とであるが、この兩者は決して別々に起つて來るのではなくして密接な關係をもつて起つて來る。例へば學友會費の値下とか對校試合應援費用支出の反對が起つた場合に、かゝる經濟的要求は必然に學友會の自治とか、應援費用支出のための學生代表の決議機關の設置と云ふ要求が結び付いて來る。そして實際に於いてかゝる學生自治權が

と問へば「何も仕事が見付からないのでモッパルの手傳ひをしてゐる」と答へた。犧牲者の差入れなんか女子供にまかせて何か仕事を探し給へ」と忠告したが、若い有爲な學生をドン／＼こんな處へ投げこむ教育家に對して僕は公憤をさへも感じてゐる。かゝる青年は順當に學校を卒業すれば一廉世間の役に立つのだし、同じ社會運動に志したとしても少途で出て來て組合の事務所で働く機會も與へられなければ、ルンペンになつて腐つた人間になつてしまふ。教育者は事實上人間を一人殺してゐるのだ。

學校が學生を處分したり研究会を解散したりするのは、教育家の良心や社會狀態に對する正しい意見からやるのではなくして、文部省に對する屬官根性や世間に對して自分の學校には危險思想はありまじんと云ふ見榮が大きな動機になるらしい。人の子を預る教育者としての使命を感じるならその前途を誤る様な處分を一人にだつてやれるものではない筈である。退學處分は教育者としての任務の放棄であり、社會主義への降服を課化する復讐手段である。他の學生への傳染を防ぐためと云ふ事が最大の口實となつてゐる様であるが、度々論ずる様に病源は社會の中にあつて二三の個人にあるのではないから、何人退學處分をした所で傳染を防止し得るものではないのである。現在の學校のやり方は自分の家へ少々臭いものがあつたからと云ふので、天下の公道へ遠慮もなく腐敗物

確立されない限り、問題の眞の解決は望まれないのである。何故ならかかる經濟的問題は一回限りのものではなく、毎年起る問題であり、一回的の事件ではないからである。これに對する學校當局の態度は種々異つてゐるであらうが、一般的には學生に對して對立的政策に出づるを常としてゐる様である。即ち一時的問題として當面の經濟的要求は承認しても學生の自治權要求を拒否してゐる。これでは決して解決策にはならない。何故なら同様な事件は今後毎年起る事は明白な事であり、これに對して學生の反抗が生じ得る事は見え透いてゐるからである。

學校當局が學生の自治權(寄宿舎、學友會、其他)を承認するのを拒むのは舊弊な偏見から出發してゐる。(1) 學生に自治なんかやれる能力がないと見糞つた考へ、(2) 當局の監督權が侵害されると云ふ恐怖、(3) 自治權要求そのものを危險思想視せる反动思想等である。而し之は何れも間違つてゐる。學生に自治をやる能力があるかどうかはやらせて見なければ分るものではないし、又最初から萬事がうまくゆくものでもない。四五年やつてゐる中に寄宿舎の管理でも學友會の財政的經營でも習得し熟練し得るのであつて、能力がないからやらせないと云ふのは水泳を覺えない中は水の邊へやらないと云ふのと同様の論理にすぎないのである。

當局が學生監督權を侵害されると云ふ恐怖觀念は最も重大な理由とならぬものであらうが、この點については學校が學生生活の隅から隅まで干



涉しやうとしてゐた在來の指導方針が誤つて居るのである。いまや破綻しつゝある事を示してゐるのである。今までも監督は學生生活を誘導發展せしめるのではなくして干渉壓迫するのであり、窓を明けて廣い世界を指示するのではなくして、戸を閉して窒息せしめようと企てゝゐるのである。そしてこれに對する學生の些かの反抗、些かの自由の要求も、放縱を求めると誤解し、危険思想として斥け、ひたすらに舊式の官僚的監督權を擁護しようとしてゐる。これでは事々に學生と衝突し騒動を捲き起すのも無理はないのである。教育者は宜しく「指導監督」の概念を新時代の内容をもつて入れ代へねばならぬ。

學生の自治權要求を危険思想視するに到つてはお話にならない。而し隅から隅まで干渉するをもつて監督の使命と盲信してゐる諸君には正しく危険思想かも知れないのである。「七尺去つて師の影を踏まざる」道徳を廣汎に適用せんとする教育家にとつては、いままで持つてゐる當局の權限が一寸でも侵害されるのは危険な思想に違ひないであらう。こんな先生のゐる學校は學校騒動の温室である。學生と先生との間に融和し得る餘地がないからである。

學校騒動の中心が學生自治權の要求である以上これを解決するより他に道はないのであるが、私には學校が何故これを固執してゐるか不思議でならない。自治權と云つても主として寄宿舎の自治とか學友會の自治であるが、これは許可しても一向差支へがないではないか。一步進んで先生のゐる學校は學校騒動の温室である。學生と先生との間に融和し得る餘地がないからである。

現在の學生の持つてゐる思想と教育者の思想との隔は到底短時日を以つて埋め得るものではなく、この方面からの融和は容易ならぬ事であるから、せめてかゝる具體的な組織方面で解決するより他に方法はない。教育者諸君の自尊心は少々傷けられるであらうが、其處を我慢して學生に出来る限りの自治權を與へる事が、學校争議回避の唯一の道である。學生自治を承認すると共に教育者は積極的に學生生活の改善のために盡力せられる必要がある。現在の日本學生の生活は決してコンフォータブルではない。授業料は高い、下宿料は高い、與へられる娯樂とか趣味とかは甚だ少ないし金がかゝる。昔から日本の學生生活はしかく明るく愉快なものではなかつたかも知れないが、最近益々暗く壓迫的になつてゐる。學校當局は學問のつめ込みと所謂監督には努力してゐるやうであるが、學生の日常生活を快く住み心地好いものとする點に就いて殆ど顧慮が拂はれてゐない。否むしろそんな俗事に意を致す事は教育家としての尊嚴を傷けるとさへ思つてゐる舊弊人がある。學生生活の窮迫や陰鬱さを出来るだけ軽減して明るい氣持で勉強させる事を眞剣に考へてゐる教育家は一體とだけだかゝるであらう。これこそいまの學生にとつて大切なものではなからうか。例へば完備した低廉な寄宿舎の設置、學内の輕便食堂設置、各種の娯樂機關の設備等々學生が渴望してゐるものはい

教授會の公開とか學生懲罰に對する學生代表の決議權参加と云ふ所まで來れば學校も一寸困るであらうが、寄宿舎や學友會なら何も學校の監督權を振り廻す必要もなからうと思はれる。

僕は學校として出来る限り廣範圍に學生自治を承認する事をお勧めする。これは學校騒動の原因を根絶する最も好い方法である。自治の方法にも種々あらうが、學生生活の團體的方面を學生自身で決定させて置けば、何が起つても文句の持つて行き所はない筈である。學友會費にして、應援費にして、寄宿舎の諸問題にして、學生代表が自分で決定して實行してゐるのだから、學校に尻を持ち込む事は出来ない。せいぜい學生代表或ひは委員と一般學生との間に紛擾が起る位であらうが、その時に學校が調停者となつて指導解決すれば好いのである。

學校としてもこんなにも楽な心配のない事はあるまいと思はれる。かゝる學生自治が廣汎に行はれさへすれば、現在の學校騒動の九分までは消滅する。残りの特殊な問題だけが残存するであらう。

僕が高等學校に居た時(十年も前の話であるが)スポーツの勃興から對校試合の數が殖えて應援費が一年に拾數圓(一人あたり)に達し、一般學生の不満が極度に高潮した事があつた。それで學校と相談して費用の豫算を發表させ學生一般投票によつて決定した事があつた。かゝる方法は部分的な缺陷はあるにせよ、僅かの生徒委員と學校當局の相談で獨斷的に決定するより遙かに勝れてゐるし、學生の不満に對する安全策であ

くらでもある。少し金がかゝるであらうが、思想善導費とか云ふ無用の長物に費す費用を投すれば、段々に完備されてゆくだらう。現在の學生に對してこれに越した思想善導方法は無いであらう。矢鱈に街をうろつき廻つたりカフェーに入りびたりする學生は半減するであらうし、經濟的壓迫から或る程度まで解放されれば所謂左傾思想の持主も減少する。社會科學の研究會を公認しても外部運動と關係して無茶をやる學生はずつと減るであらう。或る學校で思想善導費をつかつて學生の琵琶湖遊覽をやつた由某書に攻撃してあつたが、これなど頭の好い使用法とも云へる。少なくとも學生壓迫費用に供したのに較べたら上出来である。

兎も角、學生取締りに頭を悩まさるゝ暇に、かゝる積極的方策を考へていただきたいものである。これこそ學生生活にとつて現在の急務であらう。思想善導などと云ふ中味の無い懸け聲に比すれば、數倍の効果を期待する事が出来る。同じく頭を悩ますにしても、取締り方針なぞより遙かに愉快で且つやり甲斐もあるではないか。これは學生左傾、學校騒動に對する側面的な而して積極的の對策の一である。

五

某帝大法學部卒

S某(當三十九年)

問 學生運動の社會的意義



答 僕が學生運動に多少とも關係したのは大正九年頃から大正十一年第一次共産黨檢舉頃までにすぎない。僕は學校を卒業したが、學生運動から社會運動に入ったのでなく、最初から學生運動とは離れて労働組合運動に關係した。しかし大正九年頃の新人會の創立には参加し、また某大學に教師をして居た頃には同校の學生團體を援助した。其頃の學生運動と、それ以後の學生運動とはハッキリした區別がある様に思はれる。後の學生運動には少しも關係しないから何時頃が限界になるかも具體的なことは分らない。概言すれば前期の學生運動は社會主義を理想的看板にするがその實は自由主義者であるところのインテリゲンチヤの運動で、且つ學生一般に影響を持つ大衆的性質などは無かつた。後期の學生運動になると、理論だけでなく頗る實際的となつたこと、大衆的となつたこと、社會主義的となつたこと等の特徴がある様に見受けける。そして一般労働者農民運動、又共産主義運動との結びつきも段々實際化してきた。この現象の經濟的社會的根據は、學生が學校を卒業しても就職が困難である事情、もつと一般的に言へばインテリゲンチヤの失業の必然的に多からざるを得ない社會事情、すなはち日本資本主義の矛盾が中等階級の生活をも脅かさざるを得なくなつた事情に存して居る。警察力でメチャクチャの壓迫をしても以上の不安がある以上學生運動は止むものではない。そして學生が、社會改革の方針として最も合理的な共産主義へ、この改革を實現する階級としての労働階級へと近づいていくことも、一つ

の當然である。吾々共産主義者は、インテリゲンチヤの浮動性を知るから、學生運動を大して當にしないが、多少とも補助力として學生の左翼化を歓迎する理由を有して居る。

問 外部社會への影響の程度

答 僕は學生運動の發展状態をよく知らないし、且つ學生運動と一般社會との關係といふ問題については餘り興味を有しないが、共産黨の立場から學生運動が労働者に如何なる影響を與ふるか、又共産黨と如何なる關係に立つであらうかなどいふ問題は一考に値すると思つて居る。學生運動は運動として多少とも反資本主義的性質があつてもその點で労働者運動と多少共通なものがある。しかし影響といふことになれば學生運動は運動として労働者運動に影響し得るものでなく、むしろ労働者運動や共産黨運動からの影響を強く受ける。それは學生運動は労働者運動や共産黨運動の如きガツシリした歴史的な必然的な性質を持つて居ないからだ。學生運動自體の問題と、學生運動の中から共産主義運動の中に這入つてくる個々の學生分子の問題とは、自ら異つた問題である。(尤も之等個々の分子が學生運動にあきたらないで必然的に共産主義運動に入る、換言すれば共産主義者になる學生が必然的に學生運動の中から出てくる、といふ方面はある。)これらの個々の學生分子は、よいものと思ひもとのプロレタリア運動に持ち込む。よいものとは、第一に理論である。何と言つても労働階級は物質的のみならず精神的にも奴隸的な搾取

を受けてゐるから労働大衆一般としては精神的發達を制限されて居る。

第二に純潔な厭身的な氣持だ。尤もこのよい方面と言つても、正しいマルクス主義理論ならよいが、小ブルジョアの理論であれば、福本主義の如く毒を流す。悪いものといふのは第一には觀念論的なことである。ブルジョアの思维方法は觀念論的である。労働者の思维方法は率直で現實的で具體的である。學生は多少ともブルジョアの思维方法の影響を受けて居る。次に悪いことは小ブルジョア特有の弱氣と浮動性であつて、時として或は敗北主義に陥り、或は裏切をやる。幼年の頃から艱難の中で鍛へた労働者の持つてゐる不屈の氣概が少い。學生運動から吾黨に参加した人々の中には以上述べたよい方面を代表する人と悪い方面を代表する人がゐる。かつて政府筋の意見として學生運動を彈壓すべし、將來の共産黨の指導者を形成するものは彼等の中から出るから、といふ新聞記事を見たことがある。しかし僕の確信する所では、將來の吾黨の指導部は労働者から形成される可能の方がズツと多い。日本の労働者は量的にも質的にも發達してゐるから、今後、革命的大闘争をやるに從つてよい指導者が頻出する可能性がある。勿論學生の中から來た人もプロレタリア運動の渦中であらゆる小ブルジョアの殘滓を洗ひ落して眞にプロレタリア的指導者となる人も出るだらう。しかし將來の共産黨指導者が主として學生出身のものからなるだらうと豫想するのは、日本の労働階級の潜在實力發展力を考へもせずに、いつまでも労働者を奴隸だと思

つてゐる日本ブルジョアのおめでたい空想だ。

問 學生運動は果して弊害のみを生じたりや裨益したる點ありや

答 恐らく一般社會にとつてといふ意味であらうと思ふが、學生運動一般は日本の非デモクラチックな封建的な社會組織に對する抗議としての役割を幾分果たし、又資本主義の矛盾——中等階級の生活を保護する能はざるに至つたこと——を暴露する機能をも果たし、今後もそういう意味を持つてあらう。學生運動が弊害を生じたか裨益した所があつたかといふ問題はそれを觀察する人の階級的立場の異なるに由つて解答が異つてくる。ブルジョアにとつては學生運動は裨益するところが殆どない。労働階級に對する影響については前問の答辯に於て略々盡きて居る。

問 學生左傾運動の將來

答 日本の資本主義の矛盾が中等階級の生活を脅かすことが甚しくなればなるほど、この矛盾の解決を共産主義又はそれに類似するものに求めんとする左翼的學生運動は、世界に比なき警察政治を以てしてもなほ發展して行くであらう。同時に矛盾の解決を帝國主義的反動政治に求める反動的學生運動ももつと具體的になるだらうと思はれる。



其の三 (六)

本篇は共産黨關係の事件にて起訴收監されたる被告人が昭和五年、日本に於ける學生社會科學運動の發展及び眞相に關して述べたる手記なり。

六

某帝大文學部卒

五某(當二十九年)

親子關係……………養父

父兄の職業……………辯護士(養父)

學資……………養父より

前書き

學生生活と政治との關係

學生と社會問題との關係は必ずしも最近に起つた問題ではない。學生が社會生活から分離せられた別環境に生きてゐるものでない限り、學生生活の中に社會問題が反映し、影響し、浸入して來る事は避ける事出来ない勢である。況んや、時代の最も知識の尖端に立つ學生、而も新らしき時代を創造する任務を持つたヤンガー・ゼネレーションとしての學生が、政治的社會的問題に於いて、環境の影響を敏感に感受し、その進歩的役割を果さうとするのは當然の事ではなからうか。理窟として

「學生と政治社會との關係が如何にあるべきか」と云ふ倫理的、教育的意見はこれをしばらくをき、我等は先づ、現實にそれが如何にあつたかを考へて見ねばならない。それ以外に問題の本質に對する理解は存在しない。

余は世界に於ける學生運動の歴史を喋々するために現在材料を求むる自由を持つてゐない。又そんな時間も残念ながら持つてゐない。然し、今記憶に存する二三の例を擧ぐるも學生が社會的政治的問題に對して持つた關係と役割を想見するに難くないであらう。フランス革命以後、歐洲反動勢力の中心となつてゐたメッテルニヒをオーストリアより追つた者はウイーンナの學生であつた。ブ・ナロード(民衆へ)の相言葉と共にロシア民衆の啓蒙運動のために努力し、ロシアの自由のための先驅をなした者は、モスクワ、ペテルスブルグ其他の大學生であつた。近くは、支那學生聯合會が支那の國民主義運動と國權回復運動の烽火を擧げた事は我等の記憶に新たなる所である。我が國に於いても明治政治史の記する所に依れば、明治二十年前後の條約改正運動に於いて、都下の學生が

運動會と稱して示威運動を行ひ、國民的輿論の喚起に盡した事があり、或は議會開設運動に参加して學生にして獄に下つた者も少なくない事が示されてゐる。余は今、これ等の前例が果して好かつたか悪かつたかの價値判斷をしやうとは思はない。唯、斯かる運動が腐弊なる世人の考ふる如く、單に血氣にはやつた青年の一時の出來心として見らるべきものでなくして、一の重大なる社會的現象であり、或意味に於いては社會的

進化の先驅的使命を持つて居るとも見る事が出来ることを注意したいのである。上述した諸種の學生運動が、多少ともあれ迫害を蒙り反對を受けてゐたにも拘はらず、後に來るべき社會的輿論の主流を或る程度まで代表して居た事に徴するも、この事を裏書きする事が出来るであらう。社會的政治的潮流の流るる所、これを反映した學生運動の存しない時代はない。學生をして社會から隔離した別天地に生活せしめぬ限り、何等かの形式の學生運動を根絶せしむる事は不可能である。

かくして、我等は今、かかる學生運動の一として學生社會科學運動に當面する。社會に於ては勞資兩階級の分裂闘争が深刻となり、民衆生活の困窮が日々に動かす能はざる事實として體感せられ、一切の社會的生活が、これ等の基礎の上に動搖し、不安を加へつゝある時代を背景として學生社會科學運動は發生した。故に學生社會科學運動は一時的の現象でもなく青年の氣まぐれから生れた浮薄な流行でもない。これは正しく現在の社會的缺陷の中に深く根ざし不可避なる民衆苦悶の一表現であり、

この中から脱れ出でようとする努力と熱情の端的なる表現でもある。

我々はこの嚴然たる事實の前に眼をつぶる事は許されぬ。又この事實を回避し、抹殺し、糊塗すべきではない。我々は學生社會科學運動の上つて起るべき根本原因を究め、その運動を要求し、赴かんとする本質を、先づ理解しなければならぬ。

道はその中に開いて來る。

第一章 日本に於ける學生社會科學運動の發展

學生社會科學運動は明かに無産階級運動の一分野である。それは無産階級運動の消長につれて自ら消長があり、又無産階級運動の成長發展に従つて、その持つ社會的役割の意義を異にしてゐる。それ故に、日本無産階級運動の發展を概観する事なしに、學生社會科學運動を論ずる事は不可能である。不可能ならずとするも甚だ不充分的の議は免れ難い。然し、時間の餘裕を持たぬ現在に於いて、余はこの不充分的なる道を可能な限り巧みに記述し、その真相を傳へるために努力するより仕方がないのである。(殊に余は今こゝに、何等の文献の記録を持つて居ない。従つて正確なる數字を指示する事は全く不可能である。以下記される年代、會員數其他は余の記憶に頼つたのみである事を承知していただきたい) 一、先驅者時代

學生の社會主義的團體が起つたのは大正七年十一月東京帝大に新人會が組織されたのが最初であらう。新人會が始めから明確な社會主義的色



Faint, illegible text on the left page, possibly bleed-through from the reverse side.

前書き  
六  
六  
Faint, illegible text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.



彩を持つたかどうかは、甚だ疑問である。恐らくは吉野博士を中心とした當時のデモクラシー運動により多くの關心を持つて居たのではなからうか。其後、稍明確に社會主義的傾向を來すに至つた時でも尙極めて自由主義的色彩が濃厚であつた様に思はれる。其頃の新人會の機關雜誌「デモクラシー」「ナロード」等の名前が既にその内容を語つてゐる。新人會に稍遅れて曉民會、建設者同盟、水曜會等の學生を中心とした社會主義的團體が発生した。これ我國に於ける學生社會科學運動の搖籃期であつた。

當時、歐洲戰爭の結果として我が國には不自然に急激な好景氣が襲來し、一方産業の大なる發展があると同時に一方物價の止め度なき騰貴の結果として民衆の生活難が起つてゐた。労働争議の頻發、米暴動の事件等は當時の世相を如實に示してゐる。又ロシア革命の成功は世界の労働階級に絶大の自信を與へると共に、マルクス主義理論の勝利を證明し世界的に影響を及ぼした。

世界の社會運動から孤立し、非常に遅れてゐた我が國労働者は當時未だ明確なる階級意識を持つてゐなかつた。労働争議は何等かの指導理論の下に行はれたのではなくして、單に労働者の自然發生的な生活要求から生れたものに過ぎず、ストライキに依つて労働組合に組織されるものは極めて少数で、争議は降つては消える淡雪の様に、要求を獲得した後は崩壊してゆく有様であつた。この結果、當時労働者の中に發生して來

た理論は、無政府主義的傾向を持つたサンヂカリズム或はアナルコ・サンヂカリズムであつた。

新人會、建設者同盟、曉民會等の先驅的學生は、かゝる社會的情勢の中に労働者、農民の中にはいつて行き、其の啓蒙運動、組織運動に多くの役割を果してゐる。労働者農民が自ら充分な闘争組織を持たず、理論的に成熟してゐない時代にあつて、その啓蒙組織等は知識階級の仕事であらう。我々は當時の先驅的學生が、日本無産階級運動に於ける理論家であり、多くの組合の組織者であり、争議の指導者であつた事を見るのである。故に、當時に於ては、現在我々が見る様な學生運動、或は學生社會科學運動は未だ存在してゐない。即ち無産階級運動の一分野として分化した學生の運動は存在しない。彼等にあつては學生の運動即ち全無産階級運動であり、社會主義理論の研究者であると同時に、實際運動の指導者であつた譯である。こゝには學生運動と無産階級運動とが一つの搖籃に眠つて居る。彼等は學生運動のみならず、一切の社會運動の先驅者として呼ばれるのである。

二、日本學生聯合會の成立及其の確立

歐洲戰爭の終結、日本經濟界好況期の行き詰りと共に日本の無産階級運動には大きな變化が生じて來た。經濟界の行き詰り殊に戦後の恐慌の結果、労働者の經濟的闘争(労働時間短縮、賃銀値上等)は今までの様に自由に發展し、勝利を以つて終る事は出来ない様になつた。更に、資本

家攻撃の形勢すら表はれて來た。労働階級の戦術は轉換されねばならぬ。この戰術的轉換の一は労働組合の全國的統一組織の完成であり、

二は從來の經濟闘争一點張りから政治闘争主義採用への轉換である。

(この轉換の中にロシア革命の影響が力強く作用してゐる事も見逃してはならない。)

この運動への決定的一線を劃したのは大正十一年九月の労働組合全國總聯合會議であつたが、この會議は政治運動を否定する無政府主義者と政治運動を採用せんとするマルクス主義者との意見の衝突によつて決裂してしまつた。この決裂後政治運動主義の労働總同盟の發展が起る。日本労働總同盟は全國的單一組合として擴大し、アナルコ・サンヂカリズムの一派は急速に影をひそめるに到つた。

マルクス主義と労働組合の全國的統一への方向——これは學生運動にも明かに影響を及ぼし、當時新人會を中心とし各官私立大學及び高等學校に組織されてゐた小さな研究團體は連絡して學生聯合會を創立した。これが後の日本學生社會科學聯合會の前身である。この頃は、労働組合運動の分野は既に分明となり、労働組合、農民組合の基礎は略確立し、理論的方向もやゝ一定したかの觀があつた。當に前期の如く、先驅者的仕事は甚だ少なかつたであらうが、地方的には學生の手によつて組合が組織され、争議が指導される事はなほ行はれて居り、組合運動の盛んな地では、労働者研究會の手傳ひ等の仕事も相等に行はれたであらう。然し、この時期に於いて注意すべきは社會科學研究への組織的出發

と、學生大衆運動の指導との傾向が強くなつて來た事である。これは、學生運動が今までの様な労働運動の指導援助と云ふ方向から、學生自身の研究と運動へ方向を轉じた事を意味する。即ち、人及び團體數に於いては云ふに足らぬ程ではあつたけれども、全國的連絡と統一とを結び得た學生聯合會は、この連絡と統一の組織的力を利用して熱心に研究會員の獲得と新研究會組織のための努力とを開始し、この結果社會科學研究運動を一步進める事が出來たのである。又一方、各學校の雄辯會、大學新聞、其の他の諸團體に對する積極的進出によつて學生大衆と接觸する機會を廣くし、一般學生が利害を感じてゐる學内の諸問題に對しても手を染めるに至つた。大正十二年春の早稻田大學の軍事研究團に對する反對運動の如き、又普通選挙獲得運動に對する參加の如き、その例であらう。

この形勢は關東大震災後に於いて殊に急激に發展した。大震災中、社會主義者に對する虐殺、不評、逆宣傳等によつて著しく民衆よりの孤立が實感された結果、「大衆化」「大衆獲得」の叫びは社會運動の一般的合言葉となつた。そして、この傾向は震災による急激な社會的分化、不安、憤懣等の一般民心に適合して、あらゆる分野に著しい膨脹が起つたのであつた。

學生運動に於いても學生聯合會が中心になつて被災學生の救済運動、その資金募集の運動、學友會改革の運動、寄宿舎設立運動、學生食堂設



置運動等が各學校に於いて行はれ相當の効果を收め、これ等の運動を通じて研究會擴大に著しい進境を見た。震災後の社會主義運動と民衆の接觸とが、學生運動に於いても研究團體と一般學生との接觸としてあらはれたのである。無論この原因は震災後の社會狀勢の變化に伴ふ一般學生の思想的變化であるとも考へられるが、又他方に於いては在來、單に社會主義學生の集團として考へられてゐた研究が世上逆宣傳さるゝが如き熾激なるものではなくして、一般學生の利益のために先頭に立つて戦ふ眞面目な學生である事が理解せられ、社會主義理論に對する眞面目な關心が湧いて來た爲でもあらう。

大正十三年九月學生聯合會は東京に於いて始めて第一回全國大會を開催し、その名を學生社會科學聯合會と改稱した。この頃は既に研究團體數五十餘、會員數二千五百名に達してゐた。余の記憶する所によれば、當時全國の大學高等專門諸學校に於いて未だ研究會の組織せられざるものは僅かに指を屈する程のものであり、それ等すらも研究會を組織する事は單に時日の問題に過ぎないとされてゐた。

學生聯合會が學生社會科學聯合會と改稱し、名稱の上にその内容を明確に示すに到つた事も注意に値する。これ彼等の自信の確固さと、團體としての内容の充實とを指示するものでなければならぬ。

此頃になると、日本の無産階級は著しく成熟して來て、先驅者時代の如く一切の指導を學生に仰ぐ様な事はなくなつた。労働階級は既に彼等自

身の中から優れた理論家、指導者、組織者を生み始めてゐた。故にこの方面に於ける學生運動の役割は益々制限せられて來た。當時、學生運動と労働運動との關係は、大正十三年秋日本労働總同盟が東京に數個所の労働學校を設立し英國の W. E. A. (Workers Educational Association) に倣つて補助講師制度 (Tutorial System) を採用せる際、學生社會科學聯合會の會員中より十數名のチーターが出て労働者教育に従事した事、同じ頃産業労働調査所が日本の經濟調査を行つた際に調査員として研究に従事したものがあつた事位のものであらう。他に組合の書記等に自ら進んでなる者も多少あつたが、それとても前述の如く重要な役割ではなく、組合の機關紙編輯、記録整理等單に事務的仕事に過ぎなかつた。又部分的には新人會の手で帝大セツルメントが設立され、労働者教育、治療、法律相談等に盡した事多大であつた。學生の中には學校を退學して労働運動に身を投ずる者もあつたが、これは最早學生運動の範圍には屬さない。

他方、研究會を中心とする諸種の學生運動は急速なる發展を遂げた。研究會を自身の發達は、前述の通りであるが、社會的活動として國際平和デー運動、學生軍事教育反對運動等を擧げる事が出來よう。軍國主義反對、國際平和デーの運動に於いて學生社會科學聯合會が中心となつて各大學の國際聯盟協會支部、雄辯會、宗教團體支部等と協同動作をとり、共同宣言書を發表した如きは學生運動の一進歩を物語るものであ

る。この進歩は、大正十三年秋から大正十四年春にかけて全國的に捲き起された學生軍事教育反對運動に於いて著しく有力な結果を示した。これは又、學生社會科學聯合會が一般學生の要求を確實に把み、又社會的輿論の進歩的要素に訴へる所甚だ強かつた事を示すものであらう。この運動に於いて學生聯合會は諸種の學生團體と協同動作をとると共に、當時の革新俱樂部の急進的政治家と結び、又有力なる進歩的教育家とも結び合つてゐた。全國に亘る抗議運動、演説會、示威運動等の力は動かし難き一個の社會的輿論を形成してゐた様に思はれる。これは學生社會科學運動が單に一部學生の研究の仕事に止らず、一般學生の意志を代表し、社會の進歩的輿論と結合して、廣い活動舞臺に踏み出して行つた證據である。其後各地に起つた所謂「軍事想定問題」に於いて軍事教育が社會の批難を醸したことは、この運動を更に有利に導いたの觀がある。

學生運動が學生として社會の輿論を喚起する事に着々成功してゐると共に、他方に於いて震災前後に發展して來た學内運動も著しく擴大して來た。即ち學友會改革運動、寄宿舎自治化運動は各地に擴がり、又學校當局と生徒との衝突の場合は常に學生の先頭に立つて戦つてゐた。社會的不安は此頃から所謂學校騒動の數を著しく増加せしめたのであるが、學生社會科學聯合會はストライキの指導に努力し、會員は何れも熱心に學生の爲に働いた爲、多くの信頼を得た様である。そしてこの事は研究會の發展擴大と重大な關係を持つてゐる。

かゝる學生の社會的活動、校内的活動の展開は、當然に學生社會科學聯合會及び研究會に對する當局の壓迫を急激に加へしめた。大正十三年秋頃から警察の學生運動に對する監視、干渉は甚しくなり、各高等專門學校、大學等に於ける研究團體に對する壓迫、干渉、更に進んでは解散等は頻々として起つて來た。この結果大正十四年夏頃までには高等專門學校に於いて研究會の存続する者一、二に過ぎず、大學に於いてすら研究會解散の厄に遭ふものもある始末で、前年秋に五十餘を數へた學生社會科學聯合會の加盟團體數はその三分の一に減じてしまつた。然し、研究會が解散され壓迫されて、社會科學運動が衰退したと思ふのは誤である。表面上研究會が存在してゐるか否かの相違にしか過ぎない。否むしろ、壓迫解散に對する抗議運動を通じて却つて會員數を増加したかの觀がある。學生社會科學聯合會は公然たる活動を制限された爲に甚だしい不便を感じてはゐたが、全國の研究に對する秘密の聯絡は無論充分に維持せられてゐたし、壓迫によつて會員の決意や戰鬥力はむしろ刺戟され、緊張の度を加へて來たので、一般的にいへばその活動は倍加してゐた様である。各地の禁止され、解散せられた研究會が組織を變へて地下的に存在し活動を續けてゐる事は無論の事である。例へば某高等學校に於いては一クラス全部が研究會員となり、クラス會の名によつて教室の中で研究會を開いてゐたと云ふ珍談すらある。公然たる活動が出來なくなつた結果、學友會を占領し、運動部を占領し、學内運動を計畫する等



潜行的活動が誘發されて来た。又壓迫干渉に對する闘争の結果、社會主義的決意や訓練を習得した點は甚大なるものがあらう。研究会問題が一般の社會問題となりつゝある反對に、この頃既に中學校、師範學校等に研究会が組織さるる端緒の起りつゝあつた事も注意すべきである。

労働者階級の成熟發展が社會主義理論の上に重大な影響を持つ事は無論であるが、社會科學研究の勃興に從つてマルクス主義理論が認められ且つ擴げられて來る事も忘れてはならない。この時代の社會科學運動の科學的理論的發展は前期には比すべくもないであらう。學生社會科學運動が、常に我國の左翼を支持する立場を執つてゐた事は、彼等がマルクス主義理論を純粹に研究し、且つ理論的にも進歩してゐるものとして注目し得る。大正十四年春、日本労働總同盟が分裂し、左翼組合たる日本労働組合評議會が創立された際、學生が熱心に後者を支持した事はこのよい例證である。

斯の如く學生社會科學運動は官憲の壓迫、學校當局の干渉解散と闘ひながら、全国的にすさまじい勢で擴大してゆき、壓迫が加はれば加はる程その戰鬥力を養成して行つた。大正十四年秋頃には、公然と存在してゐた研究会は全國を合して僅かに五、六校に過ぎなかつたけれども、事實上存続してゐた研究團體は七、八十個にも及び會員數五千を超すとも稱せられてゐた。その中に中等學校の研究会の確立せられたものゝある事及び女子の高等程度諸學校が數校計上され、女子學生社會科學聯合會

の獨立が問題とせらるゝに到つた事は、社會科學運動上に看過せられぬ事情であらう。

### 三、學生政治運動の發展

大正十五年一月京都學生事件起る。これ學生社會科學聯合會五千の會員に力強い決意と革命的反抗心の興奮とを強制せるものであらう。(序でながら一言して置くが、京都學生事件なるものは、大正十四年七月京都に於いて開かれた學生社會科學聯合會第二回全國大會が犯罪の理由とされてゐるのである。京都帝大の學生監と警察の臨監の下に行はれたる公然たる大會の内容が。)

前年以來、干渉と壓迫と解散とに依つて鍛へられて來た諸研究会は、この彈壓によつて一段と左翼的傾向を強め、研究会の組織を緊密にし、秘密的活動を盛んならしめて來た。これと同時に一般學生と直接に接觸する機關として、社會科學研究以外の諸團體を巧みに利用する様になつた。例へば文藝研究会、社會醫學研究会、工業政策研究会、經濟學研究会等學校當局の眼を誤魔化し得る一切の職務を用ひ出した。

京都學生事件は他方一般學生の社會科學に對する關心と檢舉學生に對する同情とを惹き起した。學生社會科學聯合會はこれを新會員の獲得と社會科學の宣傳とのために最高度に利用したのであらう。大正十五年春から秋にかけての會員の増加は著しいものがあつた由である。只有力なる學生の檢舉は理論的發展と諸種の活動をやゝ停頓せしめた事は争へない

であらう。併し、大正十四年春頃から始まつた我國の無產政黨組織運動——労働農民黨の成立——その活動の開始——政治的理論的發展等は學生社會運動に新しい刺激をもたらした。

就中、學生社會科學運動に驚くべき影響を(良かれ悪しかれ)與へたものは、福本和夫君の政治理論であつたらう。余は茲に福本君の理論を紹介批判する餘裕をもたぬ。併し、それは福本主義として無產階級運動を風靡したものであり。そして、その理論が無產階級運動に於けるインテリゲンチヤ要素の重要性を特に強調したものである事を忘れてはならぬ。無產階級運動を眞にマルクス主義的に發展せしめ得るものは理論を把握したインテリゲンチヤが労働階級に結合し、その理論を労働者に注入しなければならぬ。と云ふ福本君の理論が、學生の間に歡迎せられ、異常なる社會主義的情熱を惹き起した事は無理はない。況んや當時、學生社會科學聯合會は當局の壓迫に次ぐに壓迫をもつてした強壓政策の下に、極度の闘争心と反抗心に燃え立つてゐる時である。福本主義理論はその根本的な缺陷のために結局、眞の學生運動を誤るの結果に陥つたのであるが、マルクス主義研究に對する學生的情熱を新らたにあふり立てた點に於いて、社會科學研究の方面には、新機運を開いたものと云ふことが出来る。

無產政黨組織運動と労働農民黨の確立は學生運動の活動にも今までより遙に廣い舞臺を展開した。即ち、學生運動を政治化する事であり、逆

に又一般學生を政治的に啓蒙する事であり、これ等闘争の方向を、無產政黨の企圖する民主主義獲得の方向へ結び付ける事によつて、全階級戰線の一翼を形成せんとする事である。

この結果、今まで狭い範圍に閉ぢ込められてゐた學内闘争——即ち學友會問題、ストライキ、一般學生の教育制度に對する不滿等のための戦ひ——は一躍して廣い舞臺に飛び出した。今までは一學内の問題に止つて居り、研究会員の獲得等のために利用せられてゐたこれ等の學内闘争は、今や、反動的官僚的專制的教育制度に對する民主化の運動として明確な目的を持つに到つた。當時、各地方に起つたストライキ其他學校騒動に於いて、その成否はとも角として、學生社會科學聯合會の關係したものはかゝる目的のために一の目標を持つてゐた事は識者のすでに洞察し得た所である。例へば、校長、役員に對する反對運動、或は留任運動等は單に反對し或は留任を求むるを以て足れりとせずして、むしろこの運動を通じて、學内に於ける學生の自主權を獲得せんとすることを目的としてゐたのである。(かゝる學生の要求を何人が非議し得るか?)この目的は未だほとんど端緒に就いたのみで、成功したと云ふ事は出来なない。然し、この方向は今後永い間に亘つて戦はれてゆくだらうと推測される。この目的貫徹は學生の自主的訓練と政治意識の發達に待たずしては不可能であり、この貫徹のためには相當な時日を必要とするからである。この方向は社會的發展と共に一般學生の(廣くは一般民衆の)當然



に進みゆく進化の道である。そして既に一般学生の間から學内問題の方向に對する要求と支持が力強く起つてゐる事はこの運動の多幸なる將來を豫言してゐる。

學内の問題を更に一般化し、学生の全體的闘争たらしめようとする計畫は當時すでに考へられてゐた。即ち授業料の値下、教授学生の政治結社加入の自由の獲得、男女十八歳以上の選挙權獲得、兵役制度等に一般学生共通の要求を掲げて政治民主化のための全體的學生運動を形成する事である。併し、これは学生の政治意識の低い現下の情態にあつては未だ實行できぬ事であらう。將來の問題としては學生運動の中心題目となるべきものと豫想される。

これ等學生運動政治化の目的のために、學生社會科學聯合會の手によつて、大正十五年秋機關紙「學生運動」が發行された。これは、當時の傾向を明確に示すべき一材料であらう。

さて、學生運動はこの段階に至つて學生運動の分野を確立し、而も、無産階級運動に新たな結合を開始してゐる事が認められるであらう。今まで學生運動は彼等の間から労働運動の指導者を出し、或は組合の事務、労働教育の手助けをなす等の形式に於いて労働運動と結合し、學生独自の運動は何等労働運動と關聯する所は無かつた。然るに今や學生が彼等自身の利害の上に、彼等自身の要求によつて、彼等自身の政治的發展解放も要求して戦ふ事によつて、無産階級を主力とする全民衆の政治

的自由獲得のための一戦線を形成する事が出来る様になつた。これを眞の學生運動の確立、或は學生政治運動の新紀元と名付けるも決して間違ではないであらう。蓋し、學生運動がかかる政治的活動の段階に於いて無産階級政治戦線と一致融合した事は何も無理にそこまで押し付けて来た結果ではなくして、労働者階級こそあらゆる民衆層の代表者であり、労働者階級の政治的勝利無くして一切の抑壓された民衆層の政治的經濟的解放はあり得ないと云ふ歴史の必然性の現實の一證據なのである。一時學生運動は福本主義理論と大衆的學生政治運動との間の一致し難いデレマに悩んでゐた。而しこのデレマは昭和三年コミンテルンに依つて福本主義理論の誤謬が指摘され、この理論が廢棄された結果、解決せられた。學生運動はこの廣い道を今後とも進んでゆく事であらう。

四、學生運動は撲滅し得るか  
昭和三年三月日本共産黨事件と共に、新入會、學生社會科學聯合會も解散されて仕舞つた。余はその後の事を知らぬ。今日恐らくは公認せられてゐる社會科學研究會は一つも存在してゐない事であらう。然し、社會科學の研究に身をゆだねた者を、そこから振ぎ去る事は至難の事と云はねばならぬ。

然りとすれば、研究會が公認せられてゐるか否かと云ふ事は、かかる種類の團體の存在の實質にはほとんど影響なきものと思はねばならぬ。無論公認さるゝと否とは活動上の便宜に關しては影響する事少なくない

であらう。然し余は斷言する。社會科學聯合會の本體、諸學校の研究會は何等かの形式をもつて存続してゐるであらう。研究會員は益々増加の度を速めてゐるであらう。理論的にも實踐的にも着々と進歩してゐるであらうと。まして労働黨が禁止され、労働組合評議會が禁止され、無産青年同盟が禁止され、全國的に地下的運動の一切の條件が備つてゐる。更に共産黨事件の發表によつて地下的活動と革命的情熱に對する諸種の暗示が豊かに與へられてゐる。

學生が、かかる状態の下で、どうしてこれを模倣しないであらうか。余は上述、我が國に於ける學生社會科學運動の發展史を極めて概括的に示し、その中に於いて甚だ簡單ではあるが、労働運動と學生運動との關係の變遷、研究會發達の状況、理論的進化等々を呈示した積りである。こゝは讀者の理解に資せんためにこの變遷を更に概観的にまとめて見よう。

生學	思想	1 先 驅 者 時 代	2 學 聯 の 成 立 及 確 立	3 政 治 的 發 展	4 其 後
學生の關係 労働運動と學生運動との結合 後、知識階級の役割次第に減ず 労働階級の成熟	1. デモクラシー 2. 急進自由主義的社會主義 3. マルクス主義への出發	1. サンヂカリズムからの確然たる分離 2. 日和見的マルクス主義 3. マルクス主義の發展(左翼の確立)	1. マルクス主義理論の左翼的發展 2. 福本イズムの支配 3. これよりの脱却	1. 労働階級の成熟、學生の仕事はほとんど無し 2. 學生の政治的自由獲得の闘争に於いて全階級戦線の一翼たり得るの認識、新らしき結合	同 上
新入會、建設者同盟、曉民會其他等		1. 學生聯合會の成立 (研究會若干)		1. 公認團體益々減少	



化變の的目争闘生學	圍範の大擴	展發の動運
1. 一般的社会運動 2. 理論的研究 3. 普通選舉要求運動等	少數の大學生有志 主として東京	學生運動と労働運動との區別なし 2. 學生社会科學聯合會と改稱（團體約五十、會員二千五百） 3. 發展（團體約七十） 4. 壓迫加はり公認團體減少
1. 理論的研究進む 學友會問題 早大軍研事件 震災學生救済 國際平和運動 反軍事教育運動 研究会解散反對等々 ▼大衆化的性質を帯び来る京都學生事件	1. 官私立大學、地方高等學校 2. 全國殆ど凡ての大學、專門、高等學校 女子上級學校 女子上級學校	2. 實際的發展急激 ▼女子學生社会科學聯合會成立す 壓迫の加重
▼理論的研究進む ▼各地に學友會問題、學校ストライキ頻發、これの指導 ▼反動的官僚的教育制度に對する民主化運動 ▼全國的闘争への傾向等	全國の大學 高等專門學校 女子上級學校 中學、工業學校 師範學校等	公認團體全くなし
上	同	上

第二章 共產黨と學生運動

日本共產黨事件は諸種の意味に於て社会的問題となり、又諸種の意味

に於て新しい問題を社會に提供した事と思はれるが、共產黨とインテリゲンチアの問題もその中の重要な一問題たり得る事であらう。或は共產

黨内に高等程度の教育を受けた知識階級分子が豫想以上に參加してゐた事が驚異せられ、従つて共產黨と學生運動の關係が教育家等にとつては重大な問題と見られてゐるであらう。

果して共產黨には知識階級分子が多かつたのであらうか。更に、共產黨と學生運動の關係如何。この問題も單に表面上の現象に對する淺薄な觀察を以て答へらるべきではない。

余は茲に、共產黨の本質を喋々する必要を認めないが、共產黨は誰も知る如く労働者階級の政黨である。それは労働者階級の利害を端的に代表し、その大衆的、組織的力を基礎として階級闘争の有力なる政治的武器たらしめんとするものである。

この場合労働者階級にとつて知識階級なるものは經濟的にも政治的にも常に動搖し優柔不斷なる中間層の一部に他ならないのであり、知識階級の中で労働者の訓練を經、マルクス主義的理論に鍛へられた僅の選ばれた者のみが黨員として認められ、同志として許さるゝのである。故に、各國の組織方針を見るもインテリゲンチアに對する關心は極めて稀薄である。たゞ労働者階級が未だ充分に成熟せず、その政治的意識が低い時代にあつては比較的インテリゲンチア要素が重要視さるゝ事が多い。

一九〇三年、ロシアのボルシェビキとメンシェビキの分裂の理由のうち、教授學生等の知識的要素を無制限に黨内に採用すべきか否か、と云

ふ一點が重大なる意見の相違となつた事、或は一九〇五年（？）に於けるレーニンの「黨の再組織に就いて」の論文中「今まではインテリゲンチア一人に對して労働者數十名の割合で黨が組織されてゐた。今後は一人のインテリゲンチアに對して數百人數千人の割合を以て組織せねばならぬ」と云ふ意味の事が主張されてゐるのを見ても、労働者階級として

の共產黨と知識階級分子の關係を考察するに難くないであらう。

日本共產黨の知識階級に對する方針も亦、これと異なるものではない。組織上の殆ど全努力は黨を如何にして労働者の大衆的政黨となすか、黨を如何にして労働者階級の支持の上に樹立するかに注がれてゐた。工場新聞の發行、工場細胞組織の發達等は、この間の消息を物語るものであらう。統計的に見て労働者黨員に對する知識階級黨員の比は極めて低いものである。而も、この比率でさへも諸國の共產黨に較べれば高率である云ふ事が出来る。これは日本の労働階級が未だ若い事の一證であるが、この比率が益々低い方向へと進みつゝある事は認める事が出来るであらう。

日本の共產黨が諸國の黨に比して知識階級分子の率が高い事は、他面、福本主義理論の影響が強く黨に及んでゐた爲でもある。福本主義理論によるインテリゲンチア要素に對する過重評價、革命的インテリゲンチアなくして労働階級の發展はあり得ないと云ふ意見は、大正十五年、昭和二年の頃強く黨を支配してゐた。この誤謬は間もなく發見せられた



が、その黨員構成上の影響は未だに残つてゐるのである。即ち、この結論は、日本共産黨に於てインテリゲンチヤ要素は必ずしも多いと云ふ事は出来ない。但し、他國の共産黨に比すれば、その比率が多いのだと云ふ事が出来るであらう。

共産黨と知識階級との關係既に斯の如し。その政策に於いても、これと相通するものがあるであらう。即ち、共産黨はインテリゲンチヤに對して特に重要な働きかけをしては居ないのである。と云つて、全然これを無視してゐる譯では無論ない。專制的反動的な政治支配に對する一般知識階級の不平不満を支持し、又この中から決意あり戦闘力ある分子を自己の陣営内にとり入れやうと力を盡してゐるのである。

日本共産黨が再組織運動を始めた大正十五年夏——秋頃は福本主義理論が、黨を支配してゐる時代であつた。この結果、その頃が黨員に於てもインテリゲンチヤ分子が多く、インテリゲンチヤに對する政策も最重要視される事が多かつたと云へやう。學生社會科學聯合會の中に數名の共産黨フラクションが構成され、又卒業生を組織して黨の活動の爲に利用せんとする計畫などがなされたのもこの頃の事である。學生社會科學聯合會の共産黨フラクションを通じて行はれた主たる仕事の一は理論的研究に對する指導であり、他は當時頻發してゐた學校騒動に對する方針を與へた事である。殊に理論的研究の指導に關しては前後になかつた程の努力が拂はれた。然し、これ等の努力は概ね失敗だつたと云ふ事が出

來やう。何故なら、福本主義理論に根本的缺陷があつた爲に、却つて學生社會科學聯合會の活動を不活動に陥れた點が多いからである。

學生社會科學聯合會内の共産黨フラクションは其後引續いて存在してゐた。併し前述した如く福本主義理論の誤謬が發見され、共産黨が労働階級に對する活動を注ぐ様になつてから學生運動は殆ど顧らるゝ事無かつた。従つてこゝに論述する程の事もないであらう。共産黨員たるインテリゲンチヤの多くが、却つて學生社會科學聯合會の關係者であり、亦現在關係者である事は當然の事である。併し逆に學生社會科學聯合會の會員の多くが共産黨員たるべきものと見る事は出来ない。何故なら社會科學を研究し學生運動に従事する學生で共産黨員たる資格を具へてゐる者は極めて少いからである。共産黨は優柔不斷にして戦闘力の薄い學生の中に黨員供給の源泉を求めたりはしないのである。

試みに思へ、社會科學の研究會に加入し、學校を卒業する學生が如何に多數に上つてゐるかを。そして、この中の幾何が共産黨に加入してゐるかを。毎年數百名に上る研究會員の卒業生の中の極めて僅の者のみが社會運動の中に身を投じて來る。労働者階級の發展に盡すために、極度の窮迫と官憲の迫害と家庭、或は周囲の非難とを押し切る斷乎たる決意ある者のみである。他の多くは官吏となり、會社員となり、新聞記者となり、教員となつて社會の各方面に這入つて行く。而も注意すべきは、こ

の社會の各方面に這入つて行く者の殆どすべてが、最も進歩的思想の所有者として、又社會状態に對する優秀な洞察者として、社會進化の上に重大な役割を果してゐる事である。我々はこの方面に於ける社會主義的インテリゲンチヤ要素の重要性を過少に見てはならない。研究會員の數が少なく、且つ日本の労働運動が幼稚だつた時代には、會員の殆ど全部が實際運動に参加したのであるが、現在の如く日本労働運動が成熟してインテリゲンチヤを要する事なく、而も研究會員の數が數千或は萬を以て數へらるゝ時にあたつて、その多くが如何なる方面に於いて社會的使命を果さんとしてゐるか、又果さしむべきかは、興味ある問題である。

最後に、日本共産黨員たるインテリゲンチヤの中、學校半途退學の者の多きは注意すべき事ではなからうか。中には自ら學校を放棄して社會運動に投じた者も二三あるであらうが、かゝる例は甚だ稀であらう。多くは研究會に對する壓迫、學校騒動等に關聯して放校せられた者である。例へば京都學生事件の關係者の如き、その中に無論優れた社會主義的素質を持った者も居つたが、實際運動に投ずる程の決意を持つてゐないと思はれた者も少なからずあつた筈である。それにも拘らず、その大半が日本共産黨事件に連座してゐる事は一の問題を提示しはしないであらうか。

(註) 日本共産黨員として知識階級出身者一三〇人中 卒業三六、在學三五、中途退學五九の統計を見よ。

學生を共産黨に追ひ込む力は、共産黨の宣傳力が強いが、當局の壓迫が強いが……労働者は兎も角として學生に對してはこの疑問は問題たり得るであらう。何故なら、度々云ふ様に、優柔なる學生にして共産黨に参加する決意を有する者は極めて少なく、共産黨も亦、學生に對して——かく積極的努力を拂ふものではないからである。學生に最後の飛躍的決意をなさしむる原因は何であらうか……

余は「最後の飛躍的決意」なる言葉を使った。これは甚だ重要な意味を持つ。學生が社會科學研究會に参加する動機と、研究會員たる學生が共産黨員たるべく決意する動機との間には正に飛躍的な溝渠が存在する。故に共産黨と學生との關係は、社會科學研究と學生との關係と同一に論ぜらるべきではない。

余は本章に於いて日本共産黨と學生との關係を概論した。其の結論は、共産黨と學生との關係は甚だ稀薄なものであり、學生中の選ばれた極めて少數の分子が共産黨に抱擁せらるゝので、一般の社會科學研究會員は容易にこゝまで來得るものではないと云ふ事になる。

社會科學研究會と一般學生との關係はこれと甚だ異なる。前述第一章の學生運動の發展を讀んだ讀者は、研究團體とその會員數の急激なる増加に眼を止めざるを得ないであらう。この急激なる發展の原因は何處にあるか。この社會科學研究への豊かな沃土を供給する者は誰であるか、更に各地に漲つてゐる學生運動の原動力は。



### 第三章 學生生活と社會科學運動

現在の學生が擧つて社會科學の研究に赴きつゝある原因は、遠く且つ深きものがある。我等は近代の學生生活を理解し、彼等を驅つて社會科學研究に赴かしむる根本的原因を了解する必要があるであらう。誰かこの根本原因を究めずして社會科學研究問題を云爲する事が出来やうか。

余はこの原因を大略左の如き事情に歸する事が出来る様に思ふ。即ち

- 1、社會状態よりの間接的影響——社會の不安動搖階級對立の深化、勞働階級の擡頭等

- 2、社會状態よりの直接的影響——中産階級の没落の結果としての學生生活の不安、卒業後の就職難等

- 3、科學としてのマルクス主義の優秀性

- 4、社會理想としてのマルクス主義の魅力である。

教育者や學生が「學園の平和」の中に穏やかな夢に耽り得る時代は既に過ぎ去つた。社會的不安と動搖の波が學園の岸邊に逆卷く事もなく、卒業生に就職難のいたましい叫びが聞かれないで済む時代は過ぎ去つた。それは、我々にとつて「よかりし古き日の夢」のみである。この「よかりし古き日の夢」を追ふて、現在の學校生活の不安を嘆き、學生の社會科學への滔々たる風潮を、古き封建主義の平和に還へさんとする事は、まさしく狂瀾を既倒に廻へさんとする愚をなすものである。

に對してもブルに對しても公平だ。人類に對する愛と科學の超階級力で、自分の前に來た者はプロでもブルでも一樣に治療してやらなければならぬ、と云ふのが僕の信念だつた。研究室にゐる自然科學者は誰でもきつとそうした考へを持つてゐるに違ひないね。何故つて君、我々が解剖室の前に立つた時でも、臨床の講義を聞いた時にも、我々の前に立つ人間は、プロでもなければブルでもない一個の生物としての人間、フロックコートも勞働服も着てゐない眞裸の人間なんだからね。それに病氣に階級的區別なんかありはしない。例へば梅毒にした所が、肺病にした所がブルジョアにくつ齧く微菌とプロレタリアにくつ齧く微菌との差別がある譯はないだらう。そこで、どう考へても醫者の前には階級的差別と云ふ問題は起り得ない譯なのだ。呑氣に勉強してゐた頃はこんな氣持で通つてゐた。所が僕のこの平等論ではやつてゆけない問題にぶつつかつたのだ。どうしても社會科學研究をやらねばならない様な問題にだね。まあ聞いて呉れ給へ。……

「學校を卒業して間もなく、僕が大學の醫局で働いてゐた時だ。肺病の大分進んだ患者にぶつつかつたのだ。十八ばかりの娘で、或る紡績會社の女工だつた。原因は無論榮養不足と過勞へもつて來て紡績女工の大半がやられる肺病に犯されたのだ。女工をやつてる位だから貧乏な事は無論だ、今まで薬も飲めずに工場通ひをやつたのだらう。……」

「肺病患者に對する僕達の一般的療法は略きまつてゐる。先づ新鮮な空

### 第一 現代社會相と學生生活

現在の學生が、社會の不安と動搖とを如何に彼等自身の胸にひしひしと感じてゐるか。或は階級對立の深化と勞働階級の擡頭の前に社會人としての彼等が如何なる去就に迫られてゐるか。更には、この社會生活の矛盾を如何に自身の生活の中に見出してゐるか等々の問題は、十九世紀末期に青年時代を送つた人々にとつては恐らく想像もつかぬ事であらう。

余はこの問題を理論的に記述する事を避けて、二三の實例を以つて答へ様と思ふ。社會的不安動搖に就いてはわざわざ聲を大にして余が論ずる要もない事であるし、この中に生きてゐる學生の心はこの二三の實例の中に餘りに生々しく現はれてゐると思はれるからである。

1. ある若い醫師の話

「僕がまだ學生だつた時、友人から頻りに新人會に入れと勧められたものだつた。僕がこれを斷つた時、その友達は「せめて社會科學の本だけ讀んで置け。俺達は醫者になるにした所で社會人の一員なんだ。現在の社會組織に就いての一通りの理解位は持つてゐる必要があるぢやないか」と云つて呉れたものだ。併し僕はこの深切な注意も耳にしなかつたのだ。何故なら僕はその當時、自然科學者として人類に奉仕する身には階級的對立なんて云ふ事は問題にならないと思つてゐたからだ。科學に忠實なる者の前にブルジョアもプロレタリアもない。自分の醫術はプロ

氣と日光、充分な榮養に精神の安靜、慾を言へば海邊に轉地しろだとかサナトリウムにはいれた。最近の新療法には、毎日空氣の新鮮な所を自動車に乗つて急速力で走れなどと云ふものもある。所でこの肺病患者の女工を前にしてそう云ふ事を云へるだらうか。否!! 如何に世間知らずだつた僕にした所で、この貧しい病人に向つて並通りの療法を要求する譯にはゆかなかつた。考へても見給へ。彼女等にとつては、一見誰にでも無代で與へられてゐる様に見える新鮮な空氣と、日光すらも與へられてゐないのだ。路地裏の狭い陰氣な不潔な長屋の一隅に住んでゐるだらう所の彼女にとつて、醫者の求める様な新鮮な空氣と日光は惠まれてゐないのだ。況んや、どうして榮養の問題や轉地なぞと云ふ事が持ち出されるものか。

僕は例の人道氣持で主任の醫師に頼んで治療患者にしてもらった。病院の食料、日光、空氣、それに醫藥で三ヶ月程の間に彼女はめきめき健康を回復して行つた。そして「僕は階級的區別などとは無關係な仁術だ」と云ふ僕の持論を證明して呉れた後に退院したのだ。

「だか悲しいかな問題はそれで解決されてはゐなかつた。それから數ヶ月経つた後に、彼女は最早回復の見込の無い程破壊された身體を運んで僕を頼つてやつて來た。間もなく死んで仕舞つた。彼女は退院すると直ぐ又工場へ出て働いたのだ。いや働かざるを得なかつたのだ。ちつとしてゐれば俄へ死をしなければならぬから。結局彼女は退院した翌日、再



び病氣になつて死ぬか、それとも餓死するかの岐路に立たされたのだ。……

「話はそれ丈さ。だが、僕は社會主義の說に賛成せざるを得なくなつたよ。そして御覽の通り、社會科學を研究し一應の社會主義者になつた次第だ。無論、惚れてた女に死なれて無常を感じた譯ぢやないさ。我々の生活の中に謙否なしに喰ひ込んで來た社會的矛盾を痛切に感じたからだ。今までブルでもプロでも公平に治療してやるんだと云ふ信念が根底から破壊され、如何に醫者が努力しても貧乏人の病氣は癒せない事が目の前で證明されたからだ。僕はその時つくづく、人間の病氣を癒す前に、社會の病氣を癒さなきゃならぬのだと考へたね。」

「此頃の學生は僕などが學生だつた時代に比すれば、ずつと利口になつてるよ。少なくとも僕が卒業後にぶつつかつた醫者と社會的矛盾との關係などに就いては遙かに敏感だね。尤も社會狀態がずつと險惡になり、その矛盾が明白になつたせいもあるだらうが、僕たちの仲間でもやつてる醫科の社會科學研究會は百人近くの會員があるし、眼に見えてどんどん増えて來るよ。そして面白い事には、今まで、博士論文を書かうとか開業して金を儲けようとか考へて居た連中が、社會運動には飛び込まないまでもみんな社會衛生だとか、工場衛生だとか、職業病の研究だとか社會的意義を持つた方向に進まうとしてゐるね。」

## 2. 或る工科の學生の話

です。ついでですが、近來學校の研究室などに殘る學生は餘り成績の良くない金持の子供等に多い事です。四五年自分で給料をもらはないでも生活の心配がなく、又毎月相當な額に上る研究材料の購入費を持つてゐる學生でなければ、とても研究室へは残れない様になつて來ました。聞く所によると、醫科理科等でも同様な傾向があり、法文科等でも矢張り似た様な事情だそうです。これは餘談の様ですが、科學の進歩が如何に社會的壓迫によつて阻害されてゐるかの一例にもなりますし、貧しくして研究心に富んだ若い學生にとつて如何に社會制度に對する憤懣の原因となるかと云ふ事も想像される事です。

「さて、工場や街頭に投げ出された技術家はどうかと申しますと仕事は殆ど勞働者と違ひがありません。仕事が異つてゐた所で勞働者の生活と最も密接な關係に立たされるのです。少し進んだ所でも無論資本家になる譯のものではなく資本家と勞働者の間に立つ程度のものでせう。給料から云つたら熟練工位のものか、それより低い事になるでせう。何れにせよ技術家が社員とか技師とか云ふ名で社會的尊敬や丁寧な取扱ひを受けてゐるに於いて、その生活に於いて勞働者に近く、仕事も常に勞働者と親密な關係に於いて行はれてゐる事は明らかな事です。私たちが仲間はこの事を學校時代からよく知つてゐるのです。そして勞働者と仲よくしてゆかねば、自分達の仕事が充分に遂行されない事にも氣がついてゐます。で、工場でストライキが起つたら我々は一體如何に去就を

「私が何故社會主義者として自ら任じたり、お門運ひのマルクス主義など研究する様になつたのか、と云ふお尋ねですか。工科の學生がそんな方面に頭を突込んだりするのを不思議に思つておいでなのですか？ 若しそうだとするとあなたは現在の學生生活に随分無理解なお方だと申し上げるより他はないでせう。」

先づ工科の様に技術家として社會に出てゆく者が、一體どんな氣持でゐるかをお話させよう。一言で云へば一般に非常な不安な氣持、煮え切らない氣持、奥歯に物のはさまつた様な氣持なのです。そしてこの不快な氣持から逃れ出て、しつかりした土臺の上に生きてゆかうとみんなあせつてゐるのです。

この不快な氣持は一體何處から來るのでせう。無論現在の社會的不安や矛盾が、私たちの學生生活の中へ浸入して來た結果であり、又同時に、こんな社會の中に於ける自分達の今後の地位に就いての心細さです。

「あなた方は現在の工科の學生が、勞働者のストライキや、その解決などに對して非常に敏感であり非常な注意をもつてそれを眺めてゐるのがお解りですか。若し、工場内で働いてゐる技術家が勞働爭議の場合、どんな立場に置かれるかをお考へになつたら此心境が如何に同情さるべきものか明かになつて來る事でせう。學校を卒業した後、研究室にでも残らない限り我々は總て工場や街頭に一個の技術者として投げ出されるの決すべきか？ …… (十年位前の工科の學生が在學中にこんな問題に衝突した事があるでせうか、自分の進んで行かうとする方向に不安を感じた事があるでせうか) これは私たちに對して生々しい現實の問題です。學校を飛び出して給料をもらつた翌日から直ぐつき當らねばならぬ問題なのです。勞働問題やストライキに對する敏感さは生活上の本館の様に湧き出して來ざるを得ないではありませんか。」

「私たちの學生仲間では、この問題に就いては全く勞働者側を支持してゐます。愈々問題にぶつつかつた時に勞働者側に立つてストライキに加ふる程の元氣は無いまでも、これに對する充分なる同情は誰しも持つてゐるのです。これは前述した工場内に於ける自分の立場に對する豫感からも來るのでせうが、殊に毎年夏休に實習として各工場に派遣され、勞働者と同じ生活、同じ仕事をしてゐる間に實感として體驗されてゐるのですから。勞働問題やストライキ等を自分自身の問題として考へてゐる者がこれ等の問題に對する研究を始めるのは當然の事でせう。そこで社會科學の研究が單なる道楽ではなくて、自分の問題の解決、社會的缺陷に對するやむに止まれぬ批判となつて行はれる事になるのです。多少ともあれ、私の同級生はみんな社會主義者だつたと云つたらピツカリなさるでせうが、これは事實です。」

「尤も、私の様に學校を自分から途中で飛び出して勞働運動にはいつた者は極めて少ないでせう。大學三年の夏の實習の時でした。某工場で働



いてゐたのですが、或る日私の側にゐた一人の労働者が機械のベルトの中に捲き込まれて仕舞つたのです。あつと云ふ間にクルクルと振り廻はされて、コンクリートのたゞきの上にビシヤリと擲きつけられて死んで仕舞つたのです。私を始めとして、側にゐた職工がみんな駆けつけて来て色々介抱して助け様と騒いでゐたのですが、しばらくして来合せた工場主任、これは私の大学の先輩だつたのですが、「機械が動いてゐるのに何だ、みんな自分の仕事に歸れ」とどなりつけたものです。これは私の胸にガクリと來ました。この言葉——仲間の死んだのを何とかしようと駆けつけて來た職工を酷くも追ひ散らしたこの言葉——が本心から出たとすれば實に不人情な言葉だ。或は又、資本主に對する工場の責任者として、やむなく、仕事を投げ棄てゝゐた職工に與へた叱責だとすれば、憐むべき立場と言はねばならぬ。どつちにしる、俺はこんな者になるのは嫌だ——私はそのまま學校をやめて普通の労働者の生活を始めたのです。工場の中で殺されたり、友達を介抱をして叱られたりする労働者の生活を——

「御承知の通り私は日本共産黨員です。労働者を救ふ爲にはこゝまで來るより他に道は無かつたのです。私は自分の仕事を愉快に心おきなく情熱をこめてやつてゐます。時々あの時の工場主任を思ひ出すと知識階級の努めねばならぬ社會的デレンマを悲愴だと思ひます。そして、昔同じ教室でストライキや社會問題を話し合つた學生仲間が、今工場でどんな

ないでゆくのだが、副業の結果が思はしくない様な時は實に眼もあてられぬ事になつてしまふ。

「こんな有様で村税等も滞納續きで村の事業の維持は全く出来ない。校長さんは就職してから既に三年になるが、驚く勿れ、一年八ヶ月の給料は未拂になつてゐるさうである。村の財政状態を知つて見れば、不拂給料の請求をする事も出来ず、多くの子供等を投げ出して學校を捨て、去る譯にもゆかない。時々村民が持つて來て呉れる米や野菜で命だけはつないでゆけるのだが、村の經濟状態が根本的に改革されぬ限り、段々破滅に向つてゆくばかりだ。……………」

「これが校長さんの話だつた。年寄つた好人物の校長さんが夜の爐邊で語つた話、この若い高等學校の生徒にまで農民の窮狀を訴へ、教育制度の不滿を洩らし、社會的改革を希望したこの話は、僕の胸を強く打つた。

「僕が農村問題に興味を持つ様になつたのはそれからの事だつた。マルクス主義を研究し、社會科學の研究會を起す様になつたのも、農科にはいらうと決心する様になつたのも、あのみちめな東北の一農村の記憶、あの老校長の訴へる様なまなざしが僕を動かしてゐたのだ。たつた一晚の農村の記憶でも若かつた僕の心にそれだけの力を持つてゐる。況んや小作爭議の激烈な地に住み、その中に生活してゐる青年に、どれ丈大きな影響を與へる事だらう。現に僕たちの農科の社會科學研究會にはいつ

に苦しい不愉快な立場で働いてゐるかを思つて心から氣の毒に思つてゐます。」

3. 或る農科の學生の話

「僕が未だ高等學校の生徒だつた頃、東北のある農村に演説をしに行つた事があつた。會場はその村の小學校の講堂で村の青年會が總出で聴衆になり、小學校の校長さんが開會の辭をやらると云ふ様な風で、僕はその頃生憎りの社會問題めいた事を一席辯じ立てたものだ。無論その頃は未だマルクス主義者でも何でもなかつた。

「演説會が済んだ後、その校長さんは僕の演説が非常に氣に入つた模様で今夜は是非自分の家に來て泊つて呉れ、ゆつくり話をしたい事もあると云ふ申出だ。其夜の校長さんとの話が僕の其後の方向を決する大きな原因となつた事は不思議な因縁とも云へよう。

「その村は人口も餘り多くない小村であつたが、村全部が小作人の集團で出來てゐた。地主は全部他村の人々で、その村はまるで植民地の様に他村から經濟的に搾り取られてゐる始末だ。東北地方の小作人が如何に窮迫してゐるかは實際に見た者でなければ一寸想像がつくまい。小作料は非常に高い。永い間の因習、それに農民が保守的なために關西關東其他の地方の様に小作爭議等による小作料の改正も永い間なされた事が無い。寒いので温暖地方の様に收穫は豊かでない。秋獲つた米は翌年の二三月頃までに喰ひ盡して仕舞ふ様な有様だ。其後は僅かな副業で露命をつ

てゐる學生で、そんな理由から社會科學研究に志した者が少なからずある。

「僕たちの様に、かゝる社會状態のせつはつまつた實狀に刺戟され、かかる状態を何とかせねばならぬと云ふ一途の氣持から農科を選んで入學した者にとつて學校の講義が如何に退屈なものか、解つて呉れるだらう。例へば豚を在來より一貫目肥らせる研究だとか、植林の研究だとか、せつばつまつた小作爭議にとつて何と縁遠い話である事よ、だ。無論こんな學問が役に立たぬと云ふ譯ではない。豚が肥る事も山に木が生える事も重大な問題だとは思つてゐる。唯僕たちは今の社會に住み今の農村問題の切迫した状態を思ふ時に、そんな事を研究室でやつてゐる心の餘裕が無いのだ。

「農科の學生に限らず、今の一般の學生の大部分は僕と同じ様な氣持でゐるのではないだらうか」

讀者はこの三つの例を學生が遭遇した極めて特殊な例だと早合點してはいけない。私は同様な例をいくつでも供給する事が出来る。私は以上殊更に、醫科工科農科等社會科學に縁の薄い自然科學的方面の學生を例として擧げた。若し夫れ法科經濟科文科等、研究の對照が直接視察的な社會生活と結合し、これに對して特に敏感なる部門にあるものにとつては、社會問題を自ら研究し、社會科學に進む機會は遙かに多いものと云



はなければならぬ。

現在の學生は總て社會生活のこの切迫した呼吸をまさまじと感してゐる。彼等はその網の目から逃れる事の出来ない現代社會の矛盾を毎日の様に經驗してゐるのだ。

たゞこの切迫した呼吸を感じ、社會矛盾の現實を體驗するに強いと弱いとの差はあるであらう。又かゝる事件に遭遇する事が多いと少ないとの差異はあるであらう。更に又かゝる現實に勇敢に直面し、自らこの社會的矛盾の解決に任ぜんとする一片の熱情を有する者と、かゝる現實を誤魔化し、糊塗し、回避し、あきらめる臆病さ、若くは所謂「世間なれた」不純な態度を持つ者との差異はあるであらう。

併し、この強力な社會的壓力が學生生活を壓迫し、日々に壓力を加へつゝある事實に關しては、何人と雖も之を否認する事は出来ないのである。

## 第二 中産階級問題と學生生活

我が國の中産階級の窮迫と學生生活とは密接な關係を持つてゐる。中産階級の没落が學生の思想に及ぼす影響は重大なるものがある。

我が國の中等學校以上の學生生徒の殆ど大部分が、中産階級（嚴密に云へば、小資産者及無資産階級生活者）の子弟である事は明らかである。貧困者の子弟は殆ど入學する經濟力を持つてゐない。ブルジョアの子弟は、ブルジョア其物が極めて少數なるが故に、甚だ僅の部分を占め

てゐるに過ぎないのである。故に中産階級の經濟的興廢と學生生活の關係は甚だ密接なものとなつて來るのである。高等專門學校以上の學生になると、中産階級下層の子弟は可なり振り落されるが、なほその大部分が中産階級の子弟である事は、統計に待つまでもない。

歐洲大戦以後の吾が國の物價指數の變動と俸給收入指數の變動とを一見する者は、如何に中産階級が窮迫に瀕しつゝあるかを知るのであらう。官吏會社員等がその俸給の一部を削いて、その子弟を高等程度以上の學校に入學せしめた場合、それが如何に現在に於いて家庭の經濟的生活を脅かすものとなるかを想起せよ。これ余が説明するよりも讀者の自問を以つてすれば足る。

これ等の状態は、直接に學生生活の上に現はれて來る。嘗つて東京帝國大學に於いて學生の生活調査を行つた事があつたが、自活學生の多い事、學費下宿料授業料其他負擔の過重なる事等は明瞭に現はれてゐた事に記憶する。或は大學に於ける學生職業紹介所に自活を求めつゝある學生の殺到してゐる事實は、教育者の等しく注目してゐる所であらう。而も、之に對して教育者は如何なる對策を有してゐるか。學生寄宿舎建設運動、授業料軽減運動、其他學生の經濟的負擔を減少せしむる要求が、常に學生側から提出されて居り、學校當局がこれを容れ得ない状態にあるのは果して何を意味するのか。又かゝる運動を社會科學研究會が常に中心になつて起し、一般學生大衆から絶大の支持と援助とを得てゐる事

は果して何を意味するか。

かゝる學生生活の一般的窮迫が學生の不安と動搖、社會制度に對する疑惑と不滿の原因たる事は當然であらう。加ふるに現下に於ける知識階級の就職難はこの疑惑と不滿を更に激烈ならしめてゐる。歐洲大戦後知識階級の就職難が如何に深刻なる状態に達してゐるか、余の説明するまでもない。かつては卒業直前まで何等の不安をも感せず、又感する必要もなくして就職の道求め得た時代と、現在の如く大學時代のみか、高等學校時代に於いて既に就職問題に對して敏感となり絶えざる不安に襲はれつゝある時代とを比較して見よ。而して如何に青年學生がかゝる状態の下に精神的に威壓され、不安に脅かされてゐるかを想像して見よ。これより逃れ出でんとする努力は必然に社會主義と結び着く。

或る識者は現在の學生を評して「かゝる状態に絶望した者は利病的享樂を求めてカフェーに耽溺し、逃避せる者は宗教や藝術に走り、勇敢に打開せんとする者は社會科學に進む」と云つた事は一面の眞理を含んでゐる。學生自身に對する社會的經濟的壓迫の如し。而も前述する如く社會的矛盾の現實は大波をなして、學生の日常生活の内に押し込んで來る。かくしてなほ學生が絶望し、逃避し、社會主義的傾向に進まなければ、誠に幸ひである。

現在の學生はそれが社會科學研究會に参加せると否とに關はらず、多少とも社會主義的傾向を持つてゐると斷言しても差支へないであらう。

かつて京都學生事件に際し京都大學の學生に對して、檢舉者場分反對の請願書の署名を乞ふた時、署名者が驚くべき多數に上つた事や東京帝國大學に於いて反動團體七生社と新人會が對立せる際、殆ど全學生が新人會側に對して同情と支持を與へた等の事はこの間の消息を語るものではないか。唯彼等は中間階級特有の不決斷性と就職其他に對する顧慮から、社會科學研究會に加入し、或は社會主義者たる決意を持つてゐないままである。彼等のマルクス主義に對する關心の材料も多しと思ふが、例へば改造社の資本論譯約十五萬と稱され、岩波書店の資本論譯出版數二十萬と號されたのを見ても一證とする事が出来る。かゝる書の購求者が知識階級、主として學生である事は論を俟たざる所である。

余は以上直接に現在の學生を社會主義に驅り立てる諸種の社會的原因を論じ來つた。論じてこゝに到るならば學生を社會科學研究に赴かしむるために、最大の推進力たるものは日本の現代の社會状態、政治的經濟的不安と動搖であると云ふ事が出来よう。第一章の學生運動の發展の項に於いて、社會科學研究會員の數的增加並に大學生より高等專門學校生——中學生——女學生へと急速なる發展の状態を見る者が、百尺竿頭更に一步を進めてこの發展時代の背景となつてゐる我國社會情勢惡化の現實に想ひ到るならば事情の大半は釋然たるものがあらう。

かつてドイツの大學生は反動團體を組織して、勞働者の示威運動に對



抗したと聞いてゐる。或はイギリスの大學生は思想堅實であり、アメリカの大學生は激濁たる生氣に溢れてゐると稱されてゐる。敗殘のドイツは兎も角として、日本の大學をケンブリッジ、オックスフォードの如く年に數百ポンドの學費を要する貴族の教養機關たらしめよ。或は、日本の中産階級をしてオールマイティー・ダラーの國の豊かなる中産階級たらしめよ。……何等の壓迫を加ふる事なくして社會科學研究會は崩壞するであらう。呪ふべき社會主義者の宣傳は愚か、學校の教壇からマルクス・レーニン主義の講義をなすとも、學生はこれを一笑に附するであらう。宛も現在の學生社會科學聯合會の會員が學校の講義を一笑し去つてゐると同様に。……

第四章 社會科學の優秀性とその理想

一體社會科學が現代の青年學生を強力に惹きつけてゐる理由は何處にあるのだらうか。官憲の壓迫と學校當局の嚴重なる取締にも拘はらず、社會科學研究會が恐い勢で擴張し、彈壓の下に秘密の研究會が作られて、他の青年に見る事の出来ぬ程の情熱と献身をもつてその研究が續けられてゆく理由は何處にあるのだらう。

如何に社會的の不安の壓力があり、矛盾と動搖の中に苦惱し、これから脱出しようとする努力があつたにせよ、社會科學が單に荒唐無稽なる虛妄であり、ブルジョア學者が非難する如き無價値の學說に過ぎぬものであつたなら、誰がこれに對する魅力を感じるのだらうか。マルクス・エ

ンゲルスに依つて基礎づけられた社會科學に、現下の社會的矛盾に對する優れた解決の暗示があり、何等かの社會的真理が含まれて居り、科學としての優秀さがあるからこそ、かくも強力にヤンガー・ゼネレーションを惹きつけてゐるのではあるまいか。余はその原因として二つを挙げたいと思ふ。

- 一、社會科學の優秀性
- 二、社會科學の持つ理想性

若し茲に社會科學が科學として如何なる優秀性を有つてゐるかを説明しようとするなら、余はマルクス主義理論の全體系に亘つて論ぜねばならず、又我々がブルジョアの學問と呼んでゐる所の在來の文化科學との對比を行はねばならぬであらう。かゝる重大なる企は現在の許されたる時間を以つて遂行し得べくもない事は明かである。たゞ我々の信する所に依れば、現在ブルジョア學者が全力を擧げてやつてゐるマルクス主義理論に對する攻撃は、何等その基礎を危くしてはゐない。又多くの在來の學者が既にマルクス主義理論を部分的には承認し自己の學說の中に採用せざるを得なくなつてゐる事はマルクス主義が優れた性質を持つてゐる事を、或る程度まで、證明するものであらう。

余は無論若き未熟なるマルクス學生の如くマルクス主義が絶対に正確なものであり、且つ完全無缺のものであるとは思つてゐない。マルクスに對するかゝる偶像的禮拜こそ社會を誤りマルクスを誤るものである。

故これに走りつゝあるかを知れる人は少ないであらう。

時代の發展と社會情態の變化、時々刻々新らたなる現象と研究材料を提供しつゝある時代に於いて、一切の理論が修正せられ發展せられなければならない事は當然である。マルクス主義理論も亦常に修正と發展とを必要とするであらう。然しこの事は在來の固定し枯死しつゝある所謂文化科學の諸系列に比してマルクス主義理論が優秀である事を否定する理由にはならない。むしろマルクス主義理論がなほ若くして將來に於ける激濁たる前途を有つてゐる事を裏書きするに役立つのみである。

余は在來の所謂ブルジョア科學とマルクス主義理論の何れが優秀であるかに就いて、かゝる抽象論をなす事の如何にノンセンスであるかを知つてゐる。科學に於いて何れが眞理であるか或は眞理に近いかを證據だてるものは、何れが事實をより明確に把握し何れが事實をよりよく説明し得たかにのみ存する。故に我々は文化科學（我々に於いては社會科學）の對象になるべき歴史現象或は社會現象の現實に對して、兩科學の何れが正確なる認識と解答とを與へつゝあるかを吟味しなければならぬのである。余が今かゝる具體的證明を行ふ事なしに、自らノンセンスと信する抽象論を提出してマルクス主義を辯護する所以は、學生の社會科學研究を云々し、社會科學を誤解し危險視し、これが取締に任ぜんとする教育當局者に向つて、先づマルクス主義の何たるかを研究せよと注意を喚起したいからである。恐らく、マルクス主義を非議する現代の教育者の中に、マルクス主義の何たるかを多少なりとも理解し、學生が何

現代の教育者は各高等學校に於ける經濟學の講義が如何に難局に陥りつつあるかを知つてゐるか。至る所で經濟學の教授が社會科學研究會員の爲に論破されつつあることを知つてゐるか。或る高等學校の教授は生徒よりの質問や學問上の論争に堪へ切れずして講義を繼續する事が出来なくなつた例さへある。又余の友人某が某高等學校の經濟學教授として採用せらるゝ際、校長は「マルクス主義理論をヤツツケ得る事」を以つて採用の條件としたそうである。而もその友人はマルクス主義を論破し得ざる事を余に告白し、且つ校長に知れぬ様にマルクス主義を變形して講義するより他に質問を對する道のない事を洩らした事があつた。

半年か一年マルクス主義を研究した學生がかくも教授を惱ましつゝある事實は、經濟學教授の無能を示すものではなくて、理論的相違から發生する不可避的結果なのではなからうか。そしてこの理論的優劣に關する一般學生の興味は、社會科學研究會の擴大とマルクス主義研究に對する熱情を更にあふり立てゝゐるやうである。

マルクス主義が唯物論の名を冠せられてゐるために、その内容を知らざる學者はこれを以て單に常識的な所謂「唯物主義」——何等の理想も高遠なる眞理も含まれてゐない現實追求主義、利那主義、功利主義——と同一視してゐる様である。この結果、社會科學研究に走る學生を目し



て理想と眞理に於いて墮落した者と考へる傾きがある。

マルクス主義は決してかゝる意味に於ける唯物主義ではない。かゝる唯物主義であつたなら、恐らく現在見る如き熱情と創造力をば青年學生の間に喚起する事は出来ないであらう。

ブーリンは「マルクス主義者は思考に於いては飽くまで唯物辨證法論者であるが、その行動に於いては情熱ある理想主義者である」史的唯物論の一節との意味を云つてゐるが、この言葉は眞にマルクス學徒たるものに於いてのみ充分に理解せらるゝ所であらう。マルクス學説が現代資本主義社會の解剖より出發して、その必然の結果としての未來社會の豫圖を示したものである事は何人も知れる所であらう。マルクス主義理論は現代社會の解剖に於いて優れた方法と理解とを示す事に依つて學徒を惹きつけると共に、この將來社會に對する理想を豫圖する事によつて、我々に偉大なる創造力と情熱を捲き起さすにはをかないのである。理想主義としてのマルクス主義の反面を理解する事なしに、彈壓の下でなほもこの研究を續けてゆく不可思議な社會科學研究會員の心理を知る事は出来ないであらう。

現代の青年はあらゆる理想を失ひつゝある。第二章に於いて略述した現代資本主義社會の客觀的情勢、矛盾對立、經濟的壓力等々は前世紀の穩かな事情の下に住んでゐた青年が有つた様な、人生と社會とに對する美しい希望と夢とを日々に破壊しつゝある。せめて前世紀終の青年が持たざる事はないであらう。

的必然性 (Zwangsgeist) である。あるべきものとして考へられたるユートピアではなくして、あらねばならぬものとして起り來たる歴史的發展の歸結である。現實より理想への連續——かけ橋が作られてゐる。この飽くまで現實に基礎を持つた所の理想主義が、あるべきものとしての當爲性よりも力強い事は説明の要がないであらう。哲學者オイケンがマルクス主義を批評して「一の理想主義である」と稱したのはかゝる點にある。

マルクス主義が單に理論的方面に於いて優れてゐたのみであつたら、かくも青年學生の情熱を喚起し、あらゆる彈壓の下に踏み堪へてゆく力を與へはしないであらう。一度社會科學研究に志した者がかくも頑強に抵抗する事はないであらう。

社會科學研究に従ふ者の殆どすべては、これに對して所謂「富貴も淫する能はず、威武も屈する能はず、貧賤も移す能はず」との固い信念を抱くに到る。人類の解放と新社會建設との純眞なる信念を——。

余はかつて始めて檢事の取調べを受けやうとするに當つて、ひそかに歌をくちすんだ。

山を焼く火ともならまし我等をば

罪すとならば 罪したまへや。

彈壓の中をゆく社會學徒の胸には、同じ様な力と炎とが燃えてゐるに違ひない。

つた國家主義に對する情熱すらも、現代の政治情態が綺麗に打ち壞して仕舞つたではないか。青年期のイマジネーションと希望とが破壊される事程、青年にとつて無慘なものはあるまい又危険なものはあるまい。人生と社會に對する絶望と黯澹さの中に投げ出された青年のゆくべき路は何處にあるか。……

かゝる暗い氣持の青年に對して現代は如何なる新らしき理想を與へてゐるか。學問の切實りに墮しつゝある教育者がかゝる青年に對して果して幾何かの希望を與へ、人生と社會に對するイマジネーションを暗示してゐるか。曰く、否である。

人類と世界とに對する希望は國際聯盟が裏切つて仕舞つた。國々に對する希望は暴虐なる大資本家と無智なる政治家が破壊して仕舞つた。科學や宗教の眞理に對する信頼までも現代の社會的矛盾は遠慮なく掠奪して仕舞ふ。今日の青年學徒が人類や社會や民族に對する希望を求めて苦惱するのは當然の事ではなからうか。

マルクス主義は彼等に對して人類と社會と眞理とに對する創造力と情熱を創造する。無論それはユートピアではないが、現代社會の矛盾と壓迫と不安とを超えた新しい社會への道を暗示する。理想の失はれた社會に於いてマルクス主義の持つ理想主義は偉大なる魅力でなければならぬ。

マルクス主義に於ける理想は當爲性 (Zwang) ではない。それは歴史

現代社會の狀態の如く、マルクス主義の持つ魅力は斯の如きものである。現在の學生がこれに走るは餘りに當然ではないか。社會に絶望せる者はカフエーに行き、これを回避する者は宗教や藝術にゆき、これを解決せんとする熱意あるものは社會科學にゆく。而も社會科學にゆく者に純情にして成績の優秀な者が多い理由はかゝる所に基因してゐるのであるまいか。

學生から社會科學を奪ふものは、現代の青年に残された彼等の唯一の理想を奪ふものである。若し社會科學が全く時代に相容れず、如何にしてもこれを撲滅し去らねばならぬものだとしたなら、教育者は須く社會科學に代るべき眞理と理想とを學生に與へよ。學生のイマジネーションと希望とを創造し得べき何物をも與ふる事なくして、ひたすらにこれを彈壓し去らんとするが如きは、火を消すに油をそゞぐが如きものである。

この學生の純情と理想とに燃える若々しい力を、教育者は如何にして導かんとしてゐるのであるか。果してその自信があるか？

### 第五章 新らしき道は何處にあるか

論じ來るならば、學生社會科學運動の發生とその擴大の主觀的客觀的原因は遠く且つ深きものがある事が充分に理解せられるであらう。そしてこの運動は當局の天降りの壓迫や取締を以つて解決せらるゝものでな



く、かゝる無理解なる態度が却つて社會科學運動を熾烈ならしめ悪化せしめてゐる事が明瞭となつて来る。現在の如き壓迫と取締を以つて學生社會科學運動を撲滅し得ると信する者があれば、正に痴人夢を説くに等しい。若しも當局がかゝる見地から教育者に對して取締を命ずるものとすれば、これ不可能事を強ひるものである。又教育者がかゝる立場から一般學生に臨むものとすれば、近代の學生を卒ふる教育者としての資格なきものであらう。

近代社會思想の潮流は、資本主義的社會の矛盾よりの解放であり、近代的國家對立より生れる戰爭の慘禍の廢棄への要求である。この欲求はプロレタリア解放への強力な組織と人類の世界的ソリダリーへの希望となつて發展してゐる。そしてこの澎湃たる社會思想の中にあつて、最も科學的基礎の上に新社會の方向を暗示するのが社會科學である。學生社會科學運動の行かんとしてゐるのもこの道である。社會科學研究の學生の中に、社會に對する純情銀の如き態度と、人類の前途に對する熱烈火の如き心情とを誰が見得ないであらうか。

若しかゝる社會思想の必然性とその中に含まれたる社會的眞理とを否認し、これを研究する學生の純眞なる心情さへも無視し、これを蹂躪し去るを以つて目的とする者があれば、最早論を進むまでもない。これ等の人に對してはあらゆる彈壓の下に却つてその勢力を擴大し來る學生社會科學運動の眞相を指示し「この事實を見よ」と答ふるに止まる。

若し又、眞に時代の潮流を知り、社會の前途を憂ふる者には自ら別の道があらねばならぬ。

學生社會科學研究運動が現代資本主義社會の缺陷に深く根ざした運動であり、その發展は不可避的であり、且その中に現代青年學生の社會に對する純情と情熱が籠められてあるものとするならば、我等はこれに對して次の二方策しか持たない事になるであらう。即ち、

1. 社會科學研究を許すべからざるものとすれば、我々は學生に向つてこれに代る他の何物かを與へねばならぬ。即ち社會科學以上に學生の純情を惹きつけ、情熱を注がせ得べき他の理想を與へねばならぬ。かゝるものを與へざる限り、學生から社會科學研究を奪ひ去る事は出来ない。

2. 若し社會科學研究の正しい方向と科學としての價值とを認め、この研究を許し得るとするも、只その部分的危險性が顧慮せられてゐるものとすれば、これを正しく導くための眞摯なる努力と研究がなされねばならぬ。即ちこの危險なる方向への發展が防止せられねばならぬ。

右の中第一の方策に就いては既に所謂思想家教育家の間に多くの企てがなされてゐる所であらう。或は國體論の宣傳であり或は國家觀の注入であり或はスポーツの獎勵軍事訓練學生主事等等、何れも社會科學研究に對する一種の方策に他ならない。かゝる方策が成功してゐるかどうか

か。……事實がこれに答へてゐる。曰く、學生はかゝる企てを冷笑

しつゝ社會科學研究に赴いてゐる。故に教育家はその職責を全ふすために、彈壓と放校處分とを行ふより他に路はないのである。放校處分の如き教育當局に對しては職責を果たしたる事の名目となるであらうが、社會に對し、學生に對して果して教育家の職を全ふした所以となるであらうか。彼等が教育を委託された學生をかゝる道に赴かした事が既に失敗の一であり、放校處分によつて自ら學生教育の責任を放棄し、かゝる學生を訓育する能力無き事を自ら表明せる事又失敗の二である。

現在教育當局のあらゆる努力にも拘はらず、社會科學研究學生の擴大を如何ともなす能はざる事實はこの方策の完全なる失敗の證據である。最近全國各學校に於ける處分學生の數が驚くべき多數に上つてゐる事はこれを裏書きするものではなからうか。

結局に於いて、明治三十年代の愛國主義や、反動的な國家主義等を以つてして、現代の學生の社會的理想に代へ、その熱情を惹き付ける事の出来ない事は明かである。今後に於いても、かゝる時代遅れの思想やその矯正しを以つて學生を指導する事は不可能である。現代の教育者は社會科學の研究を壓迫しつゝ、他面學生指導に關して、果して如何なる成算を持つてゐるのであるか。

第一の方策にして不可能とすれば、我々には第二の方策しか残つて居ない。即ち社會科學の價值を認め、これを充分に研究し、學生に對する

充分なる理解の上に、この研究を最も正しい方面に指導發展せしむる事である。余はこの點に關して一個の見解と信念を持つものである。

果して社會科學研究は世人の云ふが如き危險性を持つものであらうか。持つてゐるとすれば如何なる危險性であらうか。……世人はこれに關して多くの條件を擧げるであらう。而し余は日本無產階級運動の前衛として數年間戦ひ來つた経験から、唯一にして最大なる危險性を擧げる。即ち、社會の現實を無視した觀念的理論に走る事の危險性である。

社會科學は、その名の示すが如く、社會的現實性に基礎を持つ科學である。社會的活動の實踐と緊密不可離に結び付いた科學である。この社會の現實性に基礎を置き社會的活動の實踐と密接に結合してゐる點に社會科學の優秀性があり、社會的理想主義としての魅力があるのである。この事は社會科學理論を一の固定した抽象概念たらしめないで社會の特殊的狀態及社會進化に應じて理論の發展と適應とを可能ならしめてゐる。故に社會學徒の責任はこの優秀なる科學的武器によつて社會的現實を分析解剖し社會進化の合理的方策を導き出さねばならない。このために社會學徒は最も現實的であり、實踐的でなければならぬのである。社會學徒が現實と實踐とから遊離する時危險なる左翼觀念論が發生する。

無產階級運動に従事し絶えず社會の實相に接觸する者は、如何にマル



クス・レーニン理論がそのまゝ日本に實行し難きものであるかを知るであらう。十九世紀中葉ドイツに生れ二十世紀の初期にロシアに發展したマルクス・レーニンの政治理論は、一九三〇年の日本に於いてそのまゝ適用し得るものではない。それ等の理論は社會認識方法及び社會進化理論の正確さに於いて我々に多くの教訓と暗示とを與ふるものであるが、社會的實踐の具體的方針に於いては飽くまでドイツ的であり、飽くまでロシア的である。そしてこれ等が徹底的にドイツ的でありロシア的であつた點にそれ等の國に於いて政治理論としての生命が存してゐるのである。このドイツ的でありロシア的である理論をそのまま日本の現狀に適應せんとする無謀と危険とは言を待たない。かゝるマルクス・レーニンの理論を定式化して日本の運動に適用する事はとりも直さず日本の社會を害し日本の健實なるべき社會運動を害するものである。日本の社會運動は飽くまで日本の社會的現實の認識の上に、その社會的發展を合理的に解決するために指導さるべきものでなければならぬ。吾國の労働者も農民もこの事を切に要求してゐる。吾國労働者農民の要求は飽くまで日本の社會的現實の上に發生してゐるのである。

社會運動そのものが飽くまで日本の社會的現實の上に打ち立てられねばならず、これを指導すべき社會科學の研究も飽くまで日本の特殊の社會事情に適用する様に發展しなければならぬに拘はらず、我々は餘りに厭々現實を離れた非日本的傾向の爲に惱まされてゐる。即ちドイツ式の本社會的現實の上に發生してゐるのである。

革命的反抗心、暴力革命的傾向へ轉向し易いからである。彼等の純情が暴壓によりて傷はれ單なる破壊的反抗心に變ずる可能性が多いからである。余は社會科學研究取締の名のもとに、却つて社會全般を脅かし無産階級運動の健全なる發展を阻害するが如き最悪なる傾向が、日に日に濃厚となる事を遺憾とするものである。

社會科學研究のかゝる危険性を排除するために、我々は學生に對して正しい方針を指導しなければならぬ。無論言ふ所の指導とは封建的國粹論の宣傳であつたり、何等理想もない所謂思想善導機關ではない。一般學生はこれ等に對しては冷笑を以つて酬ゆるのみであらう。

然らば滔々たる學生の社會主義的傾向に對し、その社會的現實から遊離した左翼觀念論の危険性に對し如何なる態度をとるべきか？  
余は信ず、彼等に新らしき日本の途を指示するより他に道はないと。觀念的マルクス・レーニン理論の代りに日本の特殊性とその社會的現實に即した新日本建設の最も科學的合理的理論を與へ、これに依つて新時代への大道を示すより他に道はない。これ實に刻下の急務ではないか。無論、かゝる一世を指導し得べき理論は、突然創造し得るものではない。或は現在のブルジョア學者によりて担上げらるべきものでもない。それは社會科學理論の最も現實的なる發展であり、最も日本的なるものでなければならぬ。日本的なる基礎に打ち立てられた全人類ソリダリティの理論でなければならぬ。

或はロシア式定式をそのまま日本の社會運動の中に持ち込む事の危険性に悩まされてゐるのである。

かゝる傾向は大眾と接觸してゐる者の中からは決して生れ出るものではない。何故なら彼等は社會的現實と日本の特殊の事情とをよく知つてゐるからである。實際運動に携はる者は本能的に社會的現實を知つてゐる。

この社會的現實、日本の特殊性から遊離した左翼觀念論を振り廻して社會を毒し、無産階級運動の發展を阻害するものは常に研究室に閉ぢ籠つてゐる學者であり、翻譯の理論しか知らぬ學生であり、更に日本の特殊性を解せざる外國人である。曾つて所謂福本主義が書齋の中から持ち出されて日本の無産階級運動に毒を流した時、最初に福本主義に對する喝采を送つた者は學生であつた事を思へば、この間の事情は甚だ明白となるであらう。

社會科學研究の危険性は正しくこの點に存する。日本の特殊事情、社會的現實、労働者農民の日常生活を知らざる者によつて振り廻されるマルクス・レーニン主義の公式論こそ社會と無産階級運動を同時に毒するものなのである。そしてかゝる傾向が學生の中に最も多い事は注意すべきであらう。又現在の社會科學研究會に對する當局の壓迫がこの觀念的左翼小兒病を助長してゐる事も注意すべきであらう。何故なら苛酷なる壓迫の結果として、學生は社會を愛し、人類を思ふ情熱からやゝもすれば

日本社會的現實と日本國民性の歴史的傳統の特殊性の上に強固な基礎を持ち、而も社會進化と人類解放の理想に新しい光明を投げ得る所の新社會科學理論でなければならぬ。この新社會科學理論の中に現實と理想との調和、新日本建設と人類解放と世界連帶主義との調和、動かし難き階級闘争の事實と日本社會の合理的進化との調和が求められるであらう。古き日本の歴史的傳統と新社會への情熱はこの中に溶和し得るであらう。血で血を洗ふ不祥事を現出する事なしに日本労働者農民階級の解放が可能となつて来るであらう。

新時代を率ゐて立たんとするこの新らしき科學的理想の中に、一切の社會科學研究學生の情熱と純情を吸収し得る事を余は信じてゐる。

かゝる科學的理想の理論は何人によつて提供せられるであらうか。現代の政治家は既に民衆を指導する能力を失つてゐる。現代の教育家は學生の時代的苦惱を理解する情熱を失つてゐる。反動的思想は論ずるまでもない。この爲には新時代の哲人を必要とする。時代の苦惱と民衆の憂悶とを自らの心臓に強く感じ得る者を必要とする。青年の胸に高鳴る鼓動を自らの胸に共鳴し得る新時代の政治家を必要とする。時代の一切の苦惱を擔ひ得る者こそ時代の苦惱を解放し得るものである。

我が國に於いてかゝる新時代の哲人であり政治家である者を何處に求め得るであらうか。余は斷言する。高樓に坐する者、研究室に閉ぢ籠る者、講壇より見下す者の中からは決して生れない。それは民衆の中に生



き民衆と共に戦ひ、民衆の苦痛に徹し得た者の中から、民衆的運動の苦痛と失敗の経験を通じて新らしき日本の生命を眞に發見し得た者の中から生れる。

ブルジョアと反動主義者に誤られた日本を、民衆の日本に甦生せしめ得る者の中から生れる。

これ、余によつてなされた新らしき日本の生命の發見である。そして新日本建設の科學的理論と實踐とを進めゆくものは我々の中から生れるであらう。余も亦その一人たらんと志す者である。

余は平和なる家庭に生れ、父母の恩澤によつて豊かなる大學教育を受

其の四 (七)

本篇は昭和四年左傾運動に關係し學校當局の警告もありて自發的退學をなし、爾後某氏の許に預けられて指導監督を受けつゝありし筆者が、昭和五年自ら過去を反省して當時の心境を寫したるものなり。

七

某帝大法學部中途退學

S某(當二十四年)

家 族……………實父亡、實母、兄  
父兄の職業……………會社員(兄)

貧富の程度……………中等  
學 資……………家庭より

(前略)

して歴史的に謳はれた大辯論部を牛耳らうと云ふ野心があつた。そしてその實現は大體に於いて約束されてゐた。即ち來年度の辯論部委員長に成り得る筈であつた。

僕は中學時代から兄に、大學では是非教授に就いて研究室に入れと教へ込まれてゐた。で、僕は×××教授に就いて獨逸憲法の研究と云ふ名の下に、研究室の素晴しく立派な机に向ふの光榮を持つたのであつた。

斯く、野心の奮々満足され行く僕にとつては、誠に輝かしかるべき昭和第一春ではあつた。だが新聞紙は依然として歎かほしき事實を報導し續けた。

重役の背任横領、銀行の取付け、贈收賄、大量餓首、失業、工場不穩の形勢、ストライキ破りの暴力團、生活雜の一家、心中等々

いとも幸福に育つて人道主義的だつた僕は、この事實に對して憤らずには居られなかつた。強い者が横暴なのだ。金持がひどいのだ。

斯くて、辯論部主催の公開演説會が××××會館で開かれた時、僕は最後の辯士として叫んだ。吾等の社會は強者が弱者を、男性が女性を、あまりにも殘酷に虐待してゐる。餘りにもなま／＼しい弱肉強食の權謀術數に充ち満ちてゐる。時代にマキャベリズムが横行してゐるのだ。世の強者よ！人道主義に歸れ！と。

支那問題に就いて「南方政府即時承認の可否」の討論會が、××博士

けた者であるが、社會の矛盾と壓迫とは余をして社會主義者たらしめ亦前衛の一人たらしめた。余は社會科學研究會員としてマルクス主義理論を探り、更に日本學生社會科學聯合會の中央部にあつて久しく全國の學生運動を指導し來れるものである。この小手記は永い間の余の経験より成る。恐らく學生運動の真相を傳へ得る者にして、余に優る者無きを目ら信するものである。

余と雖も、本章に述べし如く人類を愛し、社會の前途を憂ひ、新日本建設の爲に一片の赤心を有するものである。社會主義者の宣傳としてはなしに虚心坦懐、學生運動の真相を理解するために一讀せらるれば幸甚である。

を議長にして開催されたとき、僕は壇上で、總動員された××會の代表者達と激しく討論した。討論は閉會後の茶話會に迄續けられた。そして彼等の主張の中になま／＼しい迫眞性と、打ち勝ち難き力のある事を認めざるを得なかつた。

社會主義の理論に就いては、××高の辯論部でも屢々壇上から聞いた。討論する度に敗かされたので、その哲學、政治學、經濟學に魅きつけられて行つた。當時校内の論壇は未だ自由だつた。だから自分の疑惑を色々の角度から研究し表現する事が出来た。然し大學へ入つてからは色々忙がしかつたので、その方あまり關心を向けずにはゐたが、今日の討論會の刺戟が、僕をマルクス主義研究に向けた。

マルクス主義の研究は僕に、人道主義的社會事業は貧窮の悲惨を緩和する事は出来るが、貧富の問題を根本的に解決するものではない事、眞の解決は生産手段の共有によつてのみその第一歩を踏み出し得るものである事、そして醒めたる智識階級は必然に社會運動に参加すべき事を教へた。

斯くて、僕は社會主義運動に参加すべきか？この問題が夏休暇に歸×した時、當面決定すべき問題となつた。参加するとすれば親兄弟は迷惑がるだらう。だが老いた親の飢えつゝあるのを泣いて見殺しする人もあるのだ。僕は幸ひ兩兄がしつかりしてゐるから母は大丈夫だ。又いつかはブラックリストに載るだらう。窮乏の生活もしなければならぬだら



う。だがそれが何んだ！ 思へ！ 炎熱に蒸返される工場で機械に驅使される労働者の悲惨を。設備の悪いために機械に捲き込まれる片腕、生命、芋と菜葉と水とで根限り働いて借金を殖やす小作人。この罪惡が黙視出来るか！ 出来たら鬼だ。恐慌、失業、窮乏、だが誰が悪いのでもない。制度が悪いんだ。この制度の撤廢のために戦ふこそ先覺者の任務だ。眞紅の血潮に燃ゆる若人が理想のために戦はずにゐられるものか！

百萬の黄金、宰相の印綬よくこの熱意を止むべきでない。窮乏、苦難何するものぞ。正義のために戦ふと云ふ自己満足自身がその報酬なのだ。斯く考へて僕は××會に這入る事によつて社會主義の運動に参加する事を決意したのであつた。

丁度この頃、今迄紫色の夢ばかり追つてゐた弟の××が、「資本論を讀んで見たい。」と云ひ出した。小學五年から中學、中學四年から高校へ入つた秀才ではあるが、何んと云つても未だ乳臭い少年の唇が、こんな事を云ひ出すかと思ふと、追はれる様な、じつとしてゐられない氣持に襲はれるのであつた。その後相互に刺戟し合つたのではあるが、僕の方が數歩先じてゐた事は確かだつた。

九月二十四日、××會員たる先輩のS・S・を訪れて、會の様子を聞いた上入會した。偶々その夜催された總會に出席して見た。會する者七八十名、「新書齋派克服の歴史の總會」であつた。

僕は法學班に屬した。一週に二度づつ、研究会があつた。福本和夫の

「無産階級運動の方向轉換」をテキストにして、教育部が指示した參考書を読んで来ては討論するのであつた。生活は従来と少しも變らなかつた。専門は飽く迄専門として勉強しなければならぬと信じてゐたので、従来通り學校の講義には熱心に出た。朝六時頃から座席取りの競争まで行つたのだつた。

だが法學を學ぼうとする意志は、やがてマルクス主義に對する興味に依つて壓倒された。社會の根本的動向の研究、現實に對する假借するところなき批判、片方の屈服する迄續けられる妥協を知らぬ討論、凡ては僕の心を完全に捉へてしまつた。月曜と木曜の來るのが、そしてその夜の來るのが待ち遠かつた。定期にはいそ／＼として、今日の自分の研究と、班員の展開する理論を思ひ比べながら、會の本部へ行くのだつた。汚い部屋、暗い電燈の下に、車座になつた十數人の熱心な討論によつて醸し出される雰囲気は全く魅惑的であつた。

丁度その頃、學生社會科學聯合會の主催した社會科學週間を、××會は宣傳獲得週間として戦つた。その時に始めて實踐なるものを行つた。パンフレット販賣、ピラ撒き等だつた。ポスター張りには、會員三名で夜陰に、しかもビケットを張つてやつた。それが随分有意義な、戰鬥的なものと思へて緊張し且つ戦々競々たるものがあつた。幹部に命ぜられる事は何んでも一生懸命やつた。

十一月の或る日、幹事のT・A・が「本部に合宿しないか」と誘つ

た。本部に這入ると忽ち有能な闘士になれる由だつた。僕は躊躇した。

すると忽ち、今夏愈々決意を定めた時の様子が、陽を受けて窓に一杯さし込んだ緑の葉影の風に揺く景色が、そして決然たる自分の面持が頭に浮んだ。この幻は常に、前進する事が正しいのだと結論する事を命じた。

「××が本部の合宿員になつた」と云ふ事が×高時代の社會科學方面の人で、現在書齋派的傾向に在つた人々に傳はつた時、彼等は輕侮の眼を以つて驚異した。それに對して僕も誇らしく見返へす事が出来た。

本部では大抵、一時頃に寝て八時頃に起きた。學校の講義には誰も一時間も出席しなかつた。合宿委員長のT・A・が云つた、「我々は會の仕事で一杯だ。學校へ出る餘暇等はない。」そこで僕も講義に出ない事にした。少し前から缺席してゐた×××教授の演習も徹底的に已めた。只辯論部に對しては××會の立場から有効に働きかける必要があるので、僕はその左翼フラクションとして意識的、積極的に活動する様命ぜられた。

僕には辯論部フラクションたる任務は荷が重すぎた。然しとも角も活動は華々しかつた。

一つの光景——檢閲制度改正要求の演説會。壇上には辯論部を代表した僕が、大きなゼスチャーを取つながら叫んでゐる。

「我が辯論部は、敢て言論の自由を奪はんとする者に對しては、奮然立

つて宣戰を布告するものである。」

「異議なし！」の聲と割れる様な拍手。

「一つの演説が中止されるか否か、一つの出版が禁止されるか否かは、それを支持する大衆の力が強いのか、それを彈壓する警察の力が弱いかによつて決まるのだ。」

「ワッソー！ワッソー！」堂を揺がす喚聲だ。

「警察の力とは巡查の腕力ではない。實に資本家地主の力である。だから言論の自由獲得のためには、吾々の力だけでなく全國の労働者農民との協力によつて戦はねばならぬ。」

「ワッソー！」「異議なし！」「そうだ！」嵐の様な拍手と喚聲に、聴衆は湧き返へるのだつた。僕の素晴しく大聲で叫ぶ熱聲は、左翼學生の計畫的、組織的聲援と相俟つて、益々高潮して行くのであつた。

×大だけではない。他校へ演出する時でも其處の同志が、右翼辯士を野次り倒して、僕達左翼辯士を拍手と聲援を以つて迎へるのだつた。

僕が急速に左傾した事を知つた辯論部の委員長Y・O・は「來年度の委員長にと思つてゐた××があゝなつては困つた。」と云つた由だつた。

我々の生活、殊に合宿員の生活は、最大級の言葉を以つて語らるべきビュリタンの生活だつた。誰れもが、プロレタリア解放のために役立つ以外の如何なる行爲をもなさなかつた。若い學生の共同生活である。いくら忙しいと云つても普通なら夜等は漫談や狼談に花を咲かすが當然



であらう。だが、こゝでは、事務的用談か、階級的討論か、それ以外に一切語られなかつた。永い間に嘗て少しでも女の話、キネマや芝居の話聞いた事はなかつた。以前は毎週キネマを見た僕も今は行く事を欲しなかつた。或る晩高校時代の親友T・K・(熱心な法學生で自稱タリスタンである)の下宿で話して泊つた。翌朝、合宿委員長に「ブルジョアの學生の下宿に泊つた。」と告げた時、「吾々マルキシストたらんとする者は超階級的なことをするべきではない。」と戒められた。煙草の愛好者S・S・は皆の攻撃に對して答へた。

「マルクスの書齋は煙草の煙で一杯だつた。」  
だが皆は許さなかつた。

「マルクスの時代は資本主義の平和的發展期だつたが、今は革命期だ。」  
食事は婦人同盟の人が「労働者並みに」してくれるのであつた。後には二食にした。

そして金の餘裕が出来れば、黨や新聞、ストライキの奉賛帳に寄附するのが當だつた。

只一度、眞に只一度、Yが云ひ出した。

「若し誰れか婦人が僕達に戀したとしたら、僕達はどんな態度を採るべきだらう？」

誰かと答へた。「スターリンは獨身なんだぜ。」只それだけであつた。

この空氣、同志としての信頼と協同の上に立つて、全員が只一つの事

を目指して、あらゆる時間と精力と金を注ぎ努力に於いて、ピツタリ一致してゐるこの空氣は、若く理想と感激を求める僕を魅了するに充分だつた。

當時の状態は實際斯うだつた。カフエーで革命を論ずるのは、世間的に有名なプロレタリア作家達、マルクスボーイ共のやる事だつた。コロンタイム等も、三月の檢舉以後同志を失ひながら尚ほ左翼振りたいた達の流行した最も悪い傾向であると思ふ。

實際、眞の闘士がプロレタリア學者を輕蔑すると同様に、マルキシストたらんとする××會員達は、會員でプロレタリア學者、作家、辯護士にならうとしてゐる連中を輕蔑した。成る程プロレタリアの文化闘争や法律闘争は有用かも知れぬ。然しそれは既成學者や辯護士を左翼に轉換させればよいのであつて、苟くも××會員たる者は、マルキシスト即ち職業的革命家たる事を志さねばならぬ。斯かる理論によつて、プロレタリア作家や辯護士にならうとする事は墮落であり誤謬であるとされた。それにも不拘、世間的有名さと、それ故に貧窮しない生活に誘惑される會員も可成りあつた。

僕は法科にゐる關係上辯護士にならうと思つてゐたので、この理論に出喰はして迷つた。然し合宿のHが彼の書いた戯曲二篇が既に澤正によつて本郷座の脚光を浴びてゐるのに不拘、斷然文學者たる事を止めてゐる勇敢な態度に刺戟され「理論的に正しく」といふ行動綱領に従つ

て、辯護士たる事を斷念して一路學内闘争に従つた。

(中略)

學年試験は切迫した、然し二月に試験勉強する奴は闘争をサボる奴だつた。下宿してゐる者は自宅で勉強する事も出来る。然し合宿にゐる者は勉強する時間も場所も見出し得なかつた。この事はさすがに僕を苦しめた。去年十一月に聽講を止めて以來、法律學の勉強した事はないのだ。二學期の中途から使ふ筈になつてゐながら僕は未だ購めてさへゐない教科書を読んでゐる學生を電車の中で見かけた時、胸が暗くなつて、利れない双物で掻き廻されるのを感じた。これでいゝのであらうか？いゝ筈だ！マルクス主義はこれを命するんだ。だが！だが！！僕はとら／＼戸棚から積つた塵をはたいて民法總則を出して、風呂敷包みに隠し持つて、十分二十分の暇を竊んでは圖書館や、空いた教室で讀んだ。

二月の最終日、各班の會合の席上で幹事が云つた。「我が××會の活動は本日をもって終りとします。今日から試験勉強をして戴きます」と。

翌日の三月一日から試験は始つた。僕は毎日準徹夜で、教科書を一通り乃至二通り讀むことにした。民法は豫定通り出来たが答案は思はしくなかつた。明日の試験を思ひながら急いで歸らうとする×××の人に呼び止められた。話があるから三時に×××控所へ来てくれ」斯くして忽ち豫定は覆された。徹夜も幾日もは續かない。二通りは愚か一通りも讀めない。既に夜明けも近いと云ふのに何百頁も残つてゐるではない

か！これで受験しようと思ふのか？法律は現代を支配する力だ。たとへ辯護士にならなくても法律をもつと重んずべき筈だ。斯くして僕は來年を期して今年の受験を抛棄するべく決意した。

國際法の試験で「國際司法裁判所」の問題が書けそうになかつた。その時、文學部の連中が文學史か何かの問題に對して「勞農政府を作れ！」と結論して及第點を貰つたと云ふ話を思ひ浮べた。窮鼠猫に向つてか「國際聯盟は民衆を欺瞞する機關である」と書いた。

(中略)

彼等二人の行衛を告げれば直ちに捕へられるんだ。出来得べくんば言ひ度くない。だが元來何處へ行つてもよい顔をした僕だつた。刑事の前でも正面から反抗して憎まれたくなかつた。知らない立證しよう。それが納得されなければ白狀するより仕方がない。斯うして二人の行衛を告げてしまつた。

(中略)

監房に取り残されて、僕は一日中自分の將來に就いて考へた。勿論、運動を已めてはならぬ。奪はれて行つた彼等の復讐のためにも頭張らねばならぬ。だが、今迄學生闘争をやつて來た事は正しかつたらうか？インテリゲンチヤがプロ運動に参加するには搖ぎない理論が必要だ。理論のないインテリゲンチヤは帆のない帆船と同じだ。その理論が僕にあるか？經濟過程は略解だけ讀んで済ましてゐる。哲學だつてマルク



ス主義唯物論を擁護していると自信する事は出来ない。矢張り僕は十八世紀的唯物論者だ。政治論だつて僕が「戦ひとつた」のは福本主義だけだ。レニンの著書等には一指も觸れてゐない。何百何千冊となく出版されたマルクス主義の本の中、讀破した本は百分の一ないかも知れぬ。こんな事では駄目だ！ 將來戦ひの眞只中で、のつびきならない時になつて、若し基礎理論に少しの不安でも感じたら一體どうするのだ？ 成る程、資本論を讀む事は墮落であり、行動すること雑誌やパンフレットを熟讀する事が正しい勉強だとされてはゐる。然も、それにも不拘、會内でも澤山讀破して、基礎理論の確つかりした者が無言の中に重んじられてゐるではないか？ 僕や文化學部のフラクシヨンW・Oの如きは、××會の活動分子としてあらゆる表面的活動に参加し、全學的に名を知られてゐるから、外部の人からは會の幹部の様に見えるかも知れない。

然し實際は「W・Oなんぞ理論がなくて駄目だ。」と聞く事がある。行動派が正しいとされながら實際は輕蔑されてゐる。勿論、輕蔑する者をして輕蔑せしめよ！ 僕は革命の一兵卒として死んでもよい筈だ。だが、お前は眞にその覺悟があるか？ 無名の一兵卒で倒れていゝのか？ いゝ筈だ。だが、出来れば指導者になりたい。有名になりたい。そのためには理論家でなければならぬ。理論は矢張り書齋で獲得されねばならぬ。鷹寫版刷る手を休めて資本論を讀み、ピラ撒きに行く電車の中で獨逸的觀念形態が讀めるだらうか？ 理論は書齋で！ だ。闘争によつて鍛へられる！

い筈なのだ。だから今絶交して獨立するわけには行かない。如何に勞働運動の嫌ひな兄でも一度は許してくれるだらう。斯くて、兄を、それ故に多くの人々を欺す覺悟を決めた。

が、さすがに今、面と向つては白々しく嘘も付かなかつた。悪かつたから許して下さい」とは良心が咎めてどうしても云へなかつた。だから恭順の意を表して出来るだけ黙つてゐた。兄は決して疑ふことをしなかつた。

(中略)

僕は兄と餘り話をしない様にして××川に臨む庭の芝生で、ひんやりした川風を受けながら冥想に耽つた。それは結局、僕の中心問題、將來どうするか即ち辯護士になるか否かの問題に落ちて行つた。この問題は常に氣にかゝつてゐるので、先日府會選舉の時落ちつた××氏に尋ねたら辯護士は未組織地の組織のためにも、犠牲者の法廷に於いても是非必要である事、左翼は現在辯護士が足らなくて弱つてゐる事、左翼で受験した人が皆不合格だつた事等話して、僕には是非受験せよと勧めた。明らかに辯護士は必要だ。然かし僕は運動の指導者に、優秀なマルキシストになりたい。そのためには法律の研究等無駄だと考へた。

然し又翻つて考へる時、今日日本に優秀な岡士やマルクス主義經濟學者は存在する。然しマルクス主義的國家學者、法律學者はゐない。だからその方面へ行く爲めには當面、辯護士になるべきだ。その方が全運動の

と云ふ。だがそれは決して今迄僕がやつた様に學校の中で各團體を集めて決議を作らせる「闘争」によつてではない。學生闘争は嫌だ。一路書齋へ！ 書齋派へ！ 新書齋派へ！ これが當面の方針でなければならぬ。が、理論と實踐の統一」と云ふ事がある。時には演說會や黨大會等に行かう。

斯う書齋派への決心をしては見たが、相次いで未決に送られ行く同志を見てはさすがに動揺した。彼等は直接勞働者に向つて非法法闘争をさへ敢行したのだ。それに僕は今學生闘争をさへサボらうとするのか？ それで彼等に會はず顔があるか？ だが、結局、書齋派への決心を藕す事は出来なかつた。

七日間の拘留の後、めつきり春になつた陽の光を仰いだ時には、さすがに嬉しかつた。

(中略)

やがて兄に連れられて上京した。××の親戚で長兄と三人テーブルを圍んで話した。

僕はこの日ある事前から覺悟してゐた。運動してゐる以上どうせ何時かは兄に曝かれる。その時は獨立しなければならぬ。それ迄に辯護士か何かになつて一人で食つて行ける様にして置かねばならない。この事がいつも念頭にあつた。だが、弟の事件によつて餘りにも早くその日が來てしまつた。これは困る。僕はこれから大いに勉強しなければならぬ

指導者になるより容易だ。斯く考へて、辯護士になる事に決心した。そしてこの事を兄に告げると喜んでくれた。

(中略)

××の下宿に落ち付いてからは法律の勉強を開始した。××に於ける決意に基く高文受驗の準備だ。だがそれには先づ、確固たるマルクス主義的法律論を把握して掛らねばならない。斯う考へたが適當な本が無いので仕方なく、平野氏の「法律に於ける階級闘争」とオーストリアマルキシスト某(名前は今覚えてゐない)の階級社會に於ける法律を論じた著書(題名もはつきり覺えない)其他、雑誌のこの方面の論文を讀んだ。斯うして漸々法律研究のための歩を進めたのだつた。

然し一方では、「マルクス主義」「無産者新聞」等の定期刊行物は必ず讀んだ。マルキシストたらんとする者は、たとひ如何に職縁から遠い仕事に従事してゐる場合でも、現段階に於いて無智である事は許されない事であつた。現段階を研究しない事は階級運動を抛棄してしまふことであつた。そしてもう一つ、昔の勞農黨の大會と云ふ様な一種の歴史の場面や、階級的に有名な人の演說會等、要するに話の種になる場面へは出来る限り見に行く事にした。

が、其の頃、どうしても階級闘争の現段階がよく把握出来なかつた。いくら「無産者新聞」を讀んでもはつきり掴めなかつたし、「マルクス主義」は中々出なかつた「勞農」を讀めば益々混亂するばかりだつた。法



律を勉強しながらでは精力的な、基本的勉強も出来ない。そして一般的には左翼、學内では××會のやる事が、外部に表はれる所では、どうしても上わすべりで、力不相應な事を試みて居る様に思へた。

(中略)

實際僕は小供の時から正直だった。只現在のこの悲しい立場のみが、家庭と階級との相対と云ふ同志の誰れでもが一度は経験する苦しい立場のみが、僕を無理矢理に驅つて、血の出る様な嘘を、しかも巧みに吐かしてゐるのだ。僕はそう思ふと突然目が熱くなった。その涙は只神のみが理解してゐてくれるだらう自分の立場に對する悲しみが、つい極わまつて迸り出でた涙であつた。數年來、嘗て出た事のない涙！ 恐らくは母や兄は「犯した前非を悔ひる」涙と見るだらう、と思ふと又々涙が溢れ出た。こみ上げてくる嗚咽を何うする事も出来なかつた。

母が間を見て口を入れた。

「××はもう駄目だけれど、お前だけは是非、さすがは父の子だと云はれる様に成つておくれ。それだけが老ひ先き短かい私のたつた一つの望みなんだから。」

僕はこの時ひどく動揺した。とても此れ以上堪え切れない。斯くも心痛してゐる母を、斯くも苦しみながらも信じてくれる兄姉を、どうしてこの儘敷き撤す事が出来よう。いくら僕が主義で武装した戦士だとしても、これ程大きな肉身に對する裏切りを取てなし得ようか？ 寧ろ胸中

の一切をブチまけてしまつて泣いて訴えよう。僕がマルキシズムを信奉してゐる事、そのために母や兄にどうしても反逆しなければならぬことを皆に訴へよう！

だが次の瞬間「否！ 云つてはならぬ。主義のために、僕の生活のために。」と云ふ聲がこの決心を喰ひ止めようとした。

どちらにするんだ？

奥底に潜んでゐた理性が、「感情に支配されてはならぬ！」と可細く絶叫する。今日状すれば取返へしがつかなくなるかも知れぬ。そうだ！ 今晚落着いて考へて見よう。全部ブチまけるとすれば明日がよい。

床に就いてから、一生懸命考へた。さつきの昂奮で一杯だった。兄の顔、母の顔、姉の顔、そして又獄舎の弟の姿、「外の事は頼んだぞー」と云ひ残してひかれて行つた××の同志達。二つの對立物が執拗に戦つた。が、靜かに考へようとする努力の成功と共に理性が支配した。そして、去年の夏愈々社會運動に参加する決意をした時の、あの「陽光に照る緑の葉影」を思ひ浮べた。やがて又、一昨日××を出発する時と同じ経過を辿つて最後の結論が生れた。この儘である！ 現状維持だ！ 成る程敗す事は悪い事だし謙な事だ。だが、階級の名に於いて、自己をかすためには許されねばならない、と。

然し、この時、何處かに後ろ暗い所を感じた。それを大膽に見究める事は餘りにも恐ろしかつた。だから眠の中に逃避してしまつた。

だが僕の意識の背後に隠されてゐた事實、それを現在(昭和五年)の

僕は大胆に解剖し記録する事が出来る。それはあの場合、凡てを兄に訴へれば必然的に、見解の相違から衝突し、自分で生活費を儲けなければならぬのが恐ろしいと云ふ事であつた。僕は肉體労働が恐ろしかつた。それはF・M・が云ふ様に激勞のために身體が墮れるのを恐れたと云ふよりも寧ろ、労働の困苦其れ自身を恐れたのであつた。プロレタリアの生活が悲惨な事はあまりにもよく知つてゐた。プロレタリア運動に参加する以上、プロレタリアの生活をやがてしなければならぬ事は最初から覺悟してゐた筈だったが、今、それに直面して、闘士としての第一條件たるその覺悟に動揺を來してゐる事を、「マルキシストたらんとする者」の名譽心にかけて、決して意識に上ぼして信じ度くはなかつた。その故にこそ、F・M・に對しては「労働で食つて行く覺悟だ」と敢へて言つて相手の忠告を待つて居たし、相手のない今晚は階級のためとか、自己を生かすためとか云ふ抽象的呪文によつて、自己の名譽心も傷けず、身をも傷めない結論を導き出したのであつたと現在考へる。

(中略)

或る日、僕は×高讀書會へ出席した。一時は二十人近くも出席したが、今は學校の取締に依つて五六人しか來なかつた。勉強したいとは思つても學校に生まれるのを恐れて已めるのだつた。其の日も定期までに三人しか來なかつた。×高時代から思想家として有名だつたH・H・が

彼のいつもの脱論論を始めた。

「大體一九二八年にもなつては、インテリゲンチヤーは、少し闘争して直きに没落するのが歴史的必然なんだ。それを未だ没落しないと自惚れてゐるのは自分をはつきり認識し得ない馬鹿なんだ。赤い眼鏡で見ると自分の心が赤く映るんだ。考へても御覽、少しでも經濟的に恵れてゐる學生が、労働者と同じ生活をしようなんて考へるのは、自己を偽つてゐるんだ。組合なんぞへ行くのは本心からじゃあなくて、名譽心、悪く云へば虛榮心と好奇心から行くんだ。」

「それではまるで有島さんと同じぢやないか？」

「有島さんは只漠然と現在に不安と懷疑を感じただけなんだが、僕の云ふのはちゃんとマルクス主義のAからZ迄知つての話なんだから根本的に違ふんだ。マルクス主義を理解してゐる個人必ずしもマルキシストにならねばならぬと云ふ事はない。」

「待てよ、僕はマルクス主義をAからZ迄知ると云ふ事は、マルキシストだと云ふ事なのだと思う。」

「妙な論理だな。要するに一九二八年の日本に於いては、マルキシストは逮捕、拷問、投獄、死刑になると、マルクス主義が教へてゐるんだ。それよりも僕は、巷間に美妻を抱いて安心立命してたなあ、左翼本あたり、時に之を誦く、亦樂しからずや、と云ふ生活の方が餘つ程愉快だと思ふよ。」



「僕達だつて無論、拷問や牢獄はつらいだらう。然しそれにも不拘、現在の僕達は社會的必然の流れに沿ふて闘争するのが唯一の生きる道だと、マルクス主義が命じてゐるんだ。」

「正しいと信ずる事をする、しないとは、その人の勝手なんだ。僕は正直の所、闘争して幸福を感じるより、より多く家庭生活に幸福を感じるんだ。たとへその愛の巢が、關稅壁やトラストに暴利を貪られようとも、それは仕方がない。僕は闘争のために戀人を失ひたく無い。」

勝負のつく筈がない。僕は公式論を以て對抗しては見た。しかし自分の公式論に何か後ろめたい、頼り無いものゝあるのを感じた。却つて相手の云ふ事がよく理解される様に思へた。

「そんな無茶を云つちや仕方がないよ。」

「所がもう一つ云ひたいのは、反動期に入つて、闘争が困難化すると共に、僕の様に闘争しなくなる奴がどん／＼増えて来ると云ふ事實なんだ。ボルセビキでも一九〇五年以後、七十五パーセントのインテリ黨員が逃げたと云ふんだ。時に××君、K.Y.の刑務所からの手紙を見る。奴隷の言葉を以つて語られたものとしても、あまりに意氣銷沈しすぎてゐるよ。これも没落組かな。はは、ムム。」

然し、その笑ひは却つて自分自身を嘲笑してゐる様だつた。

(中略)

三月以前の××會には百人以上の會員がゐた。その内十人程は檢舉さ

だが、だが、僕は脱落しないぞ！誓つて脱落すまい！突然口の中でそう叫んで、散歩を已めて、急いで下宿に向つて駆け出した。部屋に入ると、直ちに、開いた儘にしてある「フランスに於ける階級闘争」を飛びつく様に読み始めた。

(中略)

當時、僕はいつも次の様に考へてゐた。マルクス主義を讀んで、しかもその正當性を認めない者は頭が悪いんだ。正當性を認めながら闘争しえない者は意久地無しか偽善者かだ。(中略)多くの人が運動から脱落して行くのは意久地がなくなるからで、マルクス主義を誤謬だと考へてゐない。だから労働者よりも學生に多く獄中で意久地無しにされた者が多い。故に當局の思想善導方針は、未だ左傾しない者にはマルクス主義の研究を禁止し、左傾した者には權力を以て臨むのが有効だ。マルクス主義を主觀的主張と客觀的科學とに分かつ事が出来る。この兩者を把握してゐる者はプロレタリアの闘士であるが、世の中には後者だけを認めてゐる人は實に夥しい筈だ。(中略)學校にも、政府にも、警察にも、會社にも澤山ある筈だ。彼等はその社會的位置、家族係累に縛られて自由に行動出来ないだけなのだ。飛んで火に入るべく餘りに世間の荒波にもまれ過ぎてゐるのだ。長いものには巻かれよ、良心に反する位、已むを得ないと思つてゐるのだ。良心に反すると云へば、人類の大半がそうだ。下級官吏や社員が上役に諂ふのも、淫賣婦の行爲も、生活のためで

れ、三四十人は外部の諸組織で部署に就き四五十人は順次に脱落したであらう。警察の追求、學校の處分、家庭の壓迫、それ等のために運動を断念して脱落して行くのであつた。僕には始め、何故多くの同志が斯くも脱落して行くのか理解出来なかつた。正しき運動を何故抛棄するのか？がはつきりしなかつた。例へば××高でH事件の主人公H・H・Hが放校されてましたとばかり、組合に入るべきだと思へるに不拘、田舎の親の元に歸つて逡巡して出て来ない。まるですつかり人間が變つたと思はれない。僕にはそれがわからなかつた。

だが、最近それが可成り、理解され同情された。没落し行く者、唯一の正しいと信じてゐる生活の指導原理を、何者かに強制されて抛棄する人々が、如何に苦しみ、如何に悩むか想像する事が出来た。マルクス主義から離れながら、尙ほ無産者の味方と稱して資本家と通じる労働プロカー、無産者を階級にする代議士病患者よりは、脱落者は良心的であり、小心翼々であり、臆病である。

先日、教室の前で、嘗ての同志の一人に遭つた時に、何の氣無しに、「講義が今済んだの？」と聞いたら、「うん」と、恥づかし氣に、學校の講義を聴いてゐる事を承認して、「此頃は時々聴いてゐる。」と小さい聲で云つた時の、氣まじり悪そうな態度に、氣の毒なことを云つたと後悔したではないか？氣の毒な人々だ。

あり、パンのためだ。政黨幹部の收賄も、高利貸の強慾も、無産階級幹部の醜取引も、凡て、權勢慾、黄金慾がそうさすのだ。だから、或ひは僕も場合によつては、良心に反して主觀的主張としてのマルクス主義を捨て、運動から離れる事はありうると。

(中略)

今迄僕は闘争の際に、自分の生活を批判して見た事は一度もなかつたのだ。ふと自分の生活を思ひ出つる時でも、あの決意した日の緑の葉影を思ひ出しては「だから今の生活は正しいんだ」と瞬間にして結論した。「闘争をやめようか」とか「闘争を続けるべきか否かを考へて見ようか」とさへ考へて見た事はない。然し乍ら去年三月以前の闘争と其れ以後の生活とは確かに違つてゐる。三月既に、「闘争をサボつて勉強しよう。」と考へた。四月には組合や新黨準備會に働きに行つてくれと頼まれたに不拘、拒んで僅かに學内闘争に少しづつ手を出した。恒常的には無く演説會等の時だけ。これが「マルキシストたらんとする者」の生活だらうか？僕が××會に入會した時、Y・S君が云つた。「將來假令、會に不満があつても會といふ組織から離れてはいけない。組織から離れる事は直ちに反動に墮落する事だから」と。だから僕の去年の状態は既に脱落であり、反動であつたのだ。たゞそれを自分に意識しなかつただけだ。いつもあの「緑の葉影」を思ひ出しては、自分がプロ運動に参加してゐると信じてゐたよけなんだ。友人が多く脱落するのを見、その脱落



の氣持が段々解かりかけて、××へ歸つてから急速に「脱落」が意識に上つたんだ。それを防ぐためにやつたビラ張の事件が、却つて一層の拍車になつて、今僕は考へつゝあるのだ。斯く凡てが意識されると、さすがに谷底へ突き落とされた様に感じた。だが、未だ谷底へ落ちてはゐないのだと考へる事は出来ないか？落ちてゐるとしても、再び這ひ上る元氣はないか？だが、その坂をやつと上つて、今度は眞の闘争に参加するならば、そこに待つものは拷問、牢獄、死刑だ。

あの労働農民時代の、華々しい、演説會ばかりで大衆を湧き立てた、ロマンティックな、センチメンタルでさへもあつた闘争の時代は既に既に過去の夢となつて、今や眞實の闘士は地下に迫り詰められ、陰鬱を極めた闘争の時代なのだ。眞の革命家の生活は、嘗ての様に、大衆の喝采裡に西に東に轉戦する英雄的、浪漫的な生活ではなくて、日の照らぬジメ／＼した一つの工場にやつと潜りして、一人宛の同志を作つて行く。五年辛抱して組台が作られるものやら、六年隠忍してストライキ一ツ起し得るものやら見當のつかない惨めな生活なのだ。萬一警察に曝れればすぐ演説される。演説一つもしてはならない。僕は果してこんな生活を續けられるだらうか？僕はあの華かな演説、鳴物入りの闘争を愛してゐたのではなかつたか？労働者でない僕にとつては、とても工場生活は出来ない。營養不良と過勞で肺病や脚氣やに斃れてしまふだらう。

(中略)

×××事件の犠牲者で元氣よく見えたのは僕だけだつたのだが、今遂に歴史的必然が不可抗の力を以つて遂に僕をも、その流れに捲き込まふとするのか？

嗚呼！だが思ひ起す。××の留置場で、奪れ行く同志が僕に復讐を頼んだのを。M・Nの陰慘に輝く眼光は僕に何を語つたか？T・Oの「外の事は頼んだぞ」との言葉は未だ耳に残つてゐる。あの「緑の葉影」での決意は今何處にあるのだ？T警部補の意地悪い顔。僕をうまくだましたW巡查部長の眼光。彼等に屈してゐるものか！否、没落しては斷じてならないのだ。

だがこの昂奮は永くは續かなかつた。いや矢張り僕には出来ない。假令、今一時は昂奮に驅られて立ち上つても、一度拷問されればまるつてしまふんだ。勇を鼓して奮起しても、闘争の困難化に悩み悩んで、結局必然の力に壓倒されてしまふ事は今から見える様だ。

それに、直接自己の生命を八ヶ月も奪はれた出獄者達も、少しも復讐心に燃えてゐない。學生は當然としても、労働者達さへ家に籠つて出でず、完全に脱落してゐる由ではないか？八ヶ月の獨居房は斯くも應へるのか？

弟も復讐どころか、仕方のない事として半分諦めてゐる。そんな意氣地無しではなかつた筈の弟が既に半分脱落してゐる。奪はれた弟のための復讐！今迄はそう考へて來た。だが、今は肝心の本人が諦めてゐるのか？

斯んな事は、かの「緑の葉影」で決意した時から覺悟してゐた筈ではあつた。だがテロルに就いての智識の殖えた最近更めて検討した時に、その勇ましくも可憐な覺悟が、醜くも殘骸だけを續けてゐるのを、まざ／＼と見るのだつた。僕は駄目だ。鋼鐵の意志と神經を以つて、この苦難の闘ひに堪えて行くには、餘りにも僕は弱い。僕は未だ若いんだ。僕の若い生命は未だしたい事、知り度い事を山程持つてゐる。それを皆犠牲にして、總ての總てよある生命迄をも犠牲にして社會革命のために盡くす、それ程社會革命はよいものだらうか？否！否！僕にはとても出来ないんだ。革命の完成したといふロシア。そこには勿論右派の傳へる如き地獄ではなからうが、同時に又、決して天國ではない。幹部派反幹部派の醜い政争。そしてインテリゲンチヤー出身の黨員はどん／＼黨を追はれて行く。考へても見ろ！僕が労働者のために凡てを犠牲にして、數知れぬ投獄、追放の後やつと獲得した社會で、今度はインテリゲンチヤーとして労働者から放逐される姿を。

(中略)

インテリゲンチヤーは没落する。これは歴史的必然だ。單に一九〇五年以後のボルセビキ黨のみでなく、現在世界の共產黨に共通した傾向はこれだ。市ヶ谷刑務所から來る××會員の手紙を見ても、無産者新聞に載つてゐる様な醜聞的なのはない。嘗ては猛者として、僕等の尊敬してゐた彼等も今は、泣き事を書いてゐるか、態度を不明にしてゐるかだ。

る。

(中略)

兄がブルジョア社會で占めてゐる地位と、僕がプロ運動で占める地位、それだけと比較しても前者が重んじられねばならない。母や兄、一家一門のために犠牲にならう。父の名聲一や出世してゐる肉親のために犠牲にならう。

結局僕は弱いんだから。犠牲になる氣持も又喜ばしいものだ。僕は犠牲といふ言葉を使つた。然しこれは誤りだ。何も犠牲ではなくして當然行かなければならない唯一つの道なのだ。それこそが必然の、従つて亦正しい道なのだ。それこそが現在の僕の無上命令なのだ。

然し僕が一人断念しても弟が断念しなければ無駄だ。一人も、二人も、肉親にかける迷惑と心痛の量は同じだ。だからこそ、僕は今迄、いかなる心の動搖にも不拘、弟が出獄してその決意を語る迄は現状を維持しよう。然る後二人行動を共にしようと思つて來たのだ。

弟が、彼の復讐戦に敢然として立つ以上は僕が断念するのは無駄だ。弟がやめればその犠牲を無駄にしないためにも僕もやめる。そう考へて今迄來たのだ。然るにその弟は今態度を不明にしてゐる。弟自身決心がついてゐないのだ。僕が今断乎として断念の決意を固めれば、弟も引きづられて來るだらう。否、引きづらねばならない立場なのだ。結論はかくて、脱落へ、脱落へと傾いて行くのであつた。



斯んな事では駄目だ！ もつと元氣を出せ！ そう一方から、弱々しくも叫ぶ聲が聞えるが、又一方から壓倒的に強い力がぐんぐん脱路への路へ引つばつて行くのだつた。

その強い力は、労働者生活に対する恐怖であり嫌悪であつた。若し我々が、嘗てF氏のやつた様に、十日間位だけ工場で労働して疲れたら別荘へ歸るのならよい。だが、七年も十年も、否一生涯、毎日労働生活をする事はとても堪えられない事だ。

三月に××會へ逃げて来た××市の労働者が勞せずして一日に三度、定時に食事出来るのを天國の機だと喜んだが、一日二食とか茶葉だけとかは辛抱出来る。一間に數人暮すのも堪え得よう。然し十時間も激しい労働に精も根も使ひ盡して、本も讀めずに寝込んでしまふ暇にも等しい生活はとても敢へてする元氣がない。プロレタリアの生活が無ければプロレタリアの感情も、意志も、闘争もあり得ない。とは知りながら、しかも何んとかして自己を誤間化してプロレタリアの生活を生活する事を回避するのだつた。技にも、没落への原因があつたのだつた。

僕は今度の事件によつて自分の無能力を痛切に感じた。刑事肇に、極めて簡単に欺された事、同志を裏切つた事等々。もうその事を考へるだけでも苦痛だつた。が總てを完全に決意の材料として汲み取るために考へた。

嘗ての僕は自分の能力に自信があつた。辯論も、政治的手腕も、文章

も、身體も、凡てに。××會へ入會した時、口では「一兵卒として」と云つたが、心では全運動の指導者を夢見た。三月十五日事件の後に考へた。斯くして、上から上から檢舉されて行けば、いつかは僕が最高の指導者になりうると。

だが今となつては完全に夢だ。刑事によく思はれたために、思考力と利害を忘れて喋り、同志を迄裏切つてしまふ。指導者は愚か、こんな闘士があるものか！僕は駄目だ。僕の様な者は、若し運動を續ければ必ず又幾度も失敗を重ねて、最後に醒めた時には、もう退くに退かれぬ場所にあるだらう。今の内だ！脱路するのは今の内だ！

それに僕如きが運動に参加して一體何になるんだ？ 理論も手腕もない。意久地もない。無意識にはあるが運動を裏切り續けたドンキホーテが今更脱路しようが、しまいが、問題にならないじゃあないか！

運動は、僕如き邪魔者、卑怯者が居ても居なくても、進むものなら進む、衰へるものなら衰へる。何を苦しんで、親兄弟を苦しめ、自分を苦しめて迄、運動にひつついて行く必要があらうか？

今後、共產黨は労働者八十人にインテリゲンチヤ一人の割合で組織されねばならぬそうさ。しかも日本では現在インテリゲンチヤが半分を占めて居る。インテリゲンチヤはもう満員だ。どんどん脱路して行つてくれ。そう云つてゐるに違ひない。

今迄、殊に三月以前の僕は一切の行動をマルクス主義の戦略戦術によ

つて規定し得る事に至大の幸福を感じた。僕は他人の様に、「如何にすべきか？」と迷ふ事はない。マルクス主義の命令通りに動けば正しいのだ。斯く嘗て幸福に感じたこの事が、今や正反対にいと哀れに感じられた。僕は今迄戦略戦術の傀儡だつたのだ。自分の行動だと思つたのは、實はマルクス會社製造の機械の動きに過ぎなかつたのだ。今後は人間になりたい。自分の判断によつて、自分自身の意欲に従つて行動したい。闘争一筋張りの世界より外に、もつと廣々とした、人間らしい世界がある筈だ。機械の生活より外に、人間の生活がなければならぬ筈だ。有島氏の「惜しみなく愛は奪ふ」に依れば、氏の個性は氏に云ふ。先づ何よりも先にお前に要求する事は、お前が凡て外界の標準から目を反けて私に歸つて来なければならぬと云ふ事だ。「斯くして今日迄加へられた外界の壓迫からお前は今始めて自由になる事が出来る。」「これからのお前は必然によつて動くので、無理算段をして動くのではない。」「正にそれだ！確かに今迄の僕は個性の本然的要求に抗して、無理算段をして迄、マルクス主義の壓迫に屈してゐたのだ。人間本然の要求に歸る。人間性に醒める。これこそ僕にとつて必要な事だ。さう考へるのであつた。

僕は又、この頃、I・Mの唱へる「經驗的現實主義」について聞いた。彼は云ふ「獄中でつくづく感じたんだ。若し俺が出獄しない間に死ぬるならば、俺は一生に一度も女を知らなかつたと云ふそれだけで、取返し

のつかない惨めな一生だつたと泣いて泣き叫ぶ。東京さへ知らなかつた事。色々の藝術を味はなかつた事。雄大な山岳も、壯麗な海洋も嘗て見なかつた事。等々あらゆる點について、マルクス主義に對して無限の恨みを抱いて死ぬる。俺は人生とは何んなものか完全に知りたい。人生のあらゆる經驗をして死にたい。彼の頬は紅潮してゐた。彼からしみじみ實感の籠つた話を聞くと、僕は自分の空虚さを、一見強さうな「うどの大木」の様にもろくも崩れ落ちる自分の姿を、その空虚さ、もろさにも氣付かずにあつた自分の愚さを、つくづく恥し入るのだつた。

實際、工場と、ストライキと、選挙運動と、パンフレット。それだけが最も有意義な人生だらうか？ 否否！ 断じて否！ いかにも悲惨な人生でも、もつと美しくてよい筈だ。僕はもしその氣にならさへすれば、學士にも博士にでもなれるんだ。女工でなくて、美しい令嬢を妻にする事も出来るんだ。學生らしい學生生活、幸福な家庭生活を、ゆつくり味ひ盡す事が出来るのだ。帝展でも、アルプスでも味へるんだ。ゲーテやシエークスピア、カイゼルやボルモラン。文明人の資格たる文學教養も持つ事が出来るのだ。短かい一生だ。單純な陰鬱な闘争に費ひ果たすべく餘りにも貴い一生なのだ。

斯くて脱路すべき決意は、もう動かす事が出来ぬと強く感じた。

脱路と決まると、今迄、家から獨立出来さへすれば何時止めてもよ



い、只止める時に一騒動起して止めればよいと思つてゐた學校への執着心が、學士になりたいと云ふ願望が、俄然壓倒力を以つて湧き起つた。今度の事件が大きくなつて、萬一退學されたら！ さう考へると奈落の深みに突き落された様に暗い／＼氣持に震はれた。さうなつたらどうしよう？

そこで××へ行つた兄に直ちに電話を掛けた。「断念する事に決心致しました。」さう云つてすぐ歸×した。

(中略)

×大を受験する前、屢々××氏の邸宅を訪れた。博士は、僕の爲めに、極めて熱心に色々の反マルクス主義學者のマルクス批判の話をしてくれた。僕は従來、極左翼の書籍雑誌のみが正しいとして、中間派の雑誌や改造、中央公論等は一切讀まなかつた。マルクス批判の學說等は齒牙にかけるに足りないものと考へてゐた。然し今、××氏の話を聞いて、改造等に載せられてゐるマルクス批判の學說を讀まなかつた、無視した今迄の態度が悔ひられてならなかつた。

兎も角も、學界は混沌としてゐて、公平に見てマルクス主義は多くの點に於いて缺陷を持つてゐる。それが學界の論戰の中心になつてゐる——と博士は説いた。この世界的傾向に目を蔽うて、今迄専ら左翼のものばかり讀んでゐた事を悔ひた。

僕は、既成經濟學の論文も、中間派や改良派の論文も、一度も目を通し

そして自分の部屋で考へに耽りながら、ひし／＼と重壓し來る悲歌の只中に、何等かの血路を見出し、據るべき自信を求めようと、喘ぎ／＼努力した。然し努力すれば努力する程、益々急速に千尋の谷間に轉落して行く。

××氏にやつつけられたのは經濟學だけだつた。だが、一角に於ける崩壊は、全體系を動搖させずには措かない。況んや經濟學は全體系の基礎である。

この崩壊は哲學の分野に於いて尙ほ更ら甚だしかつた。僕は辯證法を把握してゐるか？ 断じて否！ マルクスエンゲルスの哲學論文を少しも讀んでゐないじゃないか。矢張り「十八世紀の唯物論者」なんだ。我國の左翼哲學は未だその存在をさへ一般に認められてゐない。それでゐて僕は、既成哲學を學ぼうとさへしなかつた。フォイエルバッハは勿論、ヘーゲルやカントさへ學ぼうとした事がないではないか。断然眞理に忠實だ！

僕は法律學を抛棄したのではなく、單に中止したのだ。これでも學徒なのか？ 僕がよく讀み、又讀まされたのはマルクス主義政治學であり、國際情勢である。然かも政治學は、經濟學と哲學との正しい理解がなく、理解出来る筈がない。各國の左翼だけの報告に基いて、國際情勢に明るいと思つたのは側から見れば、滑稽の極みだ。嘗て政治情勢の評價に自信があつた一昨年を於いて、果して左翼運動今日の不振を豫想し

た事さへ無いのだ。アダム・スミスから降つて最新の學說迄を研究したであらうマルクス主義經濟學者でさへ克服し得ない、既成正統派經濟學の殿堂を、マルクス主義經濟學の入門書しか讀んだ事のない僕が、敢へて無視してゐたのだ。これが眞理に忠實だと誇稱する者の態度だらうか？

答へるも恥づかしいことだ。

諄々として、マルクス批判の學說を説明して呉れる××博士の言葉が、僕の胸を痛くも突き刺し、グサリグサリと剝り出して、中の臓物を曝け出して行く。

嘗て「眞理のために。」と誇稱しながら、實は眞理に最も不忠實だつた僕の姿が、如何に淺ましくも醜く見え始めたことか！

嘗て、科學界に君臨する將軍の如く考へたマルクス主義が、實に滿身創傷、尙ほ戦つてゐる負傷兵の如く見え始めた時、僕は一語も發する事が出来ず、火鉢の縁を碎けよとばかりに、握り締めるより以外に、何事も出来なかつた。

嘗て、科學者としては大して尊敬しえなかつた××博士が、今や眼前に嚴として高峯の如く聳え立つてゐるではないか！ が、博士は、語り續けてゐた雄辯を休めて、打ち萎れてゐる僕を慰めた。

「そんなに悲觀しなくてもいゝよ。マルクス主義も一面、仲々立派な所があるんだから。」

僕は敗軍の兵卒の如く、悄々として辭し去つた。

得たか？ 左翼の政治論が果して「科學的」であるならば、こんな誤謬は起らない筈だ。

僕だけではない。労働農民黨華かなりし頃、皆は革命近しと信じた。凡ての運動が今にも勝利するかの様に景氣よかつた。「マルクス主義者に非ざれば人に非ず。」とさへ云はれた。三年十五日事件さへも、支配階級の斷末魔のものがきとしか思へなかつた。然かも現在の××の狀勢を見れば、地方の運動のあまりにも衰退してゐるのに驚くではないか？ 組合は半減し、尙ほ續々脱退しつゝある。去年の總選舉に、共產黨員の候補者H・N・氏の自動車を圍んで「萬歳！ 萬歳！」と連呼した數千の大衆は今何處にあるか？ 左翼を守る者は僅かにM・H・一人だ。勝利は遙か、無限の彼方に押しやられてゐる。

學生運動とは違つて、最も神聖なものとして憶れてゐた労働組合、農民組合の實際が、闘争と云へない程ルーズで、だらしなく、醜いものであるかを、僕は××の實狀を見る事によつて、知る事が出来た。

斯かる生々しい現實を前にして、尙ほ左翼の政治評價の正しさを主張する者、顰の生じ、蟲の湧いた屍體を指して、尙ほ且つ生ありと主張する者と選ぶ所がないのではなからうか？

一月のピラ事件によつて、一度び自己の無智無能を曝露し、自己の餘りにも小さな存在を意識した僕にとつて、今日は又、自分が把握してゐると思つてゐた一切の殿堂が、盡く、その最後の一片迄も土崩瓦解し



て、自分と云ふ存在は、瓦解した木石の破片の間に喘ぎ呻きつゝあるが如く、又無限に小さな存在に化して、消えて了ふ如く感ぜられた。自分が今迄、大切に抱いてゐた者が、今や忽焉として、掴み所のない、正體の知れない物になつたのだつた。

然し又、努めて考へ直した。さう悲観するにも及ばないではないか。要するにマルクス主義は一つの學説だ。缺點もあり長所もある。それが果して眞理か否かは、世界の學界が決定するのだ。僕の如きよく斷じらすべきでない。

只一つ明らかな事、それは、僕が嘗て一概に「ブル科學」として研究もせず、無批判に捨て去つた事と、マルクス主義に深い研究も無く信仰的に實踐に選してしまつた事が、一番悪いと云ふ事なのだ。だから今後は大いに、支配的正統諸科學と、マルクス主義とを研究すべきだ。

そしてその論理的結論を敢て求めれば、次の如くなるだらう。「若し前者が正しければ、運動を断念してゐる僕は安心する事が出来る。後者が正しい事になつても運動はしない。それは親兄弟を泣かす事だし、誓を破る事だし、してはならない事だから。そして、僕は自分の運動への無能を知つてゐるから。」

だが、既に脱落してゐる僕に、今更マルクス主義を研究する苦痛に堪える勇氣があるか？ 死んだ子の年を數へるにも似た悲しみ。去られた愛妻の日記を讀む苦痛。夫れ等に堪え得る科學的冷淡さがあるか？ 敢

へて云ふ、厚顔さがあるか？ 現在以上の苦しみはもう結構だ。いらな

い。謙だ。

それと同時に今一つ、自分で次の事がはつきり解かつてゐた。人の力には限りがあり、僕如き者に、凡ての學説を批判して、世界の大問題の結論を作り得る筈がない。

短い一生だ。僕は立派な新聞記者になりさへすればよいのだ。そのために全力を傾注しなければならぬ。マルクス主義等研究する餘裕はない。不必要だ。記者として、更に人間として、爲さなければならぬ。しかも未だ少しもしてゐない事が山程ある。否。山は有限だ。空の星程、無限にあるではないか！マルクス主義、反マルクス主義等問題にならない小さなものだ。僕はさう考へて行つたのであつた。

(中略)

五月一日、メーデーの行列が家の前を通つてゐるので、門に出て見た。三十人程の行列。これが示威運動だと云ふのか？ 敗軍の退却ではないか？ 人々の話し聲。「何處かでスポーツでもあつたのかい？」——スポーツと云ふ言葉を知つてゐる人がメーデーを知らないのか？ 一般民衆は階級闘争の力の字も知らないのだ。笛吹けども人踊らず。笛吹く人のみで踊つてゐるのが階級闘争の現狀だ。参加者のみが躍氣になつてメーデー歌を高唱しても、見物人は「あれは一體何んだ」と笑ふ。遂に参加者の大半がテレテ唱はなくなる。斯かるメーデー行進が、日本社會

運動の姿ではないか！ 一部グループの中だけで、闘争だ、裏切りだ、反動だ、と騒ぎ廻つてゐる。然かも一步そのグループを出れば、今迄耳を聳してゐた大聲叱呼は、一般社會の雜音に打消されて聞えない。今迄、唯一つの様に見えた世界さへ、社會の萬丈の黄塵に蔽れて見えないのだ。そんな小さな世界に、わざわざ入つて行つて「一兵卒」と誇稱したのが吾れながら氣恥づかしくなつた。一緒に見物してゐる人に「お前が親兄弟一家一門を泣かすための呪文だつた大家と云ふのはこの三十人の事か？」と思はれさうな氣がして、急いで家に這入つた。

(中略)

東京の同志の一人、H.S.が、僕に時々マルクス主義的な雜誌を送つて来た。頁の中に躍つてゐる文字は嘗て僕の心を捉へたよりもより強い力を以て僕を苦しめるであらう。で、その雜誌を焼き捨て、再三「送つてくれるな。苦しめてくれるな。」と手紙を書いた。彼は八月(昭和四年)以來、一切の手紙や雜誌を寄越さなくなつた。

僕は文學理論を、經濟學を、法學を深く研究してマルクス主義に走つた人のある事を知つてゐる。が、僕の如き闘争の意力を失つた者には、とてもそんな眞似は出来ない。新聞記者として必要なのは、一定の理論ではなくて、萬遍なく接する作品の數であり量である。批判ではなくて、只報するために知る事である。人生を知るための文學なら觀照すればよいのだ。

僕は人間として記者として必要な限りに於いて、文學、經濟學、法律、政治學、外國語等を知る。然り只知る事に努める。廣く淺く——あらゆる問題を——あらゆる出來事を——只兄との約束によつて、又僕の立場を考へる故に社會主義を除いて。

僕は今となつては、芝居やシネマ、酒や煙草等一切少しも罪惡とは思はない。自分の金で何を買はうと構はないと思ふ。然し、今僕は謹慎中の身である。僕の、將來に約束された復校をひたすら待ちながら、罪を亡ぼすべく努めねばならぬ身である。只々天國へ行くために身を苦しめる或る種の宗教徒では無いけれども、現在僕は、あらゆる禁慾生活をすする事によつて、僕の誠意を、自分の行動に表はしたい。一方で、近い將來に始まるべき學生らしい學生生活、その様々の姿を想像しては、他方、日々の生活に現實に禁慾生活を續けて行く、現在の生活は、理論としては不徹底かも知れない。誤りかも知れない。然しこれによつて良心の満足を感じつゝある。理窟はない。只、自然の感じから「憂き事の尙ほこの上に積れかし。」と念じたくなる。さうする事によつて、多少でも親兄弟や學生監に申譯けが出来る様な氣がするだけなのだ。



其の五 (八一—四五)

次に掲げる三十八篇は、昭和五年某地方に於ける學生事件にて檢舉され起訴猶豫處分に附せられたものが、取調の際執筆したものなり。

八

某帝大法學部三年

K某(當二十七年)

家	族……………	實父母、姉二人(他に嫁子)弟一人、妹一人
父兄の職業……………	漬	物
業	裕	業
貧富の程度……………	富	
學	資……………	家庭より月額七十圓
健康状態……………	強	壯
性質……………	温良	確實

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情如何。  
私は高等學校入學以來極めてルーズな生活をして居りましたが、其の間にも人道主義的立場より社會的矛盾なるものを痛感して惱んで居りました。三年も終りに近づき卒業までの数日間になりとも勉強せんものと思意を決し圖書館籠りをいたしました。其の時河上博士著「社會問題管見」

「貧乏物語」なる二書を読み、博士の文章及び内容に引きつけられて爾來博士の著書を読みましたのが、私のマルキシズムを研究し初められた動機であります。其後大學入學後も暇々にはマルクスに関する文献を耽讀して居りましたが、昨年十二月初頃だと思ひます、文學部二回生H某氏の紹介によりまして初めて大社會科學研究會に入會致しました。  
二、マルクス主義(共產主義)に對して如何なる考へを持つて居るか。  
マルクスの三大功績と云はれてゐるものは労働價值學說、唯物辯證法、史的唯物論であります。マルクスの社會觀世界觀は過去の種々なる社會制度即ち原始共產制、奴隸制、封建制はそれ自身社會の進化發展の上の必然的存在である。それと同様に、現代の資本主義制度も封建制の後に来る必然の社會制度であるが、現代では、資本主義制は社會進化の極端に轉化したから、現代に於ては資本主義を維持する事は社會發展の妨害になるのみならず、社會を退歩せしめるものである。而して次に必然的に来るものは共產制社會であるが、この共產制を實現し得るものは、労働者農民による所謂プロレタリア革命である。故に資本制社會より共

産制社會に轉化する過程として必ずプロレタリアの獨裁が必要であると云ふのであります。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對し如何なる考を持つて居るか。

特に、(イ)君主制の撤廢 (ロ)土地沒收のスローガン。

日本共産黨、日本共産青年同盟は、眞にマルキシズムの理論の上に立脚した政治的結社でありまして、第三インターナショナルの日本支部であります。

之等黨同盟はプロレタリア革命によりプロレタリア獨裁の政府を樹立して、このプロレタリア獨裁を通じて共產制社會を實現せんとするものであります。之等黨同盟がプロレタリア獨裁を必然の道とする以上は、君主制の撤廢、又共產制社會の實現を目的とする以上土地沒收のスローガンを掲げる事は理論上當然の事と思ひます。

併し日本の如き特殊事情を有する國に於て、然も現代の如き狀勢に於て非合法的な黨を作り、かゝるスローガンを掲げる事がよいか悪いかは極めて重大なる問題でありまして、そこに新勢農黨と日本共産黨との分岐點が存在し、又往々にしてインテリゲンチヤから解黨主義の生ずる處であります。私は何れが正しいか判断することが出来ません。

四、學生左翼運動に對して如何なる考を持つて居るか。

現代の教壇科學は過去の科學で、現代の科學ではありません。それは資本主義を發達せしめた科學でありまして、現代に於ては全く眞理性が

失はれて居るものであります。それを學ぶことにより、學生は決して現代社會を把握することは出来ませんし、且又將來の見通しもなす事は出来ません。故に現代の學生は教壇科學を學ぶ事により眞の希望を抱く事は出来ず、或者はデカタンに落ちますが、進歩的學生は何物か眞理を求めて遂にマルキシズムに走り、研究中に自然々々と實際運動に赴くものだと思ひます。併し學生の左翼運動も所謂インテリゲンチヤの運動でありますから、此の解放運動に於て、眞に労働者農民の力が強くなると同時に自然に衰微して行くものだと思ひます。

五、是迄如何なる意識の下に左翼的行動をして來たか。

之まで私はマルキシズムは絶對に正しいものであると信じて行動したのですが、學生は學生自身の生活過程又は現代の社會的經濟的地位より當然に激烈なる階級闘争の先端に立ちて活動することは出来ないが、學生は學生として爲し得る範圍内に於て階級闘争に助力すべきであると云ふ考への下に、無産青年新聞にも關係して居たのですが、他動的に漸次深く立入りました。其間只自分は眞理の爲めに働くのだと云ふ感じに打たれてゐました。

六、今後は如何なる方針で進まんとするか。

(イ)思想的 (ロ)行動的

是迄の行動に於て私は決して刑罰を受けるかも知れないと云ふ様な考は微塵もありませんでしたが、今回の檢舉によりまして、初めて自己



反省したのでありますが、私には全く左翼運動をなす力もなく、資格もなき事を痛感いたしました。

今後如何なる方針で進まんとするかにつきましては現在拘留場にある身ですから確定的な方針としてはありませんが、若し出来れば家業を繼いで行きたいと思つて居ります。

### 九

某帝大法學部三年 M某(當二十六年)

家 族……………實父母、姉一人(他に嫁  
父兄の職業……………農  
貴富の程度……………普通  
健康状態……………強壯  
性質……………良、方正

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情如何。

小生はマルクス主義を研究し初めたるは高等學校時代なりしが、當時は日本の労働運動の勃興期であり、此の外部事情に刺戟され、高等學校に於ては一般にマルクス主義の研究が盛にして、小生もその周囲の事情に刺戟されてマルクス主義の研究を志せるものにして、特別に或社會的矛盾を感じたるの故からでも無く、只純然たる學究慾からなりき。

二、マルクス主義(共產主義)に對し如何なる考へを持つて居るか。

マルクス主義に於ては、經濟學理論に關する限りに於ては、尠くとも現在の資本主義經濟の運動法則を説明するに最も優れたる理論と信ず。而して現存資本主義の經濟運動はこの運動法則の必然的結果として所謂マルクスの共產主義社會を將來することを豫想し得るも、それ迄の過渡的形態として所謂國家資本主義トラストの時代を相當長期に亘り經過するものゝ如く思はれ、従つて現在の如き發達過程の資本主義經濟組織が、直ちに共產主義組織へ轉化し得るものとは考へず。

三、日本共產黨日本共產同盟に對して如何なる考へを持つて居るか。特に、(イ)君主制撤廢(ロ)土地沒收のスローガンに就いて。

マルクス主義の經濟理論を最も優秀なるものと認めることは、同時に必然的にマルクス主義の政治理論を是認するものにあらず。特に政治理論の最も具體的問題として政黨論に於てプロレタリアの政黨は只一つなりとの原則を持ち、此の爲めに一切の合法的政黨を否定する共產黨の活動の是れに就いては大なる疑を有す。

小生は日本の現在に於て、労働黨の如き合法政黨と共產黨の如き非法政黨と、果して何れが現實に労働者階級の生活上の爲めに貢獻し得るものか、等々に就いて確たる意見を有せず、共產青年同盟に就いてはそれが共產黨と如何なる關係につくものか等々の組織的關係及その獨自のスローガンは何か等々の問題に關し、未だ研究したることもなく理論

的にも全くその智識を持たず。

スローガンに就いての考へ。

共產黨のスローガンとして、君主制撤廢と土地沒收のスローガンを中心として日本共產黨被告通の間に於て意見が對立して居り、その對立過程に於て、該スローガンの決定なるものがモスコ、インターナショナル本部の草案をそのまま、鵜呑みに採用したるものなる由の事情を曝露せりと聞くも、該スローガンに付て纏まりたる研究をせしこともなく従つてその是非の意見なし。

常識的には批判出来るも、小生等は常に、かくの如き問題を學問的批判の對象として考へるなり。

該スローガンの問題を決定するには、日本の農村問題を研究しその封建的要素を分析して、其れとの關係に於て初めて土地沒收、君主制問題の意義を決定するより先に社會科學的研究方法はなしと考へらるゝも、日本に於てこの研究は殆どなされて居らざるが如し、従つて日本共產黨の該スローガンも信用出来ず、不十分な根據の上の決定なりしとは輕卒なり。

現在の日本の君主制なるものを單に封建的遺制なりとして片付けるは少なくとも誤りなり。

四、學生左翼運動に對し如何なる考へを持つて居るか。

此の問題に對し小生の意見は、社會科學研究會に初めて入會した當時

より未だに變らず。即ち學生なるものは現に角學校に籍を置くものにして、その特殊の意義は實社會と一切切り離されて専心學問研究するの可能性を特徴づけられて居る處である。従つて研究會の活動も、その學生なるものゝ意味よりして研究團體としての範圍に依るべしとの考へなり。

従つて學校を棄てたる實際運動を欲するものゝ尙學校に籍を置くの意味は了解に苦しむものなり。而して研究の爲めの運動ならばそれは時代の學徒として當然認めらるべき行爲にして、一般にそれも左翼運動と見るは偏見且つ誤解なりと信ず。小生は少くも最高學府なる大學内に公然なる研究團體の許可なきは遺憾とするものにして、それ等の運動に對する學生の要求は、時代の學生の行爲として正當に認められて然る可く、此の限に於て研究の自由を許可しても決して學生は全部左翼化するものに非ず。一部はよし極端に走りたりとするもこれは止むを得ず。結局は落ちて行く所へ落ちつくものなりと信ず。

それ故に少くとも小生は學生が研究の範圍に止まるの意見を存する限り、この種の純情なる要求を一律に左翼運動として色眼鏡を通して見る當局のこれ迄の態度には不満を感じるものなり。正當なる要求が合法的になされる限りに於ては、もつと學生に對して樂觀的寛大さを持つて頂きたいと考へます。

五、是迄如何なる考を以て(意識の下に)左翼的行動をして來たか。

小生は智識階級なるものは結局これからの社會運動の主動力とはなり



得ぬ階級なりと信ず。されど智識階級人は現實の上層的地位を占むるものにして、その社會一般に及ぼす影響は頗る大なるものなれば、智識階級は特に社會問題に關し理解を持つ必要あり、その正當なる理解と態度は新興階級の利害に關し莫大なる關係あり。

それ故小生は、我々學生層を所謂プロレタリア運動の闘士にする積りもなく、また自らその闘士になる積りはあらざるも、少くとも現實に貧窮無力なる無産階級の存在を見せつけられて居る以上、何等かの形に於て所謂智識階級の貢獻をする義務あり、その爲には何よりも社會問題の理論研究が必要であり、それが前提的條件なりと信じたる故に研究活動を爲したるのみ。即ち自己で研究すると同時に他に向つても宣傳したり。六、今後は如何なる方針で進まんとするか。

(イ)思想的 (ロ)行動的

思想的には未だマルクス主義なるものによりたるに非ず。從來の研究を材料とし、これから自己の思想を何物かに仕上げて行くつもりなり。行動的には兎に角、非合法社會運動家とはならざるべし。

10

某帝大法學部二年 I某(當二十三年)

家 族……………實父母、兄一人、弟三人

妹二人、叔母一人

く、かゝる社會奉仕的生活に感動して宗教を研究しようと思ひ、××高等學校基督教青年會寄宿舎に入つて宗教を研究し乍ら哲學をも研究して居りました。其の頃哲學の一分野としてマルクス主義哲學のあること、然もそれが唯物史觀と唯物辯證法とをもち、宗教に就ては特有の理論を持つてゐることは、哲學的(觀念的)に研究して居りました。其の頃は、空想から科學へ、マルクス主義哲學、レーニンの經驗批判論を讀んで居りました。そしてマルクス主義哲學を一種の哲學として考察して居り、その缺點等を友人の間で論争して居つた位でしたが、マルクス主義哲學に對して全幅的に反對して居りませんでした。

斯くの如き生活を終へて、昭和三年四月×大法學部に入學致してから高等學校時代からの級友の某君から度々マルクス理論を展開して貰ひ、お互に討論したこともありましたが、其の頃は經濟政治社會の理論に對してマルクス主義の正當性を知つてましたが、一度基督教の神に對する批判になれば口を開き得なかつた位であります。口を開くことが神に對する冒瀆であるとかへ觀念して居りました。幾度か宗教に對する批判を耳にしても是を克服することは出来ませんでした。然も其の頃は獨乙のリッケルトや、田邊元博士の科學の分類に従つて分類した文化科學の分野に於てはマルクス主義の妥當性を認め、カントの所謂形而上的世界に於ては神の存在を肯定して居りました位で、一見矛盾した世界觀を持つて居りました。今から見れば大學一年間は小ブル的觀念論的の惱みを持つ

父兄の職業……………自 作 農  
貧富の程度……………普 通  
健康状態……………強 壯  
性 質……………溫和、人物普通

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情を問はれますが、次第々々にマルクス主義を研究するやうに傾いたのであります。然もマルクス主義を知つてから、現在に至る迄にもマルクス主義の研究に段階がありますから、現在までの経路を一通り書きます。  
私は田舎に育つて居りますから農民の生活状態をよく知つて居ります。常に朝早くから晩遅くまで働いてゐるに拘らず、人間らしい生活をして行くことが出来ないことを不思議に思つて居りました。高等學校へ入學して××に住んで居りました頃、一層農民の生活に疑問を抱いておりました。

私が××高等學校へ入學致したのは大正十四年です。この年に農民労働黨が結成後間もなく解散されました。こんなことに刺戟されて漸く社會問題に關心を持つやうになり、遂に人生觀世界觀に極度の不安を感じ、自己の生存の無意義なることを思ひ、厭世的思想になり、其の頃よりシヨペンハウエルの書を好んで讀んで居りました。高等學校一年の終り頃には死を考へ込んで一ヶ月も不安な生活を送つてゐる間に、ふと教世軍の路傍演説を聴きました。其の時説教には深く感動した譯でな

て居り、基督教からマルクス主義へ拋棄することに非常に努力した時代でありました。また私はその間、×大新聞部へ入つて新聞を編輯して居りました頃、同じ部員の間にもW某、S某、S某、K某、S某等の×大社會科學研究會員も居つた關係上マルキシストには多く接して居りました。全體的にマルキシストは生活が眞面目であり、物事をよく研究し、理論が明晰で、自己の生活を偽らず批判して改むるに慣ることなき態度や生活に對して常に深く感動して居りました。かゝる一年間を終へて昭和四年四月頃から前記の友人の導きによつて×大社會科學研究會に入り、只管この方面の研究に没頭しました。次第に基督教を拋棄することが出来るやうになり、同時に社會のあらゆる矛盾が一の社會の基本的矛盾本質的には資本と勞賃)から發生して居ることを把握することが出来るやうになり、尙討論から得る知識と云ふものが如何に自分の血となり肉となるかと云ふことが分るやうになりました。斯くして夏休を終へて九月Kへ來ると×大新聞部事件がありました。それに一部員として活動して研究の方は餘り澤山やつて居りませんでした。この事件も終つた十一月初旬頃、同じ研究會員のH某君が私の下宿を訪問して無新×大法の法學部二回生の責任者を突然依頼しました。暫く考へましたが、Hは簡單者だと云ふので引き受けて、この組織に従つて新聞無産青年を二三回讀者に配布して居りましたが、其の頃から意識の變革よりは行動的(實踐的)にマルキシストにならなければ眞のマルキシストでないと云ふ理論を聞



いたり知つたりして、其を痛感するやうになりました。丁度その頃(昨年十二月中旬)全然知らないT某と云ふ×大生から新聞無産青年のK支部責任者を依頼されました。私は頼まれるまゝ暗然のうちに承諾してから熟考しましたが、新聞を配布する位のことならば一つやつて見ようと言ふ氣になりました。T某は経済学部一回生であることは後で知りましたが、K支部責任者を依頼されるとき迄は研究會員であるか否かさへ知りませんでした。私は法科二年生でありT某は経済一回生であります。初

対面の時から彼は随分深く研究して居り非合法に習熟してゐる確固としたマルキシストであることが彼の態度から知ることが出来ました。左翼運動に對しては私よりは遙か先輩であり、私は社會科學を研究してから日尙淺いことでもありますから彼の依頼に信用を置くことが出来ました。

二、現在マルクス主義(共產主義)理論は從來の全ゆる科學に對して客觀的批判的であります。従つて正當な科學であると思つて居ります。現象形態にとらはれず事物の本質を辯證的に、即ち對立的に考察するが故に、最も客觀的で批判的であります。尙現資本主義社會内に自然に發生した資本家と労働者、本質的には、資本と労働の對立を判つきり見て居るが故に、現在の科學のうちで最も優越した批判的科學であると思ひます。かゝる理論は河上博士の「經濟學大綱」、マルクス主義經濟學、資本論入門(或はブハーリンの「史的唯物論」、共產主義のABC)、マルクスの「賃労働と資本」から主に把握しました。マルクス主義は、現在の資

本主義社會の胎内に生じ資本主義社會が成熟するに従つて資本家階級と對立抗争、即ち階級闘争を経、明日の社會を創造する新興の創造力を有するプロレタリアートの將來を明らかにし、又如何にして階級闘争を取行すべきかの理論を明示してゐます。

斯くの如く根本的に社會現象を批判する理論は他にないと思つて居ります。

三、日本共產黨、日本共產青年同盟は現在日本に非合法に存在して居ると信じてゐます。然も労働者、農民の利益を代表して、其の階級の解放のために第一線に立つて全ゆる科學的智識を利用して其の上身を犠牲にして必死的闘争をしてゐる秘密結社であると信じて居ます。尙日本、否、全世界の資本家が存続する限り、如何に資本家地主が全ゆる機關を通じて是を彈壓しよう、如何なる極刑を以て罰しようとも必ず現はれて、搾取と存在するのが必然であり、またそう信じてゐます。日本共產黨は第三インターナショナル即ち世界共產黨の日本支部でなければならぬし、日本共產青年同盟は、キームの日本支部でなければなりません。事實さうであると云ふ事を新聞、雜誌、書物から知り得て居ります。兩者共その組織を具體的に知つて居りません。其の使命目的は、私有財産制度を否認し、共產主義社會を實現するにあります。その爲めに資本家地主の政府をたはし、労働者農民の政府を樹立するのにあります。

(イ) 君主制度撤廢のスローガンのことに就ては、昨年我々社會科學研究會の間に色々問題とされ、又社會上には、村山藤四郎の理論によつて大きな問題となつたやうであります。その當時異論がありました。私は適確に之を批判し得ませんでした。現代の資本家、地主は君主を先端に押し立て、自己の階級の利益のために、自己の階級の永續を計る幾多の事實、例へば田中内閣總理大臣の優待問題等を見る毎に、非常に憤慨して居りました。君主そのものよりは、その背後の資本家、地主をたはすこと、従つて資本主義社會を變革することでありました。君主制度撤廢をスローガンとして大衆の前に押し出すことは、現在の日本の社會的事情から熟考を要する點であると思ひます。併し乍ら資本家階級と君主制とが密接に關連してゐる限り、資本家の好策を大衆に知らせる必要があると思ひます。

(ロ) 現在土地を所有するに至る迄には幾多の事情より來たものであると思ひますが、土地そのものは社會的享有物である限り單に所有してゐると云ふ理由で社會一般民衆の利益と相反してはならぬと思ひます。私有財産制度が存続する限り、土地を一般大衆の利益のために公平に使用されぬと云ふことは理論上正しいと思ひますから、必要なスローガンだと思ひます。

四、學生の左翼運動のうち社會の知識階級の先端をなす學生である限り、新興のマルクス主義理論に目を閉ちて、是を吟味研究をなさずに、

盲目的に非難することは絶対に避けなければならぬと思ひます。従つてマルクス主義を研究する運動は必要であると思ひます。又各自異つた意見を以て色々の學生運動をなすことも非難すべき點はないと思ひます。學生は社會の階級構成から見れば決定的階級ではありません。學生階級は社會上の問題には鋭敏であります。學生階級は社會の決定的階級でないから學生自身の解放と云ふことはなく、プロレタリアートの解放であつて初めて學生階級の解放があると云ふことは正しい理論だと思ひます。従つて學生運動も、プロレタリアートの指導下(或は影響下)に置かれなければならぬと思ひます。尙學生が若しプロレタリアートに味方しようと思へば、プロレタリア化しなければならぬと思ひます。併し學生である限り非合法運動は避けた方がよいと思ひます。

五、是まで日本共產黨、日本共產青年同盟は色々の逆宣傳をされてゐるが、事實はさうでなく、資本主義的桎梏からプロレタリアートを解放することに依つて、人類一般を解放する歴史的な大事業を擔つて職つてゐることをはつきり知らせようと思つて居りました。殊に昨年十一月初旬から十二月中旬まで、×大無新班の×大法科二回生の責任者を引き受けてゐた時は、自分はプロレタリアートのために印刷物を敏速に配布して援助して居るのだと思つて居りました。十二月中旬、×大無新責任者であるH某から現在の組織構成メムバーを解散した事を聞き、その責任者(法科二回生の責任者、×大の配布集金の責任者)を辭めたので、私はもつと深



く廣くマルクス主義を研究しようと思つてゐた時に、即ち昨年十二月中旬T某から無産K支局責任者を依頼されました。單に新聞を配布し、ニムースを出して配布する位なら、やつて見ようと云ふ氣になり、他のK無産支局責任者S某と協議し乍ら専ら新聞無産青年の讀者の擴大強化に盡力致しました。後またT某から新聞無産は、學生のみに配布するものでなく、労働青年、貧農青年にも擴大しなければならぬから、學生支の支局を造つてS某と私は専ら労働に集中するやう話がありましたので、S某と私は二人で支局で協議した結果、R支局を造つて之の責任者にY某、S某、U某を依頼して労働青年へ讀者を擴大しようと思つて未だ具體的方針を協議しないうちに檢舉されました。本年一月二十六日の傳單貼り闘争は労働大衆に無産青年新聞のK支局があつて、無産青年新聞を配布してゐることを知らせる目的でS某と協議してやりました。

六、(イ) 私はまだマルクス主義理論を研究する餘地を澤山持つて居ます。主に歐洲大戰後の世界状況やマルクスの資本論及び唯物辯證法の哲學方面を尙一層綿密に研究しようと思つて居ります。

(ロ) 行動的には今後合法的な運動は絶対しないと断言します。今度もかゝる非合法的行動は昨年十一月頃から、ほんの少しの間しかやつて居りませんが、今度考へて非常に輕率なことをしたと思つて居ります。こんなことになるとは少しも考へて居りませんでした。殊に親兄弟等のことをよく考へずによつたことなど非常に悔いて居ります。

科學が出来たのですが、その中の一つの傾向です。現代の社會は資本主義社會でその中に矛盾を含んで居り、その矛盾が辯證法的に發展して進化すると云ふ、社會を動的に見る世界観です。この考へ方が労働者運動の考へ方となつたのです。

資本家と労働者の矛盾があるが、この矛盾をなくすると云ふ考へへで、不合理なる搾取を除く様とする考へになるのです。マルクス主義は學問としては、社會の構成を研究するのです。そして又その構成からして労働者、資本家の矛盾をなくすると云ふ考へが出てくるのです。そしてマルクス主義は生産の共有分配と云ふことに求めるのです。マルクス主義が果して、この様な事が可能かどうかは疑問であります。労働者の地位向上のためにはなると思ひます。

又學問的に云つてもマルクス主義は眞理かどうかは疑問です。規範的なものと自然科學的なものとの關係は、マルクス主義では解決出来ない様に思はれます。マルクス主義は存在の科學で規範の科學ではないのです。人間生活に於てこの二が統一出来るものが、眞理だと云ひ得るので、マルクス主義は労働者の悲惨な生活を記した所には注目すべきですが、暴力を以て凡てを解決するといふことには感心の出来ないものがあつたのです。即ち存在から規範の關係を付けるためにマルクス主義が暴力を手段として持つて來たのですから、非常にこの點だけは非科學的で

某帝大法學部二年 M某(當二十二年)

家 族……………祖父、實父、實母、弟一人、妹二人(内一人庶子)

貧富の程度……………普通

學 資……………父より月額六十圓

健康状態……………中等

性 質……………溫良

一、私の動機は單純でした。高等學校時代からの希望である自然科學的な方面の研究を仕たいために、大學へ入學してからは數學等の書物を讀み、大學の理科等あたりへ轉科が可能なので、昭和四年には再入學か轉科をしようと思つてゐましたが、父の拒絕に會つたために不愉快になつてゐた時に、丁度友人の勧めに依つて社會科學研究會に入る様になりました。

自然科學と云ふ希望は高等學校時代から持つてゐましたが、高等學校時代には運動部の選手であつたために實現出来なかつたのです。社會科學の關心は大學の一年の時には少しは持つてゐました。直接の動機は以上の様なものだつたのです。

二、マルクス主義は社會科學の中の一の世界観です。近代社會學と云ふ

マルクス主義は理論としては一應認められるのですが、暴力革命の點は私は認められません。昔から暴力で成功したのはあり得ないので、私から。そして現在の様に文明の進歩があり、社會の連帶性は否定出来ないのですから、暴力と云ふ非科學的なものを用ひて、科學的になつてゐるものを破壊するのは絶対に出来ないものであり、又さうすることは悪であると云へるのです。

然し實際労働者の實際の状態は非常に悲惨なものであり又野蠻的なものから、これを改良せんが爲には資本家に對して非常な眞面目が必要だと思ひます。而してかう云ふ資本家の心を入れ更へるためには、マルクス主義の理論は參考にしてもいゝと思ひます。原始時代の様な、強い者が勝つといふ時代であれば、暴力的な行動は可能であつたでせうが、現代の様な文明時代の連帶性の離れない時代では、暴力は絶対に否定しなければならぬのです。

マルクス主義の理論の構成は、辯證法的と云つて、秩序立つてゐます。理論としては全くそこに疑問の餘地のない程整然としてゐるのです。實際的の方面に到つては、結局私には賛成出来ないものばかりあるのです。

理論の構成に正當であるものは、必ずしも實際には、妥當ではないのです。



共産制度と云つても、理論では全く難なく出来、立派な制度です。然し實際方面に一度眼を轉じると、全く反対の現象が現はれるのです。私は只、理論的方面にのみ氣をつけてゐたから、理論的に正しいものは、眞理だと思つて居ましたが、實際方面を見る時、全く反対の事に出會はしたのです。

そしてマルクス主義に眞理を見出し得なかつたのです。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟は、共産主義者の秘密結社であります。後の方は青年といふ特別な年齢の差異に基くものです。

此等結社は、社會狀態、特殊事情等を考へずに暴力的に現在の狀態を破壊して仕舞ふと云ふことを目的とする團體です。前述の通り暴力革命は否定するべきですが、食ふに困り、社會連帯から離されて仕舞つた者は、かゝる方向に進まざるを得ない様になつてゐるのです。

そして戰爭反對をやるのです。勿論戰爭は反對すべきです。そして社會は戰爭を排除すべき傾向に進んでゐると思ひます。

賃銀値上げ等の、労働者階級を此方面に煽動するための目的を掲げます。資本家の政府では労働者のために何もしてくれないので、労働者は労働者の政府を作らなくてはならないと煽動します。

そして財産の共有を目的としてゐるから、土地も共産機具の一として生産的な土地を暴力的に没收して生産物にし、之を共有分配するのです。

然し現在の社會は私有財産といふ侵すべからざる基礎の上に、社會連帯は成り立ち、暴力的ではない、文明的な恩恵を受けて平安な生活が出来るのです。この私有財産を否定すれば、それは原始的の生活に歸り、強き者は得と云ふ様な風になり、再び原始的なものになるのです。肉體的に強き者は、さう云ふ状態にあることを好むかも知れませんが、一般普通の人は、現在の社會生活の連帯性によつて、生活出来るのですから、かう云ふことは考へられないことです。理論的に説明して行くと、私有財産も個人主義的に解釋されるので、その個人主義を發展すると云ふ思想になるのですが、實際を考へて見ると、反對であつて、私有財産の上に始めて平安な社會生活が可能なのです。理論的にばかり考へて、私有財産制度の廢除といふ思想に達したのでしょうか、實際的な方面から云へば、この様な考は否定すべきです。

君主制の撤廢は矢張り理論的に、労働者階級に屬しないものは凡て労働者階級であると云ふ辯證法的的發展の結果であるのです。だから労働者にとつて反對物は凡て否定すべきであると云ふ辯證法の説明になるのです。だから君主制の撤廢もかゝる理論から生れたものなのです。是も實際のことを考へると、日本の天皇は、戰爭による強者といふ意味のものではなくて、大和民族の建國者としての意味でかゝる考察は否定されるべきです。

又倫理學的に云つても、社會生活に於ける相互連帯には義務といふ観

念がなくてはならないのです。この觀念は先驗的なものであつて、此の觀念の實在的な最高の表現である服従といふことは、必要であると思ひます。そして吾々の祖先崇拜はその表現であつて、祖先崇拜が天皇と云ふ觀念に結び付くのだと思ひます。

理論的に云つても社會統制の上から支配と云ふことも必要であるのです。この意味に於て、君主制の撤廢は誤つてゐると云へるのです。

私は研究会に居て、實際運動をやつて居る時にも、理論的な方面とか又は政治的な方法には餘り注意せず、たゞ労働者の悲惨な生活が少しでもよくなればと思つてゐたのです。だから政治的なスローガンに就ては明確な認識を得てゐないのです。

四、現在の不景氣な時代に、學生の家庭は次第に、貧困になり、學生の生活は苦しくなつたのです。それに反して、参考書とか、相當の生活必需品等の費用は高價であるし、又教授料も高いが、學校では、たゞ教授が講義文をして學生の經濟上の事を少しも考へてないのでして、學校は經濟上の事は構つてくれなさいのですから、學校に自然反抗的になるのです。そして、マルクス主義に接近したり等するのです。だから學校は、例へば救濟部といふやうなものを、もつと確實な基礎のあるものにし、寄宿舎を擴張する等、經濟上のことに注意すべきだと思ひます。さうしない限りは、學生運動は次第に悪化するでせう。學校は生活上の保證は少しもしてくれないのですから。

以前はマルクス主義といふ思想は、新思想であつたために、直ぐに感化してしまつたのですが、現在ではさうでない様です。要するに之も學生の貧困化から來ることになるのだと思ひます。だから此の貧困化を救ふといふ事は緊急な問題だと思ひます。

最近の學校騒動を見ても、授業料値下げとか等の經濟上の原因が非常に多いと思はれます。學校行政はもう少し實力のある者にしなくてはならないと思つてゐます。學生に講義をして生活上の事を考へないと云ふ事は學校其者を危くするものだと思います。この經濟上のために學生運動は労働者の過激な運動に利用されて、そして益々悪化せしめる様になるのです。そして經濟上の事を考へない限り、労働者運動のために利用されて、憂ふべき現象になるのです。又さうなりつゝあるのではないかと思ひます。

五、社會科學研究会に入つても、研究と云ふことが主なものだつたので、私は研究をしようと思つてゐたのですが、難解だつたので、研究も餘り進みませんでした。そして昭和四年の十月になつて、實際的な事をやるやうに勧められた時に、自分の不利益とは知り乍らも、私よりも進んだ人から勧められた後には、拒絶し得なかつたのです。謙ながらと云ふ不愉快な氣持でやつてゐました。その爲めに、郷里へ歸つたり休暇には早く歸つたりして、謙な氣持を避けてゐました。昨年十月頃迄經濟學の研究ばかりをやつてゐた時には、積極的に研究して見たいと思つて



ゐましたが、十月頃から學内運動をやるやうになつてからは、何時も消極的でした。自分も知らぬ間に深入りしてゐました。で本年の一月になると試験も迫りましたので、その頃からは殆んど、行動もしませんでした。そしてかう云ふ運動から手を引かうと思つてゐました。

六。(イ) 思想的には社會學とか云ふ方面の事は全然やめて仕舞ふと思つてゐます。そして、本来自然科学的な方面に興味を持つてゐるので、その方面のことを家業の暇にやつて行かうと思つてゐます。

(ロ) 行動的には來春は大學が卒業なので、その後は父も老いてゐますので、家に歸つて、父の手傳をしようと思つてゐます。それが不可能でしたならば(父が家を見るに充分でしたなら)實業界へ入りたいと思つてゐます。

一一一

某帝大法學部二年 K某(當二十三年)

家 族……………父亡、實母、兄一人、  
 第二人  
 父兄の職業……………農 業、小 地 主  
 貧富の程度……………普 通  
 學 費……………家庭より月額四十圓  
 健康状態……………強 壯

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情。

私は性來讀書が好きであつた。高等學校二年のはじめ、始めてマルクスを讀んだ。その論理の精緻が、とてもヴィヴィッドに私の若い頭に刺戟を與へたらしい。だがそればかりであつたなら私は敢てマルクスにのみ止まらず、カントにもベルギーにもリッカートにも深入りしたに違ひない。然し私はとてもセンチメンタリストであつた。貧しい人が私の胸裡から離れたいものとなつてゐた。たゞお金があるといふことその事丈が何故に人格上の差別をも生ずるのか、私の若い心は甚だしい人道的義憤に燃えてゐた。このセンチメントを快く、しかも理論的に満足させてくれるのはカントでもなくソクラテスでもなくマルクスであつた。高等學校生活を經驗した者が誰しも味つただらうペダンチックな理論構成が私を他愛もなくマルクスに走らしめた。そして社會の事象が——橋の下で土管の中で雨露を凌ぐあはれな人々と、帝國ホテルのシャンデリアの輝きにシャンペンをあふつてゐる人々との對立——私をマルクスに走らしめた。かくて要するに私は私の持前の人道主義的センチメントを合理化する有力なる武器としてマルクスを選んでしまつた譯だ。私はマルクスを生々しい生活それ自體から知つたのではなく、要するに概念の遊戯——一つの享樂から覺えてしまつたのだ。このことは私の「マルクス主義」生活に明確なる限界を與へることになつてゐるのを、今日に至つて

明らかに自覺してゐる。

二、マルクス主義(共產主義)に對して如何なる考を持つてゐるか。

一に答へた事が消極的には既にマルクス主義に對する私の考へを表現する。併し私は今更に具體的にその考を述べなければならぬ。私のマルクス主義に最もひかれるのはその論理の透徹せること、その理論構成が極めて哲學的であることである。殊にその方法論に至つては今迄の哲學の綜合的最高水準として敬服してゐる。併し私の敬服してゐるのはその哲學關係に殆んど限られてゐる。經濟學説はマルクスの根本學説ではあるが、私は經濟學を除き好まないからその點については多く知らない。殊に政治問題、就中革命論國家論に對しては理論的には兎も角幾多の疑點を持つてゐる。まして民族問題、國家消滅問題等に對するマルクス主義の説明に對してはアンテイ、テーゼをさへ提出せざるを得ない。

かくて私はマルクス主義を斯く見る——即ちそれが理論に關する限りに於いて、殊に哲學的方法論の問題としては強大なる力を持つ。併しそれが現實との關連に於て把握されるためには、尙幾多考ふべき餘地あるものである。即ちマルクスの民族意識國家意識等の問題は私に言はしむればその現實との關連に於て寧ろ誤謬をさへ侵してゐると思ふ。この私の考へは戰略戰術等の問題(この事については私は殆んど知らないが)について最も適切に言はれ得ると思ふ。近い話では河上博士大山氏等の運動がそれを雄辯に語るものと思ふ。又共產黨員が殆んど二十代の青年で

ある事なども這個の事情を暗示するものでないかと思ふ。

三、日本共產黨、日本共產青年同盟に對して如何なる考をもつか。

この間に答へる前に先づ日本共產黨、日本共產青年同盟の具體的存在が明にされる必要があると思ふ。私は聴取書にも書かれてゐる通り無産者新聞、無産青年新聞等を讀んだ事がある。これらの新聞は堂々と黨又は同盟のスローガンの下にその浸透を目的としてゐる。この事情よりすれば、黨又は同盟は存在するか否かである。即ちその勢力等の問題は知るに由ないが、或はさかんに法網を潛つて存在してゐる如くである。かくて私は黨又は同盟に對してそのスローガン等についてのみしか知る能はない。従つて如何なる考へも持ち得ないわけである。たゞその存在を承認するとしても、極めて非合法的存在と云ふに止まり、國法を侵してまで存在する黨が果して日本國民のためのものかどうかは問ふまでもなく三才の兒女にも明かと思ふ。

(イ) 君主制の撤廢。黨のスローガンとして之が掲げられてゐるか否かは私は、はつきり思ひ起せない。然し之を黨のスローガンなることを一應承認してそれに對する私の考へを述べるならば、私はこのスローガンに對しては絶対に反對である。

二に於ても述べし如く私はマルクス主義の民族問題、國家問題に對する説明に對しては反對してゐる。私は日本の國體が宗教的な、或る意味に於ては藝術的な香氣を持つてゐるものであることをどうしても否むわ



けには行かない。萬世一系の君主——この事に對する近代的な科學的説明はどう主張しようとも私はその説明を超えた所謂「聖」的なモデルを味ふ。科學と宗教との關係については問題は別であるが、兎に角科學以上の宗教的情緒が日本國民を支配し、その結晶こそが萬世一系の君主制だと信ずる。日本共産黨が君主制の撤廢を掲げたのは全くロシア等の歐米各國の君主制と日本の君主制との質的區別を把握し得なかつた、極めて誤れるものだと思う。一步譲つて日本共産黨の爲に云ふも、このスローガンあることによつて日本共産黨は日本に於て勢力を持つたための大障害となることゝ信じて疑はない。これにつけても共産黨はコミンテルと明確に手を切つて國情に即した運動を繼續すべきだと思ふ。君主制は日本に於ては儼然として動かない。君主は日本に於ては常にアルファであり又オメガである。

(ロ)土地没收のスローガン。土地没收と云ふことは私には具體的には分らない。極めて漠然たる考へではあるが地主の土地、官有地を沒收してそれを共産主義的に分配するのではないかと思ふ。それならば共産主義の歸結としては背かれる。然しそれを直ちに日本に適用する事については考ふべき餘地大にあると思ふ。

即ち土地没收後の經過等について人間的考察を試みる時思ひ半にすぎるものがあらう。共産主義の戦術について私の常に嫌らないのは妥協を敗北と考へることであるが、土地没收等についても私有財産制の今日か

ら妥協して行く事によつても土地没收と同じ結果を將來出来るではないか。私は黨のスローガン等について素より詳細な意見を持ち得ず、第一スローガンの意味そのものが漠たるものがあるのだから、多くを云ひ得ないが、尠くとも私は以上の如く考へてゐる。

以上一、二、三、等に共通に關連してゐることであるが、マルクス主義に所謂革命については實に色々な意味に於て肯定出来ないものが多し。「議會主義」が何故に誤れるか等の説明は餘りに感情的であり、然も感情的であるにも拘らず、「人間」と云ふものへの洞察を缺くものではないかと思ふ。マルクス説は革命説によつて完成したとレーニンが云ふが私はカウツキー等と共にマルクス説は革命説によつて自殺したと云ひたい。

四、學生の左翼運動に對する考へ。

「學生は學生の手で」私はこの標語を支持する。成程學生にも抑壓と壓迫とはある。あるからこそ學生運動が起るのである。併しこの學生運動が左翼運動と提擧せねばならぬとの理論は構成され得ない。「學生は學生の手で」學生としての自由は職ひとられる。それ以上の自由は國民としての境を越えるだらう。國民は國家に統制される。學生は國民である。だから學生には少くも國民としての不自由はあらう。この不自由は國家を認めるものが認めて、それに従はねばならぬ不自由である。

併し學生も國家を認めず共産主義の革命説に賛成するならば學生の左

翼運動は承認されよう。だが、私は上來述べた事によつて革命説に異みしないが故に、學生の左翼運動にも亦與みすることは出来ない。併し學生に不當なる不自由を強ふるものに對しては「學生は學生の手で」闘争して自由を獲得する學生運動は支持すべきだと思ふ。もし學生運動が左翼化するならば、正當なる學生の要求を要求する學生運動までが蹂躪されることとなり、結果的に見て學生自由擁護の一大害ともならうと思ふ。

五、是まで如何なる意識の下に左翼的行動をして來たか。

「一に於て述べし如く私のマルクス主義への關心は「理論への如何」から出發した。併しマルクス理論はマルクス行動なしには有り得ないと云ふ理論に私ははたと行き詰つてしまつた。私はこの行詰りの前に立つて、たゞウロ／＼した。何等定見がなかつた。その中私は大學の研究會組織に入ることにし、私の意識とは相談することなしに左翼運動——ピラ貼りをしてしまつた。かく見れば左翼運動——ピラ貼りをしたといふことは私が大學の組織へ入つたと云ふことと密接な關聯があることとなるから、私はこのことについて反省してみねばならぬ。私は大學の組織へ入つた——私は勿論左翼運動に進出しようとして入つたのではない。たゞ個人では出来ないヴィヴィッドな理論的な研究が出来るかと思つて入つた。組織に入つて研究會を持ち經濟學を研究することによつて私の期待は幾分報ひられた。私はこうして今年の一月までマルクス理論を勉強して來たのだ。この一月の終りに私は、今から思へば實に馬鹿な事をして

しまつた。それは左翼意識なくして左翼行動をした。もつと分り易く一般的に云へば意識なくして行動した。更に考へなして動いた。

私はもう何事も云ふ元氣はない。考へなして動いた。——子供だ。馬鹿だ。それが兎にも角にも帝國大學の學生ではないか、私は愧ぢらうて面も上げ得ない。同じ國法にふれることをしても信念を持つてした人はどれ程偉いか知れない。然るに私は信念なしに只動いたのだ。義理とか人情とか云ふ兒女の情に支配されてしまつて自分の一生に汚い一點を印してしまつた。私はどの面をさげて母や兄弟や友人に見えることが出来る。私はつく／＼自分の人間の弱さに參つてしまふ。左翼とか右翼とかの問題は姑くはなれて、信念なしに行動する事が如何につまらない事であるか。

六、今後の方針。

(イ)思想的。私は上來述べし如くマルクス説に對しては哲學的理論の範圍内に多大の興味を覚えてゐる。だから今後も讀書を唯一の趣味とする私の生活では、マルクス説を全然顧みない譯には行かないだらう。私はヘーゲルのデアアレクチックとマルクスのデアアレクチックの問題の哲學的關聯を實務の傍らやらうとも思つてゐる位だから、思想的には尙マルクスとも縁があらうと思ふ。併しこの頃私は日本古代の藝術を完成したあの日本精神に痛く心を引かれて來てもゐるから、勢ひ日本文學の文獻を漁ることになり、この事はマルクス思想と日本思想との融合に對して少



くとも私一人にだけは期待してい、或ものをもたらしにくるのでないかと思つてゐる。

私は運命論者らしい。然も科學者らしい。私は去年の末も打迫つた二月の午後、第二教室の壇上に立つた××博士を思ひ出す。博士は歴史は靜かに、人は急激に進行する、その間にある人間の個人の力等は何と微々たるものか、歴史の必然的なコースに沿つて自分の運命を開拓し、そこから生れた或ものを次のゼネレーションに傳へて行く、私はこの闘争の世の中にあつても尙晏如として研究室生活をしてゐる、と人生觀的な眼を輝せられた。私も書齋人らしく生み付けられてゐる。私はメフイストフェレリスに嘲弄されたつていゝ。青い緑の野原のあるのも忘れて思索の道を歩まう。道ばたに咲く花には、レーニンの革命思想の花粉もあらう。スピノーザの靜觀的な小百合もあらう。私は全ての花を手折つて、時にはあくどく、時には淋しく書齋の一輪さしにさしてながめよう。私の運命は定つてゐるのだ。歴史は私をのせて必然のコースを進んでゆく。

(ロ)行動的。私は個人主義を克服出来ない。又それを愧とも思はない。組織の中にある事は私にとつて苦痛である。今回の事件を契機に義理人情を云々せず、勇敢に身一つにならう。私の様な人物が組織の中にあることは組織のためにも悪いことであらう。私は個人主義を讚美はしない。然し性格的に個人主義的である者の運命の淋しさにたえて行ける

丈の生命力はある筈だ。私は平凡に徹したい。平凡に徹し得る時、始めて一人前の人間となり得る。とは菊池寛の言葉であるが、私はそう思ふ。

郷里で私一人を心淋しく待ち侘びてゐる老母は私の心の糧である。私は老母の心の糧である。私は「法學生」となつて(一)老母と暮らすことに満足出来る人間だ。要するに性格だ。運命だ。歴史を動かす人々も亦性格と運命に操られてゐる。私は心すなほに生きよう。

一三

某帝大法學部一年

S某(當二十三年)

家

族……實父、母(後妻)、實母亡、

兄一人、

父兄の職業……製絲業、兄は醫師

貧富の程度……富 裕

學 資……父より月額四十五圓

健康状態……虛 弱

性 質……溫和、冷靜、理智的

一、×大に入學當時は、將來司法官としての生活を送り度いと考へてゐた位で、マルクス主義に就ては殆んど無知でした。

それが、之を研究する様になつたのは、次の事に端を發してゐるので

す。

去年の五月の或日、先輩が歓迎會を開いてくれるから出席する様に、と友人に勧められて出席しました。その席上で當時經濟科の二回生D君が、此の歓迎會は我々××高校を前年度卒業した者が集つて作つてゐる××會が主になつて開いたのであること、亦××會の性質は、一週一回位各自が集つて同高校卒業生としての友情を温めて雜誌の論文等の批評をやつて行く會であると云つて、此の席に出席する人は、全部××會に入る様にと勧めました。

私もその會員となつて、一週一回位その集りに出席して見ました。最初は「改造」の安部氏の論文の批評をやりました。二回生の人々は、マルクス主義の立場から安部磯雄氏の論文を批評しました。私は以來だん／＼と二回生の人々の説に興味を感じて來ました。六月の初頃同じく××會の會員である、二回生のS某氏に、×大内の社會科學研究會のあること、××會は社會科學研究會に入させる前に、マルクス主義的な教育をする所であると云ふことを聞かされました。私はもつと、マルクス主義の理論的な研究をして見たいと思つて、研究會に入ることをその時承知しました。

二、現代の資本主義社會には幾多の缺點があり、社會的な矛盾が含まれてゐる。此等の問題に就ては何等かの解決を見出さなければならぬ。

マルクス主義は、此等現代の社會的矛盾を克服せんとする一の理想で

あると思ひます。

三、日本共産黨及び日本共産青年同盟はマルクス主義の理想としてゐる點に於て肯けますが、民族の傳統を忘れ、一民族に於て成功した方法を此と全く異なる歴史、思想、感情を持つてゐる民族に用ひる彼等の方法には、初めから疑問と不満を持つてゐました。

君主制撤廢及び土地沒收等々の、舊來の民族感情とかけ離れたスローガンを始めから何故掲げる必要があるか、何故何等かの方法で此等過激なスローガンをヴェイルで覆ひ、國民感情との妥協を示し得ないのか等に就ては不満を持つてゐました。君主制度も土地私有も、モット／＼その撤廢の必要が迫つた時代(その時は直ちに此等のスローガンも國民感情とは遠く離れたものではない)が來て初めてその正當さが認められるものであります。

四、學生が極左運動をすることは理論的に云つても矛盾があると思ひます。

如何にプロレタリア的な意識を獲得しようとしても、生活に於てプチブル的である以上は、没落は時の問題にすぎないと思ひます。

それで學生として極左運動をやらうとする者は、運動を止めて學生として止まるか、又は一切の絆を断ち切つて學生々生活を止め、生活的にも失ふ可き何ものをも持つてゐない様な境遇に身を置いて初めて、運動に入るかの、何れかに道を選ばねばならないと思ひます。



この決心のつかない者が學生として左翼運動を續けても哀れな結果に  
なるばかりと思ひます。

五、私の初め研究会に入つた當時は、只研究丈をしてゐれば良い様な地  
位にゐましたから、希望通り研究のみを續けてゐましたが、次第に研究  
會は理論より實踐を重んずる様になり、私も大勢に引きづられて行きま  
したが、二學期の末頃から漠然とながらも、前述の様な矛盾に直面し、  
學校を止めるか、運動を止めるかの岐路に立つてゐることを自覺して來  
ました。然し未だハッキリした考もなく三學期になりましたが、研究會  
の運動は漸次活潑となり、私も行きがより上その一端を受け持たなけれ  
ばならない様になつて來て、前の問題は一層切迫したものとなつて來ま  
した。

私は私の全ゆる事情から考へてプロレタリアの闘士たることの不可能  
を知り、又同時に黨の手段にも幾分不滿を感じてゐた時でしたから、極  
左運動とは手を切らなければならぬと考へる様になりましたが、約一  
年の間、研究会に出席してその方面の知人も多く出來て、今直ちに研究  
會から手を引くと云ふことは、私には出來ませんでした。然しズル／＼  
として居ては、深入りするばかりと思ひ、學期試験の終り次第郷里に歸  
り、來年一年間は家で法律の勉強をして、辯護士資格を取る様に決心し、  
父及び兄にその旨に就て了解を得る手紙を出し、一方研究会内で私の持  
つてゐた仕事を次第に他人に譲り單純化して行きました。

六、黨の手段、特に目的のためには、手段を選ばぬと云ふ點で感情的に  
不滿を抱いてた一方、自分がプロレタリア解放運動の闘士としてその一  
生を送ることが種々なる點よりして不可能なることを自覺して極左運動  
からは手を引く考であることは前述の通りである。  
然し現代社會の種々な矛盾に就ては何ともしなければならぬと云ふ  
考は持つてゐます。將來は合法的な左翼運動に入るつもりです。その第  
一步として辯護士資格を取るために在學中は法律の勉強を主にやる考で  
す。

マルクス主義の研究は、團體に入れば知らず知らず自己の意志以外の  
こともしなければならぬ様になるから、一人での研究は兎に角研究團  
體には入らない考です。

一四

某帝大法學部一年 K某(當二十四年)  
家 族……………實父母、兄及弟各一人、  
姉及妹各二人(妹一在家)  
父兄の職業……………農 業  
貧富の程度……………資産七八萬圓、富裕  
學 費……………父より月額四十五圓  
健康狀態……………強 壯

性 質……………剛 直

一、マルクス主義を研究するに至つた動機は別に殊更に取り立てて申上  
げることもない。初は唯好奇心から社會科學の一般智識位を知る事は現  
代の墮落し、腐敗せる學生より一歩進歩した事であり、其が有意義に、學  
生々活を送り、引いては、社會の狀態を一層明確に知ることが出來ると  
思ひました。然も現代社會に於て、奴隸的に賣買されてゐる藝妓妓等、  
日本の世界に一等國として優れてゐる點が見出せない程、僕等に缺點が  
見出された。然も其等が、一般の書物からは何等其等を知る事が出來な  
かつた。其故に一層社會科學、然もマルクス主義に對して、徹底的に理  
論的に、研究し、以て一般正統科學の短所を補ひつゝ、目的を持つて研  
究しました。然も學問的態度としても、最高學府である以上、當然研究  
して、世界的の經濟關係及び狀態を知る事が最も急務であらうと思つて  
研究しました。

二、マルクス主義即ち共產黨は、現代の資本主義組織の下に於て、一方  
に於て、金權萬能主義的に、高層社會の人々を見ると、子供が腹に居る  
時からお目出度き微笑と云ひ、生れると、錦と美食を以て育てられ、其  
が社會的に何等有意義なる仕事をなす事なく、單に一生を通じて、小供  
でも多く作るが繁昌であり、子供がないのが不幸であるやうな生活をし  
てゐる人が多くある。其の様な大金持になつた動機及道程が其相當の根  
據はあるのでせう。

然し時代と共に益々勞働者、資本家の相違が甚しくなつて行くことは  
事實である。一方勞働者即ち無業階級は如何にして出來て來たかは、資  
本論、其他マルクス主義的理論の本に譲るとして、現在の彼等の生活  
は、小供の時はいく小屋で生れ、小さい時より母の手で育てられず(何とな  
れば母は工場へ行くから)不幸なる子供は、僅かの金を付けて商品とし  
て賣り出されてゐる。然も父母は充分働いてゐながらです。併し或者は  
云ふであらう、勞働者は一日に二圓も當るから、年に六百圓、之で生活  
は出來ないと。然し人間は年中働けるものではないし、病氣にかゝる。  
特に資本家の手により過勞をさせられるのであるから、尤もの事であ  
る。其故に、その生活は、考へるだに、涙の出る程である。然も勞働者  
は何十年たつても、恩給が付かなく、年老いて子供がなかつたら、如何  
なる生活をなして行くのか。又現代に於て、風紀を亂す者として、此の  
世の中に、人間とされず、奴隸的に賣買されてゐる藝者妓女は勿論言を  
待たず、カフェエの女給を見よ、彼等は何故に賣られて來てゐるのか、彼  
等の親は働かないのか、又人間心がないのか、否、決してさうではな  
い。皆自分の乳で育て食ひ暮の中から育てた可愛い子供である。(他人  
の乳で育てる貴族の子供は如何なる可愛さがあるにしても、その可愛さ  
は幾分の一である)此等を考へてみると、その可愛い娘を賣る事に就て  
は必然の止むに止まれぬ事情、即ち社會的缺陷である。(此に就いては社  
會科學の著書は充分に説明してゐる)其のカフェエの女給が現今の資本經



濟制度のカフェでは如何なる態度を取られてゐるか。月給は僅か五圓である。其で何が爲せるのだ。或者は言ふ。夫はチップで金が取れる。然し一般の人は、男の關心をこふ事なくしては、何ももらへない。さうすると、従つて風紀を亂すやうな事になつて、警察に調べられる。然らば如何にして生きる事が出来るのだ。自分の生活の爲めと、他の罪を犯すであらう。さうして、一層暗き生活、否自殺を爲す人の如何に多いかは識者方の知る處でせう。果して正當な立場より見て、人間の心を持たぬ者は別として、苟くも人間の血を受けてゐる者は決して彼女を悪いとせずして社會を呪ふであらう。僕等は決して社會を呪ふて諦める人間ではなく、唯物論者はあく迄も腐敗したる社會は徹底的に改革しようと思つてゐます。之は單なる社會の一面である。其を以てしても勞働階級無産階級は此の中の原動力なる生産道程に立ち乍ら、如何に慘な事であらう。其をマルクス主義即ち共產主義は僕の淺學では其の一部しか知る事が出来ないかも知れぬが、然し其は、生産機關の中心である勞働者農民の主權の下に立つ立派な國が出来たら、今よりも一層經濟的より来る見苦しい闘争がなくなるでせう。其故に、或程度迄正しいのでないかと思ふ。又此を單に學問的見地より見ても、學問と云ふものは、其時代の社會狀態と共に發展する單なる社會の反映に過ぎぬ。其は歴史哲學的に見ても封建時代の學問は決して或程度迄しか進み得ない。其は建物と土臺の關係のやうなものである。單なる石の土臺に、洋館は立たぬ。其故學問の

進歩は、社會の變革ありて初めて進歩するのである。其は明治維新より資本主義的學問は如何に進歩した事であらう。其は無學の九十歳の人でも時代が變つたと云ふ事は知つてゐる。

併し資本主義の末期と共に、資本主義的型の學問は最早や形式科學となり、實踐的實現的方面をとり去らうとしてゐる。さうしてブルジョア型の學問も一大改革命期に至り、コペルニクスの轉回を爲さんとする。此は單なるマルクス主義ではあるかも知れぬが、歴史的に又科學的に、理論的に見て、少くとも名譽心に捕はれた學者を除けば目的の理論である。而して資本主義の後に共產主義社會が来るかどうかは今の處では、世界の一角に見出されてゐるばかりであるから、其は現在の自分の考では、充分断定出来ぬが、社會の變革と共に、學問は進歩する事は、あたかもコンクリートの土臺の上に、洋館が立派に建つと同じく、立派な社會組織の上に初めて其反影なる學問は出来るものと信じます。其故マルクス主義的理論は或程度迄、新興階級無産階級の上に立つ社會主義社會、共產主義社會の上に立つ進歩的科學と云ふ事が出来る。此は單に未熟な僕の説明による誤謬であるならば、潔く誤謬を清算します。

三、日本共產黨、日本共産青年同盟は最も無産階級の眞摯なる要求を、最も明確なる階級意識の下に、此を實行せんとする無産階級の頭である。其故無産階級に見るならば、此は黨として無産階級より、此の社會が構成されてゐるのでないから、其は極端であり、一方的かも知れぬ

ぬが、現在に於て此の如き黨は、出来るのは正しいか否かは別として階級對立のある間は決して黨が無くならないと思ふ。

君主制に對しては無産階級より見たる黨とは兩立しない事は三歳の子供でも知つて居るのである。併し僕は決して黨の如く一方的に見たくなから、現在に於ける君主は別に社會の害を爲すとも考へられぬから一方的に之を撤廢すると云ふ共產黨の唯一のスローガンは其の内容を知ることが出来ません。

土地没收と云ふ事も現代の日本の資本主義的過程に於ては未だ早い様に思はれる。(無産階級の立場に見ても)其故マルクス主義的見解の土地没收の意味は充分わからず、かへつてそのスローガンは誤つてゐると思ふ。其は遠大なる理論を把握してゐない爲か、又、それが誤つてゐるか、事實は證明して進むでせう。

四、學生の左翼運動は單なる理論上の運動であり、其以外に出ないと思ひます。其は黨の如き立派な階級を地盤とするものではない、只口先丈で左翼的になるに過ぎぬ。其は單に地盤なき、砂上の樓閣です。少し弾壓を受けると、直ちに方向轉回します。其はインテリゲンチヤの大立者大山氏、河上氏の態度を見ても明かです。其は、自分は其の階級に立つて居らぬからです。まして現代の如き學生運動は、學校を出ると大多數は、影もなく消える事は事實です。其故學生運動は單なる過渡期の產物にして口先丈の黨の支持者であらう。其故黨は之と斷然手を切る時代も

進歩は、社會の變革ありて初めて進歩するのである。其は明治維新より資本主義的學問は如何に進歩した事であらう。其は無學の九十歳の人でも時代が變つたと云ふ事は知つてゐる。

併し資本主義の末期と共に、資本主義的型の學問は最早や形式科學となり、實踐的實現的方面をとり去らうとしてゐる。さうしてブルジョア型の學問も一大改革命期に至り、コペルニクスの轉回を爲さんとする。此は單なるマルクス主義ではあるかも知れぬが、歴史的に又科學的に、理論的に見て、少くとも名譽心に捕はれた學者を除けば目的の理論である。而して資本主義の後に共產主義社會が来るかどうかは今の處では、世界の一角に見出されてゐるばかりであるから、其は現在の自分の考では、充分断定出来ぬが、社會の變革と共に、學問は進歩する事は、あたかもコンクリートの土臺の上に、洋館が立派に建つと同じく、立派な社會組織の上に初めて其反影なる學問は出来るものと信じます。其故マルクス主義的理論は或程度迄、新興階級無産階級の上に立つ社會主義社會、共產主義社會の上に立つ進歩的科學と云ふ事が出来る。此は單に未熟な僕の説明による誤謬であるならば、潔く誤謬を清算します。

三、日本共產黨、日本共産青年同盟は最も無産階級の眞摯なる要求を、最も明確なる階級意識の下に、此を實行せんとする無産階級の頭である。其故無産階級に見るならば、此は黨として無産階級より、此の社會が構成されてゐるのでないから、其は極端であり、一方的かも知れぬ

来るでせう。其故僕としては自分自身の態度かも知れぬが、左様に考へます。

併し一部では勇敢な者も出て居る様ですから、一概に云ふ事は出来ぬかも知れないが、大體に於て、さうです。

五、僕の之迄の意識は單に前述したやうに餘り左翼的理論を説明したと大げさな事は言へない。其故に、其の運動も單なる説明心のためです。さうして左翼運動の意義を充分に理解せんがために、行爲して來ました。行動と云つても、説明位だから、悪い程のもので、左翼運動とも云へないかも知れぬ。

併し社會科學を説明してより、社會的缺點等に就いて、判然たる意識を得た様に思はれる。其故意識も未熟である爲め學生運動でも理解出来る事が多かつた。

近頃では學生運動は意義の薄弱なものである事も知りました。其は實際行動に於て充分に明かです。

六、僕は思想的には未來の事に就ては確實に云ふ事が出来ぬが、少なくとも自分等は今は學生でもあり社會の事に就て知識も不十分であるからマルクス主義と同様に他にブルジョア科學も同様に説明して行かうと思ひます。併し今迄の様に秘密的に結社的ではなくして個人的に説明して行きたいと思ひます。併し今迄はあまりにもマルクス主義的のばかり説明した爲めに今の自分の考へに偏な傾向を取つたかも知れぬから其故十



分に注意して他の諸科學を説明して行きたいと思ひます。行動的には全然社會狀態を觀察するに止め、一切の左翼運動及反動主義的行動をもとらない決心です。唯社會は如何なる道程を辿つて變化しても傍觀します。此はインテリゲンチヤの(未熟)最後の過程であるが仕方がない。僕は最後に一言しておきます。社會中資本主義的社會が變化されるか否かはわからぬが、如何に頭がよいと思つてゐても他人のを批判する先に自分は如何なる地位にあるかを十分批判する事なくしては、決して明瞭に他人の主義なり行動を批判する事が出来ぬ。此はマルクス主義より得たる僕の最大理論であり、最後の收穫である。

若しこの文を讀まんとする者は最後の此の一句を決して見殺す事なく十分注意して頂き度い。

一五

某帝大法學部一年 K某(當二十五年)

家 族……………實 父 母、弟 八 人  
 父兄の職業……………元 官 吏  
 貧富の程度……………普 通  
 學 資……………實父より月額四五十圓  
 健康狀態……………強 壯  
 性 質……………溫和なれども稍放縱

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情如何。  
 私がマルクス主義を研究するに至りましたのは現在の世界的思潮に促されて居る點もありますが、最も夫れを研究するに至つた動機の重要なものは、現在の朝鮮が日韓合併後に政治的には何等の權利なく經濟的には日に衰退し、加ふるに總督官吏の無暴なる彈壓と日本内地より移住せる資本家及び半官半民的の金融機關の直接的又は間接的搾取による一般の民衆が貧窮し行く現象を見た場合に、又私の一家の經濟的破滅の經過よりしましてその貧困の體驗は益々深刻化して行つたのであります。斯く朝鮮に於て中産階級の急速なる没落と農村の疲弊並びに滿洲、シベリア、日本等に食を求めて毎年流浪する幾十萬の貧困大衆を見た時、私は現代資本主義經濟組織を批判究明したくなつたのであります。高等學校時代になつて此の考は益々鋭くなり、當時より日本を風靡しつつある新興科學たるマルキシズムに興味を持ち、爾來その研究をして來たのであります。

二、マルクス主義(共產主義)に對し如何なる考を持つて居るか。  
 私が今迄習得した學校教育の力を以て數年間マルクス主義を研究したその限度内に於ては學術的に又科學的にはその眞理たるを疑ひません。

三、日本共產黨、日本共產青年同盟に對して如何なる考を持つて居るか。特に、(イ)君主制撤廢 (ロ)土地沒收のスローガンに就いて、日本に於ける黨及同盟に就きましては餘りその詳細も知らず又その是

非等につき批判を加へる程の眼識を持ちません。元來マルクス主義と云ふ原則原理を一應把握したるにしても、現在の狀勢の分析、從つてその戰略戰術につきては特別な知識を要するのですから、何等未だ定見を持ちません。

又君主制の撤廢土地沒收のスローガン等は實に困難な問題でありまして、現段階に於ける此のスローガンを掲げることの當否を知りません。未決定ながら、或は時期尚早ではないかと思ひますが、適確なる事は申されません。

四、學生の左翼運動に對して如何なる考を持つて居るか。

學生はその物質的基礎より見て又その社會的地位より見て眞實の無産階級運動を構導する事は勿論、それに據はる事は一般的には不可能と思ひます。併し特殊な人の特殊な場合は別でありませう。從つて學生の左翼運動には非常な制限あることを知らねばならないと存じます。結局研究的宣傳の域を超ゆることは困難であると思ひます。

五、是迄如何なる意識の下に左翼的行動をして來たか。

別に確乎たる意識の下にやつたわけではありません、又大した運動もやつて居ません。唯自分が研究した理論に從つて比較的先づ自己一身の生活からでもマルキシスト的たらしめんとする努力即ち眞面目な生活と學術的研究の精進をして來ました。又一面一つの組織の中に於てそれに關係すれば意識的と云ふよりも却つて情實的關係で引きづられてやつた

ことが多々あつたことを存じて居ます。

六、今後は如何なる方針で進まんとするか。

(イ)思想的には或る程度迄はマルクス主義の研究(單なる理論的)としてもいふと思ひますが、より廣汎なる意味での社會科學の研究に進みたいと思ひます。

又私の専門的學科たる法律の研究にその大部分を費したいと思ひます。つまり法律を社會科學的に研究するの興味多いことと思ひますから、そう云ふ方面にエネルギーを使ひ度いと存じます。

(ロ)行動的にはマルキシスト的長所たる勤儉冷靜な態度で生活し、合法的活動は一切止めて専ら合法的啓蒙的運動をしたいと思ひます。併し此は學術的研究をした後の時間でやるつもりで、學術的研究を主に行動を従にしたいと存じます。今日の知識階級の大部分は單なる啓蒙的運動をするに止まると存じますから、私は一知識階級として自己の能ふ限りの任務を果せば十分と存じて居ります。併し現在自分は學生であると云ふことを何時も念頭に置いて行動する覺悟で御座います。

一六

某帝大法學部一年 Y某(當二十一年)

家 族……………實 父、母 後妻 本人 長男  
 父兄の職業……………農 業



貴富の程度……………普  
 學 資……………父より月額四十圓  
 健康状態……………普 通  
 性 質……………眞面目、操行善良

### 一、マルクス主義を研究するに至りし動機。

私が高等學校の三年であつた時(昭和三年)六月に同盟休校がありまし  
 た。盟休の原因は應援團の存続説と廢止説とに關してであります。校友  
 會として××會と云ふ會がありました。この××會の總務二名が應援  
 團問題の爲め運動部選手二名に敵られたのが大きな問題となり、××會  
 の自治擁護と云ふスローガンを根本要求として盟休に入りました。

このストライキの終つた後私の級の總代が處分になつたので私が代り  
 に選舉されました。總代と云ふのは級の代表者の様な役目を務めるので、  
 成績の良い方のものが任命されるのが普通です。當時私の級は非常に左  
 翼的分子が多く四十名近くの人員の内、所謂意識的な反動的な思想を有  
 する二名の級友は級友としての交際を斷られ除名された位です。私は級  
 の者から前の總代の様に勇敢に級の意見を代表して欲しいと度々説かれ  
 て決して卑怯者と見られない様な行動をやりたいと思ひました。

私は級の色々の決議(處分取消要求書、軍事費公開要求書等)や大小の  
 不平不満を代表して學校當局へ交渉に行つてゐたが、其等の決議をする  
 際の級友の活潑な討論を聞いてゐて皆が非常に元氣なのが羨しい様な氣

持が致しました。そして彼等が次から次と問題を惹起するのが大部分左  
 翼的な立場から説かれてゐるので、私もマルクス主義を研究しないと級  
 友の云ふ事が分らず、自分一人取除けられる様な氣持がして少しでもよ  
 いから讀み度いと思ひました。

その中級友の一人が不意に私の自宅を訪問してマルクス主義を研究す  
 る様にと熱心に説いたが、その時彼がしきりに學校の勉強ばかりこつこ  
 つやつてゐる者に大したもの居ないと云ふので、私は氣まづい感じが  
 して、それでは自分も學校の成績なんか一生懸命にならないでマルク  
 ス主義の方を讀むからと云つて了みました。そして彼から書籍を借りた  
 り指圖して貰つたりして個人的に研究を始めました。

### 二、マルクス主義に對して如何なる考を持つてゐるか。

マルクス主義はマルクス、エンゲルスによつて創唱された一つの科學  
 的な理論體系で、それがレーニンによつて實踐的な戰略戰術を加ふるに  
 至つたと思ひます。

マルクス主義は資本主義社會の後に共產主義社會の實現する事が必然  
 的であると説くのがその根本的な主張と思ひます。

私は共產社會の實現の必然性については判きりわかりません。マルク  
 スもたゞその必然性を主張したのみで何故に必然的であるかと云ふ事を  
 科學的には展開してゐないのでないかと思ひます。

私は友達と議論しても、何故必然的に共產社會が實現するのかと問は

れても満足に答へられませんでした。

然しマルクス主義の科學的基礎となつてゐる辯證法的唯物論には正し  
 い部分が多分にある様に思ひます。

唯物論と唯心論とを比べて見た時、私は唯物論が正しい様な氣がしま  
 す。レーニンがその著書の、唯物論と經驗批判論の中で地球は人類の生  
 存以前に存在してゐた事を擧げて、人間が考へるから物質が存在するの  
 ではなく、物質の存在が人間の意識を決定するのである、即物質が主であ  
 ると説いてゐるのを讀みました時、成程唯物論が正しいと思ひました。

辯證法はしつかりとは理解してゐませんが、兎に角面白いものと思つ  
 てゐて、之を充分理解したいと思つてゐました。

それで私は辯證法的唯物論は非常に研究の價値があると考へて、學徒  
 として理論的に批判的に研究し様と思つて努力して來ました。徒に無批  
 判的に之を狂信するのは非常に悪いと思ひます。

私は高等學校にゐた時は研究のみならば差支へないと學校當局から言  
 明された事があつたので何等狭い思ひはしないで研究しました。然し何  
 等の組織にも入らず、又何等の實際運動をも爲さないで個人的に讀書し  
 ました。

現在でも私はマルクス主義の正否を斷定する事は出来ません。この方  
 面の書を澤山讀んで十分先づ理解し様と思ひつゝも、書物はごく少し  
 の分量しか讀む事が出来ませんでした。之は書物が手に入らなかつたり

又暇があつても遊んで暮らしたりしてゐた爲です。

マルクス主義には正しい所もあり、又一方間違つた所もあると説く學  
 者もありますが、私はこの説を委しく展開した論文を讀みたいと云ふ事  
 を最も希望してゐますが、この様な論文が割合少ないのが残念です。

私はマルクス主義には冷靜な批判を加へる餘地があると思つてゐま  
 す。父が里見岸雄氏の主宰する國體科學社に加盟してゐるので、その社  
 から發行する反マルクス主義的文獻にも目を通す機會がありました。が、  
 餘り十分な説もない様な氣がします。

私は斯様に批判的に讀みたいと思つて出来るだけ批判的反省的な態度  
 を取つて來ました。將來もマルクス主義の文獻を讀む時にはこの態度を  
 取りたいと思つてゐます。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對して如何なる考を持つてゐるか。  
 日本共産黨、日本共産青年同盟の存在は、私がマルクスやエンゲルス  
 やレーニン等の文章以外には實際的な書籍を讀まなかつたので、始めの  
 中は知りませんでした。

三、一五事件のすつと後になつて友達からこの事件の意義を聞かされ  
 て始めて日本にもその様な非合法的な結社が存在してゐる事を知りまし  
 た。日本共産黨、日本共産青年同盟の掲げるスローガンについてはその  
 スローガンを讀み且その正否を検討する機會は現在まで一度もありません  
 でした。従つて日本共産黨、日本共産青年同盟の存在の意義について



はその可否は分りませんでした。

私は日本共産黨、日本共産青年同盟の掲げるスローガンの主なるものをざつと見た事はありますが、その時現在の社會では、そのスローガン中には全く架空的な寧ろ非常識的な部分が多いと考へました。然しスローガンのみ見て、その全體を批判するのも如何かと思つて深く考へたことはありません。

君主制の撤廢のスローガンについては共産黨員の間にも反對説があつた事を聞いて注目しました。

私は日本に於ては君主と云ふ概念はロシアや、伊太利等の諸外國の君主と非常に異ると思ひます。(中略)君主制の撤廢と云ふ事はこの我國の國體を變へるものであると思ひます。たとひロシアに於て君主制を撤廢したと云つて、それをそのまま我國にも適用すると云ふ事は、君主と云ふ概念を誤つて他國と共通のものであると考へた結果と思ひます。我が國體が他國と全然異なる以上、君主制撤廢のスローガンは日本に於て之を掲げるのは全然間違ひと思ひます。

土地沒收のスローガンについてはその概念も知りません。

現在の地主の土地を沒收して一應國有とする事を意味するものと解すれば、土地を沒收すると云ふ事は、所謂プロレタリア獨裁の國家を建設する前提となり得る事は分りますが、プロレタリア獨裁の理論については私は非常に疑問を有してゐます。

プロレタリア獨裁は現在のロシアがそれであると思ひます。資本主義社會から共產社會へ移るのに過渡的の國家的な國家が必要で、それがプロレタリア獨裁國であるとマルクス主義は説いてゐるが一度プロレタリア獨裁國が出来てそれが一定の時期になりて國家たる事を止めて共產制に移ると云ふのは言葉では云へるが、人間の諸性質を考へた場合、一度權力を握つたものがそれを再び失ふと云ふ事は難しいと思はれますので、實際に於てはその通り行はれ得るとは考へられません。私は現在の勞農ロシアの將來にも疑問を持つてゐます。この意味で土地を沒收する事は、たゞその所有權者が變ると云ふだけと思ひます。不當に土地の所有權を沒收する事は非常に無學な事、社會の公徳上許さるべきでないと思ひます。

私はレーニンが「プロレタリアートの解放は共産黨の指導がなければ完全には行はれ得ない」と云つたのを讀んだ事があるので、日本共産黨の存在する理由もこの爲と思つてゐました。共産青年同盟の理論はたゞ漠然と共産黨の外殼としか知りません。日本共産青年同盟は日本共産黨の補助的な役割を爲し、勞働者農民の青年を同盟員として共産黨員を補給する爲の同盟と思ひます。

之まで十分日本共産黨日本共産青年同盟の意義及スローガンを考へなかつたが、それが國體に反するスローガンを無批判的に掲げてゐる以上私は賛成しません。

#### 四、學生の左翼運動に對して如何なる考へを持つか。

學生の左翼運動は所謂學生運動と云はれてゐるものと思ひます。之は一般無産運動の一部を構成すると思ひます。學生が左翼運動を爲す事に就て見るに、私は學生がその屬する學校内で爲すか、或は學校外に於て爲すかにより、之を二種に分ち得ると思ひます。一つは所謂學内運動、他は所謂學外運動です。

學内運動に就ては、一つの同じ學校に學ぶ學生が相互の利害を考へてその學生生活に對して不當なる外部からの壓迫が加へられる時は、それに對して或る程度までの抗議運動を爲してよいと思ひます。

その抗議運動が學生内の輿論の一致した運動であれば最もよいと思ひます。その抗議が左翼的イデオロギーに基いてゐるとしても、それが澤山の學生の意志の合致したものであれば、その壓迫が不當なるものである限りそれに對して起つてよいと思ひます。又學生間の要求を學校當局に上達する場合も同じであると思ひます。

然し學内の左翼運動は勿論學生として爲すものですから分を超えてはならぬと思ひます。學校の禁ずる方法目的を以てするのは悪いと思ひます。

マルクス主義の研究のみを爲すのを左翼運動と云ふならば、私は之を認めて欲しいと思ひます。

學外運動に學生がたづさはるるのは悪いと思ひます。之は純然たる外部

運動ですから學生としてはその身分を超えたもので、たとひ學生が社會人であると云つても尙ほ學生と云ふ一つの範圍に屬するものである以上、即ち學校に籍を置き、先づ學校の規律に服するものである以上、純然たる社會人ではないと思ひます。私は少くとも學校を卒業する迄は外部運動を爲すべきでないと思ひます。

#### 五、是まで如何なる意識の下に左翼的行動を爲してきたか。

私は問四に對する答へに述べた範圍の學生運動の中、學内運動をマルクス主義者と云ふよりは、寧ろ自由主義者としてやつて來ました。學外運動はやらぬ積りでしたが無意識の中にやつたものがあるかも知れませんが、それは無産青年です。無産青年に拂つたのはその意識を全く軽く見てゐました。

高等學校時代に於ては私は總代として學生の決議や、その他の要求を公平に取り上げて學校當局に訴へてゐました。ストライキ以後も色々學内運動がありましたからです。嚴密な意味に於ける左翼の實際運動は少しもありませんでした。

大學に入つてからも私の意識は決してマルクス主義者と云ふ事は出来ません。自分の意識がごく低いものであることを知りつつ比較的熱心な友人に引きづられて行動して來ました。

私は常に自分の良いと思つた事はやりたいと思つてゐましたが、一つの左翼的行動が起る度に無批判的にその行動にたづさはつてゐました。



十分反對する事が何だか気が引けたので附和雷同する事が多少御座いました。従つて積極的に自分から進んで左翼的行動を爲した事はありません。

私は昨年初秋の頃に両親及び叔父さんから決して今後マルクス主義の研究を爲してならぬと戒められた時、きつぱり止める決心を爲し、又非マルクス主義者の親友から研究其他をやめて呉れと忠告されて「手を引くから安心して呉れ」と心から云ひましたが、きつぱりと手を切る事は急には出来なかつたので、何とかよい時期を見て徐々にやめて一個の自由主義者として自由には是非々の態度を取りたいと思ひ乍ら、にえきらない心持の中に現在まで生活して来ました。

六、今後は如何なる方針の下に進まんとするか。

(イ)思想的。私はマルクス主義に關する文献を現在まで讀んだ結果、マルクス主義に正しいと思ふ部分があります。現實の社會に目をつければ資本家階級と労働者階級とがあり、その利害が反してゐる點が多いのは事實と思ひます。それでこの兩階級の利害關係を何等かの方法で調和しなければ決して社會の幸福はあり得ないと思ひます。マルクスがこの大きな社會問題を捉へて、それに一個の解決を與へんとする學説を提出した事は、その學説が正しいにしろ誤りにしろ、確に注目すべき事と思ひます。

この解決に關する理論、廣く云つて社會全體を研究の對象とする社會

科學は研究してよいと思ひます。マルクス主義は共產主義であり、共產社會が現在の社會よりもつと人類の幸福を齎すと説いてゐますが、この思想は決して完全無缺なものでなく、たゞ社會科學の一種としてのみ價値があると思ひます。マルクス主義には空想とも云へる部分がある様に思はれます。未來に來るべき社會を云々すると云ふ事は凡て空想の範圍を越く去るものでないと思ひます。

現實の社會をよりよく觀察すれば、この様な空想的な部分の多いマルクス主義が、唯一の社會科學であると考へるのは觀念的に走るものであると思ひます。

現實の社會は我々の如くごく限られた社會活動をなし温室に育つた様なものには分らない多くを持つと思ひます。ここに於て私は他の多くの社會理論をも決して輕んずる事なく、取捨選擇して一つの社會觀を持つ餘裕を持ちたいと思ひます。この爲に私は自由主義の立場を取りたいと思ひます。嚴密にこの立場を貫く爲には、十分讀書し批判的能力を養ふ必要のある事は明かですが、その様に色々の文献を漁り讀み、所謂社會批評家或は文明批評家と云ふ様な思想家になると云ふ事は私にはその任でない事は分つてゐます。たゞ今後學生生活を續け、又社會へ出て實務を取るに至つても温健な思想で所謂中道を歩みたいと思ひます。

(ロ)行動的には左翼的行動はやりません。自分が十分理解する事が出來ず、その眞實性をも信じないマルクス主義を行動に移す事が如何に自

己を偽り、進んでは自己の未熟さから平穩なるべき社會にまで誤りたる波紋を及ぼす可能性があり、誤つた行動であるかはよく分ります。

學生生活も既に大學にまで來たのですから、今になつて輕率に行動して一身を誤る様な事があつては、之までの兩親の苦心や自分の努力を水の泡にする様なものですから慎重に行動して、無事に學生生活を終へ社會へ出て何等かの職業について父母の満足を得る生活を爲したいと思ひます。

一七

某帝大文學部三年

T某(當二十六年)

家	族……………	實父母、兄三人、弟一人			
父兄の職業……………	公	吏			
貧富の程度……………	普	通			
學	資……………	家	庭	よ	り
健康状態……………	中	等			
性質……………	情	熱	的		

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情如何。

私は高等學校時代より學者的な生活と創作家として立たうとする心持を持つてゐました。それ故藝術研究の態度も詩畫的となり、藝術至上主義的態度を保持してゐました。然し私はその研究を進めて行く内に、單

なる「藝術の爲の藝術」は畢竟私達の胸を打つものではない、藝術が人間の心理と人間の生活を反映する以上は、その人間生活の姿の確實なる把握を必要とする——かう云ふ考へを抱く様になりました。それでは今の社會の客觀的狀態はどうであるか。その客觀的な確實な把握こそ藝術の眞の姿を現出する第一のモメントであると考へました。それがマルクス主義を研究する動機であります。

二、マルクス主義(共產主義)に對し如何なる考を持つてゐるか。

マルクス主義は資本主義社會の缺陷を指摘し、資本主義社會を構成する根本の生産力が労働者農民である以上、資本主義社會が第三期に入るや、その社會に代るものは労働者農民の社會であると理論的に正しく進めたマルクス主義は正しいと思ひます。夫れ故、共產主義が労働者農民の有する唯一の確信であり、共產主義こそ労働者農民を解放する爲の自由の日を與へるものと思ひます。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對して如何なる考を持つてゐるか。

(イ)君主制撤廢 (ロ)土地沒收 のスローガンに就て。  
プロレタリアートの唯一の主義である共產主義を奉じ、その主義綱領を政策とするものはプロレタリアートの唯一の黨でなければならぬと思ひます。それが日本共産黨であると思ひます。日本共産黨と日本共産青年同盟とは父と子の様な關係であり、その綱領政策などは殆んど同様なものではないかと思ひます。



共産黨がその政策を實行するには資本主義社會の機構を破壊しなければならぬ。夫れ故資本家地主の政府を倒さなければ労働者農民の政府は樹立されないと思ひます。然し君主制については、労働者農民でも現在では日本人の多くが傳統的な殆んど一つの宗教の様に考へてゐる君主制と云ふ制度を信じてゐる以上、このスローガンは却つて共産黨に對する恐怖心を起させるに過ぎないと思ひます。

今まで日本に於て多くの革命があつた。その多くは畢竟するに經濟闘争から起つた政治闘争であると思ひます。日本の君主制は外國に於けるそれとは異なる。この特殊事情を考察する必要があると思ひます。大衆がまだ何かを信する心がある以上はこの特別な君主制を正しく利用しなければならぬと思ひます。

又労働者農民がその政府を樹立する爲には當然土地没收をしなければならぬと思ひます。

四 學生の左翼運動に對して如何なる考へを持つて居るか。  
學生はその多くが中産階級以上の子弟である。そして經濟的不安がなく學問の自由を有してゐる。それ故社會科學の研究には最も、條件を持つてゐる。之を利用して研究會などを作つて社會の刻々に變化する客觀的の推移を最も正しくマルクス主義的の觀點より研究する事、それが應て労働者農民の左翼運動を指導し、その運動の補助となるものと思ひます。それ故さう云ふ研究會の中から共産青年同盟に加盟する分子が

出る様になりさう云ふ意識を高めて行かなければならぬと思ひます。

五、是迄如何なる意識の下に左翼的行動をして來たか。

私は四に述べた様な學生に與へられたるマルクス主義の研究に力を注ぎ、その結果労働者農民の解放の爲に努力してこそ私たちの役割を果し得るのだと思ひました。そして客觀的の勞働者農民の力は決して弱いものではない、そんな彈壓が來ても労働者農民は下から立ち上るに運ひない、その日は遠いかも知れない、然しその日の來る確信を持つて果敢なる闘争をしなければならぬ、力さへあれば必ず出來ると思ひます。

私たちは私達が學んだマルクス主義の理論を労働者農民の爲に役立たせる爲に、彼等の非マルクス主義的な行動をマルクス主義的に導いて行かなければならぬと思ひます。私はさう云ふ意識の下に運動しました。

六、今後は如何なる方針の下に進まんとするや。(イ)思想的 (ロ)行動的。

私が今まで歩いて來て考へて見ると、私たちの運動は決して労働者農民の爲になつたとは云へない。或は却つて裏切りのな行爲をして來たのではないかと思ひます。私達の研究したマルクス主義が決して労働者農民に教へる主義ではあり得ない。

労働者農民自身の經濟的闘争から必然的に労働者農民自身の政治的闘争に移らなければならぬと思ひます。理論が先ではなくて實際の問題が先づ第一だと思ひます。その點から見ると私達のやつてゐた事は畢竟

するに、意識が先に立つて存在を規定してゐたものと思ひます。意識が

存在を規定するものではない、存在が意識を規定すると考へます。私が何故この誤りを犯したか。それは畢竟するに私自身が労働者農民でなくインテリゲンチヤであり、プチブルであるからです。私の今後進まんとする道は右の誤りを繰返さない道であると思ひます。

それ故私はインテリゲンチヤとプチブルの生活を離れない以上、矢張りインテリゲンチヤに與へられた中間的な學者的な日和見主義的な見地に立つより仕方がないと思ひます。然しインテリに與へられたものはこの愛すべき自由主義の立場であると思ひます。私はこの立場からは一歩も退かないと思つてゐます。私の行動も従つてこの立場を正しく行爲する爲に歩みます。私が今一番望んでゐるのは專攻の獨逸文學の研究と創作と演劇研究であります。

一八

某帝大文學部二年 I某(當二十四年)

家 族……………實父、兄(戶主)、母亡  
父兄の職業……………貿 易 商  
貧富の程度……………富 裕  
健康状態……………強 壯  
性 質……………溫 良、因 循

一、私のマルクス主義を研究するに至つた動機。

私は昭和三年四月××高等學校文科乙類を卒業して××帝大文學部哲學科に入學しました。入學したのは宗教史特に原始キリスト教史を研究せんとしたからであります。

私は其の當時哲學、特にキリスト教神學に興味を感じて居りました。餘り人とも交際せず自分自身一人になつて本を讀んだり、散歩したりする事を好んで居りました。キリスト教研究の側ら、私は觀念哲學殊にカントの哲學を研究しました。二年になる時に私は哲學を專攻することにきめ、純觀念論哲學を專攻してそれにより自分の哲學的立場を築くことを思ひました。

私は高等學校時代及び大學在學の半分に於てマルクス主義に接したことはありませんし、又友人と一緒に於て研究會を組織したこともございませぬ。又私がマルクス社會主義を勉強しようとしても、それは決して自分が社會を知り、社會に生活する人々の心理を味ひ、社會の階級的對立を切實に感じたからではありません。

私は二回生になつて二學期が始まる頃から私の氣分は社會科學の方へ向つてきた様と思ひます。それに初は單に學問的な見地からではありましたが、十二月頃になつてから舊×大S.S.に入會するに至つたのです。

私は私の動機を大體次の三つに分けることが出來ると思ひます。  
(イ)私は一學期の五月頃×大哲學科主催の哲學茶話會に出席し、その



席上で、その當時にはまるで無関心であつたマルクス主義が先輩の人々により議論せらるゝのを見て、マルクス主義が私共にも入つてきた事を知りました。尙第一學期の終から二學期の殆んど全部に於て、講義せられたx x x、〇〇〇〇二教授の唯物論批判の講義も私に（殊に前者は切實に）その事を知らしめてくれた様に思ひます。

（ロ）私は友達に誘はれて、十月の半頃からR.S.S.に入會する様になりました。初めは、自己の觀念論的理想主義的立場をとつてをりましたが、私もそれから一應研究しなければならぬと思ひ、マルクス主義に關する本を哲學の勉強の側ら讀む様になり、だん／＼と入つてゐた様に思ひます。

（ハ）二年前からマルクス主義は流行の如く、社會一般の關心に惹き入れられる様になり、殊にこゝ一年位に於ては、殆んど最高頂に達して、私の交際する狭い範圍の中では、又新聞雑誌の中では、又私の見聞する社會に於ても、階級の對立、貧富の差の甚しくなつたこと、失業、自殺等の事が話題になり、又私の耳目にのぼつたと思ひます。私は之を又マルクスを研究するに到つた間接の動機だと思ひます。

私は社會政策の大理想、家庭の不和不満から研究するに到つたのではなく、上に申し述べた様に、二、三の原因から研究するに到つたのであります。

二、私はマルクス主義に如何なる考を持つてゐるか。

云ふものは、人間の奥底にある自己保存欲の發展したものであること、人間は相互に他の精神的なることを當にするが、その奥にも今云つた様な氣持が根強く存してゐると云ふことであります。

私には大學生と云ふ一の地位が與へられて居り、且つ家庭と云ふものに束縛せられてゐると云ふ以上、私は社會を知るに至つても其は、第一に讀書であり、第二に友人からの話であります。其からだん／＼と私は世の中には、明日にも困る人が澤山あり、一方あり餘つた富を何に使用しようとしても使ひ切れず遊んでゐてもドン／＼と富んで行く人の存在を知り、社會の進歩のために、今迄の自己の職業を奪はれて無産者の群に入つて行く多くの失業群、不景氣、職業紹介所の満員を知る様になりました。一方更に私はこの世の對立、差別及犯罪、女子の奴隷化、賣淫等の社會現象は結局社會の經濟的對立より來ること、而してマルクス主義が、之より人間を解放して一の新しい對立のない社會に導くものであることを知りました。

在來の私共の持つて居た思想が空想的なるに反し、マルクス主義は少くとも私には具體的切實なる問題を取り扱つた者に思はれ、私の興味は段々ととらへられる様になりました。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に就て。

私がマルクス主義より知つたこと、即ち世界に於ける資本主義組織より來たる階級的對立、そして其を止揚する事によつて一の階級のない社

私のマルクス主義に對する考は、初めは哲學的觀念的であり、後にはなるべく其を改めて具體的にしようと思ひました。

初め私は哲學を研究してをりました加減か、思想が歴史から離れて單なる空想のための空想、理想のための理想と化し、現實の生から離れ、單なる個人的ものとなり、哲學者、（この事は特に日本には甚しい相ですが）實社會から離れて住むと云ふ事、そして、其等は結局、在來哲學の非理想主義的なる理想主義から來るものであると思ひ、人にも聞かされ自分もその氣になり、マルクス主義を、從來の幾多の思想の、かゝる缺點を排除した、且つ幾多の思想、單なる哲學でもなしに、哲學、經濟學、社會學を綜合した、及び、宗教を否定し、然も宗教をもその中に含んでゐる一つの偉大なる體系だと信じた。尙私は、マルクス主義哲學の徒となるには、二つの特徴に、だん／＼と私の注意を向けた。一は歴史と云ふものは、單にチグハグのものではなしに、人間の歴史の奥には一の根本的なるものが働いてると云ふ事、歴史が辯證法的に自覺して行くこと、従つて歴史の或る段階に於ては、ヘーゲルの云ふ側目對目と云ふ對立が現はれること、一つとして永久的なるものはあり得ないと云ふこと、量的の増大は結局質的變化を招くと云ふ事であり、他は、私の今迄考へた様に、人間は常に平和安樂、他人の幸福をのみ希ふものではなしに、私共の生存の奥には、絶えず自己を維持せんとし、他と戦ひ、精神的欲求の前に自己の物質的欲求の満足を求めんとし、結局物心の二元と

會、プロレタリア獨裁の建設、國家のない一の新社會の建設の爲めには、過去現在、並びに、將來の人間によつて一の建設のための組織がなされなければならぬ。そのためにマルクス、エンゲルスによつて始めて共産黨宣言に云々と云はれてをる如く、共産黨が成立され活動することであります。

共産黨は萬國的でなければならぬことや、又その國々の歴史的發展の段階に應じて色々異なる形態で設けられねばならぬと云ふこと、其は階級的對立意識の嚴守に、階級の絶對的に融和すべからざること、革命主義（殊更に革命を起すことではなしに）或國に於ては合法であり、或は非合法でなければならぬと云ふ事は、私の先に述べた二綱から必然に來ることと思ひます。従つて日本にもかゝるものが存在しなければならぬ、又存在した事は私共が雑誌新聞で見た通りであります。私は讀み或は教へられ、且つ私が入會したR.S.S. S.S.Sはマルクス主義の研究及び私共の段階に應じて實踐を心掛けてゐました。少くとも其が正當なるマルクス主義の順守であるためには間接に共産黨を援助することを心掛けるのであると思ひます。

私は餘り日が淺くて讀書も交際も少く、ハッキリと分りませんが、合法、非合法共産黨及其を援助する意味の組織との關係（例へば無産、無資、無青、モツブル、反帝）等を持つべきであると云ふことも結局は其に依るのであると思ひます。私は私の屬したる組織が其と關係を持つ故



に、殆んど無意識に入會し、後になつて漸く知る様になつたと思ひます。共産黨と合法政黨との關係に就ては、未だ私はハッキリとした考を持つて居りません。青年共産同盟は共産黨の一分派であると思ひます。マルクス主義が萬國的のものであり、階級を通じて階級なき社會の實現を企てんとするものであるならば、君主制の撤廢は階級對立のない社會の實現のために必然的に要求せられるスローガンであると思ひます。日本であつても例外であつてはならぬと信じた。勿論日本の特殊狀態を顧慮して、或る段階に於ては存在すべきだと思ひます。

次に土地没收のスローガンに就ても社會主義經濟化、私有財産制度の否認より来るものであると思ひます。土地が私有的なるものでなしに、共有的なるものであるべきことも、公有のために私有をやめにすべきであると云ふ事も、働かないものに澤山の土地があり、働く意志のある者に少しの土地もないと云ふ矛盾も、かゝる見地からくるのであると思ひます。

四、學生の左翼運動に對して如何なる考を持つてゐるか。

私は社會科學を勉強する前途は、學生が學生として社會運動をすることを間違つたものであり、又何等の效のない危険なる娛樂であると思つてゐました。と云ふのは第一に社會に於ける階級の對立より見て、學生層と云ふものが、何等の根を持たないとして、社會の進化と共に、滅亡すべき過程にあるものであり、第二に學生は本來社會より遊離した學校

の生徒として實踐より切り離されたる理念の追究に従事すべきものであり、社會科學の學徒としても理論的範圍に自己を發展せしむべきものであり、第三に學生が獨立的のものでなしに、常に一般に、親なり兄弟親戚なりによつて、經濟的に愛情的に援助を得る、未だ獨立してゐぬからであります。

然し私は最近になつて、ダン／＼と人から又自分からも讀書其他に依つて階級の觀念を持つべく養成せられました結果、實踐と云ふものが各人に同じことを強ひる決つた一本道のなものでなしに、人に應じて先づ自分出来る範圍でやるものであること、従つて學生も自己の地盤で階級闘争に間接的ではあるが、参加出来るものであると云ふことを知りました。従つて學生も社會の進化、發展、對立、闘争を通じての闘争なき世界に到る一の世界史的なる運動を肯定するならば、一定の特殊なる段階に於ては自己の地の上で積極的でなくとも、消極的にでも参加すべきであると思ひます。

私は前に述べた様に、去年の末頃より先づR.S.、S.S.に入り社會科學の勉強をする様になり、従つて自然に殆んど無意識（反帝、モツブル、P.N.等の班員になつたこと）に入つた結果、學生運動に参加する様になつたのであります。

終りに、私は學生運動に於ける最初の階段としてのインテリゲンチヤの啓蒙運動の一として存在すること、學生が學生として實踐するものとして存在すること、ある階級にありては労働運動の一翼として共に指導されるものとして存在すること、大體以上の理由から肯定するものであります。

五、私が左翼的行動をする意識について。

私がどんな意識を以て左翼行動をするに至つたかは大體上の項で述べたと思ひます。

私は社會科學の研究につれて、未だ幼稚ながら、だん／＼と階級意識をもつ様になりました。そしてこの運動に對しては、私の現段階に於ける意識に應じて實踐しようと思ひました。

理論と實行との一致と云ふこと、もし自分にでも極く微量であつても出来るならば、やるべきであると云ふ意識も働いたと思ひます。

尙ほ私が入つた組織の上の人から、及學校等で命ぜられるならば、私にとつては、無意識でも又或は意識的にでも拒否する理由もなく行動しました。尙其他に別に申上げる様なこともありません。

六、私は今後如何に進まんとするか、及び思想的行動に進まんとするか。

以上は私の左翼的行動の概括であります。將來のことを考へるにあつたつて私の過去の行動が大體次の様なものであつたと批判することが出来ると思ひます。

(イ)私は社會科學の研究を始めてから、未だ四ヶ月位にもなりませ

ん。この間は自分の眼の前に差し出された所の一の新しいものに私を全然移して私の讀書の時間もなるべく其の研究に費しました。私は人よりも階級意識も弱く、又この方面に関する知識も豊富ではありませんので、特に今年の一月から二月の初めにかけては、自分の交際する人々とせて同等になる様と思ひました。可なり熱心に勉強しました。其のために、私には、この間他の事について私の考を及ぼす暇もなく、自分を對象に奪はれないで常に反對の立場を顧みたり、冷静に自己を見つめると云ふこと、中庸の道をとるべきであると云ふことは、私は教へられて知つてゐたのであります。私の最近に於ては其をすることが出来なかつたと思ひます。

(ロ)私は私の周囲の状態といふものを考へなかつたと思ひます。私は唯一つの原理を信じて、天降りに其を自分に出来る範圍で援助しました。普遍的なものに對する特殊なる状態に對しては、私は全然思慮を拂ひませんでした。又自分がかうすることによつて、どれだけ、多くの人々に迷惑と悲みとを與へると云ふことも考へませんでした。我儘に入つた生活の結果其等の本質を知ることが出来ました。日本の状態と云ふことに關しても、私は全然關心をもたなかつた。又到底はつきり其を考へる暇も持ちませんでした。この様な事は輕薄な、上調子な處から出来たことだと思ひます。

(ハ)私は又眞の社會に於ける人間關係が私の嘗つて豫想したほど、簡



一九

某帝大文學部二年 H某(當二十四年)

家	族……………	實父亡、實母、兄三人			
父兄の職業……………	不	詳			
貧富の程度……………	普	通			
學	資……………	家	庭	よ	り
健康状態……………	中	等			
性	質……………	溫	良		

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情。

昨年一月頃ペーベル著「婦人論」(之は世界思想全集中にあつたもの)の序文を読みつゝあつた間に「現代の社會を正しく理解する爲には社會主義を知る必要がある」とあつたのを見ましたが、恰度其の當時、宗教問題特にその社會民衆に對する關係について思考して居つたので、それは社會主義的經濟學者河上肇の著書(名は忘れましたがマルクス主義講座中にあつたものと等しいもの)を読みました。その間中學同級生であつたY某を訪問して話をして居るうちに舊××社會科學研究會のことを聞き、同年二月初めY某の紹介で研究會に出席しました。

二、マルクス主義に對する考へ。

私が研究會に於てマルクス主義の研究を爲した期間は僅か一月餘であります。

行動に至つては今後絕對に合法、非合法ともかゝる社會運動を慎むことを決心し、半年前の自己に歸つて哲學的研究に自己を捧げたいと思ひます。

マルクス主義は將來社會に於て共產制度を建てんと主張しますが、それは如何なるものであるかは現在の意識に於ては計り得ないものであり、ロシアの現制度の如きは一つの試験であり、參考であるに過ぎぬと思ひます。

マルクス主義は將來社會に於て共產制度を建てんと主張しますが、それは如何なるものであるかは現在の意識に於ては計り得ないものであり、ロシアの現制度の如きは一つの試験であり、參考であるに過ぎぬと思ひます。

マルクス主義は將來社會に於て共產制度を建てんと主張しますが、それは如何なるものであるかは現在の意識に於ては計り得ないものであり、ロシアの現制度の如きは一つの試験であり、參考であるに過ぎぬと思ひます。

りまして、その前後もその研究する機會が少なかつたので、その全般的問題さへも未だよく考へる時がなくて居りますが、マルクス主義に就ての私が理解し得た限り(組織的に整理されては有りませんが)を記します。マルクス主義はマルクス其の他の人々によつて理論的に又實踐的に展開されたものでありますが、それは根柢に於て歴史的にプロレタリア階級より生れ、その生長とともに生長して行くものであると思ひます。マルクス主義は將來社會に於て共產制度を建てんと主張しますが、それは如何なるものであるかは現在の意識に於ては計り得ないものであり、ロシアの現制度の如きは一つの試験であり、參考であるに過ぎぬと思ひます。

凡そ社會の進展は吾々のよく意識し得ない諸條件によつて却つて大いに規定されるものであり、又各民族領域等に於ける諸歴史によつて各特別の委にて現るべきものであると思ひますから、社會の進展を意識的に促進せんとする際には、現在の意識の先づより深廣ならんことを求めねばならず、従つて單に或る時代に或る地方に主張された理論又は手段を直に我國の社會にも當て嵌めようとするのは過誤に陥る危險があると思ひます。

以上の事を考へ合はせて、私はマルクス主義の如何なる點を採るかと思ひますと、全無産大衆の生活向上の爲に有效であると思はるゝ現在の實踐方法を教ふる點の一部でありまして、現在に於ては及び得ざる、又

過誤に陥り易き將來の時期に於ける諸手段の中の一々を主張する點ではありません。例へば、賃金値上運動が始められた許りの時には、まづ如何に請求するかを最も考ふべきであり、又他の労働者にも談すべきであつて、現在の實踐方法の思考を超越して工場主にテロを如何に加ふべきかなどといふことを他に談する事の却つてその運動自體を誤る危險あるは勿論、自ら考へるさへ無駄であると思ひます。何となればテロ無くしても賃金値下が相當に行はれ、それが却つて凡ての上に善い結果を與へる様になるかも知れないからであります。

私のマルクス主義の如何なる點を採るかを更に具體的に述ぶるならば、マルクス主義が無産大衆の階級意識を啓發し無産大衆の強固な團結を教へ、無産大衆が自己の利益を主張する際には、全體が一組織となつて爲すべしと強示する點であります。その中にこそ豫想ではなく、現實に無産大衆の意識的計畫的生活(共產制が如何なる委のものであらうともそれに缺くべからざる要素)が教へられるのであります。

私は無産大衆の生活向上を希望し、その爲にはその意識的計畫的共同生活が必要であると思ひ、現代の資本主義的社會が無産大衆の生活を犠牲にして單に或る少數資本家等の利益の爲めに、一國家或は全世界として見て無計畫な經濟機構を持つものであることを喜びません。今私にとつて縁遠い又理解し難い將來のことを、特に「現代の資本主義社會が更に發展する際は暴力革命にのみよる他なし」といふ説を強いて言ふ事は



私の能力意識程度を越へた出すぎたことではありません。

兎に角マルクス主義の共産制社會建設の主張は、現代社會の進展に伴ひ、その中より必然に何等かの姿で實現する（我々の豫想し得ない姿ではありませんが）と思ひます。私は無産大家の利益といふ立場に立つて居りますから、それが眞に無産階級の利益になる偽りなきものとしてならば連に來ることを望んで居ります。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對する考へ。

日本共産黨は日本の無産階級の最も闘闘的な分子、理論に於ても實踐に於ても最も激烈なる分子に依つて構成され、日本共産青年同盟は右よりも未熟な（年齢も從つて若き）人々によつてもつとも大衆的に構成されたる組織であつて、各々の程度にて無産階級の先頭に立つて労働者の利益を全面的に代表し、農民其他無産大衆の利益を取り上げて闘ふものとする側より主張されて居ると思ひます。私はそれらの活動に直接觸れてはをりませんが、只その活動の結果を新聞等によつて知る限りでありますからそれらについて批判し得ませんが、私の感ずる所をのべますと、日本共産黨、日本共産青年同盟は無産階級解放に最も熱心な團體で、日本プロレタリアの成長とともに益々強化し、（その政策が當を得れば）無産大衆の支持を受けて行くであります。

（イ）君主制撤廢は日本共産黨、日本共産青年同盟のスローガンの一と聞きますが、等しく君主制と云ふ名の中にも實際に於ては種々の事實

他の無産大衆を引きつれて統一運動をなさしむることであるといふ意味であるならば賛成である。

「七時間労働制」満十八歳以上の男女選挙権被選挙権の獲得等は大成であります。其他四、五のスローガンがあつたと思ひますが、今記憶に浮びません。

四、學生左翼運動に對する考へ。

我國の學生層は殆んど中産階級に依つて占められて居り、従つてその中に見ゆる左翼的な理論は殆んど文書を通じての理論で、無産階級が直接生活より得た理論とは言葉は同じでも、實踐に移す場合は異なる所があると思ひます。中産階級の分化に從つて學生の理論と實踐も變化して行くのでせうが、無産大衆の理論的實踐的發達につれて學生左翼運動の重要性は次第に減じて行くと思ひます。

五、之迄左翼的行動を爲して來た際の意識。

私は中産階級層の出身でありまして、直接の生活からではなく、間接に無産運動の影響を受けて來たものでありますが、人類の大多數を占むる無産大衆の幸福を希望する様になりました際、學生運動に参加するに至り、その理論と實際は殆んど一種類であつて、其の後も左右中間的な運動を比較して知る機會がありませんでした。従つて先に學生運動が指し示す方向に従ふことは自然左翼的となつたのでありますから、私にとつては左翼的即無産者的と考へるのみでありました。

が含まれて居りますから、その意味するところに従つてこのスローガンも種々に解釋されると思ひます。

特に我國の君主制は成立の歴史に於て外國のそれとは大いに趣を異にし、従つて君主と國民との關係も、民族の長と民族の關係（譬へば家長と家族との關係）であり、國民中の一部である所の資本家地主等の支配階級との關係も外國に於ける如き關係ではない。故に國民一般は（無産階級が大多數を占むる）現に君主に對して勞資小作人地主等に對する如き階級的觀點を持たずに居る様であります。

私は國民の一人として、より深く君主制について研究する必要があると聞きます。君主制撤廢のスローガンを主張しません。

（ロ）大土地私有の沒收も黨、同盟のスローガンの一つと聞きます。日本に果して大土地私有があるか如何かと第一の問題であり、次に又大地主と貧農小作人との關係如何が問題とせられると思ひますが、一般的に云へば、働かざる大地主の私有地が、働く無産大衆の自由なる使用と十分なる収益に供せらるゝ様になることは賛成であります。但しそれが如何なる方法に依つて達せらるべきかは我國の無産運動に於ても未だ問題とされて居るところでありますから、私も又今後の研究に待つより他ないと思ひます。

（ハ）その他の黨同盟のスローガンについて「プロレタリア獨裁」といふものが若し無産階級の利益を圖るため最も進歩的な労働者階級が農民其

六、今後の方針。

今迄私の採りました行動は、現在考へて見ますと、甚だ理論的に根柢が浅い様に思はれてなりません。もつと廣い觀點から國家、階級、無産運動等々を研究し、無産階級の幸福を圖る方法、目的等々を再び考へ直す必要があると思ひます。

特に「マルクス主義の哲學的根柢」と「無産階級と宗教との關係」についての研究は、私が最初よりの關心を有する所でありました故、その方面について考へたいと思つて居ります。

## 二〇

某帝大文學部二年

K某(當二十三年)

家	族	………	養父母、叔父母、兄妹
父兄の職業	………	手	拭
貧富の程度	………	富	裕
學	費	………	家
健康状態	………	強	壯
性質	………	探求的	眞面目

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情。

私の學歴を云ひますと、大正三年に郷里の××尋常高等小學校に入學しまして八年三月卒業、同年四月××高等師範學校附屬中學校に入學し、



十三年三月に同校を卒業しまして、四月××第×高等學校に入學し、昭和三年三月同校を卒業し、四月××帝國大學文學部哲學科に入學しまして現在は二回生であります。

私の家庭に就て云ひますと現在の家族は養父と實母と伯父と實兄と實妹と私の七人であります。私の實父母、養父母、叔父母等は皆一緒に大家族となつて生活してゐた關係上、養子に行つても別にそんな氣もせず、養父より人並以上に甘やかされて養育せられた様に思ひます。養子に行つたのは小學校に入學した七歳の時でした。それですからマルクス主義を研究する様になりました。家庭的な不満と云ふ様なものは全然ありません。

中等學校在學中より學校の成績に對する野心は殆んどなく、自分の好きな英語と數學に凝つてゐまして、此の學科に對しては十分の自信がありました。それで×高に入學しましたのも英文學を研究する目的で文科甲類を選んだ様な理です。處が×高の二年生頃より哲學に對して興味を覺えまして大學も哲學科を選んだ様な理です。私が今日迄研究しましたマルクス主義は殆んどその哲學的方面のみに限られて居まして、勢ひマルクスの哲學を研究するに至つた事情を述べねばなりません。本來私の研究してゐました哲學と云ふ學問は、その性質上その理想として「凡ての存在」即ち「凡ての在る物」の根柢を研究するものでありまして、他の凡ての學說の基礎であり、凡ての學說學理も何等かの哲學的基礎の上

に立つてゐるものと思ひます。處か新に興つたマルクス主義の哲學は從來の哲學を根本的に否定し、然もより一層大きな體系を有してゐると主張されてゐます。此様に於て從來の哲學を否定して大きな勢力を持つて來た哲學は、從來の哲學を研究してゐた者にとつては一つの大きな脅威であります。其處で今迄否定して來た此の新しい哲學を研究して見ようと云ふ考が起りました。去年の七八月頃からその哲學的方面の研究に着手した様な理です。要するにマルクス主義を研究しようとした動機は私の研究してゐます哲學からよつて來たものでありまして、人から教へられたり家庭的な事情は全くありません。

二、マルクス主義（共產主義）に對して如何なる考へを有すか。

マルクス主義の學說に對しましては全面的にはなくとも部分的の眞理は認めてゐます。即ち哲學的方面に於て實踐物質社會的存在を取り入れた點や、經濟學的方面に於ける資本主義社會の經濟學的分析に對しては多大の眞理を認めざるを得ません。

然し之を實際的運動に迄展開して、その理想とする搾取なき社會、萬人共榮の社會を作る共產主義運動に對しては疑問を持つてゐます。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對する意見、特に（イ）君主制の撤廢（ロ）土地沒收に就て。

マルクス主義の長所は現代の社會、即ち資本主義社會を科學的に分析してその沒落過程を示し、眞に平和な社會、萬人共榮の社會への道

を示したものと思ひます。處が此の一獨逸人が言ひ出した學說は、假令眞理であるにしても、此を實際的に適用する事になると、その國々の國情に適用出来る様にならなければならないと思ひます。ロシアに之を適用したレーニンがあつた様に、我國にも國情を考慮して此の學說を適用する様な學說なり人物なりが必要ではないかと思ひます。

今日の日本共産黨、日本共産青年同盟は我國の特殊事情を比較的閉却してゐるはしないかと思ひます。君主制の撤廢と言ふ事に就ても我國の歴史と國民一般の信崇の念よりしても不可能事だと思ひます。

唯今日迄、君主は比較的近寄り難きもの、崇高すぎるものと思へられてゐたけれども、眞の君主は國民一般の慈父であり、近寄り易きものでなければならぬと思ひます。君主と國民は父であり子でなければ眞の融和は出来ないと思ひます。同様に土地沒收に就ても、土地は君主の土地であり、同時に之を耕作し住居して居る人民の土地でなければならぬと思ひます。

此を要約すれば、一國には人民の眞の慈父としての君主を戴き、下にはこの愛子としての人民ありて此が融合和合して初めて眞に平和な社會が實現するのではないかと思ひます。

四、學生の左翼運動を如何に見るか。

一般學生は大體に於て自己の家庭より學費を仰ぎ、比較的有關な生活をして學問を研究してゐるけれども、新聞雜誌を通じて、時には目前に

現在の慢性的不景氣や社會的矛盾、卒業後の就職難等を知るのである。

若し學生にして此の矛盾や勞働者農民の貧窮化を救はんと欲するものがあれば、マルクス主義學說を研究し、又はロシアの前例等を見、之に若さも加はつて左翼運動に走るのだと思ひます。勿論學窓に在る事數年でマルクスの學說を十分理解する事も出来ないでせうした運動に参加してゐる者も多いと思ひます。

然し學費を家庭より得て生活し、學說に對しても十分の理解なくして、學生が左翼運動に参加するのは良くないと思ひます。

五、之れ迄如何なる意識の下に左翼的運動をして來たか。

私は今日迄殆んど左翼的運動に参加せず、主としてマルクス主義の理論的方面に向つて興味を持つてゐました。實際の運動と云へば三度の無青配布と、四度のニュース配布と、一度のピラ闘争でありました。實際運動をしてゐる時に於て、積極的に共產制の社會を造ると云ふ明確な意識はありませんでした。然し苟も一度責任者となれば出来るだけ自分に割當られた責任は果してゐました。その行爲の背後には稍々機械的に動いてゐた點もありました。

六、今後は如何なる方針で進まんとするか。

（イ）思想的方面。私の研究してゐます學問が哲學であります關係上、從來やつて來ました哲學を直ちに反對の立場をとるマルクス主義の哲學的方面、即ち唯物辯證法に對して積極的に批判し玩味する必要上、その



哲學的方面の研究は断念出来ないと思ひます。

(ロ)行動的方面。上述した様な理で、私の興味が主として理論的方面に向つて居り、且つマルクス主義を全面的に直ちに正しいと考へてはなりませんから、今後は行動的方面とは手を切る考へてゐます。

## 二二

某帝大文學部二年 S某(當二十三年)

家 族……………父母、兄、弟二人、妹三人  
父兄の職業……………某實業學校教諭  
健康状態……………普通  
性質……………温順

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情如何。

××高等學校在學中、文藝の道に親しみ志を文學に立て、居ました。初めて夏目漱石、芥川龍之介の作品に親しみ、彼等に私淑して居ましたが、次第に倦怠を覚えて來ました。一方其の當時(高校二年末より三年初め頃)よりマルクス主義的文學論が盛に問題になり、殆ど如何なる雜誌にも月々問題にされ、新興文學理論として私の注意を引きました。私は氏の新しき文學理論を學ぼうと思ひ、秘かに戰談、文藝戦線を毎號とは云へないが折に觸れて讀みました。初め非常な壓迫を感じ苦しかったのですが、次第に一面の眞理を持つて居る事を認識しました。高等學

校時代は受験準備もあり、家庭の束縛もあり其のまゝ通り過しましたが、大學に入つてから眞面目に文學理論を研究しようとする意圖をば十分に持つて居ました。昭和四年××帝國大學文學部に入學するとまとまつた理論書籍を讀み初めました。即ちルナチヤルスキー著、藏原惟人譯「マルクス主義藝術論」を初め、アプトンシンクレア著、船橋菜譯「拜金藝術」ブレハノフ著「階級社會の藝術」等を読みました。其の中哲學政治にも研究の興味及び必要を感じて來て、タールハイマー著「唯物辯證法入門」フーリン著「廣島定吉譯」史的唯物論の理論「無産者政治教程」一部、二部、四部「レーニン著、パンフレット」何から初むべきか等を讀みました。以上マルクス主義を研究するに至つた動機及び事情ですが、本は其の他相當讀んで居ます。即ち記憶の中にあるのを數へ擧げると

- 藏原惟人著 無産階級と藝術
- 中野重治著 藝術に關する覺書
- ル・メルテン著 史的唯物論より見たる文學
- 徳平名某編纂 プロレタリア藝術教程一部、二部
- 平林初之輔著 文學理論の諸問題
- エンゲルス著 社會主義の發展
- 高橋龍吉著 日本資本主義發達史
- マルクス主義講座卷五 等です。

二、マルクス主義(共產主義)に對し如何なる考へを持つてゐるか。

多數の勞働者農民、延いては吾が就職難に苦しみ、例令職についても何時免職になるか解らぬ不安な生活を救ふ、即ち勤勞階級の生活を保障すると云ふマルクス主義に對しては賛意を有して居ます。又理論的に云つて少くとも一面の眞理を持つてゐると思ひます。文藝の方面に於て見るに、マルキシズム理論は他の派(例へば自然主義文學理論、白樺派、新感覺派、モダニズム文學理論)より更に徹底した一面を持ち、更に進歩する可能性を持つて居る様に思ひます。次第に多くの人がマルクス主義に共感を持つて來る様ですが、其のこともマルクス主義が正しき一面を持ち、更に進展する可能性を有することを立證して居ります。

マルクス主義より更に徹底したイズムが存在するか、マルクス主義が絶對的なものであるかどうかは未だはつきりしませんが、現在の所右の様な考へを私は今持つてゐます。共產主義者が云ふ様な世界、生活の保證された凡ゆる人間に差別の無い世界の實現が、可能であるならば、私には未だ其のことはつきりしませんが、此のことは望ましいことであり、又其の社會の實現に努力すべきであると思ひます。

勤勞階級が此のまゝ抑壓された生活に満足せず、否其の苦しさ耐え切れず立ち上らざるを得ない時、彼等の約束に一瞬の光を與ふるマルキシズムが彼等に受け入れられるのも無理の無いことです。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對し如何なる考へを持つて居るか。

「戦旗」インターナショナルの左翼雜誌で伏字ではつきりしなかつたのですが、臆測して日本共産黨の存在を知りました。何れの雜誌を見ても其の他左翼出版物を見てもはつきりしたことは書いてないし、又日本共産黨が表面に立つて運動してないので、私自身の推測なのですが、片山潜が日本共産黨代表者としてロシヤに行つて居る事から見ても、日本共産黨は現在有ると思ひます。日本共産黨のみが唯一のプロレタリア黨であるかどうかはその將來によつて決定さるゝ問題ですが、今の所餘りに地下的の私には其の真相も分らず、どう云ふ成果を収めつゝあるかは解りません。極左翼出版物の告ぐる如く、共産黨のみが眞に勞働者農民の利益を代表する政黨であるなら日本共産黨に信頼しますが、嚴密な意味に於ては日本共産黨の眞の姿がはつきり未だ吾々の目に映じない以上、信頼していかどうか何とも斷言出来ません。日本共産黨の黨員がどんな人間からなつてゐるか、共産黨員がどんな生活をしてゐるかどうかを具體的に知りたいと思つてゐます。共産青年同盟が共産黨の様に國際的な組織であるらしい其の限り、日本にも多分日本共産青年同盟は存在して居ると考へられます。共産青年同盟は共産主義思想を有する青年の同盟である以上、共産黨と姉妹關係にあるもので、即ち日本共産青年同盟は日本共産黨を支持するものたるべきです。私は今の所日本共産黨も日本共産青年同盟も信頼していかものだと考へてゐます。



(イ)君主制の撤廃に就て。社會主義社會、共產主義社會が必然的に實現されたとするなら、君主も必然になくと思ひます。社會主義社會、共產主義社會に於ては必ずしも世襲的な統治者を必要とするのではなく、其の時期、其の所に於て全民衆の利益を最もよく代表し、彼等の頭部となり得るものが統治者指揮者として選ばれるからです。

(ロ)土地没收のスローガンに就て。現在土地私有の爲めに農民は土地耕作に於て不安に追ひやられて苦しんでますので、土地を國有にしてそして農民に耕作権利を保證しなければならぬと云ふ意味です。かゝる事の實現は望ましい事ですが、土地を沒收してから如何なる風に分配し(例へば肥沃の所と、やせてゐる所と、便利な所と、不便の所)平等を得る様にするかについて、又生産物の分配についての具體的研究はしてゐません。

四、學生の左翼に對し如何なる考へを持つて居るか。

近來の思潮としてのマルキシズムを學生が取り上げて夫れを學ぶことには賛成ですが、學業を抛棄し完全に其の方に突進する迄にマルキシズムが絶對的であるか否か、夫れを完全に認識するのは不可能にしても、大體の見當をつけて夫れを批判し進んで行く可きです。學徒として眞理を學ぶのは大いに賛成す可きであるが、自分の係累を全部棄て左翼運動のみに専念する自信は未だ持ち得ないでゐます。

五、是迄如何なる意識の下に左翼的行動をして來たか。

家 族……………實父母、第二人  
父兄の職業……………旅館業(父は教育界出身、元町長)

貧富の程度……………富 裕  
學 費……………父より月額五十五圓  
健康状態……………中 等  
性 質……………率 直

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情如何。

高等學校在學中其講義内容の高踏的無内容、教授方法の機械的千篇一律的ノート作成等が、私の智識慾、智的興味を充分満足せしめなかつた事、その結果として學校の講義内容に對して輕視、不信、お座なりの態度となり、其上教育方針が特異ある各個性々それに應じて發展せしめるのではなしに、各人の個性を磨滅して既に想定されてある一定の鑄型に一樣に押込めるにある事、其事からして私の性格を一定の鑄型に押込まれる事に耐へられない束縛疼痛を感じ、それが漠然とした反抗心に迄漸次進展して來たのです。

然し乍ら當時の私は、學校の講義に對して唯漠然とした物足りなさを感じ、學校の教育方針に對しても唯消極的な漠然とした不満足を感じてゐただけで、思想的には全然マルクス主義の影響の下にはなくて、寧ろ反動的色彩を多分に有つてゐたのでした。

私はマルキシズムに一面の正しさを認め、言はゞ眞理愛から出發して勉強しました。そして次第に社會と云ふものを知り初めました。勞働者階級農民階級が如何なる故に虐げられた生活をしなければならぬかも知り、更に勉強しようとするに意欲を感じました。私は彼等勞働者農民に同情して敢て左翼的行動を取らうとしました。

六、今後は如何なる方針で進まんとする。  
(イ)思想的。思想的に正しいと思ふマルキシズムを更に吸収したいと思ひます。成る可く係累に迷惑を及ぼさない程度に、然も出来るだけ勉強したいと思ひます。マルキシズムは思索と實踐との辯證法的交互作用を主張しますが、他人の經驗を讀書によつて吸収し、それに依つて勉強することも出来ると思ひます。學校の方の授業も出来るだけ専念にやり、其の傍らマルキシズムをやり、學校の授業をマルキシズムに依つて批判し互に相補足して行きたいと思ひます。

(ロ)行動的方面。係累もある事だし非合法運動は止めます。其の代り合法的な舞臺で活動したく思ひます。例へば創作に於て論文に於て出来るだけ頭張りたいたいと思ひます。さう云ふ方面でも大きな効果を收め得ると思ひますから。

一一一

某帝大文學部一年

S某(當二十四年)

一方學校ではストライキの後の動搖で——私はストライキ當時休學歸省中で無關係でしたが——ストライキの主柱となつた運動部特に柔道部は部のためには何物をも犠牲にすると公言してゐる部長(生徒主事兼任)を載いて積暴を極め、學生内に於ては柔道部及び其一派の教授に對する反感が漲つてゐたのでした。

其反感不満が豫算會議で遂に表面に現はれ、校内は爾後二派に對立して感情的に抗争してゐたのでした。其結果一派の教授と部員は結束して反對派の主謀者追放を計畫的に秘密裡に畫策してゐたのでしたが、春休歸省中「缺席届が餘り出てゐない」との理由の下に私は原級と決定、續いて二ヶ年原級に止る——前年度病氣休學——の理由を以て退學を強制されたのです。勿論其教授會議は極度の混亂を惹起し、殆んど暴力的混亂に迄陥らんとした程激烈な論争があつたのですが、長い間計畫的に畫策された不意打の事ではあるし、私等を擁護して下さつた先生方は單に同情者にすぎないのでから、遂に私等三名は主謀者として縛ゆる悪名の下に追放されてしまつたのです。

この事件を契機として、私の思想的動搖は反動的色彩を一掃して漸次マルクス主義的傾向に迄進んで行きました。其後私は大學檢定入學後、マルクス主義の研究を始めに至りました。

二、マルクス主義に對して如何なる考を持つてゐるか。  
私は大學入學後研究を始めたのですが其後は私は私の智的要求、智的



興味を充分満足せしむる事が出来た。

丁度今迄漠然と感じてゐた影に形を與へられた様に感じました。私は現在マルクス主義の理論を眞理として受け容れてゐます。従つてマルクス主義の説く様な共産社會の建設も、時日の問題は問はず、必然的に來るものと考へられます。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對して如何なる考を持つてゐるか。

特に(イ)君主制の撤廢 (ロ)土地の沒收 のスローガンに就て。

日本共産黨、日本共産青年同盟の現状に就ては未だ研究を始めて一年未滿ですからよくは判りませんが、日本丈世界から獨立した特異性を有ち世界革命の影響の外に在るとは考へられません。現代に於ては世界各國は總ゆる連鎖關係の下に成立してゐるのですから、他の國々に共産黨が政權を樹立したなれば、日本が其等の國とは無關係に現状を維持する譯には行かない様に思はれます。

共産社會が日本にも建設されたとすれば、共産主義社會には君主制は容れられないし土地の沒收も亦已むを得ない事であらうと考へます。共産主義社會の建設に就ての私の考へは、今日の如き生活難が救へるものであるのであれば、勿論悦ぶべき事と考へます。

四、學生の左翼運動に對し如何なる考を持ち居るか。

右の様な關係から、私は學生層をプロレタリアのシンパサイザーとして行動せしむるために努力して來ました。

然し學生は階級的にプロレタリアと異なる様に其役割任務に於てもプロレタリアと異ると考へます。學生はその階級のもつ有利な諸々の條件を利用してプロレタリアの運動の補助的役割を務め、プロレタリア運動を圓滑ならしむるに努力すればよいと考へます。私は右の様な意識の下に左翼的行動を進めて來ました。

六、今後は如何なる方針の下に進まんとするか。

(イ)思想的 (ロ)行動的

今後の方針として思想的には何等變化はありません。行動的に今後如何なる方針の下に進むかと云ふ事は、現在の自由を束縛されてゐる状態では、其後の個人的事情の變化が不明ですから確定的には言へませんが、此儘學校へ行けるものならば周圍の事情——家庭的肉體的等——が許す範圍内でインテリとして進みたいと考へて居ます。

二三

某帝大經濟學部三年 H某(當二十四年)

家 族……………父亡、實母、本人庶子  
父兄の職業……………無 職  
貧富の程度……………貧 困  
學 費……………叔父より月額七十圓  
健康状態……………強 壯

性 質……………敏 捷

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情如何。

私は生來貧しい家に生れて身分不相應の教育を受けました。この事が潜在意識となつて私に絶えず無産者の方へ親愛と同情を持たせる動機となつて來ました。私が高等學校一年の當時京大學生事件がありました。私がこの事件を聞いた時、此等の犠牲者に憎惡を感じずして、尊敬の意を感じた事を覚えてゐます。

「私は貧家に生れたが故に多くの人々から恩を受けてゐる。そして之等の人々は私の立身出世を希望し、絶えず私を鞭撻してくれて居りますが、私が今後若し社會科學を研究するとせば、恐らく此等の人々の期待を裏切るであらう」と云ふデイレクマの感情が私の高等學校生活を通じて常に私を苦しめてゐました。そして、この事が私をして自らの内偵要求にも不拘、私の社會科學研究を永い間抑制して居りました。

併し乍ら、私が高等學校三年生の當時、私の個人的親交を結んでゐた同級生某が、社會科學を研究してゐると云ふ理由に依つて學校當局者より無理に退學させられた。私は之に對して極度に憤慨し且彼等の擁護運動を通じて、當時の左翼的傾向を持つた學生に接近して行きました。かくて私が三年の二學期頃から漸次個人的に、特に家庭に對して秘密に、マルクス主義の研究を始めました。當時讀んだブハーリンの唯物史觀は私に非常なる感銘を與へました。

其後昭和三年四月×大經濟學部に入學しましたが、入學と同時に、前から私が期待を重ねてゐた××教授が辭職を強要され、且つ當時社會科學研究會が解散を命ぜられた。この事件は再び私に大きなショックを與へて、私をして、眞直に學生運動に投せしむるに到つたのであります。其の後の事情は既に再三申上げましたから、御承知の事と思ひます。

二、マルクス主義(共産主義)に對し如何なる考を持つてゐるか。

マルクス主義は「ドイツの一科學者の個人的研究によつて創成された思想であり、従つてそれはドイツの古典哲學の上に基礎を置き、猶太人の闘争的民族心理の上に暴力革命主義を盛り入れ、社會を徒らに分裂争別せしむる所の思想である」として之を非難する人が非常に多い。之に對して私はかく考へる。

マルクス主義は、近代資本主義社會に於ける資本と勞働との對立抗争及社會の本質的要素たる自由競争の不可避的破綻と云ふ事實に立脚せる必然的生産物であつて、其がマルクスと云ふ學者により祖述されたのは、單なる偶然にすぎない。假に若しマルクスが生れなかつたとしてもマルクス主義の思想は必ず生れたであらう。又マルクス主義の骨子たる革命論はマルクスの屬するユダヤ人の闘争的心理の反映であるとする考へ方も過りであつて、若し吾々が忠實に社會の歴史を考察するならば社會の發展過程には常に飛躍の階段があり且つその階段は殆んど革命(暴力的)であること、従つてマルクス主義の革命論はマルクスが斯く欲



して、斯く表現したのではなくして、マルクスが斯くの如き社會革命の歴史的事實を知つて、革命も亦止むを得ざる不可避的事實なりと考へ、之をその歴史觀に取り入れたに過ぎないのである。同じく階級闘争の理論も亦マルクスが書いたから起きたのではなく、階級闘争は近代資本主義社會の止み難き産物であり、マルクスが此を忠實に容認したにすぎないのである。以上によつて、既に明かなる如く私はマルクス主義の世界觀を眞なりと考へてみます。且つこのマルクス主義理論によりて指導される共産主義運動は結局に於て勝利を占めるであらうし、かくて窮極に於て共産主義社會は實現されるであらうことを確信して居ります。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對して如何なる考を持つて居るか。

(イ) 君主制撤廢のスローガンについて。如何なる人と雖も「國民は君主の爲めに存在するものではない」「君主こそが國民の爲めに存在するのである」と云ふ事を否定することが出来ないであらう。

何故なら國民なくして國家なく、國民及び國家なくして君主は存在し得ないからである。だがこの簡単な自明的真理が往々にして忘れられ勝ちである。日本の國體を論ずる場合に、人々は其の尊嚴を説き、其の純潔性を讃美し、其の鞏固性を畏敬する。だが、彼等は斯くの如き莊嚴なる現象形態の背面に、現在の民衆が、此の國體の諸制度により如何に支配され統治されてゐるか、此の統治の觸手は人民の安寧幸福を果して増

進してゐるか否か、特に今や金融資本主義の重壓によりて社會の隅々まで、鐵の如き重荷と、灰色の生活を強制されてゐる民衆が慘澹たる苦境に泣く時此の統治機關は如何なる作用を演じてゐるか、等々の嚴肅なる事實を直視するを忘れてゐるのである。國體の永遠性と優越性を正しく説かんとするならば、それは美麗なる幻想と過去への憧憬の中に行はるべきではなく、其の現實の活動の中に求めらるべきである。

吾々は以前の如き心構へを以て現在の國體を再批判せねばならない。日本の歴史を繰る時、吾々は皇室は、若干の疑はしき時代（此の時代の史的事實は今猶不明であるが、史家によりて次第に研究を進められて居る）を除いては、正しき系統を以て繼續せられて居ることは明かである。反對に吾皇室が國家統治の始たりし時代は極めて斷續的であり、暫時的であつた事も否定することは出来ない。更に吾國民を繼て同胞なりとする人々の意圖とは違つて、吾國には古代から以來、タカラ、カキベ、トモへの奴隷、封建的農奴、穢多等々の人間性を奪はれた構むべき存在があつた事も明白である。そして、吾國の歴史は他の諸國の其と殆んど同様で、古代の祭政一致の時、封建的武家支配の時代、近代資本主義の時代を經過し、我國古來の制度文物も亦印度支那朝鮮、下つて歐米の文化に影響され、多大なる作用を受けたのである。たゞ特殊日本として、民族の血統の比較的純粹性、文化イデオロギーの單純性があるが、之も亦日本が獨り傳説に云ふ如く神の國なるが故ではなくして、地理的

に極東に偏在し、且つ徳川時代の鎖國政策により影響されてゐるが故である。

以上で私は簡單ながら日本の國體が世上云々する多くの人々の見解とは必ずしも一致せずして、國體は各時代によりて異つた精神の下に異つた統治組織を持つてゐた、従つて、日本の國體そのものは古來單一なものではないと云ふことを述べた。かくして、日本の現國體は、明治維新と共に新生されたものであることを知る事が出来る。日本の現國體は制度として鞏固なる力を持ち、精神的にも可なり深く尊嚴を國民から得てゐる。其は嘗て新興日本が當時の多難なる内治外交の時局に於て、その獨立と發展を促進せんがために、敏速果敢に政務を處理せんがために、取られたる必然的の制度であり、更に又當時の弱小日本が、支那、露西亞と戦ひ、其の他の列強の抑壓に抗して雄飛せんがために、國民的統一従つて國民の精神の一致を必要としたからに外ならぬ。然し乍ら此の專制的制度は、今帝國主義日本の時代に於ては、前とは異り、金融ブルジョアジ、地主及其他の特權階級の自己の地位と野望を保持し、新興階級の擡頭を阻止せんが爲め、專制暴壓の劍と化して了つてゐるのである。一部の保守主義者の説くが如き美善雄大莊嚴なる國體の陰には黄金と享樂に溺れたる黄金魔が自由自在に之を繰る影響が色濃く表れてゐるのである。かくて新興プロレタリアートの階級的結成と發展に對して、金融ブルジョアジの指揮の動きのまゝに、國體の名による彈壓が暴風の如く

唳り乍らたゞきつけられる。だが國體の名による彈壓は必然國家に對する反抗とならざるを得ない。殊に日本の國體統治組織、就中その封建的遺制はプロレタリア運動の正常なる發展を阻み、ブルジョアジの反動政策を強行せしむるための最も有力なる武器と化しつゝあるに於ては猶更然りである。

私は徒らに殊更吾國體に惡罵を放つものではない。少なくとも現在の國民の大部分の腦裏には、皇室に對する尊崇の念と、國體に對する愛敬の感が存在してゐる事は知てゐる。だが、之等の觀念を更に深く研究すれば、その中には、潜在的には、此の醜澁たる社會の現實に對して、何日かは、そして、最後には、きつと我國體の眞能力が一大奇蹟を振つて、之を救済するであらう。即ち嘗ての元寇の變に對する神風を神祕的に信じてゐるが故に外ならぬ。

然し乍ら願望は少くとも現社會を正しく認識する者にとつては、誠にはかない幻想に他ならぬ事を直ちに知り得る。嘗ての新興日本は鞏固なる國體を必要とした。だが現在の日本は、その同じ國體を必要とせない。國家の社會的、歴史的役割は、内容的には、既に變質して了つたのである。

かくて私は、今結論に來た。私は君主制撤廢のスローガンに對して賛成するか否かよりも、日本が更に新しい歩を進めて行く上には、このスローガンを實行せねばならぬ必然性に直面してゐるのである、と云ふ



事を感じざるを得ない状態に置かれてゐるのであると明言する。

(ロ)土地没収のスローガンに就て。日本は土地狭隘、人口稠密にして山岳多く、耕地少く、一人當り耕地面積の率の少いことは世界に比を極めない處である。然しこの猶大の耕地には、神社佛閣、王地の擴大を極めてゐる。かくして日本の人民は狭土に密集し、苦境に苦難を加へ、極めて不合理なる生活を營んでゐるのである。併し此の神社佛閣の土地たるや、多くは沃野にあり乍ら、不生産的に放置されるか、或は生産に投ぜられて居るとしても、極めて不合理なる搾取關係の下に農民を苦しめてゐる状態である。従つて此の無償没収は、國民生活の合理化のためには絶対に必要である。

更に與へられたる土地没収のスローガンは個人の土地所有を禁止し、土地の國有を意味するのであるが、此も亦否定することの出来ないスローガンであると思ふ。元來自然物としての土地が特殊の個人の獨占に歸することこれ自身が空氣の獨占と同じく不合理極まるものである。たゞ自然物としての土地を人間の生活に用益するために、加工せねばならない。そして此には各個人の勞働と經營を必要とする。そして、こゝに土地の加工に對する個人の占有が生れて來たのである。従つて土地の所有は本來から云つて、あく迄も、土地に對する人間勞働の投資と經營關係から見て、始めて許さるべきものである。然るに人間の社會生活が各時代々々に於て違つた形態風習を取ると同じく、人間の社會生活が人間の土

ることは正邪の判断を超越した社會問題だと思ふ。若し一人の學生がマルクス主義を眞理だと信じて、社會運動に投ずるとせば、それは彼にとつて百、千の忠告も役に立ちはない。彼にとつては、其は正しいのである。吾々は彼の欲するまゝに、彼を行かせねばならない。それが本當に正しい見解だと思つてゐる。殊に私はマルクス主義の眞理なことを信じてゐるが故に、現代の學生が左翼運動に参加することは雄々しき英雄的行爲なりとして贊助せざるを得ない。

五、之迄如何なる意識の下に左翼的行動をして來たか。

私はこれ迄殆んど學生運動の埒内でしか左翼的行動をして來ません。そして之は左翼的行動と云へるか否かさへ疑問に思つて居ります。だが、これを左翼運動と規定するにせよ、私はこれ迄の運動を、一にマルクス主義的啓蒙宣傳のために行つて來たのであります。現在の固定した時代より乖離し、徒らに舊説を墨守し、學生の澁滞なる進歩性を癡癡する學校教育より學生を解放し、時代の流に沿つて彼等を生かすためには、吾々は彼等にマルクス主義的啓蒙を行はねばならない。私のこれ迄の學生左翼運動は、一に右の如き意識の下に行つて來たものであります。

六、今後は如何なる方針で進まんとするか。

(イ)思想的に。私は右に述べた點に於て既に明かなるが如く、飽くまでマルクス主義の正當性を信じて居ります。但し、今般その研究に於て

地經營に對する要求も亦變化せざるを得ない。此を歴史的に見れば、かつて太古人間の原始生活を營める時代には土地は社會の共有財産であつた。それが次には部落の酋長、民族の頭、封建諸侯の領有となつて、土地所有關係の形態を變じ、次に、近代資本主義社會に入つて初めて土地の私有と云ふ形態を取るに至つたのである。かくて土地所有形態は其の時々社會生活の要求に應じて變化して來たと同じく、今變化せざるを得なくなつて來てゐる。現社會は今變革の過渡期に直面して居る。私有財産制度の次に來る社會は、共產社會であるが、従つて土地私有制度も亦必然に變らざるを得ない。かゝる意味に於て共產黨が土地没収をそのスローガンに加へるのは寧ろ當然であると思ふ。

四、學生左翼運動に對して如何なる考を持つてゐるか。

往々にして世人は吾々に次の如き問を發する。「學生には學生としての本分がある。然るに學生がこの本分を忘れて、左翼運動に入るのを、君は悪いと思はないか」と。だが、吾々學生の運動は先づこの學生の本分乃至は現在の學校教育觀、現在の國家觀を疑ふか、若くは無視する處に端を發してゐるのである。吾々に詰問する人々の立場そのものを否定せんとする所に、學生運動の本質が基礎を置いてゐる。従つて右の如き質問そのものには吾々は初めから否定することは出来ない。「成る程あなた方の立場から見れば悪いことでせう。だが私達には私達の立場がありますから止むを得ません」と。かくて私は學生が左翼運動に参加す

未だ未熟なることを知つて居りますから、今後事情の許す限り、更に充分に研究を續けたいと思つて居ります。

(ロ)行動的に。私はマルクス主義の正當を信じてゐる立場から言つて、今後何時かは實際運動に投ずるかも知れません。だが、少くとも當分は、私の個人的事情から直ちに實際運動に参加する事は出来ませんから、産業勞働調査所に關係しつゝ私の研究を進めて行きたいと思ひます。

二四

某帝大經濟學部三年

S某(當二十五年)

家	族	祖父、父母、妹一人
父兄の職業	農	業
貧富の程度	富	裕
學	資	家庭より月額七十圓
健康状態	虛	弱
性	質	溫和

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情如何。

私の××高等學校在學中のことでありませう。大正十五年春の事であると思ひますが、××市に於ける娼妓解放の事起りてより娼妓解放問題が全国的に喧しくなり、夫れに刺戟せられて社會問題に興味をもつ様に



なり、その方面に關する文献を讀む様になり、次第にマルクス主義の文献を讀む様になりました。その後昭和三年×大經濟學部に入學せるMK某の勸誘により×大社會科學研究會に入りマルクス主義の研究をする様になり、爾來研究を續けて來てをります。

二、マルクス主義に對し如何なる考を持つてゐるか。

今迄の研究によりマルクス主義は理論的に見て正當なるものである。人生觀上社會觀上正しい觀方の方法を提供してゐるものと思ひます。マルクス主義研究方法をとつてのみ初めて社會及自然に對する正當なる認識に達することが出来るものであると思ひます。社會の諸問題の解決も正しい認識にたつて必要とするが故に、それが解決の爲にはマルクス主義にたつて必要とする。マルクス主義によつてのみ社會の諸問題も解決されるものと思ひます。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對して如何なる考を持つてゐるか。特に君主制撤廢及土地沒收のスローガンに就て。

マルクス主義理論に従へば總ての社會上の諸問題は政治的に解決せられて初めて其の解決につくことが出来る。經濟上の諸問題も政治的に解決せられて初めて全國的に統一的な解決につくことが出来る。如何なる經濟上の諸問題もそれが全國的な問題となる時は、政治上の問題となるのである。故に凡ての社會の問題、特殊的には勞働問題の解決をなさんとするものは政治的解決方法をとらねばならぬ。政治的解決をなす爲に

は政黨を組織し政治的に闘争せねばならぬ。

従つて社會問題、特殊的には勞働問題の解決の爲には「勞働者政黨」を作らねばならぬ。この「勞働者政黨」を國際的に共産黨と呼ぶことになつてゐるのである。社會上政治上經濟上の諸問題の解決をなさんと欲するものは、上述の理由から共産黨を是認せざるを得ないのである。

私は共産黨及青年同盟は正當なるものであると考へてゐるものであります。成年及青年の政治經濟上の諸問題解決のためには共に必要な組織であると考へて居ります。マルクス主義よりすれば其の理論上當然必要な組織であります。

次に君主制撤廢、土地沒收と云ふ日本共産黨のスローガンに就いて申上ます。君主制撤廢、土地沒收の二つのスローガンは密接不可離のものであるが故に、二つ共一緒にして申上ります。

君主制撤廢、土地沒收はマルクス主義の理論上、特殊的には露國の經驗より社會進歩のための必然的過程を有します。君主制を撤廢することによつて全人民を政治に參與させて政治上民主主義政治を布き民衆を政治的に自覺せしめ、又土地を沒收し公平に農民に分配することによつて農民をしてその負擔を軽減して以つて農業の發展を計り、これに依つて社會は進歩するものであると思ふのであります。故にマルクス主義を研究せる結果、私は當然之が正しいことであると思つて居りました。

併し冷靜に考へて見ますと夫れは輕率の議があつたのではないかと思

つて居ります。君主制撤廢のスローガンの是なりや非なりやを判斷せんが爲には、只露西亞の經驗を直譯的に見て是なりと判斷するは輕率にして、我國の君主制撤廢の是非を判斷せんが爲には、我國の君主制の發達の様相、特殊的には明治維新當時の我社會經濟の發達諸様相、それに規定せられたる當時の政治上の諸様相を詳細に分析せねばならない。其の研究の途上明治維新以前の生産様式たる所謂封建的の生産方法（特に農業上に於ける）及その上層建築たる封建的政治制度の崩壞の過程を究明して、

果して現在如何なる程度に封建的制度が我國の現代政治制度上に殘存してゐるか、又如何なる程度に我國農業上夫れが殘存してゐるか、又そしてそれが如何なる程度に我國君主制の基礎となつてゐるか、又いかなる程度にそれが我國農業の發展を阻害しつゝあるかを明かにして初めて君主制撤廢の是非、土地沒收のスローガンの是非の判斷が下され得るものであると思ふのであります。然るに我國に於ては未だ斯くの如き研究は發表せられてはゐない。今やその研究の途上にあると思ふのであります。故に現在即座に君主制撤廢、土地沒收のスローガンを是なりと信ずるは誤謬なりと考へてゐるものであります。

四、學生の左翼運動に對して如何なる考を持つてゐるか。

學生は現代社會に於ける中間層である現代に於ける没落しつゝある社會層である故に、現在の自らの地位は不斷に社會的不安に曝されてゐる。就職難、失業難、中小企業の没落等はこれである。故に學生は社會に對

する不安の念を持つてゐるものである。而も學生は學生なるが故に學内に於て又學外に於て政治上の自由を一般人に比し剝奪せられてゐる。又學生はその平生の生活の必然性よりして研究心に燃えてゐるが、學校當局の思想善導政策によりてそれは阻害せられてゐる。社會科學、一般的に文化的方面に於ける自主的研究は阻害せられてゐる。此處に學生の不満の念が起るのである。此の故に所謂學生運動が起るのであると思ふのであります。

學生運動は文化方面特に社會科學の研究を要求する運動であり、學内の内外に於て剝奪せられてゐる自由を要求する運動であるが故に、夫れは文部省の政策、現代の政府の方針に反對することとなり、到底學生獨自の力を以つてしては奏功不可能である。全國的に統一的に政治的自由を要求して闘争せねば不可能である。即ち現代我國に於て政治的自由を最も強く要求して戦つてゐるプロレタリアートは共にプロレタリアートの指導の下に戦はねばならないのであると思ひます。故に學内外の組織と結びついて、それと協力して學内の學生を通（？）せんとする學生の左翼運動は正當であると存じて居ります。

五、是迄如何なる意識の下に左翼的行動をして來たか。

前述の如く共産黨、共産青年同盟が正當なるものであり、又學生運動が學内外のプロレタリアートの諸組織特に上述の諸組織指導をうけることが正當であると考へてをりましたので、マルクス主義が人生觀社會觀



として正當であり、そして學生運動も亦それに立脚せねばならず、學外の諸組織、特に共產黨、共產青年同盟の指導を受くべきものであると云ふ考の下に學生運動に参加して來ました。

六、今後は如何なる方針で進まんとするや。

(イ)思想的。マルクス主義が正當であるといふ考へをもつてをりますから、その方法に従つて我國資本主義の研究をして行き度いと思つてをります。

(ロ)行動的。將來我國の社會運動は如何なるかは知りませんが、實際運動殊に非合法運動の方は中止したいと思つてをります。

二五

某帝大經濟學部三年 S某(當二十五年)

親子關係……實母、父、亡  
父兄の職業……某信用組合理事(亡父)  
貧富の程度……普通  
健康狀態……強壯  
性質……實、剛直

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情如何。

×高時代より社會問題に相當の興味を以て居たが未だ之を科學として研究せんとする迄には至つてゐなかつた。×大に入學して經濟學部に籍  
福本イズムに對しては其の餘りに觀念的なるにあきたらず、特に當時日本に於ける無産政黨の分裂を分離結合の機械的辯證法によつて説明せんとする事には反對であつた。従つて其の當時の政黨理論は極めて未熟不徹底ではあつたが、山川均流の大衆政黨論であつた事を記憶する。その後三・一五事件による研究會の解散、左翼戦線の混亂を眺めては益々現實より遊離し書齋派となり、ローザ、カウツキー、ヒルファディング、ブハーリン、ブレハーノフ等を完くアカデミカルな興味を以て讀んで居つたに過ぎない。以上が思ひ浮べられた昭和四年上半期までの自分のマルクス主義研究の歴史發展過程である。全く眞理探求的なアカデミカルな理論的興味、其れが自分を三ヶ年に亘つてマルクス主義に縛りつけた事情であつた。

昭和四年に入つて自分の卒業も目前に迫り、呑氣な學生生活も終りに近づくと共に漸く前途に對する漠然たる不安危機が自分を支配して焦燥の日を送つた。之から先自分は一體どうして暮らしたらいか、一方には社會に溢れる失業者、他方には生活力のない家族を抱へた戸主としての自分の地位、その二つが兩方から自分を苦しめた。幼時より比較的我儘な自己中心的に育つた自分としては、凡てを棄て、一片のパンの爲めに親族知己をかけつり廻つて居る友人達の姿が或る醜いものに見えた。自分には如何にしても情實と因習と金の支配する世界には住みたくなかつた。正に戦後第三期の尖鋭化して行く資本主義の矛盾、加り行くファッシ

を置いて××博士の經濟學論を聴くに及んで、マルクス主義經濟學を徹底的に研究せんとする希望を有するに至つた。

先づ××氏の諸著作を見、次いでマルクスの經濟學批判、資本論を研究し、更らに正黨派經濟學のマルクスに至るまでの學的發展過程をミス、リカルド、ミルと回顧しつゝ、一方マルクス主義の基礎をなす辯證法を獨逸に於けるヘーゲルよりシュライエルマツヘル、ホイエルバツハ、マルクスへの學の流れを急速度を以てたどりつゝ一應マルクスの哲學及經濟學の兩分野を歴史的に眺めた。

茲に於てマルクス主義が英國に於ける經濟學と獨逸の哲學とを兩脚とする十九世紀の學の最高峯なる事を知り、マルクス主義、それも主としてマルクスの諸著述を中心とする經濟學の研究を以て少くとも大學時代の研究の主目標とせんと決した。其後經濟學部の諸講義及その他の著書を知つて益々マルクス經濟學の正當性を確信するに至つた。然しこの當時は全く經濟過程の研究に没頭し、それなくしてはマルクス主義の存在すら危い政治過程の研究は全く放棄せられてあつた。

昭和二年の末始めて×大社會科學研究會に入會するに及んで當時日本の學會に於て支配力を有して居つた福本イズムを知り、之を研究するの必要を痛感し、こゝに政治過程と經濟過程との辯證法的連關性を知つたが、政治過程をつき込んで研究するに至らなかつた。

ヨ化の過程に抗して勇敢に闘争して行くプロレタリアの力が、自分の様な弱いインテリゲンチヤにとつては、没落して行く自己の階級、小ブル階級の一員にとつて眞に力強いものに見えた。

×高層分問題事件に關係して幾人かの自分より若き人と知り、其の人の達の獻身的な情熱に強く打たれた。二年前の多少華々しかつた社會科學研究會時代の熱情ある生活、已に犠牲となつて困窮の人となつて居る其の當時の友人の姿が思ひ浮べられた。

鐵の如きプロレタリアの組織の一員となつて自分の残りの一生を情熱と犠牲で埋めたい。其れが自分を縛りつけた箱まで連れて來た事情であつた。

以上が大體自分を左翼運動に結付けた動機であり事情であつた。

二、マルクス主義(共產主義)に對し如何なる考を持つて居るか。

マルクス主義(共產主義)の多がいて居る未來の社會の見取圖は、人類の最高窮極の理想であり、搾取のない自由平等平和の社會である。空想的社會主義と呼ばれるフリーユール、オーエンの考へた社會も、アナキズムの理想とする社會も、さては理想主義者の理念の最高の發現形態としての社會も、何れも同じものであると思ふ。何れも一定の社會關係の下に生存する人類の頭腦からしほり出されたものである。

マルクス主義が他の何れのものよりも自己を區別し自己の正當性を歴史の必然性として強要するのは、その唯物辯證法によりて把握された社



會觀であり、歴史観である、唯物史観を以て人類の社會的發展の法則とするからである。即ち現存する凡てのもの、肯定の中に同時にその否定を見る、唯物辯證法の命題に従つて、現在の一切の社會現象を歴史の必然的產物として肯定すると同時に、其れを其の無常性に於て把握する現存社會の必然的變轉を同じく歴史の必然性として其を現存社會の矛盾の中に見るのである。マルクス主義はその歴史を動かす原動力として、近代資本主義の產物プロレタリアの革命的エネルギーを見る。

現在日本の左翼が有する見解に従へば、マルクス、レーニン、スターリンを以てマルクス主義の正統の流れとする。社會革命によつて資本主義社會を轉覆してプロレタリアの獨裁する社會主義の社會を建設せんとするものである。其の現實の組織としてはコミンテルンの日本共産黨及其の指導下にある一聯の左翼の組織である。自分はマルクス主義の理論殊に經濟學に於ては最抽象的な原則に關しては異議がないが、その一般的原则が國により時代により特殊化せられる場合、そこに種々の問題が起る。レーニンの多くの著述論文は當時ロシアに於ては恐らく最正當な當時のロシアの最も正しくマルクス主義の光に照して解剖し、それに對する實踐を導いた事と思ふ。勿論日本に於ては抽象的なマルクス主義の原則は特殊化せられねばならぬ。其の特殊化せられたるものとして、吾人は日本の左翼の見解、特に當面の實踐的目標を集約的に表現したものととして徹底的ブルジョワ・デモクラシーの獲得を當面の闘争目標とする。

ため同じく民主々義革命を目的として闘ふ組織である。

自分は日本共産黨が日本の特殊事情に應じて掲げて居るスローガンに就て、特に四・一六事件後問題となつた君主制撤廢のスローガンについては幾多の疑問を有して居る。日本にコミンテルンの一支部としての日本共産黨が存在することは、マルクス主義の理論よりして當然導かれる結論と思ふ。併し其の綱領及政策が總て正當であるや否や、マルクス主義の理論が現在の日本の特殊事情に應じて特殊化せられて居るや否やは甚だ疑問である。

(イ)君主制の撤廢。日本共産黨が掲げて居る君主制の撤廢のスローガンが正しいか否かを考へる場合には、君主制の撤廢が何を意味するか明かでない。

日本に於てはブルジョア・デモクラシーが十分に獲得されて居らぬ。即ち日本には至る處に封建的遺物が残されて居る。これを政治機構について見ても、ブルジョア・デモクラシーの要求する完全に民主主義的なる立憲制度は與へられず、司法權は實質に於て完全に民主主義より獨立せず、(検事總長の司法大臣への從屬)名目だけの普選に基ける衆議院の上には貴族院、樞密院、元老があつて、之を名ばかり立法機關たらしめ、軍部の實權は全く獨立して三權の外に立つて居る。其の他封建的なる地方團は夫々實質的に政治を左右して居るの状態である。

同じく立憲君主國たる英國と較べて其の間大なる逕庭がある。

日本共産黨のスローガンを持つてゐる。

自分はそのスローガン其のものについても其の包んでゐる意味についても詳しい事は知らないが、其の解釋如何に依つては種々の問題を生ずると思ふ。

要するに自分はマルクス主義の一般的理論に對しては無條件に其の正當なるを確信するが、其の一般的抽象的な原則から次第に下降して特殊化せられ、具體化せられたるものに付ては無條件に其を受け入れることは出来ない。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對し如何なる考を持つて居るか。特に君主制の撤廢、土地沒收のスローガンについて。

コミンテルンの日本支部としての日本共産黨及キムムの日本支部としての日本共産青年同盟の實在する事は、第二無産者新聞、インターナショナル(「産勞」)等の諸雜誌其の他の文献によつて知つて居た。特に四・一六事件に際し全國の新聞に發表されたスローガン等によつて大體日本共産黨及同盟に關し次の如き概念を有して居た。日本共産黨はコミンテルンの一支部であつて、社會革命に現存資本主義社會を轉覆して共産主義の社會を實現するために、プロレタリア革命を當面の闘争目標として資本家地主の政府を倒して労働者農民の政府樹立の爲に闘ふプロレタリアの指導の下に労働者農民の同盟せる闘争組織である。共産青年同盟は共産黨の指導の下に労働者農民の青年の有する特殊なる政治的要求獲得の

日本の國體の世界無比なる特徴は民の心は天皇の御心であり、天皇は人であると共に神であると云ふ事情である。若し徹底的に民意が代表せられるなら衆議院の決議は其のまゝ天皇の御心であらねばならぬ。従つて日本は名は立憲君主國であつても、實質的には民衆國である。然らば何等の文字通りの意味での君主制の撤廢の要求を、一切の封建的なる政治的殘存物除去の要求の集約的表現として見るならば其は正しい。それは徹底的なる民主主義の要求であり、日本に於ては徹底的なる立憲君主國の要求、即ち天皇と人民との間に介在する一切の封建的勢力を一掃せんとする要求である。憲法上の統治權總攬者として天皇の地位は之を憲法上に規定すると否とに不拘實質上は同じであると思ふ。君主制の撤廢なる語句のかゝる解釋は恐らく黨の解釋ではあるまいが、自分がかゝる解釋をとる事により之のスローガンを肯定することが出来る。

(ロ)土地沒收。土地所有權が農業に於ける資本主義的發展、従つて農業生産力の發展を妨げる桎梏に轉化した事は、吾々は現實に日本に於ても深刻化して行く小作争議、耕地面積の減少等によつて之を痛感するのである。

農民の解放即ち農業革命は資本主義的發展になり不可避なる前提條件である。

ブルジョワジーは生れ乍らにして土地問題を背負つて居る。其の解決を要求せられつゝも之を解決するの力を有しないで、次に來る歴史の登



場者プロレタリアにその歴史的使命を譲るのである。

西歐に見る如く農業革命が相當の程度に戦ひ取られて居る所では、農業に於ける資本主義は或程度まで發展し、大土地所有農業企業家の存在にあらはれ、地代地價もその經濟的合理性を有して居る。(土地所有權を前提とする合理性)

日本に於ける農村に就て見るに、其の凡ての生産關係は強き封建的色調を以て彩られ、封建的高率なる物納地代以外なる地價を有し、従つて日本の農村は土地所有、集約的耕作(勞力の集約的投下)、農民の餓死生活に現れて居る。従つて封建的なる大土地所有即ち御領地、寺社領及極めて小數の大地主を除いては大土地所有は存在せず、資本主義は農業に於ては全く不發達の狀態である。その理由は、日本の新興ブルジョワジーが農村に於ける封建的生產關係を完く粉砕する力なくして帝國主義段階に入つた爲めに、農村の無條件なる強壓搾取による以外に生存し得ないによる。

以上の理由よりして日本に於ても進歩的ブルジョワジーは今更土地國有論を力なく唱へて居る。土地の沒收は農民革命の窮極不可避なる要求である。沒收なる語は無價沒收を意味するが、夫が文字通り無價沒收か或は極めて安き價格による買収かは大した問題ではないと思ふ。要は其の時の客觀的の勢力關係により決するのである。又プロレタリアートは自己の同盟軍なる中農以下を味方につける必要上、小地主に對しては

累進的に高き價格を支拂ふも可能である。

國家權力による強制的土地收買は現代の社會觀念に於ても正當化せられて居る事と、地方團體が道路開設等に際し強制力を有するによりても知らる。土地所有權の撤廢は他の所有權の其れと異り民主主義的要求である。自分ばかりの意味から共產黨のこのスローガンを肯定する。

四、學生の左翼運動に就て如何なる考を持つて居るか。  
學生の左翼運動は大體之を二つに分けて考ふるを適當と思ふ。一は學生が學生たる地位に立ち自己の地位の獲得のために戦ふ場合で、他は學生なる特殊なる地位の制約を受けて居るものが學校外部の左翼の組織に關係する場合である。前者は學内運動として、後者は學生がプロレタリアの組織の中に飛び入る事に現れる。

學生の左翼運動は其自身幾つかの發展段階を有して居る。日本に於ける學生制度の特殊性により、即ち大部分が官學であり、他のものも嚴重なる國家の監督下にあり、従つて極めて官僚的專制的であるにより、學生運動は特別な使命と發展の歴史とを有して居る。

大體小ブル的生活環境に立ちインテリゲンチヤとしてブルジョワ・デモクラシーの要求を己れ自身の階級的要求として有して居る學生の專制的支配に對して闘つた。それは飽く迄も進歩的プロレタリアの要求である不徹底なるブルジョワ・デモクラシーの要求に過ぎなかつた。決して革命的プロレタリアートの要求し、又その獲得の爲に自らの力で闘ふ徹底的

のブルジョワ・デモクラシー獲得の闘争ではない。マルクス主義研究の自由であり、學内の自由自治の要求である。

かゝる運動の最高潮も學聯事件を以て、はかなくも終りを告げた。其の理由としては(一)日本に於ては一般にブルジョワ・デモクラシーが極めて貧しくしか獲得されて居ない事、従つて少くとも、プロレタリア階級である學生が自己の階級的要求の限界内に於ける要求すら社會一般以上に十分に闘取する事は不可能であつた事、(二)プロレタリアートが自己の階級的解放を要求する革命的運動が急激に發展した爲め、學生の要求するブルジョワ・デモクラシーの要求もその一部に包括せられてしまつた事であると考へられる。

山川イズムの經濟闘争より政治闘争への方向轉換の理論を経て、我國の無産階級運動も幾多の誤謬を肩しつゝ、福本イズムの支配する時代に入つた。福本イズムの時代は理論闘争萬能時代であり、従つてインテリ得意の増上であつた。此の時代に於ける學生は未だ自らがプロレタリアの組織の一員となつて闘争に参加するのではなく、インテリとしてそのマルクス主義の理論的武器を以てプロレタリア運動を指導せんとするにあつた。従つて當時の大學の社會研究會にあつてもマルクス主義の組織的體得とか、學聯なる他のプロレタリアートの組織と独自の全國的組織による學内運動を其の使命として居た。従つて此の時代は未だ學生運動の前期とも稱すべき時代である。福本イズムの誤謬の清算より日本の左翼

運動はコミンテルンの一支部として、日本共產黨の指導の下に初めてプロレタリアートを本隊としてその指導の下に至つた。

學生運動も此の左翼戦線の進展に伴つて方向轉換をせざるを得なくなつた。之が三二五より四一六を経て今日に至つて明白に其の形態を具へるに至つた學生運動發展の姿であつた。即ち曾ては独自の組織により独自の階級的要求を闘つた學生運動は、今や一轉してプロレタリアートの組織の指導下にプロレタリアートの要求を支持援助するのそれに轉化するに至つた。學内運動は學生を宣傳煽動し、その優秀なる分子をプロレタリアートの組織に送り、或はプロレタリアートの運動を助くる爲め組織を學内に作るに至つた。S.S. 解體學生グループの成立は之を明白に物語つて居ることと思ふ。

以上は大體今日迄我國の學生運動の歴史的發展の道行きである。將來に於ける學生運動は益々之の傾向が強められることと思ふ。

大體プロレタリア階級なる學生、特殊なる分限に立つインテリゲンチヤとしては、特殊なる人を除いてプロレタリアートの鐵の組織に参加することは不可能である。又學内運動は今後左翼戦線の進出發展と共に優秀なる學生分子を組織する爲め、學生グループの活動となる事と思ふ。而して頭が即ちマルクス主義の眞理性のために闘ふ人は少なくなつて、身體で即ち社會の迫害の加はると共に左翼戦線で働くより行く處のない學校を追放された學生は益々多くプロレタリアートの組織の中に入つて行く



考へられる。

五、是迄如何なる意識の下に左翼的行動をして来たか。

自分が左翼運動に關係するに至つたのは、(一)に述べた動機事情の下に(四)に述べた學生運動の大勢を概観するに、自分には戸主としての責任あり、身體も餘り丈夫な方でないので、鞏固なるプロレタリアートの組織の中に入つて其の一員として闘争することは到底不可能なることを考へた。然しあく迄もマルクス主義理論の正當性を信するものとしてマルクス主義から全く絶縁するのは自分には相當苦痛であつた。マルクス主義を假令理論的にのみ研究するとしても、マルクス主義を生きたものとして把握する爲めには、どうしても現實の左翼運動を理解することなくしては不可能である。自分は自分の許す事情の範圍内で左翼戦線の擴大強化を援助し、左翼運動に現實にたづさはつて居る人達と連絡を取り、左翼運動の情勢を知ると同時に、他方マルクス主義經濟學、それも主として日本に於ける農村問題の研究に餘暇を捧げたいと考へた。以上の考から、自分の今迄なした左翼行動と云つては、主として一時的の基金募集とかピラサリの手傳に限られて居つた理由である。

大體以上が自分の今日迄の爲した左翼的行動の凡てを通じてその根柢に流れて居た意識である。

六、今後如何なる方針で進まんとするか。

(イ)思想的。自分は矢張りマルクス主義から離れたくない。將來思想

的危機が来てマルクス主義に矛盾が生じたらいざ知らず、現在に於てはマルクス主義理論の正當性を信するのである。従つて今後おそく生活に追はれて十分暇がないであらうが、若しあれば書物だけでも讀んで行きたいと思ふ。然し研究会に出ると云ふが如き組織的研究をする希望は今の處有してゐない。

(ロ)行動的。二ヶ月に亘る監房生活によつて、よく家庭の關係や自身自身の力の程も分つた。自分は弱いインテリゲンチヤであつて到底果敢なるプロレタリアートの闘争に参加することは不可能である。自分の標なもの組織の一部に参加することに依つて多くの人に迷惑をかける結果となることを惧れる一方、自分は戸主として年老いた母と三人の幼い弟妹を養はねばならぬ責任を有して居る。今後出来るだけ働いて一家の生活を安固ならしめんと考へて居る。

自分としては今更ら前途に何の希望はない。今後適當なる職業を得て残り半分の人生を呑気に暮らしたいと思ふ。

### 二六

某帝大經濟學部三年 N某(當二十四年)

家 族……………實父母、姉(他に嫁す)  
父兄の職業……………建築設計業  
貧富の程度……………普通

學 資……………家庭より月額三十五圓  
健康状態……………強 壯  
性 質……………温良なるも稍粗漫

一、マルクス主義を研究するに到りし動機事情如何。  
簡単に云ふと藝術の研究が社會科學研究の動機を作つたのであります。

私は中學校高等學校を通じて藝術に興味を持つてゐた爲め少なからざる文學書を耽讀し、トルストイ等の影響を受けて人道主義的な傾向を有するに至りました。高等學校で學んだのは理科でありましたけれども、私は次第に藝術方面に於て文筆で食つて行かうと考へるに至りました。大學は文學部を希望しました。然し理科出身者は文學部へ入學する事が出来ないで、止むを得ず經濟學部に入學しました。さて私が入學した春三・一五事件の記事が新聞に發表され××博士が辭職される事となり、學生大會が開催され、恩師を思ふ學生諸君の熱心な態度を見るにつけ、所謂人道主義者であつた私は少なからず心をうたれました。然し乍ら大學構内の諸所に社會科學研究會の入會申込の箱が未だ置いてあつたに拘らず入會はしませんでした。社會主義者の群を、當時は只好意的な眼を以て眺めてゐたに止まつてゐたのであります。

大學入學後私の文學研究は着々と進みました。研究が進むにつれ、プロレタリア藝術が目につかない筈はありません。當時プロレタリア藝術

は太陽の如く輝き始めようとしてゐた時でありました。

然し藝術は藝術であると云ふ考へ、言ひ換へれば藝術といふものに政治的な意味を持たしてはならない、政治の爲めの武器或は手段として藝術を用ゐるのは誤りであるといふ考へを棄てることは出来ませんでした。

その頃丁度河上肇博士の「資本論入門」階級闘争の必然性とその轉化」等を読みました。何れも社會に對する新しい眼が開けた思ひで讀んだと記憶します。今迄一向に注意を拂はなかつた種々の社會の出來事が私に關心され始めました。

かうして資本主義に關する私の見解は少しづつ變り始めたのであります。政治の爲めの手段として藝術を利用すると云ふことは依然として解し兼ねたのであります。そして、少し勉強しようと思ひ、所謂赤い本を讀み始めるに至り私の思想も赤くなつたのであります。

二、マルクス主義(共產主義)に對して如何なる考へを持つてゐるか。  
結論を先づ述べるとマルクス主義は絶對的に正しいものであると信じます。現在の社會は全く不合理な社會であつて少數の人間が多數の人間を搾取し搾取階級は驕りを盡して安閑と遊んでゐるに拘らず、搾取されつゝある無産大衆は殆ど人間らしい暮らしはおろかその日の生活をさへ脅かされて犬猫にも劣る生活をして居ります。現在の文明文化をすら少數の有産階級に獨占され、無産大衆は智識的にもドン底の世界へ追



ひやられてゐます。この不合理極まる社會を合理的な全人類の幸福を充たす社會に變革するための武器としてはマルクス主義以外には何もありません。現在の科學に於て唯一の科學的な體系を持つてゐるマルクス主義は、私に明確に教へてくれたのであります。人類社會の歴史に於ては一見昔から同じ經濟組織が續いて居るかの如くに見えるが眞理は然しさうではなく、原始的共產主義の經濟組織、奴隸經濟組織、封建的經濟組織、資本主義的經濟組織、と次々に全く異なる經濟によつて支配されてゐるのであり、現在の資本主義も決して永遠的なものではなく、必ず共產主義の社會に移つて行かねばならないのであり、共產主義の社會に於て始めて全人類は完全に解放され、人類の文明は達し得る最高なものにまで到達するのであると。而して社會の變革には根本的には漸進主義と革命主義との二つの戰術があるのであります。私は後者即ちレーニン主義或はコミンテルンの主義を支持します。

資本主義は漸進主義の考ふるが如く「棚からボタ餅式に共產主義に推移するのでは決してなく、階級闘争激化の結果としてのみ、且プロレタリアの獨裁を経てのみ可能なのであります。即ち資本家地主が労働者農民を搾取し支配するための道具であるブルジョア國家を、プロレタリアの權力を以て打倒してのみ可能なのであります。議會主義だとか勞資協調だとかは労働者農民をだまし、労働者農民をその解放から永遠にせき止める以外の何物でもありません。

解放されるためには、その偶像を排除する必要がある、そのため日本共産黨が君主制撤廢のスローガンを掲げてゐるのであります。これは共産黨がプロレタリアを解放するために闘つてゐる以上絕對的に必要なスローガンであります。

(ロ)土地沒收。資本家が無ければ搾取される労働者が存在しないと同時に、地主が無ければ搾取される農民といふものも全く存在しないわけでありませぬ。

日本共産黨は階級の無い社會を實現するために闘つてゐるのであり、かかる以上土地沒收のスローガンを掲げるのは絕對に正しいと考へます。第一に土地を沒收し地主を滅すことによつて階級は消滅し、同時に土地は農民の共有物となり、従つて農業に於ける共產主義が最初の一步を踏み出すのでありますから。

四、學生の左翼運動に對して如何なる考へを持つてゐるか。

従來の學生の左翼運動は廣大なる學生大家からも労働者農民からも遊離して居り、プロレタリア解放運動の一翼を擔當することは到底爲し得ざる所でありました。又眞の闘士を養成する貯水池の役割を果すと云ふよりは、むしろ机上の空論家をいしかも極めて少數の一產出する役割をしか果し得なかつたのであります。

この誤謬を避けるためには、學生の左翼運動は日本共産青年同盟の革命的闘争の強力なる一環をなさなければならぬのであります。即ち従

要するに虐げられつゝある全世界の幾億の労働者農民及植民地の被壓迫大衆をその鐵鎖より切り放ち、全人類にすべて幸福をもたらし、人類が到達し得る最高の文明をもたらすための武器としては、マルクス・レーニン主義を除いては絕對に何も無いと信するのであります。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對しては如何なる考へを持つてゐるか。特に(イ)君主制撤廢 (ロ)土地沒收のスローガンについて。

私は日本共産黨、日本共産青年同盟が嚴密なコミンテルンの指導に従ひ、マルクス主義を一滴の日和見主義に置き代ふる事すらなく、鋼鐵の如き意思と規律とを以てうち續く斷崖と白色テロルを賦とばしつゝ、命を賭して闘つて居るのを見て常に崇拜的な氣持を以て讚美して居ります。而して日本共産黨、日本共産青年同盟こそ日本に於ける唯一のマルクス・レーニン主義的な政黨であり青年の同盟であると思ひます。絶え間ない必死の彈壓に會してゐるのは、これ日本共産黨、日本共産青年同盟が眞に労働者農民のために闘つてゐるからであります。日本に於て労働者農民を眞に解放し、共產主義社會をもたらし、人類のすべてを眞の幸福にまで到達せしめ得るものは、日本共産黨、日本共産青年同盟を描いて外には決してないと信じます。

(イ)君主制撤廢について。君主といふものはブルジョアジーがプロレタリアを極度に搾取するための機關であります。それ故プロレタリアが

來の社會科學研究會自身が日本共産青年同盟に解放されねばならぬのであり、學生にして學外の闘争に従事する者も日本共産青年同盟に吸収されるべきであり、かくてこそ學生の左翼運動はプロレタリア解放運動の革命的闘争に捲き込まれ得るのであります。又かくてこそ書齋より得る柔弱な理論の代りに、實踐を通じて鐵よりも堅い理論を獲得し得るのであります。此の様に學生と雖も労働者農民と共に解放運動の最前線に立たねばならないと考へます。

五、是迄如何なる意識の下に左翼的行動をして來たか。

現在は資本主義が没落しつゝある帝國主義の段階であり、資本主義は第三期の矛盾を赤裸々に現出してゐます。即ち革命的危機が全世界に逼迫してゐるのであります。

しかも日本共産黨は一度の彈壓毎に舊に倍する勢力を以て再建され、その組織は益々強固に大工場、農村に根を下してゐるのであります。かくて日本共産黨の輝ける指導者片山潜の「ロシアの次に革命が起るのは日本であらう」といふ言葉は益々裏書きされるのであります。

かかる状態に際しては私も奮起せざるを得ません。日本プロレタリア作家同盟員としてはプロレタリア解放運動に貢献し得る最良のプロレタリア作家たらんと希望して居りました。又プロレタリア藝術家は藝術家であるからといって藝術家の範圍を守つてゐるばかりでなく、それより階級的な仕事があるならばさし／＼その仕事をやらねばならぬのであ



ります。

故に日本共産青年同盟の擴大強化に貢献する極めて重要な階級的仕事であると考へて無青のピラ貼りをやつたのであります。

六、今後は如何なる方針で進まんとするか。

(イ)思想的。日本共産黨、日本共産青年同盟の非合法主義、機械的な直譯的翻譯主義に關しては多分の懐疑を抱いて居ります。斯かる共産黨の直譯主義の故に共産黨、共産青年同盟は却つて無産大家から孤立せしめられねばならなくなるのであり、同時に眞にプロレタリア解放の爲に闘つてゐる筈の共産黨が労働者農民の利益のために實際には闘ふ事が出来なくなつてゐるからであります。

從來ともかゝる考へが醒々湧いたのでありますが、今迄は殆んど盲目的と云つてもいい程に押へつけてゐました。

假令コミンテルンの指導理論が誤つてゐたにしても、學問より左傾した私にとつて、マルクスの唯物辯證法に關しては今後それを克服し得るだけの思想が生れない限り、簡單においそれとは一掃出來兼ねるだらうと思ひます。

故に私は今後思想的には進歩的な自由主義インテリゲンチヤの立場をとつて總べてを批判的に眺めつゝ、進む方針であります。

(ロ)行動的。今迄私は両親に憎まれてゐると考へてさへゐましたが、今度の事件の結果全く思ひがけない程両親が私の事を心配し考へてゐて

くれたのを知りました。一人しかない子供である自分の地位を考へると、全く大きな責任感に打たれずには居られませんでした。又小ブルジョア的なインテリゲンチヤでしかあり得なかつた自分を考へる時、合法的な運動なぞ到底自分には及びもつかない事であるのを知りました。今後假令ノツピキならぬ様に頼まれることがあつても斷然と斷つて、法律に觸れる如き行動は一切やらない決心であります。且又自分は藝術家として世に立つ考へを持つてゐたのでありまして、その意味に於ても左翼的非合法實踐行動は斷然と思ひ止まり、藝術に専心精進する必要があるのであります。

而して又世の民の生活を殆ど知らない、否労働者農民の生活をすら殆んど知らない自分が、眞のプロレタリア藝術を創造しようとするのは精神の浪費といふよりは寧ろ無學に近いことであるのを知り、今後はインテリゲンチヤ的な作品を作ることにて優れた藝術家にならうと考へてゐます。それが自分としては最も適切であり且ふさはしいことであると思ひます。

二七

某帝大經濟學部二年

T某(當二十五年)

家 族……………本人戸主、母、姉二人

(内一人他に嫁す)

父兄の職業……………警務署長、郡長(亡父)  
貧富の程度……………普通  
健康状態……………中等  
性質……………温順

一、マルクス主義を研究するに至つた動機並に事情に就て。

マルクス主義を研究する様になつた動機は、私が文學に興味を持ち且つそれを生活の指針としてゐた點にあります。××高等學校に在學中既に文學を専攻する積りで二年級頃から個人主義文學、殊にロマンティズムのもの——佐藤春夫を初め有馬生馬、谷崎潤一郎等——を愛讀し、次第に人生派的傾向の里見弴、志賀直哉、武者小路實篤の白樺派を中心に、自然主義派の島崎藤村、徳田秋聲等を研究的に讀むやうになりました。當時流行してゐた所謂新感覺派の文學も、自然親しむやうになり興味を覺え、横光利一、川端康成、十一谷義三郎、中河與一等の作品を愛讀するやうになりましたが、しかし根本的に私の思想を支配するものは一種のロマンティズム——それは愛戀な、またそれ故に現實を夢見ようとする佐藤春夫のそれ——であります。ロマンティズムはその背後に廣大な虚無の世界があると云ふことを誰かと言つてゐるのを記憶してゐますが、確かに私にとつては事實です。従つてニヒリズムの傾向を多分に持つてゐたと言ひ得られます。現代文學のみならず、芭蕉や西行の書も特に國文科志望だつた私は愛讀したものであります。一面、ニヒリズム

がデカダンの傾向をもち、シュニツレル等の作品が好きになり、トルストイ、ドストエフスキー等は寧ろ嫌で、今尚その著名作品を知らないのに反し、ツルゲネーフ、プーシキン、アンドレーフ、バルザック、ストリンドベルヒ……………等の作品を愛讀したことより見ても、ロマンティズム乃至ニヒリズムの傾向にありました事は分かります。尤も當時の生活がデカダンのであつたと云ふ譯ではありません。寧ろ孤獨を愛し下宿さへ學校を遠く離れた所に一人で居、親友と云ふ程のものもない生活をして居りましたが、併し、結局それに安住し得なかつたのでした。

當時家庭關係はともかく平穩で、學費は姉の嫁つてゐる家から送金して呉れてゐました。尤も姉が苦しい工面をし乍らであつたのは事實ですが、私は人並みに呑気に生活する事が出来ました。それで高等學校に入學してから、少し餘裕のあるまゝに、出来る丈文學的な書籍を買込んだのであります。

かうして高等學校の二年級當時は、色々の傾向の文學を就讀した觀があります。然し前述の様なロマンティズムがその根本思想を構成してゐたと言ひ得ます。當時私は、××高等學校の××高文藝同好會及××高童話研究會の會員でありました。文藝同好會には、私が一年級の頃から入會してゐましたが、所謂左翼分子がその指導的な勢力を持つてゐました。併し當時の私はそれに對して積極的な關心を持つてはるませんでした。だが、私がマルクス主義を研究する様になる動機乃至事情はこの會にも



あるのです。

私が二年級になつた頃、それも大分経つてからのことですが、同校に社会科学研究會が組織されてゐるのが發見されて、その會員に退學、停學、戒飭等の處分を受けた事件がありました。當時その會の存在さへ知らなかつた私は、文藝同好會員中にも社会科学研究會員があり、然も優秀な指導的立場にあつた人達であり、それを失ふのを残念に思ひました。

私が次第にマルクス主義に直接的な關心を持つようになつたのは、三年級の頃からでした。それは當時新感覺派の文學が次第に新興のプロレタリア文學理論に壓迫され、諸雜誌の上で兩文學理論が所謂理論闘争を展開する様になつて來た頃からです。従つて私も亦その理論なり作品なりを讀むやうになりました。然しその難解な理論は今迄考へてゐた藝術論のみでは、容易に理解し得ないものでした。かうした傾向は勿論文藝同好會でも問題となりましたが、その會員中の一、二のものが當時再組織されてゐた社会科学研究會に入會してはどうかと勧誘をしましたので、最初は社会科学研究會の研究よりむしろ哲學的藝術的方面の研究がしたかつたので餘り興味も持つてゐなかつたのですが、文藝同好會の主だつたものに社会科学研究會員系のもので、かなり多くあつたものでした。又單に藝術論のみの研究では事足りずと云ふので、遂にそれに入會しました。三年級の一學期の終り近い頃かと思ひます。

かうしてマルクス主義の研究の動機が作られました。尤も入會後私の

下宿から徒歩で、少くも四十分もかゝる所までその集會にかゝるので、よく缺席することがありましたし、一面また研究課題が週二回のうち辨證法的なもの、哲學的なものと、經濟的、政治的理論のものに分れてゐたので、その哲學的な方には藝術理論に直接關係がある關係上その方には出ましたが、他はとかく缺席し勝ちでありました。

かうして、とも角マルクス主義を研究する様になりました。その後も以上の様な状態のもとに會に出席してゐましたが、卒業期の近づくとともに、一月頃からは殆ど會に出なくなりましたので、高等學校での研究は極く短日に過ぎなかつたのです。

研究の動機及事情は以上の如くでありますから、主として大學がその機軸となつてゐます。尤も人生觀的な懷疑、或は厭世觀より逃れ出ようとする形而上的な憤みといふべきものがないではありません。然しその人生觀が一切の動機でもなく、個人的にこの懷疑觀は常に私の思想の根本的なものを、ロマンティズムとも構成してゐます。誰かと言つた、唯物論は、ロマンティズムの上に咲いた花だと云ふ言葉は、私が研究するに到つた経路を説明してゐます。

かうしてマルクス主義研究の動機に就ては、具體的な或は生活的事實が支配してゐるとは考へられないのです。

勿論生活が豊かであつたのではありませんが、それに困るといふ程ではありませんでした。それでとり立てゝ言ふやうな生活的事實はありま

せん。尤も當時姉の家庭關係は不幸なものでした。私が歸省したりする時は、主として姉の家で送つた關係上、又姉との通信などにより、その關係の渦中に捲き込まれねばならなくなつて、種々な家庭的な苦痛を切實に感じ、學費を供給してもらつてゐた關係上、幾度か學業をさへ放棄しようかと思つたこともありました。或は、無意識的にせよ、かうした事情が社會的な反抗心に迄煽動されたのかも分りません。がそれは意識的なものではありません。(その姉は私の檢束されてゐる中に義兄と離婚した相です)

以上マルクス主義を研究するに至つた動機並びに事情に就て申述べました。

## 二、マルクス主義(共產主義)に就ての考へ。

マルクス主義を研究するに至つた動機並びに事情に就ての項に於て述べました様に、またその後も文學方面に關心してゐます關係上、純然たる社会科學としてのマルクス主義に就ての考よりも、むしろ藝術的方面からマルクス主義に就て述べることに致します。

マルクス主義が唯物史觀の上に立脚してゐるのは言ふ迄もないことです。哲學としての唯物史觀は、恐らく私が哲學としての哲學を研究した最初のものであります。科學的に哲學を研究するといふより漠然たる世界觀乃至人生觀を持つてゐた頃の私から一つの科學としての哲學を研究する最初のもので、唯物史觀——エンゲルスのフォイエルバッハ論やデ

ボアリンのレイニンの辨證法等を最初に讀んだものです。——でありました。關係上私の關心が全部的にそれらに注がれて、とかく無批判的になりがちでした。それでその「持つてゐた」人生觀、世界觀——例へばロマンティズムの如き——に對立してゐる唯物論をとらへ、自身で是認してゐたものであり、また自身で理論づけても居りました。

斯くしてマルクス主義は私自身にとつて最初から理論的に正しいと云ふのが私の先驗的な命題でありました。家庭の事情から、主として學費給與者であつた義兄との關係から、大學に於て文學部へ入ることなしに經濟學部に舊を置くやうになつて、經濟學的方面にも幾分興味を持ち、又理論的に知る様になり、又一般の社會の關心が多かれ少かれ社會主義的傾向に向ふことを見るより、根本的にマルクス主義なるものを批判する餘裕がなくなつてゐたといふことは、私のマルクス主義に就ての考の上に大きな役割を演じてゐます。大學に入學して以來一時何の會にも關係しなかつたのですが、二回生になつた一學期の末×高讀書會に初めて入會し、主としてマルクス主義の研究を再びするやうになりましたが、それより先き一回生の二學期頃より×帝國大學學友會の新聞部に部員として、主として學藝欄を増富してゐました關係上、當時の新聞部部員の殆ど大多数が社会科学研究會員だつたので、それらと友人になり、親しくなるにつれ、マルクス主義への關心は友情的にも結ばれるに到つたのであります。このことはマルクス主義への信念或は信仰的信念を批



判することが所謂反動であり没落であるといふ様にさへ考へるに至つたものであります。かうして、養はれて来たものが私の考へるマルクス主義でありました。

斯うして養はれて来た私のマルクス主義への關心は、哲學的に、マルクス主義が無條件的に正しいといふ點に歸着するのであります。

そうして藝術的方面に於てマルクス主義文學——プロレタリア文學の進出はかうした私の考へを一層煽動するものであります。

私はマルクス主義に就ての考へを、かうして哲學的藝術的に主として考へ、それを戰略、戰術的に具體的、現實的に深く考へるに至りませんでした。

藝術が階級闘争の手段となり、それへの意識を持ち込む一方便であることは理解しますが、具體的に所謂組織すると云ふことなごに就ては私にとつて果して如何なることか、明かに認識することは出来ません。

またこゝに疑問として残されてゐるものに、プロレタリア文學理論による藝術の永遠性の否定といふことは、マルクス主義を正しいと考へながらもなほ不可解のものであります。一應の理論付けが出来ても、實際上尙矢張藝術の永遠性を否定し得ない點があります。

マルクス主義はブルジョア社會の變革理論であります。現在の社會情勢が次第に社會主義——廣義の——の見地より認識せられ又進展するので將來ブルジョア社會が變革される時が来ると考へられました。それ

が例へば遠き將來に於てのことであるにせよ、次第にこのマルクス主義的社會の實現は可能であらうと考へます。

マルクス主義に就ての考へは以上の如くであります。従つて、之を批判的に即ちマルクス主義そのものを客觀的に見ようとすることを敢てなし得なかつたのであります。これは一の誤謬乃至認識不足かも知れませんが、敢て其を意に介さうと思ひませんでした。

それ故に、マルクス主義が理論的に、特に哲學的に正しいと考へてゐました。かうしたことは私の友人關係、前述の親しい友人が主として左翼的な學生であつたと云ふ點に多く起因してゐると思はれます。所謂S・Sにも入會してゐなかつたにも不拘、個人的に親しい友人がマルキシストであつたのでかうした雰圍氣が常にマルクス主義への關心を絕對的に正當であるといふことに意識つけてゐたのであります。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對して如何なる考へを持つてゐるか。(イ)君主制撤廢 (ロ)土地沒收 スローガンに就いて。

(前略)併し主觀的にかゝる黨及同盟の存在の如何などは私にとつて大した問題ではありません。何故ならかゝる具體的な事實はむしろ抽象的な理想に生きようとする私の生活環境に於て切實な問題でないからであります。それは私がインテリゲンチヤとしての生活を送つて來、また送りつゝあるからだと思ひます。殊に共産黨や青年同盟が無産階級解放の方法として革命的方法にのみより、またインテリゲンチヤと云ふもの

を殆んど問題外とすることは、その理論はともかく、實際に於て果して可能であるかどうか、少くとも理想としての共産主義を考へるものにとつては不可解でさへあります。ローザ・ルクセンブルグだつたかと思ふのですが、この革命的な殘虐な方法を否定したと思ひますが、高度に發達した現在の社會機構の變革は人類社會の合理的な方法により可能であるべきかと思はれます。

たゞ黨や同盟が共産主義社會と云ふ理想の實現の爲めの存在と云ふ點に好意を持つ事が出来るのであります。かの歐米に於ける共産黨の合法的存在はこの一面の反映と考へます。將來この方向に發展す可きだと考へます。次に君主制撤廢或は國體に對する疑惑と云ふべきが如き事を私は殆んど意識するといふことはありませんでした。共産黨がかうしたスローガンを掲げてゐると云ふ意味を考へるに、無産階級解放の條件とするのはその手段が革命的な非法主義によるからだらうと思ひます。

併し先にも言ひました如く、合法的手段によるブルジョア社會の變革が可能とするなら、君主制の撤廢は必しも必要であると考へられぬのであります。君主制と云ふ政體を變へるといふことが直接すくは無産階級の解放であると考へられませんか。寧ろ、かうしたスローガンを掲げると云ふことは解放運動に大きな支障をさへ生ぜしめるものだらうと思ひます。無産階級が更に政治的關心を持ち、政治上に進出することは必要であります。君主制の撤廢など云ふスローガンを階級意識のもとに

持ち込み、政治的に無産階級が進出し得られるものではないと思はれます。この點、理論的にはともかくも、實際上私は寧ろ反對で、少くとも無關心であります。従つて君主制の撤廢は無産階級解放の必須の條件とは考へられないのであります。又以上の如く、かうした具體的な問題に就て殆んど無關心であると云ふのは、私にとつて、私の人生觀にとつて必要のないことであるからであります。次に「土地沒收のスローガンに就て」の項を申し述べることにします。

土地沒收といふことは土地を農民へと云ふことと思ひます。農業經濟學——××博士——の講義によつても土地の所有權は本來之を耕作する農民にあつたと云ふことでもあります。氏族制度の時代には一族と云ふ階級が土地を所有し、その所有權や利益權を持つてゐたものであります。更に古代には土地は常に全民族の一般的所有、換言すれば私有でなかつた相であります。それが次第に現在の如き土地の私有制度のもとに地主が廣大な土地を所有することとなり、利益權さへも、ともすれば失はれんとするに至つたのであります。所謂自作農制度が衰へ次第になくなつて來た結果だと思はれます。

従つてこの問題は自作農制度が再び完成するならば容易に解決することとせう。只それが社會政策的に見ると、このスローガンの様に見えるのとで相違を生ずるのだらうと思ふのであります。即ち漸進的に土地を政府の補助により自作農に設定するのを、文字通り沒收してしまつて農



民に與へることがこの兩者の相違だと考へられます。

それで現在の社會組織即私有財産制度のもとでは、土地を没收すると云ふが如きことは不可能ですから結局この土地没收のスローガンは私有財産制度の否定となります。併しその結果即ち土地を農民へ與へると云ふ目的は兩者とも一致してゐると思ひます。それ故漸次的に、社會改革の發展してゐる今日、この土地を農民に與へることは、私有財産制度の撤廢される日を持つを要しないと思はれます。然しその成果の成ることは農民の生活の安定に重大な影響を持つ以上、土地を農民に與へることは切實な問題であり且つ完成せらるべきことと考へます。

四、學生の左翼運動に對して如何なる考を持つてゐるか。

學生が左翼的な思想をもつてきたことは、多かれ少かれ現在の一般的傾向だと考へられます。

廣義の社會主義的な傾向が多かれ少かれ意識されてゐる以上、その中より最左翼的な共產主義思想を持つ者も生じてくるのは當然だと考へられます。左翼運動とはかうした思想の所有者の實際運動を指して言ふものと私は定義します。

學生の左翼運動は私の結論から言ふと階級闘争場裡に於て具體的な効果を殆んど持たないと思ふのです。第五の「是迄如何なる意識の下に左翼的運動をして来たか」の項及第六の「今後如何なる方針で進まんとするか」の項で私自身の考へて來、また考へてゐることを述べる積りであります。

の望みもないのぢやないかといふ疑問を生じがちでした。かうした考へるに私一個のみではないとするなら、學生の左翼運動は感激!といふことにあると思ひます。

學生の左翼運動は本來インテリゲンチヤの運動である以上、それ丈では何の役にも立たないと考へられます。尤もインテリゲンチヤである以上知識的に普通一般の大家よりすぐれてゐます。従つて社會機構といふ如きことに就て、知識的に宣傳なんかするのには或ひは役立つかも知れません。學生の左翼運動が解放運動に役立つとしたら、それは知識的な感にあると思ひます。それは従つて抽象的理論的になり、具體的組織的な力は薄弱だと考へられます。只無産階級が左翼的インテリゲンチヤを利用するといふことが學生の左翼運動の役割だと考へて來ました。

かうした考への結論は、インテリゲンチヤは結局インテリゲンチヤであるといふ點に到達します。従つて非合法運動が無産階級解放運動に是非とも必要であり、又學生の左翼運動が非合法的運動を意味するならば、學生の左翼運動は恐らく一般的に不可能になるだらうと考へます。例へば、非合法的な運動を一時的になし得てもそれを組織的恒久的の或ひは絶對潜在的に續けることは不可能と考へられます。

再び云ひますなら、學生は本來自由主義的な立場に立つものでありますから、左翼運動に就ても亦自由主義的に考へるものであります。それだけ生活に切實でありません。従つて最後迄具體的に運動し得られるか

りますから、今こゝでは一般的に考へたことを述べることにします。

學生といふものが、本來知識階級の構成分子であり又自由主義的な傾向を持つてゐるもので實際社會的な訓練を多く經てゐないものです。私自身も自覺しますが、常に形而上的な理想に生きようとしています。ロマンティズムによる新社會といふものに、憧憬を感じ、或は共產主義社會といふものを夢見ると、その理想の實現といふことが人生の目的として反映してまゐります。私自身も時に自覺するのですが、共產主義とか、或は革命とかいふことに就て私自身のロマンティズムが多く含まれてゐるのを認見します。バイロンの様なロマンティズムの詩人のことも考へ合されいます。それで所謂現實を遊離した考を、マルクス主義が最も否定するものであるに拘らず勝ちであります。學生運動といふものも、私には學生運動としてではかゝる色彩を多く含んでゐるのではないと思はれます。

學生運動の所謂闘士と云はれる様な友人に就て「そして先きに卒業してどうするのだ」と尋ねたことがよくありますが、「實際言ふとわからないのだ、前途斷崖だ」と憂鬱な顔をして言ふのが殆んど常のことでした。併しそれにも拘らず、一つの事件が起ると、その憂鬱さも忘れはてた如く、それに熱中する姿を見出すものであります。そして私自身も亦それと同じ感懐を持つことがよくありました。個人的に、自分の周囲や前途を考へること、自分が階級闘争の渦中に立つと云ふことは殆んど何

否かは多大の疑問ですし、多くの實例が所謂没落といふ結果を生じてゐる點から見ても、學生の左翼運動は行動よりも知識的な點にその役割があり、感激が時に行動をなさしめる程度だと思ひます。

五、是迄如何なる意識の下に左翼運動をして来たか。

四に於て學生の左翼運動を定義したその定義によりますと、私が實際運動と稱すべきことをしたのは今度の新聞無産青年を數名のものに配布したと云ふに止まります。従つて新聞無産青年配布を引受けた事情に就て申し述べますなら、この第五の答となる考へますので以下それに就て書きます。

このことに就ては聴取書にも一應聴取られてゐますが、聴取書の如く明確な意識をもつてゐたものではありません。理論的に考へて考へられることよりも當時の意識をもつと詳細に私は述べたいと思ひます。私は生來肉體的に弱く、且つ家庭が老母と二人限りでありますので、實際運動は勿論思想的な研究もそれに妨げられてゐました。然しそういう方面の友人は私の家に、氣楽な二人暮しの家庭、いふ雲圍氣を落つてよく遊びに參りました。それらの友人の愉快な話で老母と二人暮しの寂しい家がいづも賑はされてゐました。とかく家庭がしめり勝ちであるところに、かうした愉快な友人の訪ねてくることは、私にとつて、少くとも迷惑ではありませんでした。

昨年十二月に無産青年の配布を依頼された時も、その部數の僅少であ



ることと配布する所が近くであり、且つそれが合法的出版物であつて、たとへ當局より注意せられることがあるとしても大したことはないと思へましたので、愉快な友人と行動を共にし得られるといふ意識の下にそれをわけなく承諾しました。

今一つのわけがあります。それは、その頃知り合ひであつた一人の女性がありました。同じく左翼的思想の所有者で、私の家にも往來するやうになり、私の友人とも相親しんでみました。私は當時母の許しを得てゐましたので將來を共にするつもりで居りました。たまたま無産青年を直接私の手によつて配布するといふ依頼を受けて、何等かの責任を感じ且つそれが同一思想の所有者であるその女性に對して誇るべきことであるといふ意識を持つやうになりましたので、その配布の依頼に異存なく承諾したのであります。その後今年の一月中旬その女性と、或る事情の爲め絶縁するやうになりましたが、今から回顧して見ますと、後者の事情は當時の意識に大きな支配力を持つてゐたことは事實であります。そして、それだけ私がロマンティストであり客觀的に自己を考へることに缺けてゐることを自覺しますが、當時の私としては、此の後者の事情はともかく、最大の支配力でありました。

つまりかうした意識が私の所謂左翼的運動を規定してゐました。無産青年配布と云ふことのみならず、若し勧誘せられたら、かうした運動に當時のロマンティックな意識のもとでだつたら或ひは深入りしたかも知れません。そして、今後経済的にそろした自ら働くといふ方針の下に學業を續けて行かねばならないと思ひます。

又第四、第五に於て述べましたやうに、インテリゲンチヤの左翼運動が幻滅になり勝ちでありますので、それを簡単に實現する理想として考へることは出来ません。一つの理想としての人生觀的なマルクス主義は私の思想生活になほ影響をもつてせうけれど、心は安靜と平和な生活を求めてやみません。

以上の事情は、たとへ、左翼運動に進出しようにも、それをほむことゝなりません。まして、私自身かうした實際運動に本質的に大した興味を持たず寧ろ、思想的理論的研究、特に文藝方面が私の研究の對象である關係からしても、今後の方針は、文藝趣味を伴侶として行く程度になることとせう。現在經濟學部に籍を置いてゐる關係からしても、文藝も趣味以上に出ることは不可能でせうし、又そうした野心もありません。然し趣味としての文藝は今後も失ふことと云ふことはありますまい。

マルクス主義の研究或は一般的な學問の研究は、程度を越さない程度にはして見たいと云ふ知識的な欲求はあります。そうすることが、自己

れないと、當時を回顧して或る一種の恐怖をさへ感じます。

第四に於ける學生の左翼運動に就ての私の考へに於て述べましたやうに、學生の運動自體が無産階級に於て思想的な點にあると考へますので、私の意識も從つてかうした主觀的な條件に規定せられ、且つロマンティックな色彩を多分に含むやうになつたと思ふのであります。

六、今後如何なる方針で進まんとするか(思想的、行動的)。  
今後の方針に就てはこの長い二箇月に渡る留置場生活に於て、特に現在病を得て不自由な生活をせなければならぬので、種々深く考へ及ぶところでありました。

第一に私の家庭が當年七十歳にもなる老母と二人暮しであり、且つ母もとかく病勝ちの身であります。それに二人の姉がおりますが、下の姉は義兄との間がとかく面白くなく、義兄の理不盡な理由のもとに、一人の男の子の有るに不拘、昨年十二月より私の家に歸つており、遂に私のこの檢束されてゐる間に正式に離婚するに至つたやうであります。

かうした家庭の事情は、殊に母と姉の身の上を思ふこと切なるものがあります。私のなしたことが、現在のかうした結果にならうとは、考へなかつた私にとつては、この母と姉のことを考へると悲痛な不安を感じるのであります。

第二に私自身の身體が弱いと云ふことが考へられます。弱い身體が私自身の不安でもあり、又母と姉の心配の種となつてゐるのも事實であり

を批判し、自らを完成して行くことと思ひます。私は生活を、文筆勞働で保證して行くことが可能なら、そうした事を願はしく思ひますが、現在それ程の才能もない様に思はれますので、結局何等かの職業に就くことになるでせう。

併しとも角行動的に、ロマンティックな感傷のため、今後かうした結果を將來する如きことは、したくありません。

この長い檢束されてゐる間に、私は私の今後の方針に、或意味に於て良い經驗を得たと思ふのであります。今後の生活は、この經驗から安定した靜かな自己をみつめる生活に轉向し得られることと信じます。今後の方針はかくて自己をもつと掘り下げて行き、思想的にもつと批判的になりたいと思ひます。

特に自分自身家庭を、老母を不幸な姉を思ふと安定した生活への欲求は切實なものであります。

## 二八

某帝大經濟學部二年 T某(當二十四年)

家 族……………父亡、母、弟、妹各一人、

本人戸主

貧富の程度……………普 通

學 資……………叔父より月額四十五圓



健康状態……………虚  
性……………寡  
質……………寡  
弱

一、マルクス主義研究の動機。  
研究の動機に就きましては、已に聴取書の際陳述いたしました處で御座います。更に詳細に申述べます。

私は郷里の中學を終へ、高等學校へ入學いたしました。その年の五月頃肺結核を患ひ、一年休學を餘儀なくせられました。當時は一般的に云つても肉體的精神的に變化の多い年齢なる上かかる打撃を受け、病氣全快後と雖も通常の健康の人よりは遙かに割引された活動しか出来ない事を自覺し、専ら頭腦的方面に於て精鍊を加へ、この方面に於て道を立てる事を考へ、病小康を得ると共に盛に讀書いたしました。又事實肉體的な關係から讀書以外に何等慰められる處もなかつた次第で御座います。とは云へ當時は只多讀いたしたといふのが主な事で、就中トルストイや徳富健次郎、賀川豊彦等々の思想の影響を受け、従つて結論的に簡單に申し上げますれば、社會思想よりはより多く文學思想に浪漫的な憧憬を感ぜつゝ、專念讀書に没頭いたして居りました。かくて病も略々癒へ高校へ戻りましたが、學校の體操も出来ない様な事情でしたから矢張り文學愛好の連中と文學を談じ私は語學が少々得意でしたから主に英文學書を、ウエルズ、ショウを讀みつけましたが、その年の夏休みに友人がブーハーリンの「A・B・C」(英文)を貸してくれ、私も語學の練習にと讀

みます中にその思想に觸れる機會を得、かつ友人よりも將來少なくとも且眼の士として思想的な空氣を吸収して名を立てんとするものとして、社會科學の研鑽は缺くべからざるものなることを説かれ、次第に私もマルクス主義研究を志すに至りました。

二、マルクス主義(共產主義)に對して。  
マルクス主義とは統一的な全體性を有する世界觀の總稱であり、共產主義とはその中の政治的な方面を特に究明する部分性なるものと思ひます。従つて後者は階級組織論、軍事論がその核心を爲すものと思惟せらる。スターリンはその著「レーニンとレーニン主義」の冒頭に「レーニン主義とは特殊的にはプロレタリア革命の理論と戰術である」と述べて居りますが、この言が即ち共產主義を定義付けて居ると考へます。

私の研究はかの「A・B・C」に初まり、次いで「福本イズム」の影響を受け、その没落後は暫く研究を中絶いたしました。が、高校三年頃より専ら經濟學の研究をいたしました。が、現在の一切の經濟現象の根幹をなす資本の内面的なる法則及び現實的運動法則に關して、最も美事な説明を與へて居るものといはしましては、私の知る限りマルクス主義の側よりする語論策に最も科學的な生命が躍つて居るのを見る次第であります。只最近論議せられる所謂經濟學(廣義の經濟學の一面として)の方面、一例として農村に於ける該方面に就て一律的に大農制の優越を説くマルクス主義は、當然客觀的な科學的正當性を喪ふものと考へます。

三、黨、同盟に關して。

資本主義一般の普遍性を認むる限りに於ては、黨及同盟の運動が等しく普遍的必然性をもつことは理論的に言ひ得ると考へますが、現實の我國に於ける具體的な問題としては、到底かく簡單には考へられず、統一的な解答を明確にいたし兼ねる次第で御座います。要するに餘りに類推的な機械的なものと思はれます。御尋ねのイ、のスローガンに於てこの點がよく窺はれます。私は從來殆ど法律理論を研究いたした事なく、従つて明確なお答をいたすを得ませんが、我國の君主制就中佛國に於て前世紀見たる如き絶対王政視し、歴史的な傳統性でふ方面を無視する誤謬に陥つてゐる點は、よくイ、のスローガンに對する否定に掩ふべからざる科學的根據を與へるものかと思惟せらる。更に、法學的見地から種々議論出来るのではないかと思ひますが、私は前述致しました通り、此の能力を持ちません。次でロ、のスローガンで御座いますが、之は昨今漸く社會的に重大視され來つた所謂「土地問題」に關するもので、最近小作爭議が土地の所有權問題が中心問題となつて居ることが傾向として認め得られる次第で御座います。私にとつて今問題となつてゐるのは即ちこのロ、のスローガンが果してよく此の土地問題の合理的な解決となり得るか否かといふ點で御座います。

私が思ひますに、現在の土地所有關係はその不均衡なること、従つてこれを基礎とする地主小作人の對立關係の點に於て改むべき點が多く、

四、學生運動につき。

農村行詰りとして世上喧しく云はれるのも、この點かと考へますが、問題は尙く迄この改正の方策如何に懸るものと思はれます。然るにこの時に當つて一途に土地沒收を叫ぶことは何等具體的科學性なきことは、もはや明瞭であらうと思はれます。私は農村問題にや、關心をもつて居り、我國の特殊な事情として自作農本位の小土地所有制へ進むのではないかと考へますが、とにかくロ、のスローガンには何等關心を持ちませぬ。

所謂學生の左翼運動は大體二つに區別づけられて居ると思ひます。即ち一つは社會科學研究運動、他は所謂學生運動これでありませぬ。學生は何といつても生一本でございませぬから、學生の展開する運動は可成り活潑に華々しく行はれるのでありますが、元來が動搖しやすい層でありますから、内部的には頗る動搖的な曲線を描く多角的な運動たる特質を持つものと見られます。第一の社會科學運動で御座いますが、これは若い多感な學生の特質から、その學的研究精神から發する以上、その限りに於て私はこれに對して極度に否定的見解を以つて臨む事は、時代の流を理解し得ないと云はれても致方あるまいと思ひます。只世上問題となる所以のものは、現實の運動がこの本來の精神を没却する點如何にあるので、この點は固より考ふべきことと存じます。

次に所謂學生運動であります。これにも夫々政治的乃至經濟的な原



因の存するものであり、具體的には一々の場合につき考察すべき性質の問題で、之れを一括して學生運動に對しての見解を申述べることは頗る至難なことかと存せられます。要はその個々の運動の原因の正否、その運動の態度方法を正當に吟味し判断して、須らく善處すべきであらうと思ふ次第で御座います。

五、從來の左翼的行動に關して。

私の從來の所謂「左翼的行動」を最も概括的に又適切に特徴づける一語は、正に「書齋派意識」以外の何物でもない次第で御座います。

先に私は學生運動を社會科學運動と學生運動とに大別致しましたが、更らに前者に於ける二傾向として所謂書齋派的傾向と、然らざるもの之と鋭く對立するものとの二潮流を見得ると考へます。第二の潮流の支配的見解は、申さば左翼正統派と稱すべきものかと思はれるもので、理論的研究よりはより多くプロレタリア的實踐を重んじ、此の方面に參加乃至訓練することを強調するので御座いますが、私は自身の肉體的條件乃至は家庭的事情等より將來到底政治家的實踐方面に立ち能はざること自覺いたして居りましたから、専ら學究的意識より、自己の思想を豐富にせんことを念じて研究會運動へも參加致した次第で御座います。併し只今の社會運動にありましては、私の如き見地は「書齋派乃至「合法主義」として排撃されつゝある現状で御座いますから、研究會と云ふ如き同一組織の下にある限りは支配的見解たる第二の潮流の壓力に依り時

としては所謂「研究の範圍」を「制札」の埒外に逸脱した次第で御座います。

六、今後の方針。

(イ)私共は一刻と雖も思惟を離れて生活をする事は出来ませぬ。問題となるのは如何なる規範によつて思惟するかであります。これが爲めには先づ思惟主體たる私の思惟生活の全容を検討することに依り答へ得られる筈で御座います。併し又この仕事は上來の私の陳述によりまして已に略々準備されて居る處で御座います。

今後と雖も私は、私自身の身體的又は家庭的關係から専ら學究的方面に殊に經濟學研究を中心にして進みたく考へて居ります。この際私に對し就中影響をもつものはマルクスの「資本論」であらうことは豫想される處で御座いますが、これも第一問に於て申し上げた意味に於ての事で御座います。従つて同じく豫想と申ししても、共產主義豫想の如き極めて特殊な實踐的政治的豫想に對しては何等進んで研究する關心を持たず、又私の如き性質のものゝよくし得る處でない次第で御座います。

(ロ)以上申述べた如くで御座いますから、行動的方面に就てはもはやこれというて申上げるべき程のことは御座いません。今後大いに注意致し大過なからんことを期する次第で御座います。

某帝大經濟學部一年 (某(當二十四年))

親子關係	………	實	父	母
父兄の職業	………	木炭製造販賣		
貧富の程度	………	普	通	
健康状態	………	中	等	
性質	………	温	和	

一、マルクス主義を研究するに至りし動機如何。

私は××高等學校に入學致しました初めの間は所謂××高校スピリットを吹き込まれ愉快な學生々活を送つてゐましたが、次第に意氣とか感激とか、自由自治とか云ふ言葉が空虚な無内容なものであると感ずる様になりました。偶然有島武郎氏の本を読み、大變面白と思つて引續き愛讀して居りました。私が有島氏の本で面白と思つた點は「惜しみなく愛は奪ふ」や「小さき者へ」等に於ける徹底的な個人主義とも云ふ可きもので、個性の成長の爲めには、あらゆるものを犠牲とする事が最高善であるとの主張であります。

然るに昭和三年の初頃に同氏の「宣言一つ」を読みました。そしてその中に於て私は同氏の個人主義の行詰りを明白に見たと思ひます。そしてその行詰りは決して氏自身の行詰りではなくして、ブルジョア階級に

依存するインテリゲンチヤ一般が行詰りであると氏自身も言つてゐるし、私もそう思ひました。

殊に「ブルジョアは人類が幸福を唱へて結局は自己の幸福を追求して居るに反し、プロレタリアは自己の利益を追求する事によつて人類の幸福を實現するものである」と云ふ言葉は今も覚えて居ります。

其の後暫くしてブハーリンの「史的唯物論」を読み今迄の自己中心の考方が徹底的に間違つて居り、社會を中心とした考方が正しいものであると思ひました。要するに私は自分の思想的な行詰りは、マルクス主義によつて打開される様に、史的唯物論を読んでそう感じましたので、それから社會科學に關する書物を読む様になりました。

二、マルクス主義(共產主義)に對し如何なる考へを持つて居るか。

私はマルクス主義は正しいと思ひますが、どうして、そう思ふ様になつたかと云ひますならば、他の如何なる主義も、如何に美しい言葉で飾られてゐても世に最も不幸なる貧乏人を貧乏から救ふ法を明示してゐないのに、マルクス主義は、それを最も明白に示してゐるからであります。尤も率直に申しますならば、私は偉大なる諸思想家の思想も、マルクスの思想も徹底的に研究し盡したとは云へません。然し少くとも私が知つて居る範圍に於ては、マルクス以外の人は貧乏人に對して貧乏の苦しみを忘れさせる方法しか教へて居ないのに反して、マルクスはその勞働價值説に於て貧乏の眞の原因を教へ、その辯證法的唯物論、唯物史



觀に於て、プロレタリアートは自己の非人間的な生活状態を止揚する事に依つて、階級一般を止揚し人類一般を幸福にするものである事を教へ、従つてプロレタリアートが自己を解放する方法は、ブルジョアジーと戦つて之に勝つ事であると云ふ事を明白に教へて居ると思ひます。

従つてマルクス主義は決して異端者の思想でなく、却つて過去のすべての文化を正當に繼承したものでありまして、最新の且つ最も發達した科學であり、そして、又必然にそれはプロレタリアートのイデオロギー的武器であると思ひます。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對し如何なる考を持つてゐるか。

現代の社會が資本主義社會であり、又日本が世界資本主義の一環である事は明白な事だと思ひます。そして労働者階級は徹底的な敵對階級である所の資本家階級と戦つて、自己を解放する爲めには、どうしても政黨を必要とします。此の政黨はマルクスの「萬國の労働者團結せよ」とのスローガンに依つて必然的に、世界共産黨でなくてはならぬと思ひます。

現在に於けるコンミンテルンが即ち之であります。私は日本は特殊國であると云ふ大和民族の傳統的信仰によらずに、マルクス主義の理論によつて科學的に日本の社會を考察致しますから、日本が資本主義社會である以上、前述の理由によりまして、コンミンテルンの支部としての日本共産黨が存在する事は必然的な事だと思ひます。そして日本共産黨が日

本プロレタリア階級の唯一の政黨である事は申す迄もありません。

日本には日本共産黨以外に、多數の所謂無產政黨がありますが、そのうちで社民黨大衆黨等は、ストライキプロカーや議員病患者の集積であると思ひます。又新勞農黨に就きましては、彼等の人格は兎も角として矢張り本當のプロレタリアートの政黨とは云ひ得ないと思ひます。

かくして私は、日本共産黨が日本労働者階級の本當の政黨であると思ひます。

共産青年同盟につきましては、餘り詳しくは知りませんが、矢張り共産黨と等しく共産主義を指導理論として居り、特に、青年の利益を代表してある團體だと思ひます。資本主義社會に於きましては、無產青年は特別の種々なる壓迫と不利益とを蒙つてゐますから、之等の青年の利益を代表せる共産青年同盟の存在する事は又必然だと思ひます。私は、共産青年同盟がどんなスローガンを掲げて居るかは置つたものを見たことありませんが、大體に於て、共産黨と同じ標な、然し特に青年大衆の利益を代表した標なスローガンを掲げてゐるのだと思ひます。

共産黨のスローガンに就きましては今全部を覚えて居りませんが、大體共産主義によつて貰かれたる労働者農民の利益を代表せるスローガンであつたと思ひます。そして之等のスローガンは共産主義の立場から見ても正當なスローガンであると思ひます。

(イ) 君主制撤廢。このスローガンに就きましては、共産黨の内部に於

ても止めた方がいゝとの意見があると聞いて居りますが、私が人から聞いた又新聞その他のもので見た所では、矢張りこのスローガンを掲げるべきだとの主張が勝つて居ると思ひます。

私の考と致しましては、日本の君主は氏族制度、封建制度、資本主義制度を通じて存在して居たものであるし、又君主崇拜は大和民族の傳統的信念であつた事は明かですけれども、科學的社會主義——共産主義を指導理論として奉ずる共産黨としては、此のスローガンを掲げることが正當だと思つてゐました。そして又科學的に考察することが正しいと思ひましたから此のスローガンは正しいものだと思つてゐました。

(ロ) 土地没收のスローガンに付て。私有財産制度を止揚して共産主義制度を実現せんとする共産黨がこのスローガンを掲げてゐることは正しいと思ひ、又私は田舎に於きまして貧農小作人が如何に悲惨な生活をしてゐるかを實際に見たことがあります。彼等は猫の額位の土地を小作するのに、最も原始的な農具を以てし、而も收穫の大半は地代として徴收されて居ります。而も此の様に貧農を搾取する地主が又生活に困つて居ると云ふ事を聞いて居りますが、この様に地主も小作人も共に困窮すると云ふ様な状態は現代の社會に於ては不可避的な事だと思ひます。何故ならば、資本主義社會に於ては農業が工業に壓迫せられて少しも發達し得ない事は必然的な事でありますから。

だから、土地を公有にして、發達せる機械を利用して技術的に遅れた

る農業を、進歩せる工業と結びつけようとする共産黨の政策は困窮せる農民を救ふ正しい政策であると思ひます。

四、學生の左翼運動に對して如何なる考を持つてゐるか。

學生の左翼運動と申しましたも色々あると思ひますが、兎に角學生は白き象牙の塔に籠つて居れ、社會の事に關心するなと云ふ考方は間違つてゐると思ひます。學園が社會から隔絶されたものであるとの考方が抑々間違つて居ると思ひます。

學校は社會組織の内部にあるものであり、學生は立派な社會人であると思ひますから、學生が社會の事に關心する事は當然な事だと思ひます。

さて現代の社會が激しい階級對立の社會であり、一方に働けども飢える貧民あり、他方に遊んで居て榮華に耽る資本家地主が威張つて居る社會を見ます時、社會に關心する純情の青年學徒としてごうして貧民の味方をせず居られませうか、且又一方に於て從來の諸思想が如何に美しき外衣を裝つても餘りに悲惨なる現實の社會との矛盾を蔽ひ切れない時に、他方に於て新興社會科學が鎧刀の如き斬味を以つて、從來のブルジョア的思想を征服し現代社會の矛盾を摘發して輝かしい未來を豫言するのを見た時に、學生大衆が此の社會科學に走るのには、當然な事だと思ひます。

かくして、從來からの無理解なる壓迫、と思想善導の偽嚮とから脱し



て、マルキシズムに走つた學生は其處で理論と實踐との辯證法的統一を教へられますので、そこに學生の所謂社會運動が起るのは當然の事と思はれます。

要するに現代の社會に内在する矛盾が、激化し、階級對立が尖鋭化してゐる事は事實でありまして、此の矛盾を正當に摘發し、且つその解決の方法を明示し得ない所のブルジョアの諸思想は、次第にその外見の光を失つて行く事は必然的な事であり、學生がかかる思想に満足し得ずしてマルクス主義を研究し、進んで實際運動に走る様になることも、亦必然的な事であると思ひます。青年學生の大多數は人道主義者であります。而もマルキシズムに依つて、人道と云ふ言葉を偶像の様に崇拜する所謂人道主義の不徹底さを教へられました時に、どうしても左翼運動に走らざるを得ないのであります。

五、是迄如何なる意識の下に左翼運動をして來たか。  
前にも申し述べました様に、私はブルジョアの思想に次第に空虚を感じてゐました際に、偶然ブハーリンの史的唯物論を讀み、その考へ方の變つて居る事に驚きましたと同時に、大變興味を覚え、次第に研究する様になつたのであります。マルキシズムの明快なる理論を次第に正しいものであると思ふ様になりました。所がマルキシズムでは理論と實踐とが必ず一致すべき事が到る所に強調されて居ります。私も書齋に閉ぢこもつて本ばかり讀んで居るべきではなく、理論には必ず實行が伴ふべ

排して、マルクス主義的に考察し行動する事が正しいと思つてゐました。

すべて之等の心の動搖を抑へつけるのに與つて力のあつた事は、自分の行動は貧しい人々の幸福のためになつて居るのであるとの意識でありました。

六、今後は如何なる方針で進まんとするか。

私は前にも述べました様に、檢舉以前にもマルキシズムの理論と感情との間の矛盾衝突を感じてゐましたが、今度檢舉せられてから痛切にそれを感じました。特に肉身の者に對しては、實にすまない事をしたと思ひます。

私は現在でもマルクス主義の理論が、理論として何處が間違つてゐるか分りません。従つて今も尙マルキシズムは理論としては正しいと思ひます。

それで今後どう云ふ方針で進むかと云ひますと、

(イ)思想的。理論的方面から云ひますと、今でもマルキシズムは正しいと思つて居ります。そしてマルクス主義以外に、家庭と衝突しないで、而も正しい理論があるとは、今の虚想像出来ません。又自分でそんな思想を創り出す自信もありません。

然も私は理性の命する處に従つて行動すると云ふ考へ方も、今では全く借り物の考へ方であつて、自分にはそんな力がないと云ふことが明か

きだと思ふ様になりました。この時に私を勇氣つけた事は、マルキシズムの實踐とは、貧窮に悩むプロレタリアの運動を助ける事であると云ふ事が明かであつた事でありました。

一方私は有島氏の個性尊重主義を私流に解釋して、自分は自分の理性の命する所に従つて、行動すべきであると思つてゐました。即ち私が左翼的行動をなす時には色々の家庭問題が起るとは思ひましたが、私はよし兩親に理解されなくとも、本當に自分が正しいと思へば、自分の思つた所を實行するのが男子一生の本懐であると思つて居りました。

マルキシズムの性質として少し研究すれば、次第々々に深く研究し且つ之を正しいものと思ふ様になり、進んで何かやつて見たいと思ふ様になるのであります。この時に、かく／＼の事を行つてくれないかと頼まれましたので承知してやる様になつたのであります。

私は無産者新聞、無産青年新聞に關係したのであります。前述致しました様に、私は共産黨を正しいものであると思つてゐましたので、是等の行動が結局は共産黨、同盟を支持援助することであると云ふ事を自覺し且つそれが正當であると思つてゐたのであります。

然しマルキシズムは少しつきつめて行きますと、從來のあらゆる思想、感情、信仰、信念に反對するものでありますから、左翼的行動をなして居る間にも、絶えず心中に動搖を感じました。然し私はかかる動搖に負かされて逃げ去るのは卑怯だと思ひ、又從來の傳統的思想感情等を

になりました。それで今後は全然無思想の生活をしようと思ひます。

(ロ)行動的。私は前に無思想の生活をすると申しましたが、それはつまり家に歸つて父母や兄達と一緒に暮らす事でありました。

私が家に歸つて、心からあやまれば、家の者はきつと許してくれると思ひます。そして、兄と共に家の仕事を手傳つて、平和な家庭生活をすれば、父母も喜んでくれると思ひます。

兎に角自分の我意を全然棄ててしまつて、家の者が喜ぶ様に行動しようと思つてゐます。私の父は年老いてから病氣で、唯一の楽しみであつて酒を飲むことを禁じられてゐますので、現在では、何一つ楽しみを持つて居ません。父は若い時分に非常に經濟的に苦んだ相で、只働くこと以外に、何等娛樂の餘裕を持つて居なかつた相です。

私が如何に正しい事をしようとも、それが父を苦しめるならば、何にもならないと思ひます。

### 三〇

某帝大經濟學部一年 S某(當二十四年)

家 族……………祖父(戶主)父母、兄

弟各二人、妹三人

父兄の職業……………不詳

貧富の程度……………富裕



學 費……………家庭より月額五十圓  
 健康状態……………中等  
 性 質……………溫和、確實

一、私がマルクス主義を研究するに到つた動機は、高校二年の頃勧誘を受けて、S.S.に入つた時から始ります。之には一、二回出席しただけで脱退し、三年の終る迄個人的に左翼文書に接して居ましたが當時はよく理解できませんでした。大學に入つてからは、S某君等の勧誘でS.S.に入つたことは以前に述べた通りです。精神的動機としては何か社會の爲めになる事をしたいと云ふ人道主義的な考が働いてゐたと考へます。

二、マルクス主義は私の考へでは、否定出来ぬと思ひます。次の社會が共產主義社會であると云ふ事は認めますが、それが何時来るか五十年後であるか、百年後であるかと云ふ事につきましては、何人も豫定する事は出来ないし、知り得ない事であると思ひます。今後數年中に來ると云ふが如きは、只煽動的な目的のために云はれる事で、事實どうであるのだ等とは信じてゐません。

三、共産黨及青年同盟は現在の吾國の大局から見て幾多の疑問があります。從來は之を認めて來ましたが、今後私は之を認めません。ましてその下にあつて、之を支持する考は少しも持つて居りませぬ。二つのスロガンに就ても同様であります。吾國を、地理的、自然的、歴史的に考

三二

某帝大經濟學部一年 K某(當二十六年)

家 族……………父 亡、母、妹  
 父兄の職業……………農 業  
 貧富の程度……………富 裕  
 學 費……………家庭より月額五十圓位  
 健康状態……………強 壯  
 性 質……………溫和に見ゆるも意地張

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情。

私がマルクス主義を研究するに至つた動機事情は、貧困階級解放の最良の方法を把握したい爲でありましたが、マルクス主義に接近する迄の私の社會問題認識過程を簡単に申述べます。

私は中學校を卒業する迄貧困化せる農村で生活し、農民窮狀を具さに見て來ましたが常に憐憫の情に動かされ、如何にして之を救済すべきかは私に解決を迫る一個の課題となつて居りました。其の救済方法として中學三、四年頃までは貧富兩階級の共存共榮主義を妥當としましたが、中學卒業頃より政治意識次第に伸張するに及びデモクラシーの擴大、代議制の完成によつて政治を改革し、社會政策の改善にまつのを最良の法となす一個の社會民主主義者となりました。其の後私は大豫科に入学

へて、其處に甚しい特殊性の有るのを最近考へて居ります。従つて、之が、現實を無視した觀念的なスロガンであることを知り、之を決して正當とは考へられませぬ。かかる事を意圖するは誤りであると確信します。

四、學生運動については、現在之を爲さうとは絶対に考へて居りませぬ。只併し學生左翼運動は一般社會的な現象で、社會的な原因から起るものと考へて居ります。

五、私は私の行動が何等かの意味で多少とも労働者、農民のためになるものであると考へて行動しました。敢て共產主義のために働くこと云ふ考は持つて居りませぬ。併しそれは、現在の國家社會制度の上からは、當然背反する方向へ向つたものであつた事は否めません。此事が客觀的に見て、全く正當であると云へない點と考へます。かく考へますが故に、今後かかる運動、行爲に出づる考は絶対にありません。

六、今後は左翼の運動には絶対に携はらぬ決心です。第一に盲從的に考へなして、行動する如きは決して正しくない事、次に現在迄の過去の行動が眞に正しいと云ふ根據が少しもない事。それに、吾々は家族の事を考ふべきだと云ふ事等の理由で今後は思想的行動に必ず方向を轉ずるつもりです。

右に述べました通り小生の眞意は少しも之と相違ありません。

する様になり東京に出ましたが、當時(大正十五年頃)日本經濟界は益々不況に陥り、労働、小作爭議は到る處に頻發し、又無産政黨結成の問題が漸く具體化しつゝあつた時代で、階級闘争に關する私の政治意識は徐に刺戟され、労働問題に關する書籍等時々讀む様になりましたが、共產主義に對しては、實現可能な一個の空想として排撃して來ました。それにも拘らず左翼團體の演説を聞き、或は大S.S.ムムバーたりし友人等と討論などして居る間に漠然乍らマルクス主義を研究せざれば階級闘争に關する原理を把握し得ないと云ふ考へを抱く様になりました。翌、××高等學校に轉學したる年の五月、偶々××縣下××村に一大小作爭議勃發し全國著名の左翼闘士が××に參り、××市に於て爭議批判演説會を開き、私も一傍聴者として出席しましたが、その時初めて私は農村に於ける階級分裂の狀態、地主の苛酷なる搾取、且國家權力による搾取關係の擁護等の具體的事實を生々と暴露され、且社會機構に關する認識の方法に就いて深刻なる暗示を與へられました。即ち社會は諸多の階級に分裂し、經濟的には搾取するものと搾取されるもの、政治的には搾取階級は搾取關係の基礎を擁護するために國家權力を壟斷し、被搾取階級は一切の政治的自由を剝奪され抑壓されて居り、後者が徹底的に解放されるためには現存生産組織を變革する事によつてのみ可能であり、それは必然的に國家機構を變革する事によつてのみ可能であり、それは必然的に國家機構を變革せんとする政治闘争となつて現れると云ふ事で



ありました。茲に於て私は彼等の認識態度に多大の疑惑と刺戟とを感じ此の問題の解決の途はマルクス主義あるのみとの確信を深め間もなく社會科學研究に入會してマルクス主義の研究をするに至つたものであります。

## 二、マルクス主義(共産主義)に對する私の考へ。

マルクス主義の理論を貫く方法論は唯物辯證法であります。唯物辯證法は自然辯證法と歴史辯證法とに區分されて居ますが、何れにしてもそれは頭腦の中で勝手に考へられたものではなく、實在する一切の事物(從つて社會も)の發展法則が頭腦に反映し抽象化されたものであります。然し乍ら、一度此の方法論を把握すると、今度は逆に此の方法論によつて實在の發展法則を究明するのが便利となります。此の方法論を以て資本主義社會の發展法則を究明したものが共産主義の理論であります。以下共産主義は資本主義社會の發展法則を如何に認識したかを簡単に申述べます。

資本家的生産關係を特徴づけるものは、私有財産制度であり、剩餘價值即ち利潤の私的搾取である。剩餘價值の源泉をなすものはプロレタリアー剩餘労働である。だが資本家の手に剩餘價值が利潤(剩餘價值の貨幣的表現)となつて戻るのは生産過程を一循環した後である。資本家が更に利潤を得る爲には最初の利潤を資本に加算して更に新なるより大なる生産過程に入る。かくて無限に擴大再生産過程を繰返して資本は無限

に膨大して行く。此の擴大再生産の過程こそ一方には益々巨大なる企業を要求し、他方には資本家相互間の激烈な競争となつて現はれる。斯くして遂には小中企業家の没落、大企業による併呑、支配の現象が現れる。競争が益々激化するので資本家は共倒れを避けるために提携を結ぶ。此の提携は銀行資本の提携と相俟つて、益々促進され、遂には一國內に大金融資本の支配が確立する。金融寡頭制が之である。然し資本は利潤を得る爲に一刻も停止する事は出来ぬ。斯くて遂に大金融國の競争は國際的舞臺に於てより激烈により殘虐に展開される。帝國主義戦争が之である。一方國內的には巨大なる資本は精緻なる機械の配置、工場設備の改善となり、生産力を高めて労働者を大量的に工場より放逐し、此の失業者の洪水は必然的に労働條件の全般的低下を招き中小企業を停止せしめ、慢性的な底知らず的な不景氣を現出する。斯くて國內に於ける購買力は減退し發展の餘地が減るので、資本家は此の危機を切り抜ける爲に企業操短、工場閉鎖を餘儀なくされ、市場開拓のために殖民地、半殖民地(支那の如き)へと驅り出されて行く。それは又帝國主義戦争の前提である。資本家階級が存続の基礎を保つためには帝國主義戦争は不可避的である。

之は資本主義社會が内包する矛盾を百パーセントに高めたものであり殘虐なる殺戮と莫大なる富の消費が斯くて遂行される。

然し乍ら、社會は諸多の階級から構成される一個の有機體である。誠

搾取階級は生活苦から自己を解放せんとして搾取階級に反抗する。此の

解放運動は何故に共産主義の運動となつて表はれるか、私は再び經濟機構を見なければならぬ。資本家生産關係を特徴づけるものは私有財産制度であり、剩餘價值即ち利潤の私的搾取である。資本は利潤を得る爲には一刻も停止する事は出来ぬ。資本の無限なる運動は益々生産力を發展せしめ且又發展させるために、下層階級の生活は未曾有なる低下を來し、帝國主義戦争の犠牲とならなければならぬ。茲に於て下層階級殊にプロレタリアートは自らを解放せんがためには資本主義をして此處に至らした處の原因即ち利潤の一方的搾取を保證する資本主義的生産組織を變革する一途が残される。それは取りもなほさず私有財産制度の撤廢で私有財産制を擁する國家機構の變革である。プロレタリアートが自らを解放せんとする階級闘争は斯くて必然的に共産主義社會の建設を目標とする處の共産主義運動となつて現れるのである。

共産主義の理論とは資本主義社會の發展没落の過程を斯くの如く認識する理論である。故に共産主義の理論は此の必然性を變更する事は出来ぬ。只なし得る事は資本主義社會の没落過程を從て共産主義社會建設の過程を促進することのみである。資本主義社會の發展方向に對する斯かる認識を肯定する私は理論的には共産主義を肯定するものであります。

## 三、日本共産黨(共産青年同盟)に對する私の考へ。

(イ)天皇權の廢止 (ロ)天皇、地主、僧侶の土地沒收

## I 序

共産主義は資本主義社會の没落と共産主義社會出現の必然性を認識したものに過ぎないが、只其の過程を促進する事が出来る。共産黨の任務は此處にある。共産黨はプロレタリアートの黨であり、従つてプロレタリアートの解放の爲に戦ふものである。故に共産黨の闘争目標は私有財産制度を擁護する資本家的國家機構を變革して、共産主義社會の建設する日本共産黨の闘争目標も同じである。それにも拘らず日本共産黨が君主制の撤廢始め十三ヶ條の綱領がブルジョア革命を目標として定められたのは戰略上の問題である。資本主義社會は階級構成に於ては地主、農民、資本家階級、労働者階級其他難多なるものを内包する。共産黨はプロレタリアートのみの力を以てしては自己の任務を遂行する事が出来ぬ。故に凡ゆる革命的勢力を利用するためにプロレタリアート以外の階級の利益をも取り上げて戦ふものである。現段階に於ける日本共産黨の戰略は闘争目標をブルジョア革命に置き、有力なる同盟軍農民、無産市民にありと規定した。農民、無産市民が何故に革命的であり得るのは何故か、それは日本共産黨が日本資本主義の發展並に現段階に於ける客觀的情勢を次の如く認識したからである。

## II 日本資本主義發展の特殊性並に現段階に於ける日本の國家機構

一八六八年に於ける明治維新のブルジョア革命は極めて不徹底であつ



た。それはブルジョアが獨力で革命を遂行するまでに成長して居なかつたにも拘らず、國際的關係から下層武士が代つてそれを遂行したためである。従つてフランスに於て見るが如く、封建制度で徹底的に掃蕩する事なく中途で妥協してしまつた。國家のみは近代的國家形態を取つたが、政權を掃蕩するものは依然として封建階級（天皇、諸大名、地主）の手に残り諸大名の領土、地主の土地は殆ど原形のまま彼等の手に残された。農民は依然として飢饉線上に残されたのである。それにも拘らず新政府はブルジョアの發展を助成した。近代的國家、身分の自由、金納租税制度、國庫による企業の援助等凡て資本主義發展を助成したのである。斯くて日本ブルジョアは次第に發展し、殊に日清、日露の

兩役を経る度に飛躍的に發展して、其經濟的基礎強固になるに及んで、封建的遺制に桎梏を感じ、漸く完成なるブルジョア國家機構を要求するに至つた。斯くて支配權をめぐつて兩階級の抗争は續けられ、遂に一八九五年（大正十三年）護憲運動を以て日本ブルジョアは地主を屈服せしめ、政黨政治の基礎を確立した。之は前後して一九二七年（大正十五年）の金融恐慌は金融寡頭制の基礎を確立するや、背後にプロレタリアートの革命的擡頭を恐れて、自己を盟主とせる資本家、地主の同盟を結び反革命の陣營に移行したのである。

斯くて現段階の日本國家機構を特色づけるものは君主主義的立憲政體である。假に君主主義的色彩の如何に濃きを物語るものは若槻、田中

の兩政黨内閣が何れも樞密院に於て倒され、現在濱口内閣も帷帽上奏權を中心存立の基礎をおびやかされて居るのを見ても分る。軍事統帥權、緊急勅令（副立法權）官吏の任免權は天皇にあり、憲法改革は天皇の發案なくして不可能であり貴族院は何等民衆に基礎なくして立法權を左右する。

之等の強大なる封建的權力は民主主義的發展を妨害し労働者、農民、無産市民は殆んど政治權力の圏外に放逐されたまゝ残された。殊に農民は維新革命に依て救はれず、其の上更に現今まで資本主義發展の犠牲となつて莫大なる租税負擔者となつて來た。彼等は貧困のどん底に突きおとされ狂氣の如く土地を求めて居るものである。

### III 日本共産黨の戰略

先にも述べた通り日本共産黨の目指すものは私有財産制に基礎づけられた資本主義社會の變革であり、共産主義社會の建設である。だがその變革即ちプロレタリア革命はブルジョア民主主義の徹底された後にのみ可能である。

かくて共産黨はプロレタリア革命を準備するためにブルジョア民主主義獲得の闘争即ち封建制度の殘滓（天皇權、貴族院、帷帽上奏權、其の他）とその殘滓を存続せしむる物質的基礎（天皇、地主、僧侶の土地）を掃蕩する階級の闘争を斷行しなければならぬ。之がブルジョア革命である。其の闘争目標を明確に表現せるものが彼の十三ヶ條の綱領で、君主制の撤

廢と君主、地主、僧侶の土地沒收は最も重要な内容をなす。故に何れも農民其の他の被壓迫階級の革命的勢力を汲みとらんがための日本共産黨の戰略から抽出されたものであります。私は共産主義の理論を認めるものでありますから、日本共産黨の存続も又肯定するものであります。だが日本の現段階に對する共産黨の分析は私によく判りません。私はコミンタンテーゼを簡略して書いたに過ぎません。

### IV 日本共産青年同盟

共産青年同盟は共産黨の貯水池であり、黨員養成學校だと思ひます。青年は成年に比して經濟的には二重に搾取され、政治的には二重に抑壓されて居る。従て其は独自の闘争目標を與へられ、独自の闘争が課せられてくる。且近代に於ける産業合理化の結果は益々青年労働者を驅逐して成年労働者に其の地位を譲り、帝國主義戰爭の必迫は青年の反帝國主義戰爭の闘争をより必要ならしめる。斯くて革命運動に對する青年労働者、青年農民、青年無産市民の比重は漸く大となり、之等の特殊なる闘争を最も有効に遂行することゝ、且黨員養成の必要から生れたものが共産青年同盟と思ひます。私は日本共産青年同盟に關して何事も知りません。

### 四、學生の左翼運動に對する私の考へ。

福本主義時代には學生の左翼運動は全無階級の政治闘争の一翼をなすものであり、反動的學校行政に抗争する事によつてプロレタリアート

の革命運動に合流するものであるとなす一翼主義がとられて居たと思ひます。然るに最近に至つては學生層はブルジョア革命に對して革命的勢力であるのみでなく、寧ろ反革命の陣營に移行する可能性を持つものと規定されて來ました。そして指導方針（左翼運動）として革命に於ける好意的中立を目標とするに至つた様ですが私は學生の左翼運動に對しては殆んど考へたことなく且學生グループに就ては何も知りません。

### 五、是迄如何なる意識の下に左翼的行動をなしたかに對する答へ。

私が左翼運動に参加したのは貧困階級の徹底的解放の希望を實現せんがためでありました。そしてその解放の道を求めた私は遂に共産主義の理論を肯定するに至りました。従つて私が實際運動に参加したのは具體的には共産主義社會の實現の過程を促進せんがためでありました。

### 六、今後の私の進まんとする方向。

(一) 思想的。私は今まで共産主義を信じ且つ共産主義社會建設の任務を最も科學的に實現するものは共産黨であると信じて居ました。日本共産黨は前述の如く戰略を定めブルジョア革命を目指して闘争して來ました。然し乍ら現存の狀態に於て、君主制の撤廢及び封建階級の土地沒收のスローガンを掲げる事は果して正しかつたか、即ち換言すれば非法運動方針とする事が果して正しかつたか。日本共産黨は幾度も繰り返して私達に叫びました。如何なる壓迫にも屈せざる非合法的地下建築の上に根を築き上げると。だが第三回の大檢舉に於て黨の非合法運動は徹



三三

某帝大經濟學部一年 M某(當二十二年)

家 族……………祖父(戶主)父、母、

(り生兒を生みしこと

あ(私兄一人

父兄の職業……………海 産 物 商

貧富の程度……………富 裕

學 資……………家庭より月額五十圓

健康状態……………強 壯

性 質……………温順に見ゆるも陰險

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情如何。

私の家庭は大して裕福でもありませんが、先づ相當な暮をして居り、私は幼時より何んな苦勞も知らずに可愛がられて育てられました。只父がなく祖父と母とによつて育てられたが爲めに變則的であつた事は事實です。私はかうして穩かに順調に大きくなつて參りました。殊に私の性質は大變素直な方でした。中學へ入つてからは文學に愛好をもち、小説類を耽讀し近代的な新しい趣味を感に養生されました。高等學校二年を終るまでは活動芝居等々所謂摩登ボーイ風な生活を續けて參りました。夫より先、私の友人でマルクス主義を研究して居るものゝあること

底的に試験された。そしてそれは單に黨自身の地下建築を根こそぎ破壊したばかりでなく、黨の外廓をなす左翼團體まで破壊した。檢舉を経る度に左翼の陣は益々縮少されて行く。之は支配階級の暴壓が原因であるか、左翼運動方針が誤つて居るのか。日本の國民性とロシアの國民性が相違あるためか、斯うした疑問を初めて私が抱いたのは昨年四・一六事件の記事發表を見た時が最初であり、今度の檢舉に連坐して居る間に疑問は一層深められて來ました。私が日本共產黨並にその外廓團體の活動を肯定したのは、それが眞に無産階級解放運動の遂行者であると信じたからであります。何となれば之等の左翼團體は益々大衆から離れ益々縮少されて來たからであります。マルクス主義は凡てを現實から學ばねばならぬ。合法的無産政黨運動と非合法的共產黨運動とを何れが解放運動の遂行者であるかと私に疑問となりましたので、私はもう一度出發點に立ち戻つて勉強して見たいと思つて居ます。

(ロ)行動的。前述の様に私は共產黨の非合法運動に對して疑惑を深めました。私は確信なくして行動する事は出来ません。さればと云つて昨日まで裏切者と呼んで居た無産政黨の運動をやる氣は勿論ありません。私は讀書會聯盟に歸つて、單に共產主義の理論のみでなく、經濟、政治、倫理其の他廣汎に研究のし直しをやつて見たいと思つて居ます。

を知つて居り、絶えず私は勸誘を受けて居りました。

高校一年の時、無理に研究會へつれて行かれましたが、餘りに馬鹿らしく且當時私はその方に全然無關心であつたのでそれつきり止めてしまひました。高校二年の終りに私は痔瘻を病み二ヶ月床につきました。この時私は一切の娛樂から遠ざけられました。二ヶ月の病氣は私に色々なことを考へさせました。社會的な矛盾、何故金持と貧乏人とがあるのか、何故世の中はもつと美しくないのであらうか、その他種々な空想を置く様になりました。夫は夢の如き空想です。病氣の終る頃退屈なる儘に讀み初めたのがハーリンの「史的唯物論」です。私の空想が如何にも根據づけられたのを覺えて嬉しくなり讀み續けました。自分は幼時小學校時代教會へ通つた事もありましたが、夫等全てが虚偽であつた事を教へられました。理論的に何處までも自分の空想を突きとめやうと考へました。私は強烈な刺戟を欲して居たんです。何物か刺戟なしには生きられないのが近代人の特徴であります。だが私は自分としては何もやりたくはありませんでした。

只書物を読んで自分の興味を満足させれば夫で充分だらうと思ひましたのです。研究會なんかを非常に恐ろしいものゝやうに考へ中々出席致しませんでした。

その後自分の研究が進むに従ひ一方友人に強要される儘に出席し初めました。研究會で最初やりましたのはカウツキー「資本論解説」でした

が、自分の性格とは合はぬ所があり、いや／＼ながら出席して居た次第ですが、その中に習慣的となつてしまひ、蜘蛛の網にかゝつた蟲の様に自分は夫から脱する事が出来ませんでした。

以上私の研究の動機事情であります。私の是非常に變則的であります。積極的にやり初めた點は少しもなく理論的な興味と友人の勸誘の二つの消極的な事情が私をしてマルクス主義研究を續けさせたものと思ひます。而も私は非常な新しがりやであり何物かの刺戟を絶えず欲して居ります。そこへ私に飛びこんで來たのがマルクス主義であり病氣と三つ偶然をなして私にくつついて來たのです。

二、マルクス主義(共產主義)に對し如何なる考を持つて居るか。マルクス主義即ち共產主義であるかどうかは相當論議のある處であります。こゝでは共產主義に對してお問ひになつてゐるものとして書いてゆきます。

共產主義とは無産階級の解放に關する理論であると簡単に云ふ事が出來ます。夫は資本主義社會の運動法則生成發展消滅の理論で資本主義社會を揚棄する客觀的條件と主觀的條件(戰略戰術)との一體を指して云ふものと思ひます。

根本的には商品に含まれる矛盾(價值と使用價值との對立)から發して社會の中心に現はれてくるものが階級闘争である。有産階級と無産階級との對立闘争は益々激化する。無産階級は有産階級の組織された資本



に大衆の團結を以て對抗する。無産階級は必然的に勝利を得る。無産階級の勝利は結局に於て無産階級、無國家の社會、共產社會を作る事となり、人類を解放するのである。以上が私の考へる共產主義の大要であります。將來の社會の詳細な説明を爲し夫を夢想す事は共產主義の眞意ではなく、貧と壓制に困る無産階級解放の條件、そこまでの所を教ふるものが共產主義であり、夫以上を教ふる時は空想論となると云はれてはなりません。

然し乍ら吾々知識階級はどうしても自分の社會的立場に直接的な苦しみがない爲に將來の社會を夢想し共產主義に對して其説明を要求します。又將來社會の美しい夢なしで吾々は何事も積極的にはやる事が出来ません。

以上をまとめますならば自分としては共產主義とは資本主義社會を變更して無産階級を解放して彼方にある目標として共產主義社會の説明を與ふる理論を一體として考へます。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對して如何なる考へを持つて居るか、特に君主制の撤廢、土地没收のスローガンに就て。

現在日本共産黨、日本共産青年同盟が現存するかどうかは知りませんが、只無新、無背を通じて在るらしく考へてみただけに止まります。

私は日本共産黨夫自體を目標として考へて居る譯ではありません。私の考へますのは無産階級の解放と新しい社會の建設であります。無産階級

級の解放なる目的の爲め的手段方法としてその最もよいものとして共産黨を考へて居ります。

日本共産黨のみが最後まで無産階級解放の爲めに戦つてくれると思ひます。

然しながら日本共産黨は現在國法で禁じられて居ます。そこで私は相當困えます。而も一昨年三月十四日昨年の四月十六日の大檢舉は私に大教訓を與へました。少し頭をもたげる時はやられ結局それは合法性を獲得する事は出来ず小數分子の策動となつてしまひました。この調子を續けるならば何處まで行つても日本共産黨の大衆化は困難であると思ひます。

私の目的が無産階級の解放である限り、その爲め的手段として必ずしも共産黨、共青年同盟を選ばねばならぬと云ふ事はありません。夫は不利である限りいつでも潔く棄てます。一般に理論的には世界共産黨の旗の下に世界的に爲すのが最もいい事とは解つてゐます。然し乍ら以上の状態に於ける日本では合法政黨の組織を考へます。殊に之が最近になつての考へです。日本に於ける無産階級運動の變化的な發達は共産黨が罪を負はねばならぬものと考へる様になりました。

合法政黨による大衆の啓蒙運動を除々にやつて行くのが無産階級解放の日を日本では却つて早めるものだと最近考へてゐます。

かくして現在では過去に於て支持して居つた日本共産黨及日本共産青

年同盟に對しては否定的見解に到達して居ます。

次にスローガンであります。私は今迄この方面の研究を一々詳細に研究した事はありません。只全體的に日本共産黨を支持したのです。私の支持致しましたのは日本共産黨と云ふよりも正確には理論的な共産黨一般であります。この意味で私は非常な失策を犯してゐたと思ひます。次に要求せらるゝが儘に次の二スローガンに對して私の考へを述べます。當然之は一般的な説明となるかも知れません。

(イ)君主制の撤廢に就て。先づ歐洲大戰後の世界各國を見ますに君主制から共和制に澤山の國がなりました。獨逸、ロシアはその顯著な例です。英國の如き君主制に似てゐると云ふものゝ全ては議會を以てやられて居り君主は形式的な存在に過ぎません。君主國から民衆國への推移、それが世界各國の大勢であると思ひます。而もロシアを除いては資本主義國であります。でこのスローガンはプロレタリア革命の爲めのスローガンではなくブルジョアデモクラシー革命のスローガンでありこの限りでは資本主義社會變革は意味されて居りません。

併し乍らこのスローガンは日本に於て非常に重大な意味を持つてをります。日本共産黨がこのスローガンを掲げる事の正否は解りません。日本共産黨は何れも之に固執する譯もなしと思ひます。殊に日本に於ては宣傳煽動の爲めスローガンとして下手であると思ひます。

正面から斯る宣傳を爲さず只無産階級の利益を代表する事が最も大

衆を獲得する事になると思ひます。君主制の撤廢に就ては彼等自身色々考へるであらう。この問題は時期の解決をまつより仕方ありません。

このスローガンを掲げて居る事は却つて不利益と思ひます。  
(ロ)土地没收に就いて。之は農民獲得のスローガンであります。現在日本の土地問題、農民の土地に對する欲求は猛烈です。中農を孤立させ貧農を味方にする爲めに日本共産黨はこのスローガンを掲げたのであり、夫以上の何物も意味せずと思ひます。之は私有財産制度の否認でありません。元來土地なるものは自然の事物であり、夫が何人かに私有されて居るが爲めに現在の社會問題を惹起して居ます。

かくして土地没收のスローガンは土地國有化のスローガンへと發展すべきものです。之もやつぱりブルジョアデモクラシー革命のスローガンであります。以上の意味でこのスローガンは絶対に正しいものと思ひます。

四、學生の左翼運動に對して如何なる考へを持つてゐるか。

從來は學生は非常に革命的なものと考へられて居たが、現在私はその考へを全然放棄します。學生は無産運動に對し却つて有害であると思ひるに至りました。

學生の社會的立場は一般に中産階級であり、本人はいくらプロレタリアの立場に立つて居ると考へて居ても、彼には家庭と云ふものがあり、夫があらゆる點で彼を束縛します。



親の心配が一番彼の心を鈍らす。親族関係も相當うるさい。學生はかくして結局は最後までやり得ぬ存在であります。失ふべき何ものかを持つてゐるものは結局駄目です。失ふべき何ものも持たないものゝみが最後までやり得るのでありその方が社會に有益であると思ひます。先づ學生の左翼運動としては(一)研究會(二)學内闘争(三)非合法運動(外部との關係に於て)の三つが考へられます。學生の立場としては(一)と(二)とであると考へられます。勿論特殊的にはプロレタリア運動非合法運動もやるものがあります。私は學生層一般を問題として居ます。あらゆる學生は一定の進歩的な意識を持つて居れば十分である。あらゆる場所でも友人を自分の味方にすれば夫れでいゝのである。夫が爲めには研究會、學内闘争が當然やられます。學生層は今後非合法的プロレタリア運動から遠ざからねばならぬと思ひます。

五、之まで如何なる意識の下に左翼的行動をなして来たか。自分は左翼的行動の経験と云つて大してありません。研究會へ出席したり無新、無骨の一讀者であつた事は特別に書く必要もありません。私の問題としては使途を秘められたる資金及び反帝同盟のピラ張り運動發展とは無産階級を解放し新しい社會建設の日を一步でも促進さす事です。之は私が度々考へて居る處であります。自分自身としては積極的によつた譯ではありません。友人に強要される儘に拒み切れずによつ

た譯です。自分はある意味では卑怯であり、ある意味では意志薄弱であります。勿論左翼運動の發展は願つてゐるものゝ自分自身が實際行動をやるとなると私は絶えずしりごみしたのでした。理想と實際との辯證法的統一とはマルクス主義のイロハであり、私もよく承認して居ますが實際には私は絶えず夫を裏切つてゐました。で私の之までの左翼的行動は非常に不純であります。一つは左翼運動發展を願ふ心と他は友人の強要の折り重なつてやられたものです。ピラ張りに行く時私の身體は何故か振へて居たのです。要するに私の行動は全て積極的な「さ」の意見と確信の下にやられたものではありません。

六、今後は如何なる方針の下に進まんとするか。(イ)思想的。(ロ)行動的。私は未だマルクス主義を完全に體得し全幅的な確信をもつて居る譯ではありません。殊に私が經濟學部に席を置いて居る關係上、マルクス主義の研究は今後も止める事は出来ません。殊にマルクス主義に對する理論的な興味は全然失つて居りません。併し乍ら今後の研究は過去の一方的な研究を止めてもつと全體的に渡らうと思ひます。有産者經濟學、法學、文學等々にまで渡らうと思つて居ります。そして全體的な觀點の中にマルクス主義を置いて今後とも研究を續けて行く考へです。それは今迄の偏頗な盲信的な研究ではなくて、更に廣いものであり、ある點では批判する點も充分あると思ひます。次に行動の方では、今後は所謂

非合法運動は全然止めるつもりです。それは第一に親の心配からであり、第二に理論的に夫を無産運動の發展に有害なりと考へたからであります。研究會へも出席しないつもりです。何も研究會を悪いと云ふのではありませんが、出席する事が私を非合法的な關係に導き入れると思はれるからです。今後自分は陽氣な快活な人間にならうと考へて居ります。そして靜かに書齋でマルクス主義の研究は續けやうと思つて居ます。最近では年取つた母親の存在が私の頭を充たして居ります。今後とも自分は卑怯者呼ばれをされあらゆる方面から自分を網の中に入れやうとして來る事と思ひます。此際自分の意志を強固にするより仕方ありません。自分の過去を顧みて意志薄弱だつた事をつくつく考へます。以上をまとめますと私は思想的には今後ともマルクス主義を研究して行きませんが行動的には絶対にやらないと云ふ事です。

三三

某帝大農學部三年

K某(當二十三年)

家 族……………父母、弟一人、妹一人  
 父兄の職業……………不詳  
 貧富の程度……………普通  
 健康状態……………強壯  
 性質……………濃厚、率直、端正

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情に就て。私がマルクス主義を研究し始めた時は×××高等農林學校の農政經濟學科第二學年生の半頃からであつたと記憶します。何故研究し始めたかと云ふと、これは決して自分の境遇が悪かつたとか、或は精神的に社會に不満を持つて居たからと云ふ譯ではありませんでした。只當時始められた學校の課目例へば農政學、法律學等の文化科學が勢ひ、社會問題を扱つて居つた爲に、又其の當時の講義の中にマルクス主義的色彩もあつた爲に私は自然と他の經濟學說と共にマルクス主義經濟學をも勉強する様になりました。此の間決して友人にマルクス主義者があつたわけでもなく又さうした研究團體があつた譯でもありません。従つて實際運動に關心を持つ氣持もなく又機會も全然ありませんでした。

斯うして研究して行つたけれども當時はマルクス主義を絶對的に眞なるものと思ひませんでした。寧ろ第三學年に進級した時から始められた産業組合主義に次第に興味をもち、遂には私は農村問題を解決するには産業組合であることを知り始め、卒業論文でさへ此の産業組合の精神を根本思想とするに至つたのであります。

従つて以上の如く×××高農時代は至極純な學問的態度で單にマルクス主義文獻を讀んだと云ふ程度に過ぎないと斷言出来ると思ひます。次に大學に入つてからの動機及事情に就いて書きます。大學に入つた當時は(一)學期間程)全然研究はして居りませんでした。二學期の末に



なつて×大の社会科学研究会の存在を先輩K・B君に聞き全然研究の範圍であるから入會せよとの奨めを受け、私は研究であるならばして見たいと思ひ、又當時は大學はこれ位の研究は自由であると思ひ遂に入會するに至つたのであります。

それ故私は研究的態度を永久に持せんと決心して居りましたが遂に、四圍の事情を抜き切れず現在に至つた様な次第です。

二、マルクス主義に就て次の様に考へて居ります。

マルクス主義或は共産主義はそれ自身の學的研究によつて他の學說例へば産業組合説等の研究の参考になるとは思ひますが、マルクス主義唯一論には賛成することが出来ません。換言すれば農村問題や或は社會全體の問題解決の爲の社會政策樹立の参考的一助となることが出来るかも知れませんが全部ではないと思ひます。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對して次の様に考へます。

私は日本共産黨及共産青年同盟が如何に實際的に行はれて居るかに就て知つて居りませんが、問題として示された(イ)君主制撤廢及(ロ)土地沒收の問題に就て記して見たいと思ひます。

(イ)君主制撤廢に就ては絶対に反対します。蓋し、日本の光輝ある國體を私は世界に誇りたいと思ひます。

(ロ)土地沒收に就ては尙問題が存して居ると思ひます。土地を農民等に公平に分つ様な適當な方法があると思ひます。例へば自作農創設と云

ふ様な政策であると思ひます。従つて農民の生活を保護する爲に農民に適當な方法で土地を與へて行くことは賛成ですが、急進的に土地を沒收することには賛成出来ません。

四、學生の左翼運動に就て私は次の様に考へます。

學生は飽迄研究に精進す可きであつて運動す可きではないと思ひます。學的に研究して社會の事情に當嵌め如何にして社會問題の解決の道を得るか、學的研究に留まつて智識階級としての任務を果す爲に努力することこそ學生の本分と信じます。

五、是までの私の意識に就て。

私は前記せる研究の動機及事情に於て明かであるが如く全然學究的に進んで來ました。寧ろ學究者として立ちたいと思ひました。従つて自分の内心は左翼的行動を排せんとして來ました。處が研究会が自己の意識に反して次第に左翼的行動の色彩を現して來たのですが、それを斷然排することが出来ずして今日の如くに至つたのであります。

六、今後の方針。

(イ)思想的。私は未だ絶対的の指導原理たる思想をもつて居りませんが、農村救済の目的を以て産業組合主義を研究して行きたいと思ひます。

(ロ)行動的。左翼運動(特に共産運動)には携はりません。學校卒業後は出来れば就職し自己を開き家庭を援け、農村の改善の爲に努力し

たいと思ひます。

三四

某帝大農學部二年 E某(當二十五年)

家	族	………	實父母、第一人
父兄の職業	………	農	業
貧富の程度	………	普	通
健康状態	………	強	壯
性	質	………	溫良、寡言

一、マルクス主義を研究するに至りし動機事情。

始めてマルクス主義の研究に着手したのは今から五年前×大農學部實科一年生の五月頃からであります。當時××社會科學研究会の新人生歡迎會の掲示が私の心を引き、誰からも勧誘されることなく、社會科學の名に對する一種の好奇心から自ら進んでその歡迎會に出席し研究会に入會する事になつたのであります。

一年生の時はボグダーノフの「經濟學十二講」をテキストとして本科生、實科生合せて十名許りで一週一回づゝ研究会をもつてゐました。其頃は何物をも理解し得ず、研究会に對する關心も段々薄らぎ二學期の半頃からは研究会には殆んど出席致しませんでした。

二年生の新學期から組織を變更して實科生丈で研究会を構成し、プロ

レタリア經濟學」をテキストとして本科の學生が懇切に指導してくれ、疑問の處も自由に質すことが出来ました。それ以來研究会に興味を感じ、マルクス主義の研究に没頭しその明快な理論に魅惑を感じるに至りました。以上がマルクス主義を研究するに至りし動機事情であります。

二、マルクス主義(共産主義)に就ての考へ。

凡ゆる科學が歴史的産物であるが如くに、マルクス主義も亦歴史的發展の途上に於て發生し發展して來たものであります。十八世紀頃歐洲諸國就中英國に於て資本主義が、その隆盛時代から漸く矛盾の萌芽を露現するに至つてカール・マルクスは當時最も進んでゐた學說、即ち英の經濟學、佛の社會主義思想、獨の哲學を繼承し、更に之を科學的に正當な方向に發展せしめることによつてマルクス主義を建設するに至つたものであります。

之を内容的に觀れば、思惟は物質進化の一定段階に於て始めて出現するものであり、従つて精神に比し、自然をより本源的なものとなし、物質を一次的なもの、思惟を二次的のものとなす、唯物論を自己の哲學となし、自然的、社會的諸事物、諸事象にして永久不動の固定物たるはもなく、森羅萬象悉く絶えざる進化の途上にあり、生成衰滅の道程にあるものとなす辯證法を科學研究の方法として採り入れてゐるのであります。かゝる哲學と方法論を科學研究の指針となし當時最も典型的にその成長を遂げつゝあつた、英國資本主義經濟組織を歴史的に論理的に従つ



て科學的に極めて詳細に分析究明し、(彼の名著「資本論」に於て)始めて社會の構成並びに進化の法則を科學的に鮮明するに至つたものであります。その研究の結果によると在來一切の社會は生産關係(經濟組織)を下層建築となし、その上に、政治的、法制的、宗教的その他凡ゆる意識的形態が生産力と生産關係とを構成するのであるとなし、而して社會進化はその社會が生産力と生産關係との間に於ける不調和と矛盾に陥り、利害相反する階級の對立抗争を生ずるや、或は隱然の或は公然の階級闘争に依つて社會は歴史的進化過程を辿るのであると云ふのであります。これ、マルクスの唯物史觀が教ゆる處であります。

近代資本主義經濟組織は成程諸々なる方面に於て驚嘆に値する程の進歩的役割を遂行したのであるが、然し又漸く生産力と生産關係(即ち生産の社會化と財貨の私有制との間の不調和)矛盾に陥らざるを得ざるに至つたのであります。そこで生産力の發展を阻害してゐる私有財産制を改善することによつて始めて兩者の不調和と矛盾を解決し社會の進化を促進し得るものであり、然らざれば社會はやがて衰亡に歸するものとなつてあります。かかる矛盾解決の擔當者を、マルクスは今日生産の樞軸を握つてゐる労働者階級に見出し、労働者こそが現在その置かれてゐる社會的經濟的地位から必然に私有財産制的經濟組織を否認し資本主義を揚棄し、以てより容易な、社會主義的社會を創造すべく約束つけられてゐるのであるとなしたのであります。之マルクス主義が共產主義と稱

される所以であります。

私はマルクス主義の全體系にわたつて完全に之を理解してゐる譯ではないが、その骨子を以上の如く解してゐます。その科學的研究方法と、社會の構成並びに進化の法則に對する明快な理論的解明とは、他の諸學說に比して尙より多くの科學的眞理性をマルクスは包含してゐるかの如く思つてゐます。

然しマルクス主義は労働者階級の科學であり、労働者階級にとつてのみ初めて實踐の武器となるのであります。だから私共が學生としてブチ・ブルジョアの地位に留つてゐる限りでは、私共にとつては、決して實踐の科學たり得ないものと思ひます。

三、日本共産黨、日本共産青年同盟に對しての考へ。

日本共産黨は、左翼的出版物の報ずる所に依れば、コミンテルンの日本支部として二、三年前成立し、その指導を受け「帝國主義戰爭絕對反對」から「労働者農民の政府樹立」に至る十三ヶ條のスローガンを掲げ、最も非合法的活動を續けてゐる労働者階級の唯一の政黨であります。日本共産青年同盟は、日本共産黨の青年部の如きものであり、他に青年部としての特殊なスローガンを掲げてゐます。

之等は何れもマルクス主義、レーニン主義に基いて、我國の現段階を充分、分析究明し、以て社會革命遂行の闘争目標を導き出したものでありと思ひます。従つて現在資本主義に平安と利益を感ずる資本家階級に

とつては、最も恐るべく、憎む可きものであり、現代社會に何等の利益をも感ぜず、失ふべき何物をも有せざる労働者階級にとつては、それ丈日本共産黨は力強い支持者となるものであります。日本共産黨は、我國狀に對して誤りなき戰術を持つてゐるや否やは、之を知ること能はざるも、労働者階級解放の爲に、生命をすら賭さんとする犠牲的精神は誠に崇高とも云ふべきでせう。國法に背きて社會革命を遂行せんとするは、法治國の見地からは明かに憎むべき事であるが、社會進化の見地から見れば、果して如何。其の價值判断は今暫くはなざるべきものではなく、將來の歴史が此を決定するであらう思ひます。私は決して日本國民の利益を思はざるものではないと云ふ。只日本國民の利益の名に於て、金融大資本家の利益が主張されてゐるのを嘆くものであります。

(イ)君主制撤廢。何故に日本共産黨が、かかるスローガンを掲げてゐるのか、その理論的根據に就いては殆んど知る處なきが故に、今後の研究題目として充分科學的に研究したいと思つてゐます。只私共が此を研究するに當つて、君主制を絕對神聖化するべきではなく、一の政治問題として充分研究の對象たり得るものと思ひます。君主制を絕對化し神聖化せんとすることによつて、今日政權の把持者たる金融資本家が自己の支配權を絕對化し神聖化せんとするのであるとなして、日本共産黨は、かかるスローガンを掲げたものと想像されますが、果して然るか否かは、尙知る處ではありません。

(ロ)土地沒收。此のスローガンに就いても、その導き出されるに至つた理論的根據を尙理解してゐません。(イ)の問題と同様充分深重なる態度を以て、研究せんと思ひます。

日本共産黨そのものが、労働者階級の徹底的利益伸長を目的としてゐるのであるから、そのスローガンとしてゐる所は、何れも資本家階級をしてセンリツせしむるもののみであると思ひます。私は此の(三)の問題に就ては慎重な態度もて、科學的に充分研究することに致したいと思ひます。

四、學生の左翼運動に就いての考へ。

學生は今日その大部分生活を保證され、社會的諸拘束から解放されて、極めて自由に廣汎な意識過程を生活してゐるのであります。

従つて學究を使命とする學生は、何物にも促はれず、何れにも偏せざる意識(中立的意識)を以て凡ゆる學說を研究の對象とする事が出来る様な條件を與へられてゐるのであります。

然るに現代資本主義が漸く行詰りの兆を示し、諸々の經濟的矛盾を露現し、社會的諸問題を惹起するに至るや、又ブチ・ブルジョアとしての自己の地位の没落に不安を感ずるに至るや、彼等は必然にマルクス主義に於て、その最も適切明快なる解説を見出すのであり、競つてマルクス主義に移行し、その眞理性に全幅の信頼を置くに至るのであります。而して、學外に於て労働運動の發生發展はやがて、學說に迄反映し